

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

(1) 収容定員を変更する組織の概要.....	3
① 収容定員を変更する組織の概要(名称、入学定員、収容定員、所在地)	3
② 収容定員を変更する組織の特色	3
(2) 人材需要の社会的な動向等.....	5
① 収容定員を変更する組織で養成する人材の全国的、地域的、社会動向の分析	5
② 中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析	10
③ 収容定員を変更する組織の主な学生募集地域	11
④ 既設組織の定員充足の状況	13
ア 収容定員を変更しようとする既設組織.....	13
イ 定員超過率 0.7 未満の学科(薬学部医療薬学科).....	14
(3)-1 学生確保の見通し(薬学部医療薬学科).....	16
① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	16
ア 既設組織における取組とその目標	16
イ 収容定員を変更する組織における取組とその目標	17
ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、収容定員を変更する組織での入学者の見込み数	19
② 競合校の状況分析(立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況) ...	21
ア 競合校の選定理由と収容定員を変更する組織との比較分析と優位性	21
[競合校選定理由の観点]	21
[競合校との比較分析の観点]	21
イ 競合校の入学志願動向等	29
ウ 収容定員を変更する組織において定員を充足できる根拠等 (競合校定員未充足の場合).....	31
エ 学生納付金等の金額設定の理由	32
③ 先行事例分析	34
④ 学生確保に関するアンケート調査(既設組織の実績より)	34
⑤ 人材需要に関するアンケート調査等	36
※薬学部 6 年制課程について	36
(3)-2 学生確保の見通し(保健医療学部看護学科).....	38
① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	38
ア 既設組織における取組とその目標	38
イ 収容定員を変更する組織における取組とその目標	39

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、収容定員を変更する組織での入学者の見込み数	40
② 競合校の状況分析（立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況）	41
ア 競合校の選定理由と収容定員を変更する組織との比較分析と優位性.....	41
[競合校選定理由の観点]	41
[競合校との比較分析の観点]	41
イ 競合校の入学志願動向等	48
ウ 収容定員を変更する組織において定員を充足できる根拠等 （競合校定員未充足の場合）	50
エ 学生納付金等の金額設定の理由	50
③ 先行事例分析	51
④ 学生確保に関するアンケート調査（既設組織の実績より）	51
⑤ 人材需要に関するアンケート調査等	53
(3)-3 学生確保の見通し(保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻)	53
① 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果	53
ア 既設組織における取組とその目標	53
イ 収容定員を変更する組織における取組とその目標	54
ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、収容定員を変更する組織での入学者の見込み数	54
② 競合校の状況分析(立地条件、養成人材、教育内容と方法の類似性と定員充足状況)	56
ア 競合校の選定理由と収容定員を変更する組織との比較分析と優位性	56
[競合校選定理由の観点]	56
[競合校との比較分析の観点]	56
イ 競合校の入学志願動向等	62
ウ 収容定員を変更する組織において定員を充足できる根拠等 （競合校定員未充足の場合）	64
エ 学生納付金等の金額設定の理由	65
③ 先行事例分析	66
④ 学生確保に関するアンケート調査（既設組織の実績より）	66
⑤ 人材需要に関するアンケート調査等	67
(4) 収容定員を変更する組織の定員設定の理由	67
① 薬学部医療薬学科.....	68
② 保健医療学部看護学科	70
③ 保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻	72

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1)収容定員を変更する組織の概要

① 収容定員を変更する組織の概要（名称、入学定員、収容定員、所在地）

収容定員を変更する組織	入学定員	収容定員	所在地
湘南医療大学薬学部医療薬学科	100	600	神奈川県横浜市戸塚区上品濃 16-48
湘南医療大学保健医療学部看護 学科	165	660	神奈川県横浜市戸塚区上品濃 16-48 神奈川県横浜市中区山手町 27※ 神奈川県茅ヶ崎市茅ヶ崎 2-2-20
湘南医療大学保健医療学部リハ ビリテーション学科理学療法学 専攻	60	240	神奈川県横浜市戸塚区上品濃 16-48

※2027 年度から当該所在地は使用しない予定。

② 収容定員を変更する組織の特色

本学は「人を尊び、命を尊び、個を敬愛す」という建学の理念をもとに、継続的学習力、想像力、そして課題解決能力を育む「幅広い教養教育」と、エビデンスに基づいた専門知識・技術の修得を基盤とした、責任感と使命感を持って自律的、主体的に実践能力を発展させていける医療従事者の養成を基本的使命としています。とりわけ、豊かな人間性と高度な専門性を併せ備えた人材の養成、臨床現場でチーム医療できる人材の養成、地域に必要な医療人の養成を行い、地域社会に貢献できる職業人を輩出することを主たる目的とする。

ア 教育研究上の目的・養成する人材像

◆薬学部

医療人としての責任感、使命感、倫理観及び薬学の専門知識・技術を身につけ、患者や治療方法の多様なニーズに対応し、多職種協働によるチーム医療に積極的に参画できる薬剤師を養成し、地域社会はもとより、国際社会の発展に貢献できる人間を養成することを目的とする。

◆保健医療学部

生命の尊厳を基に、科学的及び文化的専門知識・技術を身につけ、保健・医療・福祉・教育を総合的な視野で捉えられる看護師・保健師および理学療法士・作業療法士を養成し、地域社会はもとより、国際社会の発展に貢献できる人間を養成することを目的とする。

イ 学科の教育目的・教育目標

●薬学部医療薬学科

薬学部医療薬学科の教育目的は、高度な知識と技術を基盤に、豊かな人間性を育み、創造的、かつ実践的な教育研究を通じてとともに、問題を発見し、解決する意欲と能力を備え、自ら考え、行動できる人材の育成である。

薬学部医療薬学科の教育目標は、

- 1) 人間及び生命への尊厳を理解し、医療人としての幅広い教養と科学的・論理的思考力、生涯学び続ける基礎的な知識と研鑽及び態度を身につける。
- 2) 患者に質の高い薬物治療を提供できるように医師など多職種と連携して、チーム医療に必要なコミュニケーション能力を身につける。
- 3) 薬学基礎知識・技術を用いて問題を発見し解決するために、医療現場の薬剤師に必要な診療支援能力を身につける。
- 4) 薬学、医療の進歩と改善に資するための研究マインドを身につける。
- 5) 地域の健康増進や公衆衛生について科学的根拠に基づいて、問題発見・課題解決能力を身につける。

●保健医療学部看護学科

看護学科の教育目的は、幅広い視野で人間を理解できる教養を備え、専門職業人としての倫理観を育み、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を身につけ、地域・社会に貢献できる能力をもつ人材の養成を目的としている。

看護学科の教育目標は、

- 1) 生命に対する畏敬の念をもち、倫理に基づいた行動ができる能力を養う。
- 2) 人間を身体的・精神的・社会的に統合された存在として理解する能力を養う。
- 3) 科学的根拠に基づき人びとの健康上の課題に対処できる能力を養う。
- 4) 関連職種と連携・協働し看護を実践する能力を養う。
- 5) 人として自己成長を続けながら地域に貢献することができる人材を養う。

●保健医療学部リハビリテーション学科

リハビリテーション学科の教育目的は、多様化する個人・家族・社会のニーズに柔軟に対応し、地域において問題解決能力と実践力を発揮できる人材の養成を目的としている。

リハビリテーション学科理学療法学専攻の教育目標は、

- 1) 対象者を全人的に理解し、専門性をもって個人の生活を支援する高い倫理性を養う。
- 2) 理学療法学専攻では身体機能の専門職として健康増進、疾病・介護予防、治療に関する知識と技術を養う。
- 3) 地域を基盤とした包括的・継続的なリハビリテーションを学び、保健・医療・福祉・教育・産業の分野で幅広く貢献できる実践能力を養う。
- 4) 卒業後も自己研鑽に努め、探究する姿勢を身につける。

(2) 人材需要の社会的な動向等

①収容定員を変更する組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析

薬学部医療薬学科では薬剤師、保健医療学部看護学科では看護師、保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻では、理学療法士を養成している。

ア 薬剤師の動向は、厚生労働省の薬剤師の養成及び資質の向上等に関する検討会の資料によると、「薬剤師は、変動要因を考慮すると、概ね今後 10 年間は、需要と供給は同程度で推移するが、将来的には、需要が業務充実により増加すると仮定したとしても、供給が需要を上回り、薬剤師が過剰になる。」ことが明記されている。

しかし、薬剤師の確保について、「将来的に薬剤師が過剰になると予想される一方で、薬剤師の従事先には業態の偏在や地域偏在がある。薬剤師の確保を含め、偏在を解消するための方策を検討することが重要であり、地域の実情に応じた効果的な取組を検討すべき。」との提言がなされている。(資料 1 第 13 回薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会(2-1-1))

神奈川県薬剤師数の状況は、23,872 人(令和 2 年)の薬剤師が勤務等している。人口 10 万人当たり 258.4 人で、全国平均の 255.2 人を上回っている。

薬剤師数(人)					
		H26	H28	H30	R02
神奈川県	総数	21,541	22,104	22,913	23,872
	人口 10 万対	236.8	241.7	249.7	258.4
全国	人口 10 万対	226.7	237.4	246.2	255.2

(出典) 厚生労働省「医薬・歯科医師・薬剤師統計」

神奈川県内の薬剤師の業態や地域における偏在

県内の状況は、国が令和 5 年 6 月に示した薬剤師偏在指標によると、県全体では指標 1.0 を超えており、薬剤師多数県であるが、業態別(薬局・病院別)では、薬局薬剤師が薬剤師多数県、病院薬剤師が薬剤師少数県である(表 1)。また、二次保健医療圏別では、薬局薬剤師は全ての二次保健医療圏で指標 1.0 を超えており、薬剤師多数区域である。一方、病院薬剤師は 3 つの二次保健医療圏で薬剤師少数区域である。(表 2)

表 1 薬剤師偏在指標と薬剤師多数・少数区域の設定について

		薬剤師偏在指標 (R5) ※1	区域の別 ※2	薬剤師偏在指標 (R18) ※3	区域の別 ※3
全国	合計	0.99	-	1.09	-
	薬局	1.08	-	1.22	-

	病院	0.80	-	0.82	-
神奈川県	合計	1.12	多	1.16	多
	薬局	1.25	多	1.32	多
	病院	0.80	少	0.76	少

*1 薬剤師の必要業務時間（需要）に対する、薬剤師の実際の労働時間（供給）の比率

1.0 未満の場合、需要が供給を上回っている状態

*2 薬剤師多数区域を「多」、薬剤師少数区域を「少」と記載

少数区域の基準となる薬剤師偏在指標は、都道府県別 0.85、医療圏別 0.74（令和 5 年）

*3 薬剤師確保計画ガイドラインにおける目標年次（令和 18 年）での推計

少数区域の基準となる薬剤師偏在指標は、都道府県別 0.80、医療圏別 0.77（令和 18 年）

（出典）厚生労働省「薬剤師確保ガイドライン」

表 2 二次保健医療圏別の病院薬剤師の偏在指標と区域の設定について

	薬剤師偏在指標 (R5) ※1	区域の別 ※2	薬剤師偏在指標 (R18) ※3	区域の別 ※3
横浜	0.81		0.77	少
川崎北部	0.82		0.68	少
川崎南部	1.08	多	1.03	多
相模原	0.76		0.70	少
横須賀・三浦	0.71		0.80	
湘南東部	0.68	少	0.64	少
湘南西部	0.74	少	0.72	少
県央	0.84		0.81	
県西	0.62	少	0.67	少

（出典）厚生労働省「薬剤師確保計画ガイドライン」

神奈川県は、今後の高齢化により生じる多様なニーズに対応できる「薬剤師の確保に係る課題の整理、施策の検討及び実施し、地域医療を担う薬剤師の養成」を施策の柱として構成している。

（資料 2 第 8 次神奈川県保健医療計画(令和 6 年度～令和 11 年度)第 5 章医療従事者の確保・養成第 4 節歯科医師、薬剤師、その他の医療・介護従事者より抜粋）

イ 看護師の動向は、（資料 3 医療従事者の需給に関する検討会看護職員需給分科会中間とりまとめ（概要）及び看護職員就業実態調査結果及び医療従事者届結果（概要）神奈川県医療整備・人材課 2024.8.27 報告資料3）には、全国の看護職員の需要推計が示されており、令和 7（2025）年は、都道府県からの報告では、1,801,633 人となった。これに、看護職員の労働環境の変化を

加味して3シナリオで推計したところ、1,880,682人～2,019,773人となった。また、2025年における供給推計に関しては、1,746,664人～1,819,466人と見込まれ、供給が不足していることが示されている。

神奈川県の見守り者の動向は、令和4年12月末時点で、本県の人口10万人当たりの就業看護職員数は、全国の1,332.1人に対し、本県は950.7人であり、全国46位である（図1）。また、人口10万人当たりの就業看護職員数は、二次保健医療圏別に偏在があり、県央、川崎北部、及び湘南東部で県平均を下回っている（図2）。また、就業看護職員数は平成30年から令和4年の4年間で6,953人増加しているが、就業看護職員全体の年齢構成は、25～29歳、40～49歳以上の割合が増加している（図3）。また、看護職員（常勤）の離職率（図4）は、近年14%前後で推移しており、全国平均を上回っている。

図1 人口10万人対就業看護職員数（令和4年12月時点）



図2 人口10万人対二次保健医療圏別就業看護職員数（令和4年12月時点）

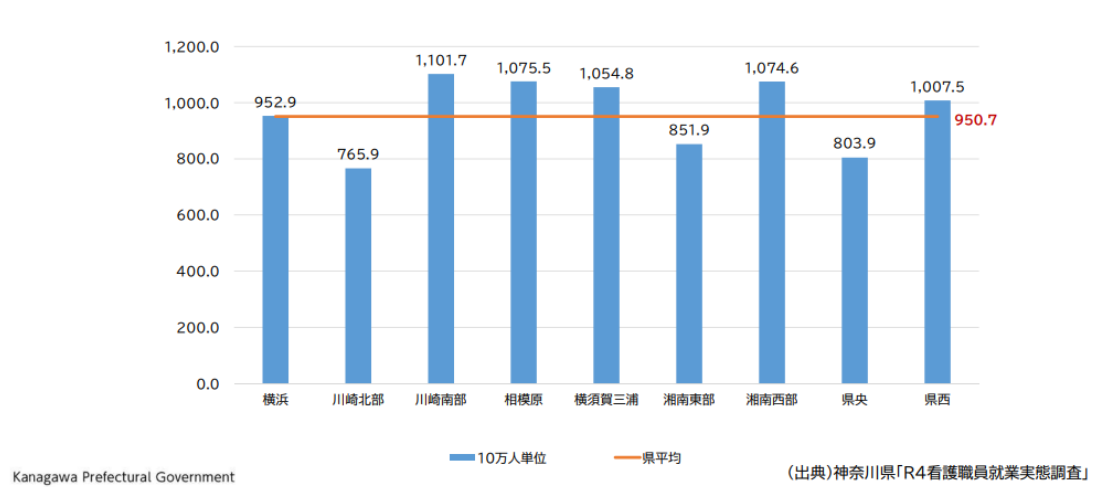


図 3 看護職員の年齢構成

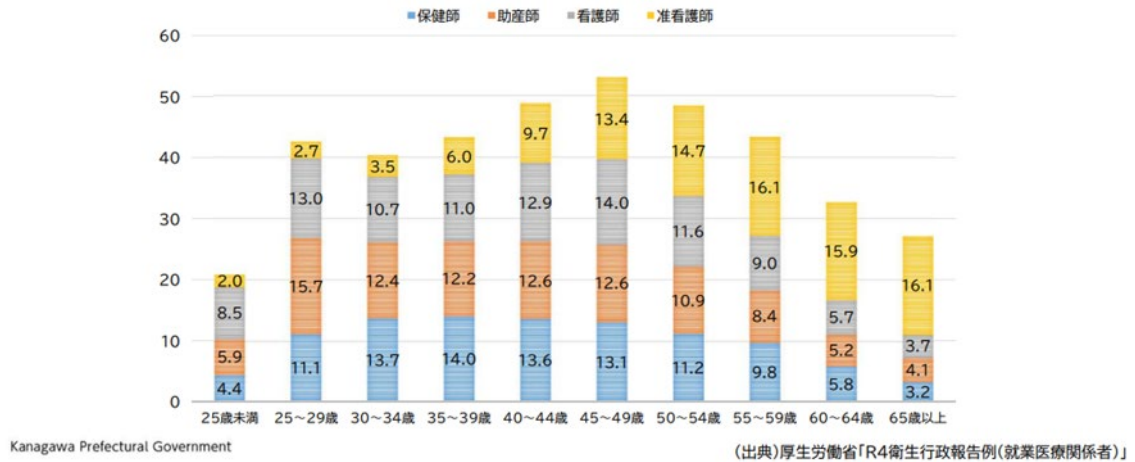
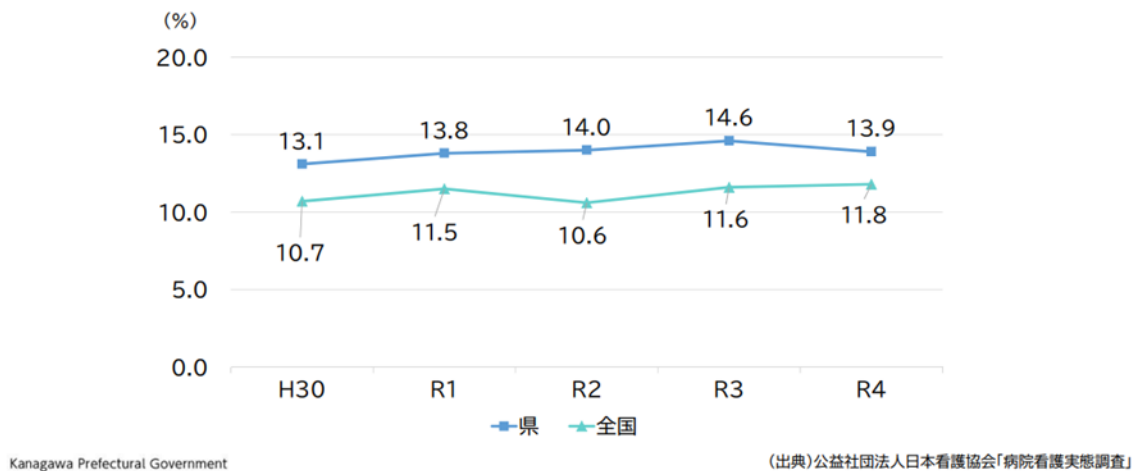


図 4 看護職員(常勤)の離職率の推移



神奈川県は、高齢化の進展や医療技術の高度化・専門化等に加え、地域医療構想の実現に向けた病床の機能分化・連携に伴い、看護職員の需要は一層増加している。一方、令和元年度に厚生労働省が公表した看護職員の需給推計(資料 4)では、本県の令和 7 年の必要看護職員数は 109,970 人であり、看護職員不足数は 24,886 人と推計されている。そのため、看護職員のさらなる確保、看護師等学校養成所における新規養成などの必要とする課題を踏まえ、継続的な看護職員の需要が報告されている。

ウ 理学療法士の動向は、(資料 5 厚生労働省医療従事者の需給に関する検討会 理学療法士・作業療法士分科会(第 3 回)「理学療法士・作業療法士の需給推計(案)」P34)においては、PT・OT の供給数は、現時点においては、需要数を上回っており、2040 年頃には供給数が需要数の約 1.5 倍となる結果との報告がなされている。

神奈川県は理学療法士の動向は、(資料 6 第 8 次神奈川県保険医療計画(令和 6 年度～令和 11 年度)第 6 節地域リハビリテーション)において、地域リハビリテーションが必要な県民の状況の課題を以下にまとめている。

○ 国立社会保障・人口問題研究所による人口推計によると、県の高齢者人口は、令和 22 (2040) 年度に 291.9 万人となりピークを迎え、総人口の 32.9%に達することが見込まれている。とりわけ、85 歳以上の高齢者の増加傾向は著しく、令和 22 (2040) 年度には、平成 27 年度の約 2.6 倍に達することが見込まれている。

○ 厚生労働省の介護保険事業状況報告によると県の要支援・要介護認定者数は、高齢者人口の増加に伴い増加傾向にあり、今後も、さらに増加することが想定されている。

○ 県の身体障害者手帳交付者は、令和 4 年度末時点で 263,998 人、知的障害児者把握数は 84,406 人、精神保健福祉手帳交付者数は 107,828 人、合計 456,232 人である。

当該課題である「県内における地域リハビリテーションの体制」について、
○ 県のリハビリテーション科に従事する医師数、病院従事の理学療法士数、作業療法士数、言語聴覚士数は、人口 10 万人当たりの数は、令和 2 年時点で全国平均を下回っていることが示されている(表 3)。このことから、県内では理学療法士は、不足の状況であり、今後、高齢化進行や医療ニーズの増加に対応するため、理学療法士の確保と養成が重要である。と述べている。

表 3 医療施設におけるリハビリテーションに係る従事者

(単位：人)				
	リハビリテーション科 に従事する医師 (R2)	理学療法士 (R2)	作業療法士 (R2)	言語聴覚士 (R2)
県	183 (2.0)	4,150 (44.9)	2,230 (24.1)	785 (8.5)
全国	2,903 (2.3)	84,459 (67.0)	47,854 (37.9)	16,799 (13.3)

() は人口 10 万人対の従事者数

(出典) 厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計」
厚生労働省「医療施設調査 病院報告」

目標の達成に向けた施策の方向性として、以下の項目を掲げている。

- ◆介護予防事業における取組の充実やその取組に対する支援の充実
- ◆医療のリハビリテーション体制の充実
- ◆保健・医療・福祉の連携体制の充実
- ◆リハビリテーションに係る人材の養成・確保の取組の充実

②中長期的な 18 歳人口等入学対象人口の全国的、地域的動向の分析

ア 全国の動向

(資料 7-1「我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～(答申)」(令和 7 年 2 月 21 日中央教育審議会)(抜粋)P4,18 歳人口(男女別)の将来推計)によると、令和 6 (2024) 年から令和 23 (2040) 年にかけて、日本の 18 歳人口は約 106 万人から約 71 万人へと約 35 万人の減少見込みを予測した。

詳細な推計値

年度	18 歳人口 (万人)
令和 6 (2024) 年	約 106
令和 23 (2040) 年	約 71

令和 6 年現在、大学進学率は 59.1%(大学のみ)、大学現役志願率は、62.8%である。

同答申((資料 7-1「我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～(答申)」(令和 7 年 2 月 21 日中央教育審議会)(抜粋)P4 進学率・進学者数推計結果(出生低位・死亡低位))では、2040 年大学入学進学率、進学者数(※外国人留学生が増加すると仮定した場合)を、下記の通り推計した。

- ・ 18 歳人口 739,050 人
- ・ 大学進学者数 485,099 人

内訳：(大学進学者数 440,489 人、留学生数 42,438 人、その他 2,172 人)

- ・ 大学定員充足率 76.7%(※現在の入学定員が維持された場合)

イ 地域(神奈川県)の動向

同答申(資料 7-3「我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～(答申)」(令和 7 年 2 月 21 日中央教育審議会,大学進学者数等の将来推計について)では、神奈川県 の 18 歳人口は、令和 3 (2021) 年から令和 23 (2040) 年にかけて、26,250 人の減少。具体的には、2021 年 78,433 人から 2040 年は 52,183 人になる見込みである。

令和 5 (2023) 年度の神奈川県の進学実績は、神奈川県内の高等学校卒業生数 64,651 人に対して、大学等進学者数は 45,536 人、進学率 59.8%であった。

前述、答申(資料 7-4 各都道府県における高等教育の現状に関する調査研究 都道府県別基礎データ(神奈川県・東京都・静岡県))の資料によれば、神奈川県の 18 歳人口は 2023 年の 76,186 人から 2040 年には 52,183 人へと減少する見込みである。大学進学率が 61.8%と仮定した場合、2040 年の大学入学者数は 34,649 人と推計される。

2021 年に対し、2024 年の大学入学者数の推計は、-10,970 人 (-24%) である。

ウ 地域（東京都・神奈川県・静岡県）の動向

同答申（資料 7-3,7-4(再掲)）では、3 都県の 18 歳人口は、令和 3（2021）年から令和 23（2040）年にかけて、53,363 人の減少。具体的には、2021 年 217,205 人から 2040 年は 163,842 人になる見込みである。

令和 5（2023）年度の 3 都県の進学実績は、高等学校卒業者数 194,648 人に対して、大学等進学者数は 142,149 人、進学率 63.08%（3 都県平均）であった。

前述、答申の資料によれば、3 都県の 18 歳人口は 2023 年の 211,912 人から 2040 年には 163,842 人へと減少する見込みである。3 都県の平均大学進学率が 64.0%と仮定した場合、2040 年の大学入学者数は 161,044 人と推計される。

2021 年に対し、2024 年の大学入学者数の推計は、-46,064 人（平均-27%）である。

③収容定員を変更する組織の主な学生募集地域

ア-1 本学薬学部の過去 3 年間（2023～2025 年度）入学者所在地別人数

神奈川県 138 人（72.6%）、東京都 23 人（12.1%）、千葉県 5 人（4.4%）、静岡県・長野県・沖縄県 各 3 人（1.6%）、新潟県・群馬県 各 2 人（1.05%）、北海道・青森県・福島県・茨城県・埼玉県・山梨県・愛知県・京都府・大阪府・山口県・福岡県各 1 人（0.53%）、計 190 人である。

神奈川県及び隣接の東京都、静岡県の 3 都県で 86.3%を占めている。

なお、神奈川県内の入学者 138 人をさらに地域分けにした。

横浜、川崎、横須賀三浦地域は 94 人（68.1%）

県央、湘南、県西地域は 44 人（31.9%）

ア-2 本学薬学部の過去 3 年間（2023～2025 年度）志願者所在地別人数

神奈川県 406 人（81.5%）、東京都 75 人（6.8%）、静岡県 11 人（4.4%）、長野県 6 人（1.4%）、茨城県 8 人（0.8%）、千葉県 16 人（0.2%）、北海道 4 人（0.08%）、沖縄県 4 人（0.08%）、その他府県 29 人（3.5%）計 559 人である。

神奈川県及び隣接の東京都、千葉県、静岡県の 4 都県で 90.8%を占めている。

なお、神奈川県内の志願者 406 人をさらに地域分けにした。

横浜、川崎、横須賀三浦地域は 275 人（67.7%）

県央、湘南、県西地域は 131 人（32.2%）

イ-1 本学看護学科の過去 3 年間（2023～2025 年度）入学者所在地別人数

神奈川県 409 人（91.5%）、東京都 16 人（3.6%）、静岡県 10 人（2.2%）、長野県 4 人（0.9%）、山梨県 3 人（0.7%）、茨城県 2 人（0.4%）、千葉県、石川県、長崎県各 1 人（0.2%） 計 447 人である。

神奈川県及び隣接の東京都、静岡県の3都県で97.3%を占めている。

なお、神奈川県内の入学者409人をさらに地域分けにした。

横浜、川崎、横須賀三浦地域は291人(71.1%)

県央、湘南、県西地域は118人(28.8%)

イ-2 本学看護学科の過去3年間(2023～2025年度) 志願者所在地別人数

神奈川県 988人(81.5%)、東京都 83人(6.8%)、静岡県 54人(4.4%)、長野県 18人(1.4%)、山梨県 10人(0.8%)、茨城県 10人(0.8%)、千葉県 3人(0.2%)、石川県 1人(0.08%)、長崎県 1人(0.08%)、その他道府県 43人(3.5%) 計 1,211人である。

神奈川県及び隣接の東京都、静岡県の3都県で92.7%を占めている。

なお、神奈川県内の志願者988人をさらに地域分けにした。

横浜、川崎、横須賀三浦地域は688人(69.6%)

県央、湘南、県西地域は300人(30.3%)

ウ-1 本学リハビリテーション学科理学療法学専攻の過去3年間(2023～2025年度) 入学者所在地別人数

神奈川県 115人(84.5%)、静岡県 8人(5.8%)、東京都 3人(2.2%)、宮崎県 2人(1.4%)、栃木県・埼玉県・新潟県・石川県・山梨県・長野県・沖縄県各1人(0.7%) 計 136人である。

神奈川県及び隣接の東京都、静岡県の3都県で92.5%を占めている。

なお、神奈川県内の入学者115人をさらに地域分けにした。

横浜、川崎、横須賀三浦地域は73人(63.5%)

県央、湘南、県西地域は42人(36.5%)

ウ-2 本学リハビリテーション学科理学療法学専攻の過去3年間(2023～2025年度) 志願者所在地別人数

神奈川県 389人(78.9%)、東京都 21人(4.2%)、静岡県 28人(5.6%)、長野県 7人(1.4%)、山梨県 8人(1.6%)、茨城県 7人(1.4%)、栃木県 5人(1.0%)、埼玉県 4人(0.8%)、千葉県 3人(0.6%)、その他道府県 21人(4.2%) 計 493人である。

神奈川県及び隣接の東京都、静岡県の3都県で88.7%を占めている。

なお、神奈川県内の志願者389人をさらに地域分けにした。

横浜、川崎、横須賀三浦地域は255人(65.5%)

県央、湘南、県西地域は134人(34.4%)

以上、収容定員を変更する組織は、本学所在地の神奈川県及び隣接の東京都、静岡県の3都県からの受験生で約90%を占めている。また、入学生も3都県で約92%を占めるため、当該3都県を重点募集活動地域とする(資料 8-1 過去3年間(2023～2025))。加えて、関東圏として千葉県、茨城県、及び山梨県、長野県がなどの薬学部未設置県や、JR 東海道線、横須賀線、相模線、横浜線などを利用し、1.5 時間以内の通学圏内も募集地域として、募集活動を強化して入学定員を確保する。(資料 8-2 資料 8-2 神奈川県 地図 路面図 入学生 本籍(薬学部・看護学科・理学療法学専攻))

収容定員を変更する組織が置かれる都道府県への入学状況 (別紙 1)

なお、(資料 9 日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等入学志願動向」(令和 5 年度)(令和 6 年度)P25)における、全国及び神奈川県の大学志願者数、及び学問分野(系統区分：薬学系、保健系(看護学部、リハビリテーション学部)の過去3年の定員充足状況は下記の通りである。定員を変更する組織の学問分野の系統の入学定員充足率は減少傾向にあるものの、90%前後を維持している状況である。

【全国及び神奈川県の大学の志願者数】

年度	全国(人)	神奈川県(人)	全国における神奈川県の割合
令和6年度	3,704,471	119,837	3.23%
令和5年度	3,712,801	128,821	3.49%
令和4年度	3,713,827	136,026	3.69%

【薬学系】

年度	入学定員(人)	志願者数(人)	入学者数(人)	入学定員充足率
令和6年度	11,416	71,663	10,304	90.26%
令和5年度	11,276	74,627	10,674	94.66%
令和4年度	11,391	76,635	10,798	94.79%

【保健系(看護学部)】

年度	入学定員(人)	志願者数(人)	入学者数(人)	入学定員充足率
令和6年度	10,455	43,923	9,782	93.56%
令和5年度	9,978	48,896	9,900	99.22%
令和4年度	9,723	51,399	9,894	101.76%

【保健系(リハビリテーション学部)】

年度	入学定員(人)	志願者数(人)	入学者数(人)	入学定員充足率
令和6年度	9,019	26,431	8,035	89.08%
令和5年度	8,839	30,917	8,447	95.56%
令和4年度	8,545	33,661	8,417	98.50%

※上記保健系(看護学部、リハビリテーション学部)の数は、集計数が少ないため、同志願動向の(系統区分/学部名)から保健医療学部を追加した数値とした。

④既設組織の定員充足の状況

ア 収容定員を変更しようとする既設組織

本学看護学科の入学定員超過率(直近3年)は、2023年1.00、2024年1.05、2025年1.14平均1.06である。なお、開設時(2015年)から現在(2025年)まで入学定員を満たしている。

また、既設の本学リハビリテーション学科理学療法学専攻の入学定員超過率(直近3年)は、

2023 年 1.08、2024 年 1.10、2025 年 1.23 平均 1.13 である。なお、開設時（2015 年）から現在（2025 年）まで入学定員を満たしている。

以上から、入学定員超過率が年々上昇していることを踏まえ、収容定員を変更しようとする上記 2 学科 1 専攻は、今後も定員充足は十分に可能である。

※収容定員変更を行わない既設の本学保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻の入学定員超過率（直近 3 年）は、2023 年 1.00、2024 年 1.00、2025 年 1.00 平均 1.00 である。当該専攻も開設時（2015 年）から現在（2025 年）まで入学定員を満たしている。

イ 定員超過率 0.7 未満の学科（薬学部医療薬学科）

【定員未充足の主な原因】

1) 薬学部全体における全国的な志願者数の減少

少子化に加え、薬剤師の需給バランスに対する不安や、医療系他職種（看護など）への志向の変化も影響し、全国的に薬学部の志願者数が年々減少しており、2024 年度は入学定員充足率 90.26%であったことが実情である。

2) 本学部の新設による認知度の低さ

本学薬学部は 2021 年度設置の新設学部であり、第 1 回卒業生を輩出していない。国家試験合格実績や就職実績など、受験生、保護者及び高校が重視する「見える成果」が乏しいため、安心して志願できる判断材料が不足していると考えられる。

3) 薬剤師職の将来性や負担に対するイメージ変化

調剤業務の自動化、薬局の統合、診療報酬改定等により、薬剤師を巡る環境が変化しており、薬学部進学に対して慎重になる受験生が増加傾向と考えられる。また、6 年制課程の長期学修・私立薬学部の高学費の経済的な理由で、費用対効果を考えて敬遠される傾向もある。

4) 本学の立地・交通アクセスや特色の訴求力

東京都にある他大学薬学部との位置関係において、受験生から見た通学・生活の利便性、ブランド訴求力が限定的である。特に、近隣に競合する私立薬学部（例：横浜薬科大、昭和薬科大など）が複数存在し、特色や実績で差別化しにくい状況も影響している。

【収容定員変更後の定員設定について】

本学薬学部の直近 3 年間の定員超過率は、2023 年 0.60、2024 年 0.45、2025 年 0.38 平均 0.48 である。そのため、本学薬学部は、薬学教育の質の確保と持続可能な学部運営体制の再構築を目的に、2026 年度入学生より、薬学部の入学定員 130 名を 100 名に変更する計画である。

本学薬学部は、2021 年度開設の新学部であり、現時点では第 1 回の卒業生を輩出していないことから、国家試験合格率等の教育成果に関する数値の実績は十分に蓄積されていない状況である。そのため、在学生の学修状況や学内評価（進級率・CBT・OSCE など）をもとに教育成果の可視化を行い、入学定員充足に向けて認知度向上・学部の特色を明確化して、受験生から理解を得られる広報活動を実施していくことが重要であると認識している。

【入学定員変更に係る合理的根拠】

（１）学生数の適正化

下表の通り、過去５年間の入学定員充足率および収容定員充足率が著しく低い水準で推移しているため、入学者数に見合った定員変更は制度的・運営的にも合理的な判断と考えている。

年度	実質競争倍率	入学定員充足率%	収容定員充足率%
2025	1.2	37.7	40.8
2024	1.0	47.7	43.7
2023	1.2	60.1	44.4
2022	1.1	50.8	40.0
2021(開設)	1.6	26.2	26.2

（２）教育の質向上に資する環境整備

定員を 100 名に変更することで、1 人ひとりの学生に対する教員の指導・支援がより丁寧な実施可能とまる。特に、実務実習や国家試験対策等においては、個別対応や小人数教育の効果が高く、進級率や学修成果の安定が期待されるところである。

これまでの進級率・CBT・OSCE 等の成績結果からも、指導体制が機能していることが確認されており、定員適正化によってさらに強化できると見込んでいる。

年度	進級率%	OSCE 合格率%	CBT 合格率%	退学率%
2025	91.4	-	-	-
2024	94.3	100	96.3	4.4
2023	82.3	-	-	3.5
2022	88.2	-	-	8.7
2021(開設)	-	-	-	5.9

（３）志願者確保と大学イメージへの配慮

現状、過度な定員割れは大学運営への影響だけでなく、対外的な評価や受験生からの印象の悪化につながる恐れがあると認識している。一方で、急激かつ大幅な定員削減を行うことは、受験生に対して過度な競争率上昇の印象を与え、志願者減少を招く懸念がある。

そのため、今回は、130 名から 100 名への段階的かつ抑制的な縮小とし、安定した志願状況の維持と教育の質向上を両立することを意図している。

（４）今後の方針

今後は、卒業生の輩出および国家試験実績の蓄積を経て、改めて定員の見直しが必要と判断される場合は、客観的なデータに基づき再検討する。先ずは、収容定員充足率 80%程度に引き上げて安定的に維持できる運営体制を構築することを目標に、教育の質の維持・向上に努める。

以上、本学薬学部における定員減（130 名→100 名）は、十分に合理的かつ妥当性のある措置であると判断し設定した。

「既設学科等の入学定員の充足状況(直近 5 年間)」(別紙 2－ 1 ・ 2 ・ 3)

(3) -1 学生確保の見通し（薬学部医療薬学科）

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

表 4 薬学部 接触者(資料請求者等)、オープンキャンパス(OC)参加者等からの入学実績

薬学部 医療薬学科	全体		受験対象者							
	接触者等総数 (資料請求等)	OC参加者数	接触者等総数 (資料請求等) (A)	OC参加者数 (B)	受験者数 (C)	入学者数 (D)	OC参加率 (B/A)	OC受験率 (C/B)	OC入学率 (D/B)	受験入学率 (D/C)
R7(2025) 入学者入試	639	427	331	226	49	31	68.3%	21.7%	13.7%	63.3%
R6(2024) 入学者入試	722	435	383	215	44	32	56.1%	20.5%	14.9%	72.7%
R5(2023) 入学者入試	758	377	395	196	58	42	49.6%	29.6%	21.4%	72.4%

分析：

OC 参加率は年々上昇しており、R5 から R7 にかけて約 20 ポイント上昇。広報活動や OC の魅力訴求が功を奏し、関心層の来場が促進されている。

OC から受験に進む割合は、概ね 20%台で安定しているが、参加者のうち実際に受験に至る割合は限定的であり、出願への転換施策が課題である。

OC 参加者のうち入学に至る割合は減少している。OC が進学意思決定に与える影響が高く、OC の内容・魅力を再検討する必要性がある。

受験者に対する入学者の割合は高水準を維持していたが、R7 では低下。入試後のフォローアップや併願校対策の見直しが今後の課題である。

本学科では、OC 活用の効果が明確に現れつつあり、質の高い志願者との接点確保が進んでいる。今後は、出願への転換率の更なる向上と、受験後の確実な囲い込みが重要となる。

「既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績」(別紙 3)

イ 収容定員を変更する組織における取組とその目標

学生募集の方針

本学科では、薬学を志す資質ある学生を広く受け入れるため、接触機会の拡大と出願・入学への転換強化を重視した学生募集を行う。オープンキャンパス参加率は年々上昇しており、広報活動の効果が表れている。一方で、参加者からの出願・入学率には課題が見られることから、今後は以下の点に重点を置いて、広報と入試を一体化した募集体制を強化し、薬剤師を志す意欲ある人材の確保を図る。

- i オープンキャンパスの魅力を向上させて、模擬授業や在学生との交流などを充実し、志望意欲を高める。
- ii 出願への転換施策の強化を行い、個別フォロー、Web 相談、リマインド施策を通じて参加者を受験につなげる。
- iii 入学決定への後押しを怠らず、合格者フォローや入学前教育の提供により、併願校からの流出を防ぐ。

学生募集の戦略

令和 7（2025）年度入学者の募集活動の振り返りより、ターゲットを神奈川県内の高等学校に絞り、過去 4 年間の入学者データをもとに入学実績校及び出願実績校（以下、「重点校」と言う。）に対して重点的に学生募集活動を行う。その中で、高大連携の在り方を見直し、オープンキャンパスの充実を図るなど、本学独自の学生募集の在り方を創造する。

実施計画・目標

[取組 1] 重点校との連携強化と高大連携事業の拡大

i) 重点校と選定方針

- ①2022-2024 年度の本学薬学部の入学者+2025.11 末の出願者の合計が 2 以上の高校
- ②薬学部合格者の延べ人数が 20 以上の神奈川内の高校

上記計 73 校を選定し、指定校推薦枠の保証・拡大等の優遇を図ることとする。

ii) 重点校訪問

2022～2024 年度入学者、及び 2025 年度出願者データより入学実績校、重点校への高校訪問を行う。前年 1 月～2 月に 3 学科共通の重点校 31 校の訪問を広報職員が実施し、4 月 7 月の間に教員による重点校訪問を実施する。

iii) 高大連携事業の拡大

- ・出張講義、医療系セミナーの実施(5 回)
- ・医療系進学ガイダンスの実施(5 回)
- ・入試対策セミナーの実施 (5 回)
- ・研究室訪問（ジョブシャドウイング等）の受け入れ(5 回)

- ・神奈川県コンソーシアムに加盟（インターンシップの受け入れ）（1回）
- ・高等学校探究活動支援（探究学習、部活動・委員会の探究活動への支援・連携等）（5回）
- ・大学見学会の受け入れ（5回）
- ・高校教員との合同研修・意見交換会の実施（2回）

〔取組2〕オープンキャンパス（OC）の充実

進学サイト等を活用し、資料請求者は増加し、OC参加者も増加したものの出願への歩留率が低下している分析結果を受け、OCから出願への歩留率を上げるために、チーム医療の教育体制、グループ関連病院による実習支援体制、入学前教育および学修支援制度（チューター制等）といった本学の強み・ブランドを活かし、受験生およびその保護者に対して医療系学問への理解と関心を深め、進路選択の一助となるよう、以下のような特色あるOCを年6回（3月、6月、7月、8月（3回））実施する。（資料10 オープンキャンパスの計画）

＜オープンキャンパス（OC）の骨子＞

- ・全て異なるテーマの模擬授業（年6回）を展開。医療への関心を高める切り口を提供。
- ・模擬授業と連動した体験型実習プログラムにより、医療現場の理解を深め、学校推薦型選抜への志望動機形成を図る。
- ・低学年層（中学生・高校1・2年生）および保護者を対象とした特別イベントを企画し、早期からの進学意識の醸成を促進。
- ・オープンラボや研究内容の紹介を通じて、入学後の学修・研究イメージの明確化を図る。
- ・保護者向け説明コーナーを設け、学費・入試制度・国家試験対策等に関する情報を提供。
- ・隣接するグループ病院・老健施設の見学を通じて、実際の医療職の姿を知る機会を提供し、将来の職業観育成につなげる。
- ・在学生がOCスタッフとして参画し、学生目線でのリアルな学びの紹介を行うことで、参加者との距離感を縮める。

〔取組3〕公開講座・地域連携活動の充実

- i) 高校生のためのオンライン講座 毎月1回 （資料11）
- ii) 市民公開講座：5回実施 （資料12）
- iii) 地域連携活動 4回実施 （資料13）

〔取組4〕入試制度改革

「医療人としてふさわしい人材を選抜するために」一人ひとりの資質、適性、能力を判定する、総合型選抜・学校推薦型入試は、「医療や科学に関連する課題文をもとに、自分の意見や考えを述べる」記述式に変更する。また、教科・科目に係る学力は、高等学校の調査書の内容を重視する。この変更の周知は、OC時に「小論文対策説明会」と題し開催する。

〔取組 5〕 学費等に係る変更(薬学部のみ)

2025 年度入試における特待生制度（授業料全額免除/半額免除）の入学者は、学校推薦型選抜で 1 名、特別指定校型選抜で 9 名 計 10 名に留まった。そのため、学業優秀者のための特待生制度と特別指定校（入学年次の授業料全額免除）を廃止し、昨今の経済状況や学費無償化の動きも鑑み、授業料・施設設備費の減額（169 万円/年）を決定した。

〔取組 6〕 デジタル広報媒体での情報発信

ホームページ・SNS(週 3 回更新)・動画等のデジタル媒体を活用し、教育内容や学生支援体制（チューター制・S プログラム等）等について効果的な情報発信を行う。

- i) 受験生応援サイトの改編及び情報更新（月 2 回程度）
- ii) 高校教員向け情報サイトを新設し、高大連携事業や入試情報等を発信（月 1 回程度）
- iii) 講義動画を配信し、分野理解や小論文対策等に資する教材活用(2～3 ヶ月に 1 回)

〔取組 7〕 予備校・学習塾への広報展開

進学動向に応じて次のような時期別訪問を計画する。

- 4～5 月：大手予備校を訪問(25 校)
- 5～6 月：個別指導塾を中心に訪問（41 校）
- 6～7 月：夏期講習受付に合わせて県内塾・予備校を重点訪問(10 校)

〔取組 8〕 外国人留学生の募集(薬学部のみ)

入試広報室に留学生対応専任職員を配置し、4 月以降に内都日本語学校等を訪問し、6 月頃から個別説明会を 5 回実施予定など、理系留学生の募集を強化する。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、収容定員を変更する組織での入学者の見込み数

2024（R6）年度及び 2025（R7）年度入学生募集は、資料 14 のとおり、オープンキャンパスや高校訪問、出張講義、研究室訪問、インターンシップの受け入れなど、積極的に広報活動を行った。2025（R7）年度入学生募集では、「特別指定校」制度を設けたが、9 名の出願者に止まり、総合型選抜の出願者も 3 名と年内入試は厳しい局面にさらされた。薬学部全学接触者総数（資料請求者等）の前年比－11.5%、693 件に減少し、薬学部のオープンキャンパス参加者の伸び率も前年-1.84%と微減の 427 名となったが、出願者は 170 名と前年度の 145 名を上回った。しかし、予想外に歩留率が低く入学者数は 49 名であった。2025 年度は、前述、(3)－1－①－イ（P14～）の通り、入試制度の見直しをはじめ高大連携の在り方やオープンキャンパスの充実を図り、本学独自の学生募集の在り方を創造し、それを伝統として築く。

i オープンキャンパス（OC）等接触者の取組と目標

令和7年度の入学者49人のうち、OC経由の入学者は31名（比率63.3%）である。今後の目標は、入学定員100名に対してOC経由で入学者を50人程度の入学者を確保するために、受験率を上げる努力（第一志望者の増）を図り、少ない対象者から定員充足を満たす。

指標	現状（R7）	目標（R8）	改善内容
接触者数	331人	516人	重点校訪問強化、WEBでターゲット拡大
OC参加者数	226人	300人以上	無料送迎バス、総合型・推薦型プログラム強化、個別面談・模擬面接の実施
OC受験者数	49人	75人	OC内容改善、学費改定
OC受験率	21.7%	25%以上	
OC入学率	13.7%	16.7%以上	総合・推薦型向け対策講座、面接模擬、フォローDM・出願リマインド強化
OC入学者数	31人	50人以上	<u>定員の約50%をOC経由で確保</u>

ii 非接触者の取組と目標

各種デジタル広報媒体からの資料請求〔取組6〕、高大連携授業〔取組1〕、および公開講座・地域連携活動〔取組4〕及び予備校・学習塾への広報展開〔取組7〕外国人留学生の募集〔取組8〕を通じて85名以上（受験入学率60%を想定）の受験者を獲得することにより、非接触者から50名以上の入学生を確保する。

入学ルート	目標入学者	学生募集活動
指定校推薦・公募推薦	15人	教員関係強化、指定校拡大、高大連携活動強化
一般選抜・共通テスト利用	20人	予備校対応、入試広報、サイト強化・入試改革
SNS/WEB出願	10人	SNS広告、LINE相談、動画説明・公開講座・地域連携活動
留学生	5人	日本語学校・出張説明会の強化
非接触者 合計	50人	

これらの取組全体を通して、入学者100名を確保できる見込みである。

1. 書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」 P21～P33

2. 出典

各大学 WEB ページ

3. 引用範囲

WEB ページより各種数字を抜粋

4. その他の説明

- ・他大学の入試出願期間・過去出願状況・学納金・奨学金制度および就職支援制度について比較となる資料。
他大学の情報が記載されているため除外

iii 独自の奨学金制度を併用

その上で、本学は、「ふれあいグループ奨学金制度」を設けており、希望者全員を対象に無利子で貸与し、卒業後に指定病院で一定期間勤務することで返還免除となる制度を運用している（2025 年 3 月現在の貸与者実績：大学全体で 102 名）。

以上、学費の一律抑制と、返還免除型奨学金および特待生制度を併用することで、経済的理由による進学断念を防止しつつ、意欲と能力のある学生を広く受け入れる環境を整備することが可能であり、本学では、学生・保護者の実態に即した学費水準を設定し、これにより、志願者数の安定的確保および定員の充足に資するものとする。

③先行事例分析

該当なし

④学生確保に関するアンケート調査（既設組織の実績より）

1. 定員見直しの妥当性

（1）教育環境の維持と学修支援体制の最適化

薬学部は、6 年一貫教育による実務実習や臨床薬学教育など、高度かつ実践的な指導が求められる。本学薬学部に入学者のレベルを想定した場合、適切な教員数・実習施設とのバランスを確保する上でも、100 名とすることで質の高い専門職養成教育体制との整合が取れ、個別支援や国家試験対策の強化、研究指導の充実が可能となる。

（2）大学運営の持続可能性の確保

今後も人口減少や大学全入の進行により、学生確保はより困難になることが予想される。こうした背景において、教育の質を維持しながら大学経営の安定化を図るためには、定員の適正化が避けて通れない課題であると認識している。

2. 定員 100 名の充足可能性に関する客観的根拠

（1）実績に基づく志願者数と歩留率の分析

過去 3 年間の志願者数および合格者数を分析すると、志願者は概ね 140～240 人で推移し、合格者数も 150 人前後が確保している。対して入学率（歩留率）は以下の通りである。

令和 5 年度：195 名合格 → 78 名入学（歩留率 40.0%）

令和 6 年度：136 名合格 → 62 名入学（同 45.6%）

令和 7 年度：138 名合格 → 49 名入学（同 35.5%）

※平均歩留率は概ね 40%前後である。

(2) 入学定員 100 名でのシミュレーション

前述の実績値より、今後の志願者数は 140 名～240 名程度で推移し、中央値は約 190 名と見込まれる。この場合、実質倍率 1.2～1.6 倍（中央値 1.4 倍）により、120～160 名程度の合格者の確保が可能となる。

また、薬学部の教育実績と評価の向上により歩留率が 50～60%に改善すれば、入学者数は概ね 60～96 名程度、中央値で 70～84 名程度となり、定員 100 名に対する実質的な充足が十分に期待できるものと思われる。

3. 教育課程の工夫と特色化による魅力向上

(1) 実務実習・臨床志向型教育の強化

実務実習（5 年次）は、グループ関連病院・保険薬局と連携し、実践的な指導体制を強化している。特に湘南地域の医療機関と密接に連携して、地域医療に貢献する薬剤師としての将来像を具体的に描ける教育内容であり、地元志向の学生や U ターン志願者に魅力を与えている。

(2) 早期からのキャリア形成支援と国家試験対策

早期からキャリア教育を導入し、4 年次以降は国家試験合格に向けた学内模試や個別指導プログラム（S-プログラム）を体系化している。こうした計画的支援により、「確実に薬剤師になれる環境」としての信頼を高め、第一志望率の上昇＝歩留率の向上が期待できる。

4. 教育環境の整備と学修支援体制の充実

(1) 少人数指導の充実

定員 100 名体制に見直し、学生数がよりコンパクトとなることで、チューターによる学生一人ひとりの進捗と生活状況を把握する体制を強化し、「学生に寄り添う教育」の実現によって、志望度を高める効果が期待できる。

(2) ICT・AI を活用した学修支援環境の充実

学修支援システムで、授業資料・復習コンテンツ・国家試験対策問題などをオンラインで継続的に提供している。最適な学修支援環境の整備は、入学希望者の安心材料となる。

5. 教育研究実施組織の強化と教員体制の安定

(1) 臨床・研究両面に精通した教員による指導

教育課程の運用は、病院薬剤師・薬局薬剤師としての実務家教員と、基礎研究に従事する研究者教員が連携しており、臨床と学術の双方に強い薬剤師の養成を目指すことができる。こうした多様な専門性に基づいた教育は、学生および保護者にとって大きな安心要素となり、進学決定の後押しにつながる。

(2) 学生指導に意欲のある教員配置と FD 活動の充実

教育への関心が高く、学生指導に強い責任感を持つ教員を登用し、定期的な FD 活動（資料 16）により指導力向上を図っている。学生からのフィードバックを踏まえた授業改善にも継続

的に取組んでおり、「教員の熱意が伝わる教育環境」は大学選択理由に直結する。

以上、本学薬学部では、近年の入試実績および教育運営上の必要性に照らし、入学定員 130 名から 100 名へ見直すことは、極めて妥当な措置であると判断している。

教育課程・教育環境・教育研究体制の観点からも学生確保を意識した総合的かつ合理的な判断に基づいており、入学者に「本学で学びたい」と実感させる魅力ある教育を提供する。これをさらに継続を重ねて、合格者の第一志望率を引き上げ、結果として歩留率の向上および定員充足の安定化につなげる。

⑤人材需要に関するアンケート調査等

「(2) 人材需要の社会的な動向等①収容定員を変更する組織で養成する人材の全国的、地域的、社会的動向の分析」で示した通り、神奈川県では、薬剤師においては、業態（病院薬剤師の少数）や地域における病院薬剤師の偏在指標 0.80（病院薬剤師が二次保健医療圏の 3 区域で少数偏在）で需要が供給を上回り、薬剤師不足となっていることから、地域医療を担う薬剤師の人材需要は今後も継続していくと見込まれる。

本学が実施した需要調査アンケート(資料 17)の結果、薬剤師が「不足している」との回答が全体の約 57.1%、「どちらかといえば不足している」との回答が 14.3%と、約 7 割以上の医療機関が薬剤師の人材不足を実感している状況である。また、本学薬学部の卒業生を、「採用したい」との回答が 50%、「採用を検討したい」が 21.4%であり、全体の約 7 割が本学卒業生の採用に前向きな意向を示している。

アンケート調査の結果、地域医療機関での薬剤師の人材不足が深刻であり、今後も安定した需要が見込まれると推察する。また、湘南医療大学の卒業生に対する採用意向も高く、各学科において高い就職率が維持されていることから、本学が地域医療における人材供給源として重要な役割を果たしていることは明らかである。

※薬学部 6 年制課程について

湘南医療大学薬学部定員減による指標改善と教育の質保証に関する説明(資料 18)

1. 背景と現状課題

- ・2021～2025 年度のデータでは、実質競争倍率は 1.0～1.6 倍の低倍率となっており、学生募集で苦戦していることが分かる。また、入学定員充足率・収容定員充足率は低水準（26.2%～60.0%）であり、定員割れの状態が継続している。
- ・進級率は 82.3%～94.3%とややばらつきがあるが、概ね高水準を維持している。
- ・OSCE・CBT 合格率は 2024 年度のみデータだが、高い合格率(OSCE100%、CBT96.3%)を示している。
- ・退学率は年により 3.5%～8.7%で推移している。

2. 「6 年制課程における薬学部教育の質保証に関する取りまとめ」について

教育の質保証には「適正な学生数の確保」「教育資源の最適配分」「指導体制の充実」「学修成果の評価・改善」が不可欠である。学修環境ときめ細かな指導が行える体制の構築が求められており、教育研究指導環境の質向上のため、定員見直しが推奨されている。

3. 今後の薬学部教育の改善・充実の方向性

(1) 入学者選抜の在り方

本学薬学部では、医療人としての資質・能力を備えた人材の育成を目指し、明確なアドミッション・ポリシーの下で入学者選抜を行っている。入学試験では、薬学を学ぶために必要な基礎学力を測る筆記試験に加え、面接等を組み合わせることで、将来の医療人としての意欲や適性、倫理観、コミュニケーション能力等の多面的な評価を重視している。

今後は、地域医療やチーム医療を支える薬剤師の育成を一層重視し、入学志願者が本学の教育理念に沿った資質・能力を備えているかをより丁寧に見極める手段として、総合型及び学校推薦型入試に小論文を課す選抜方法に変更する。

(2) 入学定員に関する取組

開設以来、実質競争倍率は 1.0 倍～1.6 倍と低水準で推移し、入学定員充足率も 26.2%～60.0%にとどまっており、定員割れの状態が継続している。また、地域における薬剤師需給バランスや教育の質保証の観点からも、入学定員の見直しが必要な状況である。

これを踏まえ、本学では 2026 年度以降、薬学部の入学定員を現行の 130 人から 100 人に適正化することとした。これにより、学生に対する教育・支援の質を一層向上させるとともに、教育効果の最大化を図る。

(3) 教学マネジメントの確立

i 教育課程・教育方法

定員適正化により、教員と学生の関係がより密接になり、個々の学生の理解度や特性に応じたきめ細やかな指導が可能となる。これにより、課題発見・解決能力を高めるための授業方法を、より効果的に運営していく。また、地域医療、薬剤師の地域・業態偏在といった社会的課題を踏まえた教育プログラムを強化する。

ii 学修成果・教育成果の把握・可視化、進路指導等

定員適正化により、教員が個々の学生の学修状況をきめ細かく把握できるようになり、学修成果の可視化と個別対応が促進できる。進級率（82.3%～94.3%）の安定化および向上が期待できるとともに、成績不振者に対する早期支援を推進する。

さらに、奨学金制度やキャリア支援の情報を的確に学生に周知し、将来の進路選択を支える。これにより、退学率（3.5%～8.7%）の低減にもつながると考えている。

iii FD／SD、教学 IR

適正な学生規模のもとで、教学 IR の活用が一層進み、学生データや授業評価等に基づいた教育課程の見直しや学修支援の改善が効果的に行えると考えている。

2024 年度の OSCE（100%）、CBT（96.3%）の高い合格率を今後も維持・向上させるため、IR に基づいた分析をもとに FD/SD 活動をより充実させて、教員の指導力向上を図ることで、薬学教育の質の継続的な改善に努める。

iv 情報の公表

教育の透明性と社会的信頼性を確保するため、入学者選抜、卒業率、国家試験合格率、進級率、薬学教育評価機構による第三者評価結果などの情報については、大学ホームページや入学案内等を通じて、受験生・在学生・保護者等に分かりやすく公表する。定員の適正化により、これら各種指標の改善が期待でき、情報の信頼性と説明責任の強化にも資する。

（4）薬学教育評価（第三者評価）への対応

今年度、薬学教育評価機構に、自己点検評価書を提出し、第三者評価(プレ評価)を受審した。定員適正化を含む教学マネジメントの改善状況、教育課程の特色化、進路支援の充実等、本学の具体的な取組が公開されたところである。完成年度後の本受審に向けて、他大学の教学マネジメントの状況も学び、本学の薬学教育の改善、質向上に貢献していく所存である。

以上、「6 年制課程における薬学部教育の質保証に関する取りまとめ」を踏まえ、本学薬学部の定員を 130 名から 100 名に減員し、適正化することは、教育環境の安定化、教育体制の質的向上が実現されるため、実質競争倍率や入学・収容定員充足率の改善、進級率や国家試験、OSCE・CBT 合格率の安定・向上、退学率の低減が期待できるものと思われる。

（3）-2 学生確保の見通し（保健医療学部看護学科）

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

表 7 看護学科 接触者(資料請求者等)、オープンキャンパス(OC)参加者等からの入学実績

保健医療学部 看護学科	全体		受験対象者							
	接触者等総数 (資料請求等)	OC参加者数	接触者等総数 (資料請求等) (A)	OC参加者数 (B)	受験者数 (C)	入学者数 (D)	OC参加率 (B/A)	OC受験率 (C/B)	OC入学率 (D/B)	受験入学率 (D/C)
R7(2025) 入学者入試	1,418	824	792	491	136	102	62.0%	27.7%	20.8%	75.0%
R6(2024) 入学者入試	1,603	785	850	497	150	102	58.5%	30.2%	20.5%	68.0%
R5(2023) 入学者入試	1,741	801	1,015	579	207	106	57.0%	35.8%	18.3%	51.2%

分析：

OC 参加率は年々上昇しており、志望度の高い接触者を着実に OC へ誘導できている。広報戦略の成果と評価できる。

OC 受験率は、R6 では一時的に低下したが、R7 で大幅に上昇。OC から受験への動機づけやフォローアップの強化が効果を上げた結果である。

OC 参加者の入学割合が着実に向上しており、OC の質や内容の改善、または参加者の事前選別による志望度の高い層の確保が進んでいると考えている。

受験者のうち入学に至る割合が大幅に上昇しており、合格後の辞退率が低下している。進学先としての本学の魅力が高まっていることが示されている。

過去 3 年間に於いて、OC を中心とした広報・受験戦略は一定の成果を挙げており、量から質への転換が進んでいると評価している。今後は、母集団の拡大と並行し、OC から入学に至る導線の更なる最適化を進めたい。

「既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績」(別紙 3)(再掲)

イ 収容定員を変更する組織における取組とその目標

学生募集の方針

本学科では、看護職を志す強い意欲と適性を持ち、他者との関係性を大切にしながら学び続けられる人材を広く受け入れる。入学後の修学に必要な基礎学力を備え、人間性、倫理観、協調性を持ち、将来にわたって自己成長を図れる学生を求めている。

近年、OC 参加率が継続的に上昇し、質の高い志望者層との接点形成が進んでいる。特に、R7 は OC 参加者の入学率が向上しており、OC の質の改善や広報後のフォローアップが奏功している。

今後は、以下の点に重点を置いた学生募集を推進する。

- i OC を基軸とした動機形成を強化するため、看護への理解と志望動機を深める内容（模擬授業・在学生交流など）をさらに充実させる。
- ii 質の高い志望者の確保と出願転換を最適化するため、接触段階から志望度の高い層を見極め、個別対応を通じて出願に結びつける。
- iii 入学後を見据えた選抜とフォローを行い、主体的に学び続ける力や協調性を重視し、合格後の辞退防止に向けた継続的支援を強化する。

志望者の質と量のバランスを確保しつつ、OC を起点とした一貫した募集戦略を通じて、看護専門職としての素養を持つ人材の確実な確保を図る。

※「学生募集の戦略」、及び「実施計画・目標」は、P15～P17 に同一内容を記載。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、収容定員を変更する組織での入学者の見込み数

2024（R6）年度及び2025（R7）年度入学生募集は、（資料 14(再掲)）のとおり、オープンキャンパスや高校訪問、出張講義、研究室訪問、大学見学会、進学サイト等を通じて積極的に広報活動を行った。2025（R7）年度入学生募集の結果、全学接触者総数（資料請求者等）の前年比 11.5%減の 1,418 件に対し、看護学科のオープンキャンパス参加者の伸び率は 4.97%増の 824 名、出願者においては前年度を 4.47%下回る 342 名とオープンキャンパス参加者の出願率も 2.5%の微減であった。しかし、最終的に一般選抜の歩留率が高く 140 名定員を上回り 160 名の入学者を確保した。

i オープンキャンパス（OC）等接触者の取組と目標

令和 7 年度の入学者 160 人のうち、OC 経由の入学者は 102 名（比率 63.8%）である。今後の目標は、入学定員 165 名に対して OC 経由で入学者を今年度と同等の 105 人程度の入学者を確保して、定員充足を満たす。

指標	現状（R7）	目標（R8）	改善内容
接触者数	798 人	800 人以上	重点校訪問強化、WEB でターゲット拡大
OC 参加者数	491 人	500 人以上	無料送迎バス、総合型・推薦型プログラム強化、個別面談・模擬面接の実施
OC 受験者数	136 人	150 人	OC 内容改善、学費改定、入試改革
OC 受験率	27.7%	30%以上	
OC 入学率	20.8%	21.0%以上	総合・推薦型向け対策講座、面接模擬、フォローDM・出願リマインド強化
OC 入学者数	102 人	105 人以上	<u>定員の約 63%を OC 経由で確保</u>

ii 非接触者の取組と目標

各種デジタル広報媒体からの資料請求〔取組 6〕、高大連携授業〔取組 1〕、公開講座・地域連携活動〔取組 4〕及び予備校・学習塾への広報展開〔取組 7〕を通じて 85 名以上（入学率 70%を想定）の受験者を獲得することにより、非接触者から 60 名以上の入学生を確保する。

入学ルート	目標入学者	学生募集活動
指定校推薦・公募推薦	25 人	教員関係強化、指定校拡大、高大連携活動強化
一般選抜・共通テスト利用	25 人	予備校対応、入試広報、入試改革
SNS/WEB 出願	10 人	SNS 広告、LINE 相談、動画説明・公開講座・地域連携活動
非接触者 合計	60 人	

これらの取組全体を通して、入学者 165 名を確保できる見込みである。

1. 書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」 P41～P51

2. 出典

各大学 WEB ページ

3. 引用範囲

WEB ページより各種数字等を抜粋

4. その他の説明

・他大学(看護学科)の入試出願期間・入試制度・過去出願状況・収容定員充足率・および 取得可能免許について比較。

他大学の情報が記載されているため除外

習環境、基幹教員数を維持し、十分質の高い教育環境が提供できる教育課程を継続する。

なお、収容定員が 100 名増加するため、その教育環境および教育内容を維持するためのキャンパスの増設を行った。

i 教育課程の妥当性

本学看護学科は、建学の精神に基づき、地域に貢献できる実践力を有した看護師の育成を目的としており、このたびの定員増はその教育理念の実現をより広域で推進するものである。既存の教育課程は、看護基礎教育に必要な講義・演習・実習を体系的に配置しており、東戸塚キャンパスと新設の茅ヶ崎キャンパスのいずれにおいても同一の教育課程に基づき運営する。講義は共通教材・共通シラバスを用いて統一的に実施し、演習や実習はキャンパスごとの分散体制により、少人数制による丁寧な指導を可能としている。

※看護師国家試験合格率：

2024 年度 96.0% 2023 年度 97.4% 2022 年度 97.6% と高い合格率を維持している。

ii 教育環境の妥当性

定員増に伴う教育環境の整備として、茅ヶ崎市に新キャンパスを設置し、講義室、看護実習室、演習室、図書室、情報処理室、学生支援スペース等を設置した。これらの施設は東戸塚キャンパスと同等の規模・機能を有しており、いずれのキャンパスにおいても看護学教育に必要な環境が整備されている。教育機材についても、シミュレーションモデル、フィジカルアセスメントツール等を完備し、ICT を活用した演習も展開可能である。

臨地実習施設については、既存の横浜市・茅ヶ崎市、及び神奈川県内のふれあいグループ病院施設・福祉施設と締結済みであり、165 名規模に対応する臨地実習体制が整っている（資料 20 臨地実習施設の一覧と受け入れ人数の配分計画）。

iii 教育研究実施組織の妥当性

教員組織については、定員増と新キャンパス設置に伴い、基幹教員 9 名を新たに配置し、計 52 名とする計画であり、東戸塚・茅ヶ崎両キャンパスにおいて各キャンパスに 26 名の教員配置し、専門領域のバランスが確保される。特に、基礎看護、成人看護、小児・母性看護、地域・在宅看護、公衆衛生看護等の各領域において臨床・教育経験を有する人材を採用し、教育の質を担保している。また、全教員が全体研修会大学部会に実施する FD 活動に加えて、看護学科共通の FD プログラム（資料 16 再掲）に参加することで、両キャンパス間の教育手法や評価の統一性を保っている。研究活動は、地域看護や在宅看護、災害支援などのテーマで多拠点連携による研究推進体制を構築しており、教育内容と実践的研究との一体化も図られている。

⑤人材需要に関するアンケート調査等

本学が実施した需要調査アンケートの結果、看護師の人材は、いずれの医療機関において「不足している」との回答が多数を占め、今後も安定した需要が見込まれることが明らかになった。

看護師が「不足している」との回答が全体の約 53.8%、「どちらかといえば不足している」との回答が 34.6%と、約 9 割近くの医療機関が人材不足を実感している状況です。また、湘南医療大学の卒業生については、「採用したい」との回答が 61.5%、「採用を検討したい」が 23.1%であり、全体の約 85%が本学卒業生の採用に前向きな意向を示した。

これらの結果は、看護学科卒業生に対する社会的な人材需要の見通しがあると考えられる。
(資料 21)

なお、本学科は、高い就職率で推移しており、人材需要の高いことを示している。(表 10)

表 10 【保健医療学部看護学科 就職率 令和元年～令和 6 年度】

年度 学科	令和元年	令和 2 年	令和 3 年	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年
看護学科	91%	94.5%	96.4%	100%	98.7%	98.6%

(3) -3 学生確保の見通し (保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻)

①学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

ア 既設組織における取組とその目標

表 11 リハビリテーション学科理学療法学専攻 触者 (資料請求者等)、オープンキャンパス (OC) 参加者等からの入学実績

保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻	全体		受験対象者							
	接触者等総数 (資料請求等)	OC参加者数	接触者等総数 (資料請求等) (A)	OC参加者数 (B)	受験者数 (C)	入学者数 (D)	OC参加率 (B/A)	OC受験率 (C/B)	OC入学率 (D/B)	受験入学率 (D/C)
R7(2025) 入学者入試	584	443	342	275	62	42	80.4%	22.5%	15.3%	67.7%
R6(2024) 入学者入試	584	366	287	210	53	42	73.2%	25.2%	20.0%	79.2%
R5(2023) 入学者入試	647	331	384	248	72	44	64.6%	29.0%	17.7%	61.1%

分析：

OC 参加率は毎年着実に上昇しており、R7 では 8 割を超える高水準となった。接触者の中から志望度の高い層を OC へ誘導できていることが示される。

OC 参加者のうち受験に進む割合は横ばいで推移。OC から出願に至るコンバージョン率は安定している。

OC 参加者のうち入学に至った割合は年々上昇しており、OC が出願・進学への意欲を高める効果を発揮している。

受験者のうち入学した割合は高水準にある。合格後の辞退防止策の効果が表れている。

本専攻は、OC の活用が定着しつつあり、接触から入学までのルートが安定化している。今後は、OC 参加者からの出願率向上を主課題とし、さらに戦略的な広報・入試施策を強化する。

「既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績」(別紙 3)(再掲)

イ 収容定員を変更する組織における取組とその目標

学生募集の方針

本専攻では、理学療法士を目指す明確な志を持ち、基礎的な学力・知識とともに、他者との協調性・倫理観・主体性を備えた学生を広く受け入れる。保健・医療・福祉分野への関心があり、課題解決に意欲的に取り組む姿勢を持つ人材を求めている。

近年、オープンキャンパス（OC）の参加率は着実に上昇し、R7 では 8 割を超える高水準に達した。特に、OC 参加者の入学率も年々向上しており、OC が進学意欲の醸成に有効に機能している。一方で、OC から出願に至る割合は横ばいで推移しており、改善を要する。

今後は、以下の点を重点に、OC を核とした広報戦略と入試の連携を強化し、理学療法分野に貢献できる資質ある学生の安定的な確保を図る。

- i OC を通じて職業理解と志望動機を深化させて、理学療法士としての将来像を具体的に描けるよう、模擬授業・実技体験・在学生交流を充実させる。
- ii 出願への転換施策を強化するために、個別フォロー、接触後の継続的情報提供、学校との連携強化などにより、参加者の志望度を確実に高める。
- iii 入学後のミスマッチを防止するために、コミュニケーション能力や倫理観など、入学後の成長に直結する要素に着目した広報・選抜を行う。

※「学生募集の戦略」、及び「実施計画・目標」は、P15～P17 に同一内容を記載。

ウ 当該取組の実績の分析結果に基づく、収容定員を変更する組織での入学者の見込み数

2024 (R6) 年度及び 2025 (R7) 年度入学生募集は、(資料 14(再掲))のとおり、オープンキャンパスや高校訪問、出張講義、研究室訪問、大学見学会などを通じて積極的に広報活動を行った。2025 (R7) 年度入学生募集の結果、全学接触者総数(資料請求者等)の前年比同の 584 件に対し、理学療法学専攻のオープンキャンパス参加者(全体)の伸び率は 17.4%と堅調で 443 名の参加者を得た。出願者においても前年を 31%上回る 163 名の出願を獲得し、49 名の入学者を確保した。2025 年度は、入試制度の見直しをはじめ高大連携の在り方やオープンキャンパスの充実を図るなど、本学独自の学生募集の在り方を創造し、それを伝統として築いていく。

i オープンキャンパス（OC）等接触者の取組と目標

令和 7 年度の入学者 49 人のうち、OC 経由の入学者は 42 名（比率 85.7%）である。今後は、入学定員 60 名に対して OC 経由で入学者 40 人の入学者を確保して、定員充足を満たす。

指標	現状（R7）	目標（R8）	改善内容
接触者数	342 人	281 人以上	重点校訪問強化、WEB でターゲット拡大
OC 参加者数	275 人	226 人以上	無料送迎バス、総合型・推薦型プログラム強化、個別面談・模擬面接の実施
OC 受験者数	62 人	57 人	OC 内容改善、学費改定、入試制度
OC 受験率	22.5%	25.2%以上	
OC 入学率	15.3%	17.7%以上	総合・推薦型向け対策講座、面接模擬、フォローDM・出願リマインド強化
OC 入学者数	42 人	40 人以上	<u>定員の約 66%を OC 経由で確保</u>

ii 非接触者の取組と目標

各種デジタル広報媒体からの資料請求〔取組 6〕、高大連携授業〔取組 1〕、公開講座・地域連携活動〔取組 4〕及び予備校・学習塾への広報展開〔取組 7〕を通じて 30 名以上（受験入学率 70%を想定）の受験者の獲得を図り、非接触者から 20 名以上の入学生を確保する。

入学ルート	目標入学者	学生募集活動
指定校推薦・公募推薦	5 人	教員関係強化、指定校拡大、高大連携活動強化
一般選抜・共通テスト利用	10 人	予備校対応、入試広報、入試改革
SNS/WEB 出願	5 人	SNS 広告、LINE 相談、動画説明・公開講座・地域連携活動
非接触者 合計	20 人	

これらの取組全体を通して、入学者 60 名を確保できる見込みである。

1. 書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類」 P56～P65

2. 出典

各大学 WEB ページ

3. 引用範囲

WEB ページより各種数字等を抜粋

4. その他の説明

- ・他大学(理学療法学専攻)の偏差値・立地・入試出願期間・入試制度・過去出願状況・収容定員充足率・および取得資格について比較。
他大学の情報が記載されているため除外。

以上より、本学の学生納付金の設定は、教育の質、持続可能な運営、他校との比較、学生支援の観点から、合理的かつ妥当なものであると考えている。

③ 先行事例分析

該当なし

④ 学生確保に関するアンケート調査（既設組織の実績より）

リハビリテーション学科理学療法学専攻の過去 3 年間の平均歩留率 73.3%、受験者に対する入学者の割合 29.8%、平均入学定員充足率 113.3%、平均志願者数 163 人、平均入学者数 45 人であった。

なお、競合校 3 校（杏林大学、帝京平成大学、北里大学）の理学療法士養成学科の過去 3 年間の平均歩留率は 49.6%。受験者に対する入学者の割合は 11.9%、平均入学定員充足率は 107.61%である。（表 12（再掲））

リハビリテーション学科理学療法学専攻は、2015 年の開設以降、入学定員充足率 100%以上を保ち、直近 3 年間の競合校 3 校の実績平均値よりも上回っていることから、収容定員を 20 名増員し、60 名に変更しても充足できるものである。

また、保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻の入学定員増に伴う教育課程の変更は行わず、現在の教育環境、臨床実習環境、基幹教員数を維持し、十分質の高い教育環境が提供できる教育課程を継続するものである。

i 教育課程の妥当性

本学理学療法学専攻では、既存の教育課程を基盤としつつ、60 名規模への対応を見据えた授業運営体制の強化を図る。具体的には、講義科目については 1 クラス制を維持しつつ、演習・実習科目については教員 3 名で 20 名を指導する少人数教育を継続できるよう配慮する。また、定員増に伴い、グループ学修やチーム医療演習における多様性が高まり、学生同士の学び合いの深化が期待される。教育内容においても、地域包括ケアや介護予防等、地域リハビリテーションの最新動向を反映したカリキュラムを進めており、質の高い理学療法士の育成に寄与する体制を整えている。

※理学療法士国家試験合格率：

2024 年度 97.7% 2023 年度 100% 2022 年度 100% と高い合格率を維持している。

ii 教育環境の妥当性

定員増に伴う教室・実習室、図書室、学生休憩室等の使用には、既存施設に十分な余裕があり、学修環境の質を確保している。また、臨床実習においては、見学実習（理学療法）は

1施設につき5～6名、評価学実習と総合臨床実習Ⅰ（理学療法）・総合臨床実習Ⅱ（理学療法）は、1施設2～5名の学生実習を配置している。従前より本学と連携する病院・施設の全面協力により、60名体制での受け入れ枠の確保を完了しており、実践的な学修機会を担保している。

iii 教育研究実施組織の妥当性

教員組織は、定員増に合わせて新たに理学療法学専攻に基幹教員5名を増員する計画であり、専攻分野の専門性と教育経験を備えた人材を段階的に採用予定である。これにより、教員1人当たりの担当学生数（13.3人）の適正化が守られ、学生への指導体制の充実が見込まれる。また、研究活動においても、グループ病院と地域リハビリテーションに関する共同研究や学会発表等を積極的に推進しており、教育内容と連動した研究基盤の強化を進めている。

⑤ 人材需要に関するアンケート調査等

本学が実施した需要調査アンケートの結果、理学療法士は、いずれも地域の医療機関において「不足している」との回答が多数を占め、今後も安定した需要が見込まれる結果であった。

理学療法士が「不足している」16.0%、「どちらかといえば不足している」48.0%と、合わせて64.0%の施設で人材不足が報告されました。本学卒業生の採用意向については、「採用したい」48.0%、「採用を検討したい」16.0%で、合計64.0%が前向きな姿勢を示している。

これらの結果は、理学療法学専攻で学んだ卒業生に対する社会的な人材需要の見通しがあると考えられる。（資料22）

なお、本学科は、高い就職率で推移しており、人材需要の高いことを示している。（表14）

表14【保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻 就職率 令和元年～令和6年度】

年度 学科	令和元年	令和2年	令和3年	令和4年	令和5年	令和6年
リハビリテーション 学科理学療法学専攻	91.8%	94.4%	95.4%	97.5%	93.4%	97.7%

（4）収容定員を変更する組織の定員設定の理由

学校基本調査によると、令和6（2024）年3月31日現在の神奈川県の高등학교卒業者の大学等進学者数（現役）は、41,722人（進学率69.41%）である。また、「我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～（答申）」（中央教育審議会令和7年2月21日）によると、2040年の神奈川県の大学入学者数の予測は34,648人である。

収容定員を変更する3学科について、上記データに基づき、各ア～ウの項目により、2040年の志願者動向を試算した。

① 薬学部医療薬学科

ア 全国の動向からの志願者見込

本学薬学部医療薬学科平均志願者数(186人)は、令和6年度の全国薬学大学志願者(71,663人)の約0.26%(シェア)に相当する。 $\ast 186 \text{ 人} \div 71,663 \text{ 人} \approx 0.26\%$

この割合を2040年度に当てはめると、神奈川県大学入学者数(34,648人)に対して本学が0.26%のシェアを獲得した場合、本学の志願者数見込は約90人($= 34,648 \times 0.26\%$)となる。

イ 神奈川県の動向からの志願者見込

神奈川県内の私立6年制薬科大学(2校)の令和6年度の入学定員470人に対して、志願者総数2,140人のうち、湘南医療大学の志願者数170人(比率7.9%)であった。(表5(再掲))

神奈川県の大学進学者数41,722人に対する薬学大学志願者総数の割合は5.13%である。2040年予測の34,648人では、薬学大学志願者総数は、1,780人(5.13%を維持)の見込みとなり、本学の志願者数見込は、約140人($= 1,780 \text{ 人} \times 7.9\%$)となる。

ウ 本学薬学部医療薬学科の動向からの志願者見込

入学者数(過去3年平均)	63人
入学定員(現行)	130人
志願倍率(過去3年平均)	1.43倍
志願者数(令和4-6年度 3年平均)	186人

本学平均志願者数(186人) $\div$ 県内進学者数41,722人 $\approx 0.45\%$ (シェア)である。2040年の予測大学入学者数は、34,648人で、0.45%のシェアを維持した場合、本学の志願者数予測は、約156人($= 34,648 \times 0.45\%$)となる。

上記ア～ウの志願者数と倍率に基づく定員算定

過去の実績および将来推計から、医療薬学科への志願者数は以下の3水準が想定される：

志願者数	ケース
91人	最小想定
140人	標準想定(2024(令和6)年度に近い数値)
156人	最大想定

本学薬学部は、第1回卒業生の輩出前及び教育評価を受ける前に、2040年の志願倍率を想定することは、困難であると考えている。従って、少人数教育の長所を活かし、個別・実践型の臨床教育の強化、ICT活用、教員配置の最適化により教育の質を維持し、同様に、組織のスリム化、地域連携強化やグループ病院との連携を活かしたブランド形成により、経営の質を高

められる最低限の範囲である 1.2 倍～1.6 倍の志願倍率を確保して選抜する必要がある。志願倍率を 1.2 倍～1.6 倍と想定した場合、各ケースでの妥当な入学定員は以下の通りである。

志願倍率	志願者数 90 人	志願者数 140 人	志願者数 156 人
1.6 倍	57 人	88 人	98 人
1.4 倍	65 人	100 人	115 人
1.2 倍	75 人	117 人	130 人

上記ア～ウの結果では、標準想定である志願者数 140 人に対して、上記倍率を確保すれば、収容定員を変更した組織の定員は、117 人～88 人が適正であると試算した。

(まとめ)：

i 臨床実習体制の確保

「薬剤師供給の在り方-薬剤師の将来ビジョンを描き薬学部定員半減と臨床教育強化を- (調査部副主任研究員 成瀬道紀)」(資料 23)で、臨床実務実習期間を延長し、臨床教育の強化が必要である旨の提言もある中で、地域のグループ関連病院・薬局等との連携により構築された臨床実習体制は、毎年一定数の実習生受け入れられる体制を整備しており、100 名規模の学生数を維持する体制は可能である。

ii 地域医療への貢献

神奈川県西部及び湘南地域の薬剤師の需要は依然として高く、特に高齢化が進行する地域においては、地元で教育を受けた薬剤師が地域医療に従事することの意義は大きい。

iii 志願者増加の可能性

今後、臨床教育の強化による特色ある教育カリキュラム、地域との連携強化、他学部・他大学との協働によって大学の魅力を高めることで、志願者数の増加も十分見込まれる。

iv 卒業生輩出前であることによる将来的成長余地

本学薬学部は 2020 年度に開設された新設学部であり、2026 年度末に第 1 期生が卒業予定である。現在は卒業生を未だ輩出していない段階であるが、今後、卒業生の進路実績や国家試験合格状況が明らかになることにより、志願者数の増加や社会的評価の向上が期待される。こうした将来的な発展性を考慮すると、現時点での充足率の低さのみに基づいて定員を削減するのではなく、教育的・社会的に合理的判断のもとで定員を決定する必要がある。

上記の試算の中央値、及び薬学部の教育体制維持・実習体制確保・地域医療人材育成の観点から、入学定員 100 名人の設定が現実的かつ持続可能な規模であると判断した。

② 保健医療学部看護学科

ア 全国の動向からの志願者見込

本学看護学科平均志願者数(403人)は、令和6年度の全国保健系(看護)大学志願者(65,004人)の約0.62%(シェア)に相当する。 $\ast 403 \text{ 人} \div 65,004 \text{ 人} \approx 0.62\%$

この割合を2040年度に当てはめると、神奈川県大学入学者数(34,648人)に対して本学が0.62%のシェアを獲得した場合、本学の志願者数見込は、約215人($= 34,648 \times 0.62\%$)となる。

イ 神奈川県の動向からの志願者見込

学校基本調査では、令和6(2024)年3月31日現在の神奈川県の高등학교卒業者の大学等進学者数(現役)は、41,722人(進学率69.41%)である。また、「我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～(答申)」(中央教育審議会令和7年2月21日)によると、2040年の神奈川県の大学入学者予測数34,648人(進学率61.7%)である。(資料7-3(再掲))

神奈川県内の私立看護系大学(11校)の令和6年度の入学定員1,055人に対して、志願者総数は、4,379人であった。湘南医療大学の志願者数は、342人、比率は7.8%である。(資料24)

神奈川県の大学進学者数41,722人に対する看護系大学志願者総数の割合は、10.49%である。2040年予測の34,648人では、看護系大学志願者総数は、3,634人(10.49%を維持)の見込みとなり、本学の志願者数見込は、約284人($= 3,634 \text{ 人} \times 7.8\%$)となる。

ウ 本学看護学科の動向からの志願者見込

入学者数(過去3年平均)	149人
入学定員(現行)	140人
志願者倍率(過去3年平均)	2.88倍
志願者数(令和4-6年度 3年平均)	403人

※志願者は、令和4年度から令和6年度の間で合計168人減であるが、全国保健系志願者の母数も減少している。しかし、令和6年度は割合が増(0.48% → 0.53%)し、少子化にもかかわらず、本学の相対的な競争力は回復傾向であるため、平均値を採用した。

本学看護学科平均志願者数(403人) ÷ 県内進学者数41,722人 $\approx 0.97\%$ (シェア)である。2040年の予測大学入学者数は、34,648人で、0.97%のシェアを維持した場合、本学の志願者数予測は、約336人($= 34,648 \times 0.97\%$)となる。

上記ア～ウの志願者数と倍率に基づく定員算定

過去の実績および将来推計から、看護学科への志願者数は以下の3水準が想定される：

志願者数	ケース
215 人	最小想定
284 人	標準想定（令和6年度に近い数値）
336 人	最大想定

2040年に現在の志願倍率2.88倍を維持することは、超少子化の中で現実的に困難が予測される。従って、欠員を回避しつつ、教育の質を維持する上で、妥当な範囲である1.5倍から2.0倍の志願倍率を確保することで、学生の質と適性を適切に選抜することが可能である。志願倍率を1.5倍～2.0倍と想定した場合、各ケースにおける妥当な入学定員は以下のとおりである。

志願倍率	志願者数 215 人の場合	志願者数 284 人の場合	志願者数 336 人の場合
2.00 倍	108 人	142 人	168 人
1.75 倍	122 人	163 人	192 人
1.50 倍	143 人	190 人	224 人

上記ア～ウの結果では、標準想定である志願者数 284 人に対して、上記倍率を確保すれば、収容定員を変更した組織の定員は、142 人～190 人が適正であると試算した。

（まとめ）：

上記の試算及び東戸塚キャンパスおよび茅ヶ崎キャンパスの収容能力や、教育の質の維持、実習環境・教員体制・学生支援機能の課題を踏まえて課題を勘案し、看護学科では、入学定員 165 人の設定が最も現実的かつ持続可能な増員規模であると判断した。

これにより、将来の志願者数見込み（約 215～336 人）を前提とした場合でも、無理のない選抜が可能であると考えている。また、施設面では、茅ヶ崎キャンパスの看護学科は1 学年 80 人×4 学年＝320 人、東戸塚キャンパスは設置時より 1 学年 85 人×4 学年＝340 人の収容能力を確保しており、両キャンパス合計で収容定員 660 人（165 人×4 学年）に対応可能な体制である。

このように、本学では教育の質を確保しながら、志願者の状況や施設能力に即した実現可能かつ合理的な定員増計画（165 人）を策定した。

③ 保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻

ア 全国の動向からの志願者見込み

本学リハビリテーション学科理学療法学専攻3年平均志願者（163人）は、令和6年度全国保健系（リハビリ）大学志願者（26,431人）の約0.61%（シェア）に相当する。

※ $163 \text{ 人} \div 26,431 \text{ 人} \approx 0.61\%$

この割合を2040年度に当てはめると、神奈川県大学入学者数（34,648人）に対して本学が0.61%のシェアを獲得した場合、本学の志願者数見込みは約212人（ $= 34,648 \times 0.61\%$ ）となる。

イ 神奈川県の動向からの志願者見込

学校基本調査では、令和6（2024）年3月31日現在の神奈川県の高등학교卒業者の大学等進学者数（現役）は、41,722人（進学率69.41%）である。また、「我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～（答申）」（中央教育審議会令和7年2月21日）によると、2040年の神奈川県の大学入学者予測数34,648人（進学率61.7%）である。（資料7（再掲））

神奈川県内の理学療法士養成大学（5校）の令和6年度の入学定員220人に対して、志願者総数は、923人であった。湘南医療大学の志願者数は、177人、比率は19.2%である。（資料25）

神奈川県の大学進学者数41,722人に対する理学療法士養成大学志願者総数の割合は、2.21%である。2040年予測の34,648人では、理学療法士養成大学志願者総数は、766人（2.21%を維持）の見込みとなり、本学の志願者数見込みは、約147人（ $= 766 \text{ 人} \times 19.2\%$ ）となる。

ウ 本学リハビリテーション学科理学療法学専攻の動向からの志願者見込

入学者数（3年平均）	45人
入学定員（現行）	40人
志願倍率（2025年度）	4.43倍
志願者数（2025年度）	177人

※志願者は、2023年度から2025年度の間で2024年度に一旦減少したものの、2025年度に回復しているため、2025年度の志願者数を採用した。

本学リハビリテーション学科理学療法学専攻志願者数（177人） $\div$ 県内進学者数41,722人 $\approx$ 0.42%（シェア）である。2040年の予測大学入学者数は、34,648人で、0.42%のシェアを維持した場合、本学の志願者数予測は、約146人（ $= 34,648 \times 0.42\%$ ）となる。

上記ア～ウの志願者数と倍率に基づく定員算定

過去の実績および将来推計から、リハビリテーション学科理学療法学専攻への志願者数は以下の2水準が想定される：

志願者数	ケース
212 人	最大想定
147 人	標準想定（令和 6 年度に近い数値）

※最少想定と標準想定はほぼ同様であるため、2 水準に定める。

2040 年に現在の志願倍率 4.43 倍を維持することは、超少子化の中で現実的に困難が予測される。従って、教育の質を維持する上で、妥当な範囲である 3.5 倍～2.5 倍の志願倍率を確保することで、学生の質と適性を適切に選抜することが可能である。志願倍率を 3.5 倍～2.5 倍と想定した場合、各ケースにおける妥当な入学定員は以下の通りである。

志願倍率	志願者数 212 人の場合	志願者数 147 人の場合
3.5 倍	61 人	42 人
3.0 倍	71 人	49 人
2.5 倍	85 人	59 人

上記の結果、志願者数が 147 人で志願倍率 2.5 倍の場合でも入学定員 59 人が見込まれ、収容定員を変更した組織の定員は、60 名が安定的かつ合理的であると試算した。

（まとめ）：

上記の試算及び東戸塚キャンパスの収容能力や、教育の質の維持、実習環境・教員体制・学生支援機能の課題を踏まえて課題を勘案し、リハビリテーション学科理学療法学専攻では、入学定員 60 人の設定が最も現実的かつ持続可能な増員規模であると判断した。

学生の確保の見通し等を記載した書類(資料)

目次

【別紙 1】 収容定員を変更する組織が置かれる都道府県への入学状況.....	3
【別紙 2】 既設学科等の入学定員の充足定員の充足状況(直近 5 年間).....	4
【別紙 3】 既設学科等の学生募集のための PR 活動の過去の実績.....	7
【資料 1】 第 13 回薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会(2-1-1).....	10
【資料 2】 第 8 次神奈川県保健医療計画(令和 6 年度～令和 11 年度) 第 5 章医療従事者の確保・養成第 4 節歯科医師、薬剤師、その他の医療・介護従 事者より抜粋)	13
【資料 3】 医療従事者の需給に関する検討会看護職員需給分科会中間とりまとめ (概要)	20
【資料 4】 医療従事者の需給に関する検討会看護職員需給分科会中間とりまとめ (令和元年 11 月 15 日(金))	26
【資料 5】 厚生労働省医療従事者の需給に関する検討会 理学療法士・作業療法士需要分科 会(第 3 回)「理学療法士・作業療法士の需給推計」抜粋.....	29
【資料 6】 第 8 次神奈川県保健医療計画(令和 6 年度～令和 11 年度) 第 6 節地域リハビリテーション	32
【資料 7】 「我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～(答申)」 (令和 7 年 2 月 21 日中央教育審議会)(抜粋).....	38
【資料 7-1】 18 歳人口(男女別の将来推計)	38
【資料 7-2】 進学率・進学者数推計結果(出生低位・死亡低位)	39
【資料 7-3】 大学進学者数等の将来推計について.....	40
【資料 7-4】 各都道府県における高等教育の現状に関する調査研究 都道府県別基礎データ (神奈川県・東京都・静岡県)	41
【資料 8-1】 湘南医療大学全国所在地別入学者数及び志願者数(2023～2025 年)	44
【資料 8-2】 神奈川県内 路線図における入学生分布図.....	50
【資料 9】 日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等入学志願動向」 (令和 5 年度令和 6 年度) 抜粋	53
【資料 10】 オープンキャンパスの計画	55
【資料 11】 高校生のためのオンライン講座	58
【資料 12】 市民公開講座.....	60
【資料 13】 地域連携活動.....	61
【資料 14】 2024 年度及び 2025 年度入学生募集活動.....	62

【資料 14-1】 出願者居住地状況（都道府県別）【薬学部】	67
【資料 14-2】 本学薬学部入学者出身高校分布図(神奈川県).....	68
【資料 14-3】 地域連携活動	69
【資料 14-4】 2023 年度出張講義	70
【資料 14-5】 2025 年度入試 薬学部特待生制度適用状況等一覧	71
【資料 15】 2024 年度新入生アンケート調査	72
【資料 16】 2024 年度 FD 活動の実績	85
【資料 17】 需要調査アンケート(薬剤師).....	107
【資料 18】 湘南医療大学薬学部定員減（130 名→100 名）による指標改善と教育の質保証に 関する説明	109
【資料 19】 看護学科キャリア形成	110
【資料 20】 臨地実習施設の一覧と受入人数の配分計画	111
【資料 21】 需要調査アンケート(看護師).....	114
【資料 22】 需要調査アンケート(理学療法士)	116
【資料 23】 「薬剤師供給の在り方-薬剤師の将来ビジョンを描き薬学部定員半減と臨床教育 強化を-（調査部副主任研究員 成瀬道紀）（抜粋）JR I レビュー 2023 Vol.4, No.107 61」	118
【資料 24】 神奈川県私立看護系大学志願者状況	120
【資料 25】 神奈川県理学療法士養成大学志願者状況	121

収容定員を変更する組織が置かれる都道府県への入学状況

別紙 1

○出身高校の所在地県別の入学者数の構成比（上位 5 都道府県）※直近年度

	都道府県名	人 数	構成比	内訳
1	神奈川県	217人	86.8%	薬学:33・看護:143・理学:41
2	静岡県	11人	4.4%	薬学:3・看護:4・理学:4
3	東京都	8人	3.2%	薬学:5・看護:3・
4	山梨県	6人	2.4%	薬学:1・看護:4・理学:1
5	沖縄県	4人	1.6%	薬学:4
5	長野県	4人	1.6%	薬学:1・看護:3
	全 体	250人	100.0%	薬学:47・看護:157・理学:46

※「学校基本調査」の「出身高校の所在地県別入学者数」から作成すること。

※大学、学部、学部の学科、短期大学、短期大学の学科を設置する場合や収容定員の増加に係る学則変更認可申請の場合に作成（専門職大学、専門職短期大学、高等専門学校を含む）。大学院は作成不要。

○新設組織が置かれる都道府県の定員充足状況

	新組織所在地 (都道府県)	充足率		
		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
1	神奈川県	102.54%	102.00%	99.15%
2				

※ 2 校地で教育課程を実施する場合はそれぞれの状況を記載すること。

○新設組織の学問分野（系統区分）の定員充足状況

	系統区分	充足率		
		令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度
1	薬学	94.79%	94.66%	90.26%
2	保健系 保健医療学部 看護学部	100.30%	97.41%	91.31%
3	保健系 保健医療学部 リハビリテーション学部	98.05%	95.52%	89.13%

※「系統区分」は日本私立学校振興・共済事業団の「今日の私学財政」の系統区分に従うこと。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）
大学学部学科等名：湘南医療大学薬学部医療薬学科

別紙２－１

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数		15人	10人	5人	20人	13人
	延べ人数	志願者数	5人	8人	5人	9人	7人
		受験者数	5人	7人	5人	9人	7人
		合格者数	4人	7人	4人	9人	6人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	5人	8人	5人	9人	7人
		受験者数	5人	7人	5人	9人	7人
		合格者数	4人	7人	4人	9人	6人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	4人	7人	4人	7人	6人	
学校推薦型選抜	募集人数		65人	65人	65人	60人	64人
	延べ人数	志願者数	3人	23人	41人	26人	23人
		受験者数	3人	23人	41人	25人	23人
		合格者数	2人	22人	35人	25人	21人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	2人	0人	1人
	実人数	志願者数	3人	23人	41人	26人	23人
		受験者数	3人	23人	41人	25人	23人
		合格者数	2人	22人	35人	25人	21人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	2人	0人	1人
	入学者数	2人	16人	30人	21人	17人	
一般選抜	募集人数		50人	53人	55人	50人	52人
	延べ人数	志願者数	100人	113人	120人	66人	100人
		受験者数	80人	72人	106人	60人	80人
		合格者数	66人	65人	97人	60人	72人
		うち追加合格者数	14人	0人	4人	0人	5人
		辞退者数	6人	1人	4人	3人	4人
	実人数	志願者数	100人	113人	120人	66人	100人
		受験者数	80人	72人	106人	60人	80人
		合格者数	66人	65人	97人	60人	72人
		うち追加合格者数	14人	0人	4人	0人	5人
		辞退者数	6人	1人	4人	3人	4人
	入学者数	28人	37人	38人	23人	32人	
共通テスト利用入試	募集人数			2人	5人	0人	2人
	延べ人数	志願者数		44人	72人	42人	53人
		受験者数		43人	72人	42人	52人
		合格者数		36人	60人	40人	45人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人
		辞退者数		1人	0人	0人	1人
	実人数	志願者数		44人	72人	42人	53人
		受験者数		43人	72人	42人	52人
		合格者数		36人	60人	40人	45人
		うち追加合格者数		0人	0人	0人	0人
		辞退者数		1人	0人	0人	1人
	入学者数		3人	6人	7人	5人	
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	3人	4人	5人	8人	5人
		受験者数	3人	4人	5人	8人	5人
		合格者数	0人	4人	3人	8人	4人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人
	実人数	志願者数	3人	4人	5人	8人	5人
		受験者数	3人	4人	5人	8人	5人
		合格者数	0人	4人	3人	8人	4人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人
	入学者数	0人	3人	1人	4人	2人	
合計	募集人数	0人	130人	130人	130人	130人	104人
	延べ人数	志願者数	0人	111人	192人	243人	139人
		受験者数	0人	91人	149人	229人	123人
		合格者数	0人	72人	134人	199人	109人
		うち追加合格者数	0人	14人	0人	4人	4人
		辞退者数	0人	6人	2人	7人	4人
	実人数	志願者数	0人	111人	192人	243人	139人
		受験者数	0人	91人	149人	229人	123人
		合格者数	0人	72人	134人	199人	109人
		うち追加合格者数	0人	14人	0人	4人	4人
		辞退者数	0人	6人	2人	7人	4人
	入学者数	0人	34人	66人	79人	62人	48人

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
入 学 定 員		130人	130人	130人	130人	130
入 学 定 員 充 足 率		0.26	0.51	0.61	0.48	0.46
歩 留 率		0.47	0.49	0.40	0.44	0.45

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

１．各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	0人	20人	10人	30人	30人	18人
	延べ人数	64人	98人	69人	109人	72人	82人
		64人	96人	68人	107人	68人	81人
		16人	28人	41人	40人	51人	35人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	64人	98人	69人	109人	72人	82人
		64人	96人	68人	107人	68人	81人
		16人	28人	41人	40人	51人	35人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	15人	28人	41人	40人	46人	34人
学校推薦型選抜	募集人数	40人	40人	70人	70人	70人	58人
	延べ人数	61人	91人	69人	99人	68人	78人
		61人	90人	68人	99人	57人	75人
		40人	41人	64人	70人	57人	54人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	61人	91人	69人	99人	68人	78人
		61人	90人	60人	99人	57人	73人
		40人	41人	64人	70人	57人	54人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数	40人	41人	64人	70人	56人	54人
一般選抜	募集人数	35人	13人	35人	35人	35人	31人
	延べ人数	266人	136人	159人	245人	164人	194人
		247人	127人	139人	231人	152人	179人
		110人	47人	98人	108人	144人	101人
		44人	32人	39人	38人	15人	34人
		10人	6人	7人	14人	29人	13人
	実人数	266人	136人	159人	245人	164人	194人
		247人	127人	139人	231人	152人	179人
		110人	47人	98人	108人	144人	101人
		44人	32人	39人	38人	15人	34人
		10人	6人	7人	14人	29人	13人
	入学者数	26人	12人	36人	26人	42人	28人
共通テスト利用入試	募集人数	5人	3人	5人	5人	5人	5人
	延べ人数	91人	53人	53人	57人	54人	62人
		84人	48人	53人	57人	54人	59人
		35人	28人	35人	45人	53人	39人
		16人	24人	25人	35人	21人	24人
		0人	1人	1人	1人	2人	1人
	実人数	91人	53人	53人	57人	54人	62人
		84人	48人	53人	57人	54人	59人
		35人	28人	35人	45人	53人	39人
		16人	24人	25人	35人	21人	24人
		0人	1人	1人	1人	2人	1人
	入学者数	1人	0人	3人	4人	3人	2人
その他の特別選抜	募集人数						#DIV/0!
	延べ人数						#DIV/0!
							#DIV/0!
							#DIV/0!
							#DIV/0!
							#DIV/0!
	実人数						#DIV/0!
							#DIV/0!
							#DIV/0!
							#DIV/0!
							#DIV/0!
	入学者数						#DIV/0!
合計	募集人数	80人	76人	120人	140人	140人	111人
	延べ人数	482人	378人	350人	510人	358人	416人
		456人	361人	328人	494人	331人	394人
		201人	144人	238人	263人	305人	230人
		60人	56人	64人	73人	36人	58人
		10人	7人	8人	15人	31人	14人
	実人数	482人	378人	350人	510人	358人	416人
		456人	361人	320人	494人	331人	392人
		201人	144人	238人	263人	305人	230人
		60人	56人	64人	73人	36人	58人
		10人	7人	8人	15人	31人	14人
	入学者数	82人	81人	144人	140人	147人	119人

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
入 学 定 員	80人	80人	140人	140人	140人	116
入 学 定 員 充 足 率	1.03	1.01	1.03	1.00	1.05	1.02
歩 留 率	0.41	0.56	0.61	0.53	0.48	0.52

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

１．各選抜方法の状況

		R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
総合型選抜	募集人数	0人	8人	5人	5人	5人	5人
	延べ人数	36人	37人	56人	43人	32人	41人
	志願者数	36人	37人	56人	43人	30人	40人
	受験者数	36人	37人	56人	43人	30人	40人
	合格者数	9人	16人	11人	12人	17人	13人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	36人	37人	56人	43人	32人	41人
	志願者数	36人	37人	56人	43人	30人	40人
	受験者数	36人	37人	56人	43人	30人	40人
	合格者数	9人	16人	11人	12人	17人	13人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	入学者数	9人	16人	11人	12人	17人	13人
	募集人数	20人	20人	20人	20人	20人	20人
	延べ人数	26人	37人	48人	28人	26人	33人
	志願者数	26人	37人	48人	28人	20人	32人
	受験者数	26人	37人	48人	28人	20人	32人
	合格者数	16人	21人	20人	20人	20人	19人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	26人	37人	48人	28人	26人	33人
	志願者数	26人	37人	48人	28人	20人	32人
	受験者数	26人	37人	48人	28人	20人	32人
	合格者数	16人	21人	20人	20人	20人	19人
	うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
一般選抜	入学者数	16人	21人	20人	20人	19人	19人
	募集人数	18人	7人	11人	13人	13人	12人
	延べ人数	136人	80人	73人	84人	51人	85人
	志願者数	131人	76人	66人	79人	46人	80人
	受験者数	131人	76人	66人	79人	46人	80人
	合格者数	76人	34人	44人	44人	46人	49人
	うち追加合格者数	46人	27人	28人	25人	21人	29人
	辞退者数	3人	1人	1人	0人	6人	2人
	実人数	136人	80人	73人	84人	51人	85人
	志願者数	131人	76人	66人	79人	46人	80人
	受験者数	131人	76人	66人	79人	46人	80人
	合格者数	76人	34人	44人	44人	46人	49人
	うち追加合格者数	46人	27人	28人	25人	21人	29人
	辞退者数	3人	1人	1人	0人	6人	2人
共通テスト利用入試	入学者数	14人	5人	9人	11人	5人	9人
	募集人数	2人	3人	2人	2人	2人	2人
	延べ人数	64人	37人	35人	22人	25人	37人
	志願者数	64人	32人	35人	22人	25人	36人
	受験者数	64人	32人	35人	22人	25人	36人
	合格者数	22人	12人	13人	11人	25人	17人
	うち追加合格者数	14人	7人	8人	6人	18人	11人
	辞退者数	1人	1人	0人	0人	0人	0人
	実人数	64人	37人	35人	22人	25人	37人
	志願者数	64人	32人	35人	22人	25人	36人
	受験者数	64人	32人	35人	22人	25人	36人
	合格者数	22人	12人	5人	11人	25人	15人
	うち追加合格者数	14人	7人	8人	6人	18人	11人
	辞退者数	1人	1人	0人	0人	0人	0人
その他の特別選抜	入学者数	1人	1人	2人	0人	2人	1人
	募集人数		0人			0人	0人
	延べ人数		1人			1人	1人
	志願者数		1人			1人	1人
	受験者数		1人			1人	1人
	合格者数		0人			1人	1人
	うち追加合格者数		0人			0人	0人
	辞退者数		0人			0人	0人
	実人数		1人			1人	1人
	志願者数		1人			1人	1人
	受験者数		1人			1人	1人
	合格者数		0人			1人	1人
	うち追加合格者数		0人			0人	0人
	辞退者数		0人			0人	0人
合計	入学者数		0人			1人	1人
	募集人数	40人	38人	38人	40人	40人	39人
	延べ人数	262人	192人	212人	177人	135人	196人
	志願者数	257人	183人	205人	172人	122人	188人
	受験者数	257人	183人	205人	172人	122人	188人
	合格者数	123人	83人	88人	87人	109人	98人
	うち追加合格者数	60人	34人	36人	31人	39人	40人
	辞退者数	4人	2人	1人	0人	6人	3人
	実人数	262人	192人	212人	177人	135人	196人
	志願者数	257人	183人	205人	172人	122人	188人
	受験者数	257人	183人	205人	172人	122人	188人
	合格者数	123人	83人	88人	87人	109人	96人
	うち追加合格者数	60人	34人	36人	31人	39人	40人
	辞退者数	4人	2人	1人	0人	6人	3人
	入学者数	40人	43人	42人	43人	44人	42人

３．入学定員充足率

	R2年度入学者	R3年度入学者	R4年度入学者	R5年度入学者	R6年度入学者	平 均
入 学 定 員	40人	40人	40人	40人	40人	40
入 学 定 員 充 足 率	1.00	1.08	1.05	1.08	1.10	1.06
歩 留 率	0.33	0.52	0.48	0.49	0.40	0.44

（備考）特記事項がある場合は記載すること。

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

別紙 3 - 1

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：湘南医療大学薬学部医療薬学科のオープンキャンパス

	R 5 年度入試	R 6 年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	377人	435人	①取組概要 受験希望者を対象としてキャンパスを開放し、本学薬学部の特徴や充実した実習病院、学修支援体制の紹介、模擬授業、実習体験、在学生との交流、施設案内を実施した。 R5年度入試対象（R4開催）：計28回開催 （4/9, 16, 23, 30, 5/7, 14, 21, 28, 6/4, 11, 18, 26, 7/2, 9, 16, 23, 30, 8/5, 6, 13, 20, 27, 9/3, 10, 17, 24, 11/19, 12/17） R6年度入試対象（R5開催）：計17回開催 （3/25, 5/27, 6/11, 17, 24, 7/16, 22, 29, 8/11, 12, 20, 26, 9/2, 10, 17, 11/3, 4） ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 ※入学率等を用いて、本取組に関する参加者等総数の見込みから予想される入学者の人数を分析してください。 R5年度入試データから、OC参加者から50人の入学生を確保するには、参加者等総数約450人、内、受験対象者数約234人、受験者は約69人が必要である（受験率29.6%、入学率21.4%維持）。R6年度入試は、受験対象者のOC参加者数は196人から215人へと増加、同参加率も49.6%から56.1%へと上昇してOC参加者総数及び受験対象者数は、目標に近い数値となったが、OC参加後の志願・入学への誘導に課題があったため、受験率、入学率は減少した。R7年度入試は、OC参加者280人、内受験者78人、内入学者50人を目標に対して、OC参加者226人、受験者数49人/受験率21.7%といずれも前年よりも増加したが、目標に到達せず、OC参加者の入学率は低下し入学者31人であった。（「学生の確保の見通し等を記載書類」P13に記載）。 R8年度入試に向けて、「学生の確保の見通し等を記載した書類」（P14-17）に明記した取り組みを着実に実行して実現可能な目標値である、資料請求者からOC参加者300人の内、受験者75人（同率25%以上）、入学者50人（同率16.7%以上）を達成する。
うち受験対象者数 (b)	196人	215人	
うち受験者数 (c)	58人	44人	
うち入学者数 (d)	42人	32人	
(受験率 c/b)	29.6%	20.5%	
(入学率 d/b)	21.4%	14.9%	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称：湘南医療大学薬学部医療薬学科の大学案内送付数

	R 5 年度入試	R 6 年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	758人	722人	①取組概要 受験生が活用する各企業が設置する進学サイト上での大学概要、学部・学科概要、入試情報を掲載し、オープンキャンパスなど対面式説明会への誘導も積極的に行った。また、本学ホームページ上での資料請求受付、学部紹介、教員紹介などの情報を公開した。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 ※入学率等を用いて、本取組に関する参加者等総数の見込みから予想される入学者の人数を分析してください。 本学HPや進学サイトのイベント情報ページの更新頻度を上げ、情報公開も積極的に行い受験対象者の資料請求者数の向上に努めたが、減少した。その影響により、上記のとおり、OCからの受験率・入学率ともに低下した。今後は、受験対象者の資料請求者数を383人から516人に目標設定し、OCへの参加者を300人に増加させるために、本学Webサイトの改善、SNS広告の強化、スタディサプリ等の進学サイトへの掲載も含めて、資料請求者の増加対策を図る。
うち受験対象者数 (b)	395人	383人	
うち受験者数 (c)	58人	44人	
うち入学者数 (d)	42人	32人	
(受験率 c/b)	14.7%	11.5%	
(入学率 d/b)	10.6%	8.4%	

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

別紙 3 - 2

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：湘南医療大学保健医療学部看護学科のオープンキャンパス

	R 5 年度入試	R 6 年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	801人	785人	①取組概要 受験希望者を対象としてキャンパスを開放し、本学看護学科の特色や充実した実習病院、学修支援体制の紹介、模擬授業、実習体験、在学生との交流、施設案内を実施した。 R5年度入試対象 (R4開催)：計28回開催 (4/9, 16, 23, 30, 5/7, 14, 21, 28, 6/4, 11, 18, 26, 7/2, 9, 16, 23, 30, 8/5, 6, 13, 20, 27, 9/3, 10, 17, 24, 11/19, 12/17) R6年度入試対象 (R5開催)：計10回開催 (3/25, 5/27, 6/24, 7/22, 8/11, 12, 20, 26, 11/3, 4) ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 ※入学率等を用いて、本取組に関する参加者等総数の見込みから予想される入学者の人数を分析してください。 R8年度入試の新設組織における0Cからの入学者105人を目標とする。現在の入学率30.2%を前提とした場合、必要な受験対象者は348人 (= 105/0.302)、必要な受験者は数は105人 (= 348/0.302) となる。その比率を維持できれば、現在の受験対象者は495人いるため、105人の入学は可能である。今後は、受験者の質の維持・向上に努める。
うち受験対象者数 (b)	579人	497人	
うち受験者数 (c)	207人	150人	
うち入学者数 (d)	106人	102人	
(受験率 c/b)	35.8%	30.2%	
(入学率 d/b)	18.3%	20.5%	

②募集を行った学科等名称及び取組の名称：湘南医療大学保健医療学部看護学科の大学案内送付数

	R 5 年度入試	R 6 年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	1741人	1603人	①取組概要 受験生が活用する各企業が設置する進学サイト上での大学概要、学部・学科概要、入試情報を掲載し、オープンキャンパスなど対面式説明会への誘導も積極的に行った。また、本学ホームページ上での資料請求受付、学部紹介、教員紹介などの情報を公開した。 ②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 ※入学率等を用いて、本取組に関する参加者等総数の見込みから予想される入学者の人数を分析してください。 本学HPや進学サイトのイベント情報ページの更新頻度を上げ、情報公開も積極的に行い受験対象者の資料請求者数の向上に努めた。上記のとおり、0Cからの受験率・入学率を維持することにより、収容定員変更後の組織の0Cからの入学者105人以上は達成可能である。今後は、受験対象者の質の維持・向上のために、資料請求者数を800人以上に目標設定し、0Cへの参加者を500人に増加させる。そのために、本学Webサイトの改善、SNS広告の強化、スタディサプリ等の進学サイトへの掲載も含めて、資料請求者の増加対策を図る。
うち受験対象者数 (b)	1015人	850人	
うち受験者数 (c)	207人	150人	
うち入学者数 (d)	106人	102人	
(受験率 c/b)	20.4%	17.6%	
(入学率 d/b)	10.4%	12.0%	

既設学科等の学生募集のためのPR活動の過去の実績

別紙 3 - 3

①募集を行った学科等名称及び取組の名称：湘南医療大学保健医療学部リハビリテーション学科理学療法専攻のオープンキャンパス

	R 5 年度入試	R 6 年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	331人	366人	①取組概要 受験希望者を対象としてキャンパスを開放し、本学薬学部の特徴や充実した実習病院、学修支援体制の紹介、模擬授業、実習体験、在学生との交流、施設案内を実施した。
うち受験対象者数 (b)	248人	210人	R5年度入試対象 (R4開催) : 計28回開催 (4/9, 16, 23, 30, 5/7, 14, 21, 28, 6/4, 11, 18, 26, 7/2, 9, 16, 23, 30, 8/5, 6, 13, 20, 27, 9/3, 10, 17, 24, 11/19, 12/17) R6年度入試対象 (R5開催) : 計10回開催 (3/25, 5/27, 6/24, 7/22, 8/11, 12, 20, 26, 11/3, 4)
うち受験者数 (c)	72人	53人	②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 ※入学率等を用いて、本取組に関する参加者等総数の見込みから予想される入学者の人数を分析してください。
うち入学者数 (d)	44人	42人	R5年度からR6年度にかけて、受験対象者数、及び受験率は減少したものの、入学率は20%に改善し、0C参加者のみで入学定員(40名)以上を確保している。R8年度の収容定員変更後の組織において、参加者等総数を281人以上、0C参加者226人以上、受験者57人以上であれば、0C入学者40人以上の目標は達成可能である。尚、その数値は既に達成しているため、看護学科と同様に、受験者数の維持、質の向上に努める。
(受験率 c/b)	29. 0%	25. 2%	
(入学率 d/b)	17. 7%	20. 0%	

③募集を行った学科等名称及び取組の名称：湘南医療大学保健医療学部リハビリテーション学科理学療法専攻の大学案内送付数

	R 5 年度入試	R 6 年度入試	取組概要と入学者数等に関する分析
参加者等総数 (a)	647人	584人	①取組概要 受験生が活用する各企業が設置する進学サイト上での大学概要、学部・学科概要、入試情報を掲載し、オープンキャンパスなど対面式説明会への誘導も積極的に行った。また、本学ホームページ上での資料請求受付、学部紹介、教員紹介などの情報を公開した。
うち受験対象者数 (b)	384人	287人	②過去の取組実績を踏まえた新設組織の入学者数の見込みに関する分析 ※入学率等を用いて、本取組に関する参加者等総数の見込みから予想される入学者の人数を分析してください。
うち受験者数 (c)	72人	53人	
うち入学者数 (d)	44人	42人	本学HPや進学サイトのイベント情報ページの更新頻度を上げ、情報公開も積極的に行い受験対象者の資料請求者数の向上に努めた。上記のとおり、0Cからの受験率・入学率を維持することにより、収容定員変更後の組織の0Cからの入学者数40名以上は達成可能である。今後は、受験対象者の質の維持・向上のために、資料請求者数の目標設定を281人以上とし、0Cへの参加者目標を226人とする。そのために、本学Webサイトの改善、SNS広告の強化、スタディサプリ等の進学サイトへの掲載も含めて、資料請求者の増加対策を図る。
(受験率 c/b)	18. 8%	18. 5%	
(入学率 d/b)	11. 5%	14. 6%	

6 年制課程薬学部而定員抑制について

6年制課程における薬学部教育の質保証に関するとりまとめ（概要）

令和4年8月 薬学系人材養成の在り方に関する検討会

1. はじめに

- 平成18年度から開始された6年制の薬学教育課程では、薬学教育モデル・コアカリキュラムを踏まえた教育が行われ、平成26年度には質の高い入学者の確保等の方策がとりまとめられた。また、令和元年度までに薬学教育評価（第三者評価）の第一サイクルが終了し、各大学における薬学教育の充実のための取組が一層推進されているところ。
- 昨年6月には、厚生労働省の検討会において、将来的な薬剤師の供給過剰が懸念される中、適正な定員規模を含む薬学部での質の確保について懸念が示され、薬学教育の質の確保が課題とされた。こうした現状を踏まえ、薬学部教育の質保証専門小委員会では今後の薬学部教育の充実・改善に向けた方策についてヒアリングを実施し、合計10回の審議を重ねた。

2. 薬学部教育の現状と課題

- 平成18年度に制度化された薬剤師養成課程である6年制の薬学部教育については、医療現場のニーズを踏まえた人材の養成が図られている。
- 平成15年度から平成20年度にかけて28学部が増加し、平成30年度から令和3年度に公立（2学部）、私立（3学部）の新設が行われた。また、平成20年度に薬剤師養成課程の入学定員は12,170人と最大となり、その後、私立大学全体の定員は若干減少している。
- 私立大学薬学部の志願倍率、入学志願者数は減少傾向が続いており、入学定員充足率が80%以下の大学は約3割に達している。また、標準修業年限内（6年）の国家試験合格率は、大学間のばらつきがある（約18%～85%：令和2年度）。

3. 今後の薬学部教育の改善・充実の方向性

（1）入学者選抜の在り方

- 明確なアドミッション・ポリシーの下、薬学を学ぶために必要な一定の知識を確認する試験や面接等の組み合わせにより、入学志願者の将来の医療人としての資質・能力、意欲や適性等を特に重視した評価を行う必要がある。

（2）入学定員に関する取組

- 6年制課程の薬学にかかる学部・学科の新設及び収容定員増については、学校教育法及び大学設置基準等の法令に適合していれば原則として認可されてきたが、その原則を改め、抑制方針をとることとし、速やかに制度化を進める必要がある。その場合、地域毎に薬剤師の偏在が指摘されていることを踏まえ、各都道府県の医療計画等において、薬剤師不足など将来的に当該地域における人材養成の必要性が示され、かつ、他の都道府県との比較において薬剤師の確保を図るべきであると判断できる等の場合には、上記の例外として取り扱うことが適切である。
- 薬剤師の地域偏在の解消にあたっては、大学と地方自治体等が連携して対応することが重要であり、薬剤師の偏在対策に資する地域枠等の定員枠の設定等により、地域に貢献する意欲のある学生を選抜し、卒後のキャリア形成とつなげていく必要がある。また、国においても、需給推計を基にした地域における薬剤師の需要見通しの精査や偏在指標の導入、大学と地方自治体等が連携する卒前・卒後の取組に対する支援を行う必要がある。

（3）教学マネジメントの確立

ア) 教育課程・教育方法

- ・ 薬学教育の質保証のためには、薬学教育モデル・コアカリキュラムを踏まえた教育課程の編成・実施が重要であり、大学においては、今後改訂される当該モデル・コアカリキュラムの内容を確実に教育課程において身に付けさせることができるよう十分な準備と実行が求められる。
- ・ 在宅医療を含む地域医療や薬剤師の偏在（地域偏在や業態偏在）等に関する教育プログラムの策定・実施を通して、薬剤師の果たす役割に関する教員及び学生の意識を醸成していくことも重要である。

イ) 学修成果・教育成果の把握・可視化、進路指導等

- ・ 学生の就職支援・進路指導にあたっては、地方自治体等による奨学金制度や卒業後のキャリア形成支援等の取組みの一層の充実を図るとともに、大学においてもその取組を学生に対して十分周知する必要がある。

ウ) FD/SD、教学IR

- ・ 教学IR（インスティテュショナルリサーチ）は、質の高い薬学教育の根幹をなすものであり、客観的なデータ及び分析結果に基づくカリキュラムの見直しや学生の特徴を踏まえた効果的な学修方法の改善・充実に取り組み、その結果を評価する取組を継続することが重要。また、教学IRに基づき課題を抽出し、改善に向けたFDのテーマ設定を行うことも有効である。

エ) 情報の公表

- ・ 大学は、入学者選抜に関する情報、標準修業年限内の卒業率及び国家試験合格率、各年次の留年率、第三者評価の結果等については、ホームページや入学案内等において、受験生や保護者、高校の進路指導担当教員、在学生等に分かりやすい形で公表すべき。新卒の国家試験合格率を掲載する場合には、標準修業年限内の国家試験合格率も併記すべき。
- ・ 国は、各大学の情報公表の状況を確認し、必要な情報提供や情報開示が適切になされていないと考えられる大学に対して、必要な助言等を行うことが求められる。

（4）内部質保証と薬学教育評価（第三者評価）への対応

- 薬学教育評価機構においても、本とりまとめで指摘されている入学定員から進路指導等にわたる各課題について、大学の取組や改善を評価していくことが今後期待される、加えて、各大学の特に優れた取組を積極的に公表するなど評価結果を広く大学間で共有していくための取組を実施することが求められる。

4. おわりに

- 薬学教育の質の改善・充実のためには、薬学教育に関わる大学関係者のもとより評価機構等の関係団体や薬剤師会・病院薬剤師会等における取組の充実、厚生労働省及び文部科学省におけるより一層連携した施策の実施など、本とりまとめの対応策を着実に実行するとともに、これらの取組の進捗状況について定期的に把握し、改善に生かしていくことが必要。

薬剤師の需給見通し等について

○ 厚生労働省「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会」とりまとめ（令和3年6月30日）（抜粋）

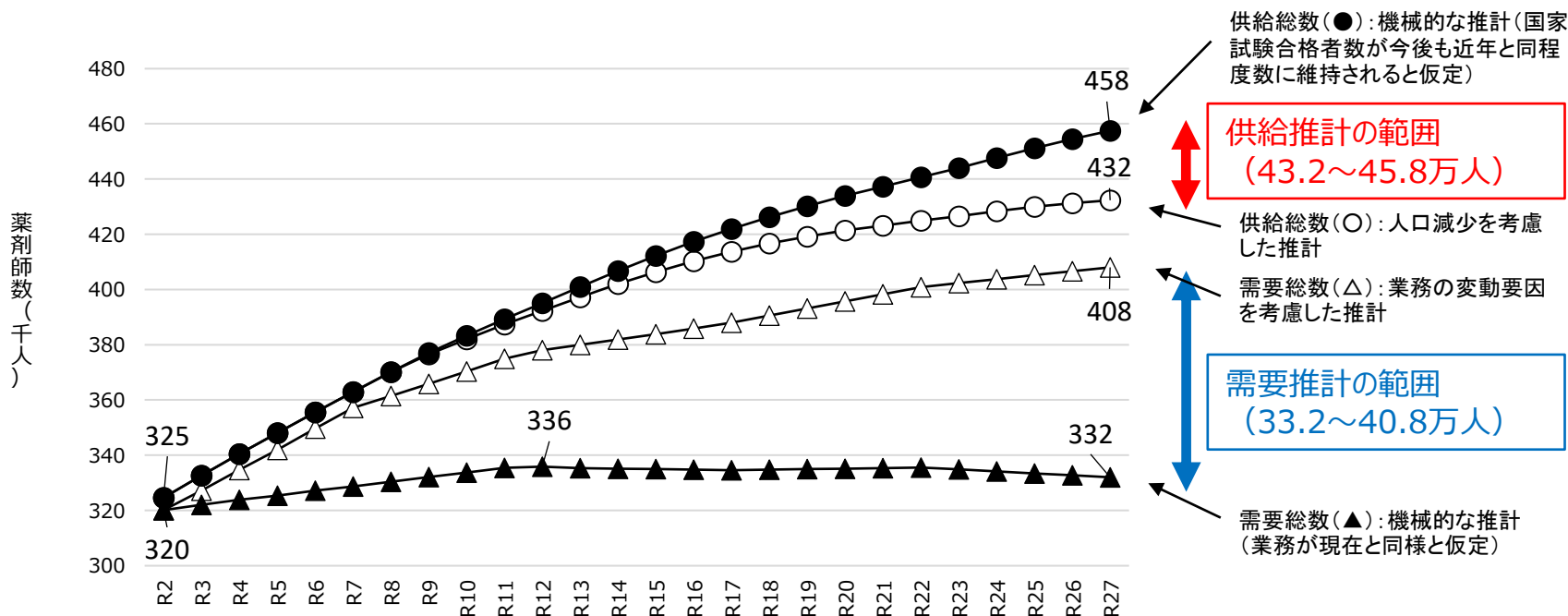
薬剤師の養成（入学定員・薬剤師確保）

- ・ 将来的に薬剤師が過剰になると予想される状況下では、入学定員数の抑制も含め教育の質の向上に資する、適正な定員規模のあり方や仕組みなどを早急に検討し、対応策を実行すべき。
- ・ 併せて、薬剤師の確保を含め、偏在を解消するための方策を検討することが重要であり、地域の実情に応じた効果的な取組を検討すべき。
- ・ 今後も薬剤師の業務実態の把握、継続的な需給推計を行い、地域偏在等の課題への対応も含めた検討に活用すべき。

○ 歴史の転換点における財政運営（令和4年5月25日 財政制度等審議会）（抜粋）

薬剤師数の増加については、将来的に薬剤師が過剰になると予想されており、増加傾向にある薬学部・薬科大学の入学定員数の抑制も含め教育の質の向上に資する、適正な定員規模の在り方や仕組みなどを早急に検討し、対応策が実行されなければならない。

薬剤師の需給推計（全国総数） ※推計期間 令和2年（2020年）～令和27年（2045年）



○ 今後の薬局・病院薬剤師の業務が変動する場合の推計は、現在の業務量と比較した仮定条件を主に以下のとおりとして推計した。

【薬局】

- ・ 在宅業務は令和27年までに2倍
- ・ 健康サポート機能に係る業務は1.5倍 等

【病院】

- ・ 高度急性期病床の業務は令和27年までに1.3倍
- ・ 急性期病床は、今後も更なる業務の充実が期待されるため、令和7年までに1.2倍、令和27年までに1.2~1.5倍 等

第4節 歯科医師、薬剤師、その他の医療・介護従事者

1 現状・課題

【現状】

- (1) 歯科医師
 - ・歯科診療所数及び歯科医師数は、人口 10 万人当たりで全国平均を下回っています。
 - ・訪問歯科診療を実施している歯科診療所数は、人口 10 万人当たりで全国平均を下回っています。
- (2) 薬剤師
 - ・県内の人口 10 万人当たりの薬剤師数は、全国平均を上回っています。
 - ・薬剤師偏在指標（薬局と病院）（※1）では、業態別に見ると、薬局薬剤師が薬剤師多数県、病院薬剤師が薬剤師少数県となっています。
- (3) その他の医療・介護従事者
 - ・県における介護人材については、今後さらなる不足が見込まれています。
 - ・県内における 1 施設当たりの歯科衛生士の人数は、全国平均を下回っています。

【課題】

- (1) 歯科医師
 - ・歯科医師や歯科衛生士による歯科医療や、口腔ケア等の提供体制の充実を図る必要があります。
 - ・オーラルフレイルに対応できる歯科医師が求められています。
- (2) 薬剤師
 - ・県内の現在の薬剤師の偏在状況を評価するために各地域の薬剤師の就労状況の実態を把握し、薬剤師の確保施策等を検討する必要があります。
 - ・入退院時等におけるシームレスな薬学的管理を実践するため、医薬品等の適切な取扱いや在宅医療に係る知識及び専門性の向上が必要です。
- (3) その他の医療・介護従事者
 - ・急速な高齢化に伴う保健・医療・福祉サービスの需要の増加に対処していくため、人材の計画的な養成・確保・定着に加え資質・専門性の向上を図ることが必要です。
 - ・居宅療養管理指導などの実施が可能な歯科衛生士の質・量の確保が必要です。
 - ・地域における在宅歯科医療の口腔ケアの充実のため、歯科衛生士の養成確保を支援していく必要があります。
 - ・結婚や出産を機に離職する歯科衛生士が多数おり、有資格者の半数近くは就業していないため、復職支援を行う必要があります。

(1) 歯科医師

- 県内の人口 10 万人当たりの歯科診療所数は 54.0 施設で、全国平均の 54.2 施設を下回っており、歯科医師数についても 82.3 人で全国平均の 85.2 人を下回っています（図表 2-5-4-1、2-5-4-2）。
- 訪問歯科診療を実施している歯科診療所の県内の人口 10 万人当たりの施設数は 15.3 施設で、全国平均の 17.1 施設を下回っています（図表 2-5-4-3）。
- 県では、高齢化に伴い増加が見込まれる在宅療養患者等の訪問歯科診療に対応するため、在宅歯科医療連携室の設置により、在宅歯科提供体制の充実に取り組んでいます。
- 今後、高齢化に伴い需要が予想される在宅医療における、誤嚥性肺炎等の予防、口から食べることによる生活の質の確保などのため、歯科医師や歯科衛生士による歯科医療や、口腔ケア等の提供体制の充実を図る必要があります。
- フレイルから続く要介護状態に陥ることなく、健康で自立した生活を長く保つために、オーラルフレイル（心身の機能の低下につながる口腔機能の虚弱な状態）に対応

できる歯科医師が求められています。

図表 2-5-4-1 歯科診療所数

	H30	R1	R2	R3	R4	人口 10 万対 (R4)	
						神奈川県	全国
歯科診療所	4,933	4,948	4,959	4,984	4,983	54.0	54.2

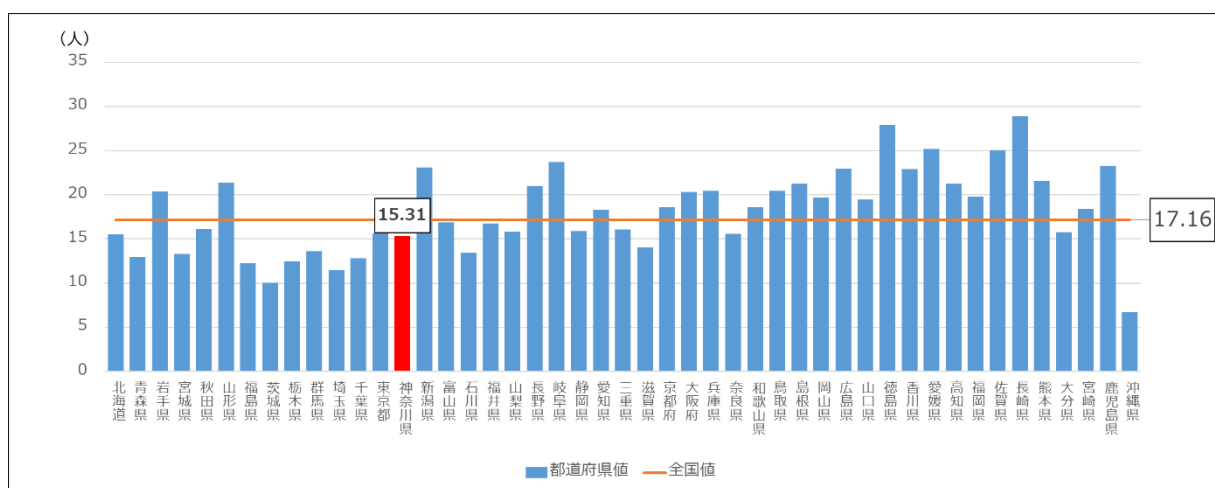
(出典) 厚生労働省「医療施設調査」

図表 2-5-4-2 歯科医師数

歯科医師数 (人)					
		H26	H28	H30	R2
神奈川県	総数	7,414	7,298	7,365	7,605
	人口 10 万対	81.5	79.8	80.3	82.3
全国	人口 10 万対	81.8	82.4	83.0	85.2

(出典) 厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師調査」

図表 2-5-4-3 歯科訪問診療を実施している診療所数 (人口 10 万対) (R3)



(出典) 厚生労働省「NDB」(令和 3 年)

(2) 薬剤師

ア 薬剤師数について

(ア) 県内の薬剤師数の状況

- 県内には、23,872 人 (令和 2 年) の薬剤師が勤務等しています。人口 10 万人当たりでみると、258.4 人で、全国平均の 255.2 人を上回っています (図表 2-5-4-4)。

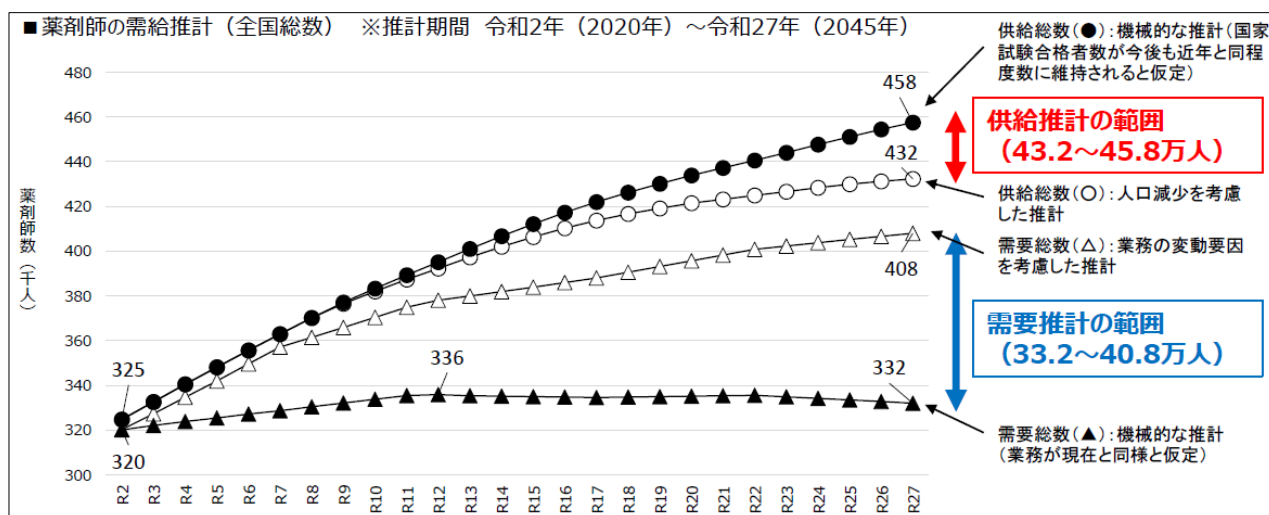
図表 2-5-4-4 薬剤師数

薬剤師数 (人)		H26	H28	H30	R2
神奈川県	総数	21,541	22,104	22,913	23,872
	人口 10 万対	236.8	241.7	249.7	258.4
全国	人口 10 万対	226.7	237.4	246.2	255.2

(出典) 厚生労働省「医薬・歯科医師・薬剤師統計」

- 国の需給推計によると、薬剤師の全国総数は、現在から概ね今後 10 年間は、需要と供給は同程度で推移します。また、将来的に、薬剤師の担う業務の充実により需要要因が増加すると仮定したとしても、供給が需要を上回るため、薬剤師が不足することはないと推計されています（図表 2-5-4-5）。

図表 2-5-4-5 薬剤師の需給推計（全国総数）



(出典) 厚生労働省「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会」

(イ) 県内の薬剤師の業態や地域における偏在

- 国検討会によると、全国における薬剤師の従事先には地域偏在や業態（病院と薬局）偏在があり、特に病院薬剤師の確保が課題であると指摘されています。
- 県内の状況は、国が令和 5 年 6 月に示した薬剤師偏在指標によると、県全体では指標 1.0 を超えており、薬剤師多数県となりますが、業態別（薬局・病院別）では、薬局薬剤師が薬剤師多数県、病院薬剤師が薬剤師少数県となっています。（図表 2-5-4-6）
- また、二次保健医療圏別では地域ごとに差がありますが、薬局薬剤師は全ての二次保健医療圏で指標 1.0 を超えており、薬剤師多数区域となっています。（図表 2-5-4-7）
- 一方、病院薬剤師は 3 つの二次保健医療圏で薬剤師少数区域となっています。（図表 2-5-4-8）

図表 2-5-4-6 薬剤師偏在指標と薬剤師多数・少数区域の設定について

		薬剤師偏在指標 (令和 5 年) * 1	区域の別 * 2	薬剤師偏在指標 (令和 18 年) * 3	区域の別 * 3
全国	合計	0.99		1.09	
	薬局	1.08		1.22	
	病院	0.80		0.82	
神奈川県	合計	1.12	多	1.16	多
	薬局	1.25	多	1.32	多
	病院	0.80	少	0.76	少

* 1 薬剤師の必要業務時間（需要）に対する、薬剤師の実際の労働時間（供給）の比率

1.0 未満の場合、需要が供給を上回っている状態

* 2 薬剤師多数区域を「多」、薬剤師少数区域を「少」と記載

少数区域の基準となる薬剤師偏在指標は、都道府県別 0.85、医療圏別 0.74（令和 5 年）

* 3 薬剤師確保計画ガイドラインにおける目標年次（令和 18 年）での推計

少数区域の基準となる薬剤師偏在指標は、都道府県別 0.80、医療圏別 0.77（令和 18 年）

（出典）厚生労働省「薬剤師確保計画ガイドライン」

図表 2-5-4-7 二次保健医療圏別の薬局薬剤師の偏在指標と区域の設定について

	薬剤師偏在指標 (令和 5 年) * 1	区域の別 * 2	薬剤師偏在指標 (令和 18 年) * 3	区域の別 * 3
横浜	1.32	多	1.38	多
川崎北部	1.32	多	1.23	多
川崎南部	1.48	多	1.42	多
相模原	1.20	多	1.26	多
横須賀・三浦	1.11	多	1.41	多
湘南東部	1.24	多	1.28	多
湘南西部	1.08	多	1.22	多
県央	1.06	多	1.15	多
県西	1.08	多	1.33	多

（出典）厚生労働省「薬剤師確保計画ガイドライン」

図表 2-5-4-8 二次保健医療圏別の病院薬剤師の偏在指標と区域の設定について

	薬剤師偏在指標 (令和 5 年) * 1	区域の別 * 2	薬剤師偏在指標 (令和 18 年) * 3	区域の別 * 3
横浜	0.81		0.77	少
川崎北部	0.82		0.68	少
川崎南部	1.08	多	1.03	多
相模原	0.76		0.70	少
横須賀・三浦	0.71	少	0.80	
湘南東部	0.68	少	0.64	少
湘南西部	0.74		0.72	少
県央	0.84		0.81	
県西	0.62	少	0.67	少

（出典）厚生労働省「薬剤師確保計画ガイドライン」

(ウ) 薬剤師確保についての検討

- 薬剤師確保に当たっては、少子高齢化のさらなる進行や、今後人口減少が予測される中で、人口構造の変化や地域の実情に応じた医薬品提供体制の視点も重要になります。
- 国が示した薬剤師偏在指標は、一定の条件や推計により算出されていることから、県内の現在の薬剤師の偏在状況を評価し、地域の実情に応じた必要な取組を検討するためには、県は、関係団体と連携して各地域の薬剤師の就労状況の実態を把握していく必要があります。
- なお、国は令和5年6月に「薬剤師確保計画ガイドライン」を作成し、薬剤師の偏在状況を示す指標（薬剤師偏在指標）と、薬剤師確保計画の考え方が示されました。今後、県はガイドラインを基に本県の薬剤師の確保施策等を検討します。

イ 薬剤師の養成

- 患者本位の医薬分業を実現するため、薬局薬剤師が、患者の服薬情報を一元的・継続的に把握するとともに、患者に身近な日常生活圏域単位で地域包括ケアシステムの一翼を担うための取組を推進し、かかりつけ薬剤師・薬局（※2）を定着させる必要があります。
- 入退院時等におけるシームレスな薬学的管理を実践するため、地域の薬局等の関連機関や機能の異なる医療機関間との連携に係る業務、例えば、医薬品等の適切な取扱いや在宅医療に係る知識及び専門性の向上が必要です。
- 医師のタスク・シフト／シェア等、薬剤師を取り巻く様々な変化に対応していくには、常に自己研鑽に努めて専門性を高めていくことも必要です。

(3) その他の医療・介護従事者

- 県立保健福祉大学において地域の保健・医療・福祉を支える質の高い人材の養成に取り組んでいます。
- 専門領域の人材育成や、職域の拡大に対応した現任者教育を行っています。
- 急速な高齢化に伴う保健・医療・福祉サービスの需要の増加に対処していくため、人材の計画的な養成・確保・定着を図ることが必要です。
- 県における介護人材に係る需給推計では、令和7（2025）年度は、約17万人の需要に対して供給が約15.4万人となり、約1.6万人の不足が生じる見込みですが、令和22（2040）年度には、さらなる人材確保対策を講じなければ、約20.3万人の需要に対して供給が約15.7万人となり、約4.6万人の差が生じる見通しとなっています。この差を解消するため、人材確保に係る具体的な方策をさらに講じていく必要があります（出典：厚生労働省「第8期介護保険事業計画に基づく介護職員の必要数について（令和3年7月9日）」）。
- 介護従事者等は、今後、高齢者や要介護者が増加する中、心身の状況等に応じた適切なサービスを提供できるよう、安定的な人材の確保と資質・専門性の向上が求められます。
- 介護従事者等については、多様化・複合化するニーズに対応するため、人材養成による量的確保とともに、資質や専門性の向上、現任者に対する教育を充実する取組が必要です。

- 理学療法士等の資質の向上及び人材の確保・定着を図るため、理学療法士等修学資金の貸付を行っています。
- 歯科衛生士は、全国的に人手不足の状況であり、特に県は1施設当たりの歯科衛生士数が全国平均を下回っています。(図表2-5-4-9)

図表2-5-4-9 1施設当たりの歯科衛生士数

歯科診療所数		歯科診療所に就業している 歯科衛生士数(人)		1施設当たりの 歯科衛生士数(人)	
全国	神奈川県	全国	神奈川県	全国	神奈川県
67,899	4,984	142,760	9,518	2.1	1.9

(出典) (歯科診療所数) 厚生労働省「医療施設動態調査(令和3年)」

(歯科診療所に就業している歯科衛生士数) 厚生労働省「令和2年衛生行政報告例」

- 在宅医療を推進するに当たり、居宅療養管理指導などの実施が可能な歯科衛生士の質・量の確保が重要です。
- 地域における在宅歯科医療の口腔ケアの充実のため、歯科衛生士の養成確保を支援していく必要があります。
- 結婚や出産を機に離職する歯科衛生士が多数おり、有資格者の半数近くは就業していないため、復職支援を行う必要があります。

2 施策の方向性

<めざす方向(最終目標)>

今後の高齢化により生じる多様なニーズに対応できる人材が確保、養成されている

<目標の達成に向けた施策の方向性>

◆歯科医師

- ・在宅歯科医療やオーラルフレイル対策に係る歯科医師向け研修の実施

◆薬剤師

- ・薬剤師の確保に係る課題の整理、施策の検討及び実施
- ・地域医療を担う薬剤師の養成

◆その他の医療・介護従事者

- ・各種教育・研修等の実施を通じた保健・医療・福祉人材の養成及び資質向上
- ・在宅歯科医療等に対応できる歯科衛生士の確保・育成及び離職した歯科衛生士の復職支援の実施

(1) 歯科医師

- 県は、在宅歯科医療地域連携室を設置し、医科や介護との連携の相談、在宅歯科医療に係る研修等を行うなど、地域の在宅歯科医療を担う歯科医師を支援します。
- 県は、オーラルフレイル対策に係る研修を実施します。

(2) 薬剤師

ア 薬剤師の確保について

- 県は関係団体と連携し、まずは特に不足が懸念される病院薬剤師の就労状況を把握し、課題の整理、施策の検討及び実施をしていきます。
- 検討に当たっては、医師のタスク・シフト/シェア等に関する議論を参考にしながら、求められる薬剤師の確保に関する視点も考慮に入れます。

イ 薬剤師の養成について

- 県、市町村及び医療機関・医療関係者は、「患者のための薬局ビジョン」(※3)に則した取組を行うことにより、地域医療を担う薬剤師を養成し、かかりつけ薬剤師・薬局の普及・定着を図ります。
- 県、市町村及び医療機関・医療関係者は、地域包括ケアシステムや麻薬調剤などの在宅医療に関する研修などを推進します。

(3) その他の医療・介護従事者

ア 人材の養成・確保・定着の促進

- 県立保健福祉大学は、ヒューマンサービスの実現を目指した教育と知識や技術の専門職(管理栄養士・社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・理学療法士・作業療法士)の教育を行い、地域及び職域のリーダーとなる質の高い保健・医療・福祉の人材の養成を図ります。

イ 人材の現任者教育の充実と専門性の向上

- 県は、実践教育センターなどにおける現任者教育・研修を通じて、保健・医療・福祉人材の資質向上を図ります。
- 県立保健福祉大学は、施設や機能の活用により、地域社会への貢献の充実を図ります。
- 県は、介護支援専門員をはじめ介護従事者等の人材養成による量的確保とともに、資質と専門性を高めるため、研修実施機関の連携による研修受講環境等の向上、人材育成に向けた研修を実施する団体等を支援します。
- 県は、修学資金の貸付を通して、理学療法士等の確保・定着を推進します。
- 県及び医療機関・医療関係者は、学生及び現任者に対し、研修の実施を通じて、在宅歯科医療に対応できる歯科衛生士の育成を支援します。
- 県及び医療機関・医療関係者は、離職期間における技術力の低下が歯科衛生士の復職の阻害要因となっているため、歯科医療に関する最新の知識や手技を習得する機会を提供することで、復職を支援します。

■用語解説

※1 薬剤師偏在指標

薬剤師の必要業務時間(需要)に対する、薬剤師の実際の労働時間(供給)の比率であり、全国的に統一的な尺度を用いて地域別及び薬局・病院別の薬剤師の偏在状況を相対的に示す指標。

※2 かかりつけ薬剤師・薬局

患者が使用する医薬品について、一元的かつ継続的な薬学管理指導を担い、医薬品、薬物治療、健康等に関する多様な相談に対応できる資質を有するとともに、地域に密着し、地域の住民から信頼される薬剤師・薬局(日本薬剤師会)。

※3 患者のための薬局ビジョン

患者本位の医薬分業の実現に向けて、かかりつけ薬剤師・薬局の今後の姿を明らかにするとともに、団塊の世代が後期高齢者(75歳以上)になる2025年、さらに10年後の2035年に向けて、中長期的視野に立って、現在の薬局をかかりつけ薬局に再編する道筋を提示したもの(平成27年10月、厚生労働省策定)。

医療従事者の需給に関する検討会 看護職員需給分科会

中間とりまとめ(概要)

これまでの経緯

- 看護職員の需給については、看護職員確保の基本的な資料として、概ね5年ごとにこれまで7回(第7次需給推計:平成23～27年度)にわたり、病院等への全数調査により把握した数字を積み上げる方法により策定されてきた。この点、「経済財政運営と改革の基本方針2015」(平成27年6月30日閣議決定)において、「人口構造の変化や地域の実情に応じた医療提供体制の構築に資するよう、地域医療構想との整合性の確保や地域間偏在等の是正などの観点から踏まえた医師・看護職員等の需給について、検討する」とされたことを受け、従来の積み上げ方式ではなく、医師の需給推計方法との整合性を図りつつ、将来の医療需要を踏まえた推計方法を検討することとされた。
- 「医療従事者の需給に関する検討会 看護職員需給分科会」(以下「本分科会」という)は、平成28年3月の設置以来、医療従事者の働き方の見直しの影響について考慮しつつ、医師の需給推計方法との整合性を確保する観点から必要とされた中断を経て、地域医療構想に基づく需給推計方法のあり方を検討してきた。また同時に、看護職員確保策についても議論を進めてきた。

新たな看護職員需給推計の策定方法

- 国(厚生労働省)は、次の基本方針に基づく推計手法を策定した。

- ①現在の病床数・患者数及び看護職員数をもとに、医療需要(病床数又は患者数)あたり看護職員数を設定。
- ②医療需要については、
 - ・ 一般病床及び療養病床: 都道府県の地域医療構想における2025年の病床数の必要量
 - ・ 介護保険サービス: 介護保険事業計画におけるサービス見込み量
 - ※訪問看護事業所(医療保険分)は現利用者数・将来推計人口等から推計
 - ・ 地域医療構想で医療需要が示されていない領域(精神病床、無床診、保健所、学校養成所等): 一定の仮定を置いた推計

- 都道府県は、国が定めた推計ツールを用いて看護職員の需要推計を試算。供給については、現就業者数や新・再就業者見通し、離職率の動向を踏まえ、都道府県が推計した。
- 国は都道府県が算定した各推計値を集約し、これに i)短時間勤務者の増加に伴う常勤換算対実人員の比率を加味し、ii)ワークライフバランスの実現を前提に看護職員の労働環境の変化に対応した3通りの幅を持たせた係数処理を行うことで、3つのシナリオ(後述)として全体推計をとりまとめた。

※ 将来の医療需要への影響を客観的に考慮することができるものは推計に反映することを基本的考え方とし、審議会、検討会等において検討中のため結論が出ていないものや、内容が決まっているものであっても、現時点ではその影響が不明であるものについては、推計に反映することは困難であるため、今回の推計に反映せず、今後、推計に用いるエビデンスを得てから検討することとされた。

看護職員の需給推計結果(全国単位)

- 2025年における需要推計に関しては、都道府県からの報告では180万人となった。これに、ワークライフバランスの充実を前提に看護職員の超過勤務時間や有給休暇の取得日数など勤務環境改善について、看護職員の労働環境の変化に対応して幅を持たせた3とおりのシナリオを設けて推計したところ、**188万人～202万人**となった。
- 2025年における供給推計に関しては**175～182万人**程度と見込まれる(次項参照)。
- 2025年における需給ギャップについては、前提として仮定したワーク・ライフ・バランスの充実度合いにより大きく左右されることに留意が必要である。
- 今般の推計は、地域医療構想の実現を前提とした推計値であり、実現度合いにより、看護職員の必要数は変化する可能性がある。
- 今般の推計は、地域医療構想の実現を前提とした全国共通の推計方法として画一的な算定であり、個々の都道府県の実情を綿密に反映できているわけではないことに留意。

【シナリオ設定条件】

	シナリオ①	シナリオ②	シナリオ③
超過勤務	10時間以内	10時間以内	0時間
有給休暇	5日以上	10日以上	20日以上

シナリオ1: 就業中の全ての看護職員において、1ヶ月における超過勤務時間が10時間以内、1年あたりの有給取得5日以上が達成された場合

シナリオ2: 就業中の全ての看護職員において、1ヶ月における超過勤務時間が10時間以内、1年あたりの有給取得10日以上が達成された場合

シナリオ3: 就業中の全ての看護職員において、1ヶ月における超過勤務時間なし、1年あたりの有給取得20日以上が達成された場合

(実人員 単位: 人)

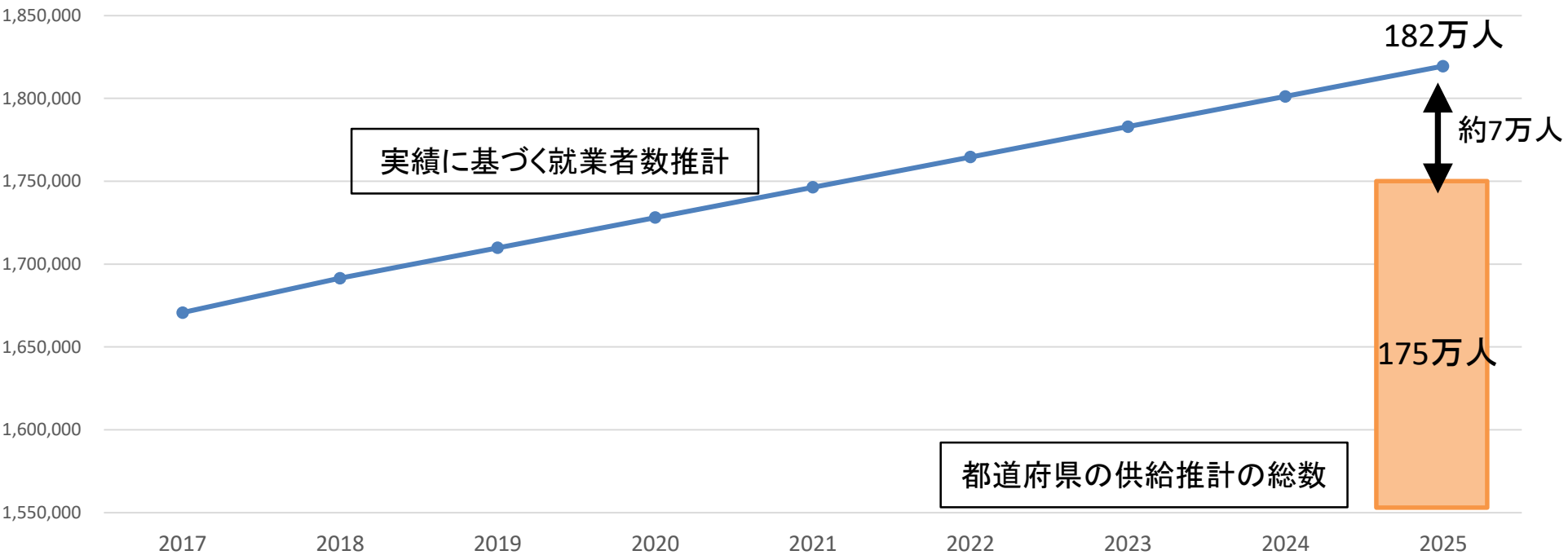
	平成28年 ※1	令和7年(2025)年			
		都道府県報告値 (係数等処理前)	シナリオ①	シナリオ②	シナリオ③
需要推計	1,660,071	1,801,633	1,880,682	1,897,561	2,019,773
病院 + 有床診療所	1,346,366	972,849	1,015,301	1,024,413	1,090,390
精神病床関連		132,052	137,904	139,142	148,103
(内訳) 精神病床		93,387	97,526	98,401	104,739
精神病床からの基盤整備		38,664	40,378	40,741	43,364
無床診療所		299,224	312,395	315,199	335,499
訪問看護事業所	46,977	112,558	117,502	118,556	126,192
(内訳) 医療保険	/	26,523	27,691	27,939	29,739
介護保険		47,370	49,433	49,877	53,089
精神病床からの基盤整備		38,664	40,378	40,741	43,364
介護保険サービス等	149,683	187,413	195,692	197,448	210,165
学校養成所等	117,045	136,201	142,266	143,543	152,788
供給推計	/	1,746,664	1,746,664 ～1,819,466	1,746,664 ～1,819,466	1,746,664 ～1,819,466

※1 平成28年は看護職員就業者数(厚生労働省医政局看護課調べ)

※2 精神病床からの基盤整備は精神病床関連と訪問看護事業所の両方に計上している。

医療従事者の需給に関する検討会 看護職員需給分科会 中間とりまとめ(概要版)

○ 都道府県による2025年における供給推計は、指数平滑法による過去実績(3カ年)等(※)と対比すると、約7万人の差が生じる。



看護課調べ【単位:千人】											
	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年
看護職員就業者数の推移	1,370	1,397	1,434	1,470	1,496	1,538	1,572	1,603	1,634	1,660	1,671
前年との比較増減	37	27	36	37	25	42	34	31	31	26	11

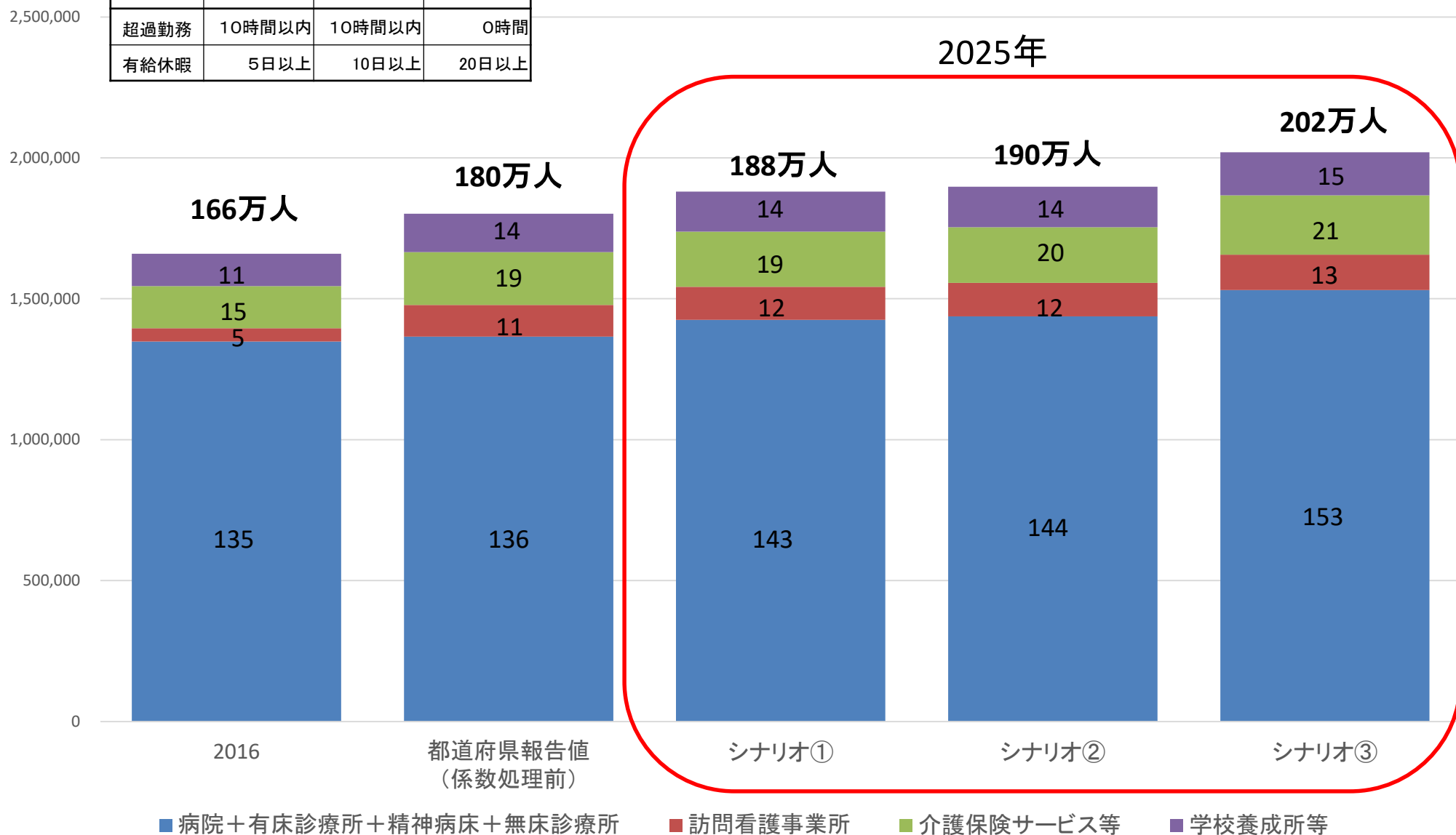
(参考) 本年9月に公表された衛生行政報告例の2018年末現在と前回(2016年末)を比較すると、看護職員数は合計で約5.3万人の増であり1年あたりは2.7万人の増となっている。差が生じた要因として、都道府県の供給推計には、ワーク・ライフ・バランス改善による離職率の低下等が反映されていないことなどが考えられる。

※ 2017年における看護職員就業者数(看護課調べ)を基に直近3カ年分の伸び率(指数平滑法)を乗じて得られる令和7(2025)年の推計値
- 学生確保(資料) - 23 -

医療従事者の需給に関する検討会 看護職員需給分科会 中間とりまとめ(概要版)

【シナリオ設定条件】

	シナリオ①	シナリオ②	シナリオ③
超過勤務	10時間以内	10時間以内	0時間
有給休暇	5日以上	10日以上	20日以上

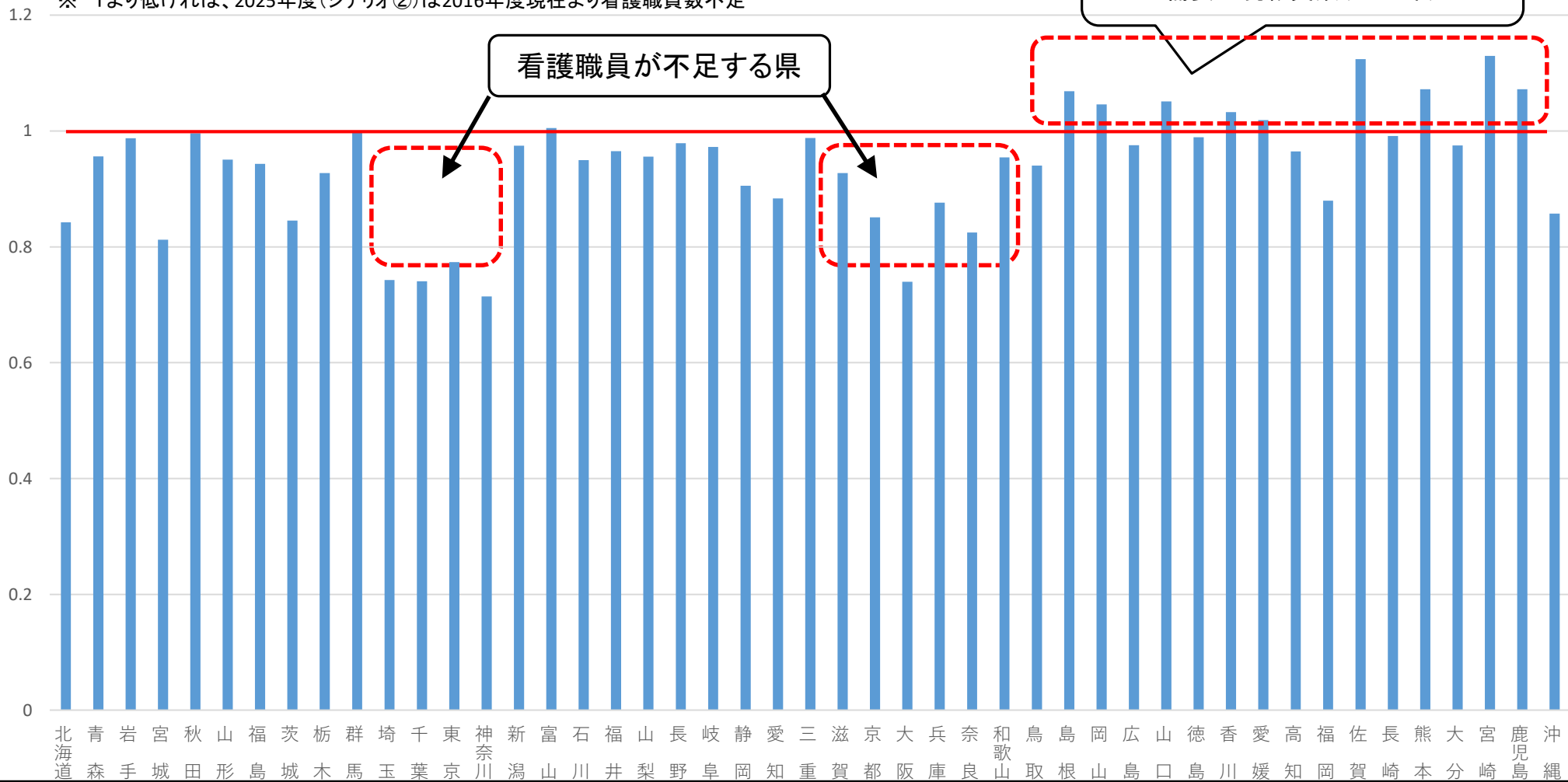


看護職員の需給推計結果(都道府県別)

- 都道府県別でみた場合、都心部や東北地方では依然として都道府県内全体として看護職員需要数が供給のそれを上回り、看護職員不足となる一方で、一部の都道府県において2016年時点のその県における看護職員総数より需要数が少ない推計結果となる場所も生じている。

【各都道府県別の2016年度と2025年度(シナリオ②)の比較(2016年度／2025年度(シナリオ②))】

※ 1より低ければ、2025年度(シナリオ②)は2016年度現在より看護職員数不足



医療従事者の需給に関する検討会
看護職員需給分科会
中間とりまとめ

令和元年 11 月 15 日(金)

２）都道府県版

都 道 府 県	供 給 推 計 (都道府県報告)	供 給 推 計 (指数平滑法)	需 要 推 計			需要推計（①～③）と供給推計（都道府県報告）の差						（参考） 需要推計 都道府県 報 告 (計数等処理前)
			シナリオ ①	シナリオ ②	シナリオ ③	シナリオ①		シナリオ②		シナリオ③		
北海道	96,056	93,436	102,981	103,906	110,598	6,925	93.3%	7,850	92.4%	14,542	86.9%	98,548
青 森	20,217	19,701	20,293	20,475	21,794	76	99.6%	258	98.7%	1,577	92.8%	19,537
岩 手	18,022	18,136	18,462	18,628	19,827	440	97.6%	606	96.7%	1,805	90.9%	17,483
宮 城	29,904	33,660	32,042	32,330	34,412	2,138	93.3%	2,426	92.5%	4,508	86.9%	30,335
秋 田	18,966	18,624	15,723	15,864	16,886	△ 3,243	120.6%	△ 3,102	119.6%	△ 2,080	112.3%	14,834
山 形	17,694	17,510	16,511	16,660	17,733	△ 1,183	107.2%	△ 1,034	106.2%	39	99.8%	15,686
福 島	28,917	25,999	27,903	28,154	29,967	△ 1,014	103.6%	△ 763	102.7%	1,050	96.5%	26,684
茨 城	37,912	33,355	38,741	39,089	41,606	829	97.9%	1,177	97.0%	3,694	91.1%	37,311
栃 木	27,063	26,702	25,801	26,032	27,709	△ 1,262	104.9%	△ 1,031	104.0%	646	97.7%	24,907
群 馬	28,720	33,253	27,910	28,160	29,974	△ 810	102.9%	△ 560	102.0%	1,254	95.8%	27,073
埼 玉	78,416	88,897	90,907	91,723	97,630	12,491	86.3%	13,307	85.5%	19,214	80.3%	87,082
千 葉	70,538	70,533	78,688	79,394	84,508	8,150	89.6%	8,856	88.8%	13,970	83.5%	76,081
東 京	140,708	160,312	181,147	182,772	194,544	40,439	77.7%	42,064	77.0%	53,836	72.3%	173,941
神奈川	85,084	83,018	116,095	117,137	124,681	31,011	73.3%	32,053	72.6%	39,597	68.2%	109,970
新 潟	36,280	34,042	32,671	32,964	35,087	△ 3,609	111.0%	△ 3,316	110.1%	△ 1,193	103.4%	30,984
富 山	18,881	19,413	16,825	16,976	18,069	△ 2,056	112.2%	△ 1,905	111.2%	△ 811	104.5%	16,031
石 川	20,892	21,305	19,522	19,698	20,966	△ 1,370	107.0%	△ 1,194	106.1%	74	99.6%	18,517
福 井	13,013	12,809	13,084	13,202	14,052	71	99.5%	189	98.6%	1,039	92.6%	12,517
山 梨	12,008	11,499	11,600	11,705	12,458	△ 408	103.5%	△ 303	102.6%	450	96.4%	11,024
長 野	30,109	32,928	30,545	30,819	32,804	437	98.6%	711	97.7%	2,696	91.8%	29,001
岐 阜	26,172	26,849	26,764	27,004	28,743	592	97.8%	832	96.9%	2,571	91.1%	25,518
静 岡	43,596	43,160	46,628	47,046	50,076	3,032	93.5%	3,450	92.7%	6,480	87.1%	44,360
愛 知	88,005	96,249	94,424	95,272	101,408	6,419	93.2%	7,267	92.4%	13,403	86.8%	89,973
三 重	24,592	26,239	23,787	24,001	25,547	△ 805	103.4%	△ 591	102.5%	955	96.3%	22,593
滋 賀	18,057	20,298	18,766	18,934	20,154	709	96.2%	877	95.4%	2,097	89.6%	17,672
京 都	41,937	43,011	42,540	42,922	45,687	603	98.6%	985	97.7%	3,750	91.8%	41,609
大 阪	108,938	116,435	144,367	145,663	155,044	35,429	75.5%	36,725	74.8%	46,106	70.3%	138,610
兵 庫	76,579	73,694	80,238	80,959	86,173	3,659	95.4%	4,380	94.6%	9,594	88.9%	77,723

都 道 府 県	供 給 推 計 (都道府県報告)	供 給 推 計 (指数平滑法)	需 要 推 計			需要推計（①～③）と供給推計（都道府県報告）の差						（参考） 需要推計 都道府県 報 告 (計数等処理前)
			シナリオ ①	シナリオ ②	シナリオ ③	シナリオ①		シナリオ②		シナリオ③		
奈 良	18,333	18,462	20,127	20,308	21,616	1,794	91.1%	1,975	90.3%	3,283	84.8%	19,507
和歌山	15,055	13,643	15,363	15,500	16,499	308	98.0%	445	97.1%	1,444	91.2%	14,557
鳥 取	10,401	11,123	10,424	10,517	11,195	23	99.8%	116	98.9%	794	92.9%	9,959
島 根	12,327	13,661	11,869	11,975	12,746	△ 458	103.9%	△ 352	102.9%	419	96.7%	11,212
岡 山	28,894	34,294	28,461	28,716	30,566	△ 433	101.5%	△ 178	100.6%	1,672	94.5%	29,763
広 島	45,100	47,880	45,128	45,533	48,466	28	99.9%	433	99.0%	3,366	93.1%	43,069
山 口	25,313	28,555	23,814	24,028	25,575	△ 1,499	106.3%	△ 1,285	105.3%	262	99.0%	22,821
徳 島	14,404	14,057	13,953	14,078	14,985	△ 451	103.2%	△ 326	102.3%	581	96.1%	13,229
香 川	17,232	17,923	16,199	16,344	17,397	△ 1,033	106.4%	△ 888	105.4%	165	99.1%	15,450
愛 媛	23,673	24,976	22,996	23,202	24,696	△ 677	102.9%	△ 471	102.0%	1,023	95.9%	21,897
高 知	15,656	15,772	15,536	15,676	16,685	△ 120	100.8%	20	99.9%	1,029	93.8%	14,531
福 岡	86,521	84,867	92,292	93,120	99,117	5,771	93.7%	6,599	92.9%	12,597	87.3%	88,730
佐 賀	16,789	19,176	14,411	14,541	15,477	△ 2,378	116.5%	△ 2,248	115.5%	△ 1,312	108.5%	13,735
長 崎	25,702	29,224	26,129	26,363	28,061	427	98.4%	661	97.5%	2,359	91.6%	24,945
熊 本	38,652	36,957	32,352	32,643	34,745	△ 6,300	119.5%	△ 6,009	118.4%	△ 3,907	111.2%	30,808
大 分	22,584	23,754	22,089	22,287	23,722	△ 495	102.2%	△ 297	101.3%	1,138	95.2%	20,806
宮 崎	20,241	24,174	19,147	19,319	20,564	△ 1,094	105.7%	△ 922	104.8%	323	98.4%	18,175
鹿児島	29,272	34,024	31,140	31,420	33,443	1,868	94.0%	2,148	93.2%	4,171	87.5%	29,679
沖 縄	23,240	25,882	24,285	24,503	26,081	1,045	95.7%	1,263	94.8%	2,841	89.1%	23,158

※ 平成31年1月17日に開催された第5回看護職員需給分科会において決定された「推計ツール」による推計方法に統一することで全国単位の共通軸で状況把握を行う必要から、その推計方法と異なる独自の推計をもって提出された都道府県分においては、国が数値を客観的に把握している事項について、補正した（該当都道府県の実提出データは巻末に後掲）。

理学療法士・作業療法士の 需給推計について

※ 今回の需給推計の位置付けについて(案)

- ・今回の需給推計は、第2回理学療法士・作業療法士需給分科会(前回)における議論を踏まえ、一定の仮定・前提の下に厚生労働省が計算した推計結果を、たたき台として議論のために供するもの
- ・このため、本推計については今回の議論や、医療政策等の状況も踏まえ、必要な見直しを行っていくこととしてはどうか

3. PT・OTの需給推計について(案)

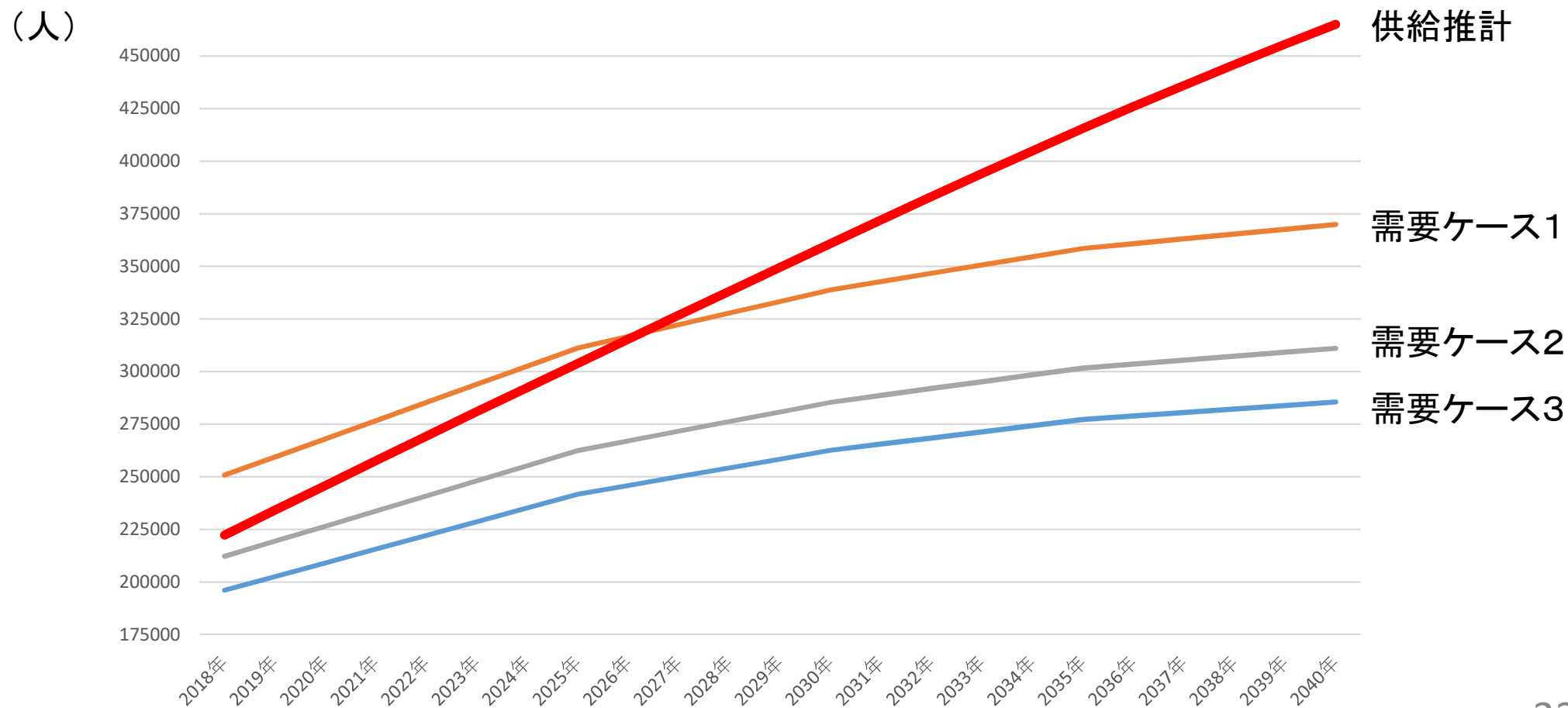
理学療法士・作業療法士の需給推計について(案)

PT・OTの供給数は、現時点においては、需要数を上回っており、2040年頃には供給数が需要数の約1.5倍となる結果となった。

供給推計 全体の平均勤務時間と性年齢階級別の勤務時間の比(仕事率)を考慮して推計。

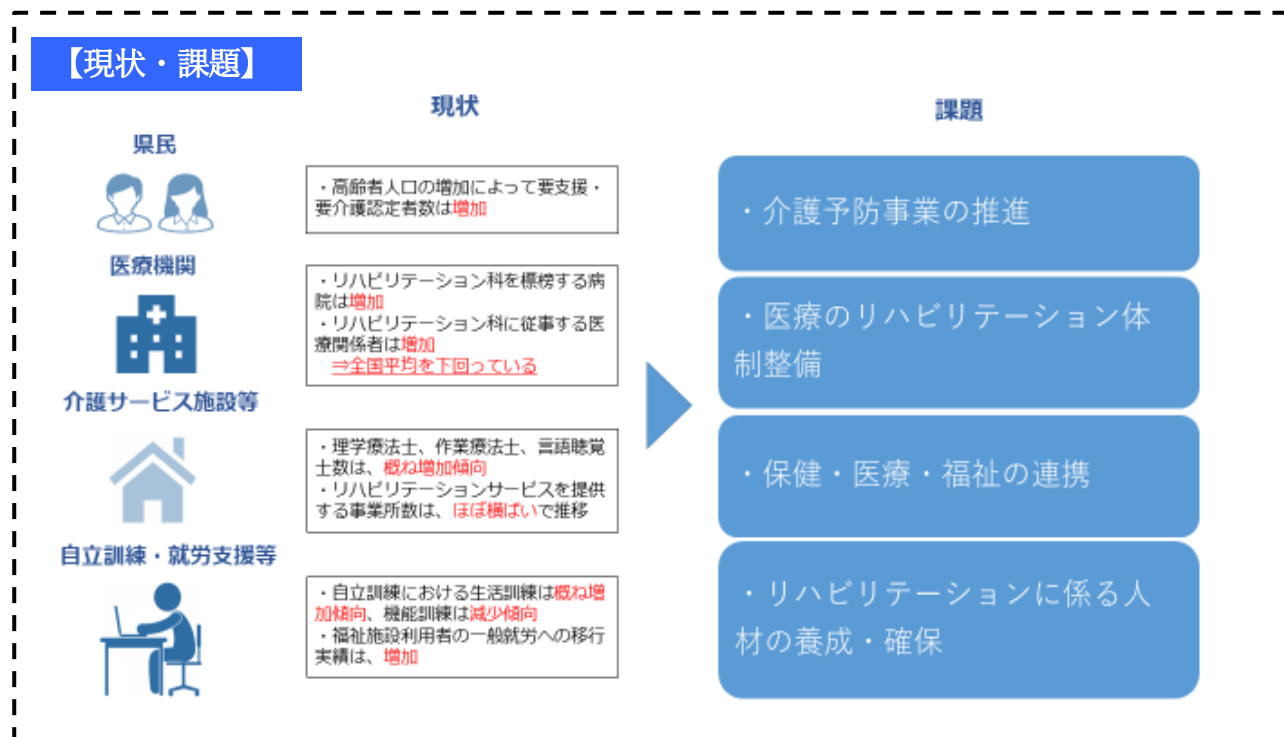
需要推計 ケース1、ケース2、ケース3について推計※

※ 精神科入院受療率、外来リハビリ実施率、時間外労働時間について幅を持って推計



第6節 地域リハビリテーション

1 現状・課題



(1) 地域リハビリテーションとは

- 子どもや成人・高齢者とその家族が、可能な限り住み慣れた地域で、一生安全に、その人らしくいきいきとした生活ができるよう、保健・医療・福祉・介護及び地域住民を含め、生活に関わるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行うすべての活動をいいます。
- 地域リハビリテーションの体制整備に当たっては、一人ひとりのライフステージに沿った支援を推進することが求められています。

(2) 地域リハビリテーションが必要な県民の状況

- 国立社会保障・人口問題研究所による人口推計によると、県の高齢者人口は、令和22（2040）年度に291.9万人となりピークを迎え、総人口の32.9%に達することが見込まれています。とりわけ、85歳以上の高齢者の増加傾向は著しく、令和22（2040）年度には、平成27年度の約2.6倍に達することが見込まれています。
- 厚生労働省の介護保険事業状況報告によると県の要支援・要介護認定者数は、高齢者人口の増加に伴い増加傾向にあり、今後も、さらに増加することが想定されます。
- 県の身体障害者手帳交付者は、令和4年度末時点で263,998人、知的障害児者把握数は84,406人、精神保健福祉手帳交付者数は107,828人で、合計456,232人です。

(3) 県内における地域リハビリテーションの体制

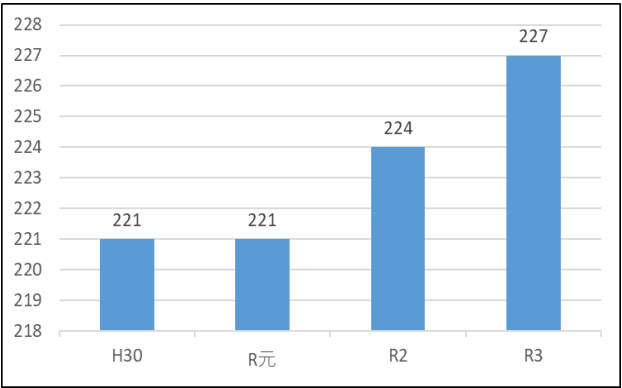
- 県内のリハビリテーション科を標榜する病院は、概ね増加傾向ですが、令和3年の

時点で、人口 10 万人当たりの病院数は、全国平均を下回っています。(図表 2-4-6-1、図表 2-4-6-2)

- 県のリハビリテーション科に従事する医師数、病院に従事する理学療法士数、作業療法士数、言語聴覚士数は、概ね増加しておりますが、人口 10 万人当たりの数は、令和 2 年時点で全国平均を下回っています。(図表 2-4-6-3、図表 2-4-6-4、図表 2-4-6-5)
- 県の介護サービス施設・事業所に従事する理学療法士、作業療法士、言語聴覚士数は、平成 29 年から令和 3 年まで概ね増加しています。(図表 2-4-6-6)
- 県の介護保険におけるリハビリテーションサービスを提供する事業所数は、平成 30 年から令和 5 年まではほぼ横ばいで推移しています。(図表 2-4-6-7)
- 県のリハビリテーションに関連する障害福祉サービス等の利用数について、平成 29 年から令和 4 年まででは、自立訓練（生活訓練）は概ね増加傾向にあり、自立訓練（機能訓練）は減少傾向にあります。また、就労移行支援（※ 1）及び就労継続支援 B 型（※ 2）は、緩やかに増加していますが、就労継続支援 A 型（※ 3）はほぼ横ばいで推移しています。(図表 2-4-6-8、図表 2-4-6-9)
- 県の福祉施設利用者の一般就労への移行実績は、平成 29 年から令和 2 年までは緩やかに増加、令和 3 年から令和 4 年にかけては著しく増加しています。(図表 2-4-6-10)

図表2-4-6-1
リハビリテーション科を標榜する病院数推移

(単位：箇所)



(出典) 厚生労働省「医療施設調査」

図表2-4-6-2
リハビリテーション科を標榜する病院数(R3)

(単位：箇所)

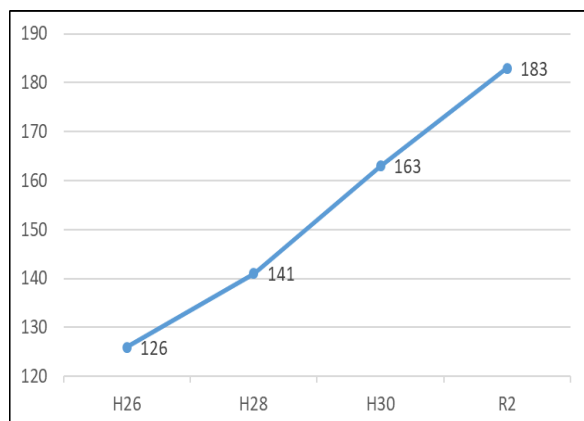
	リハビリテーション科を標榜する病院
県	227 (2.4)
全国	5,642 (4.5)

() は人口 10 万人対の施設数

(出典) 厚生労働省「医療施設調査」

図表2-4-6-3
リハビリテーション科に従事する医師数

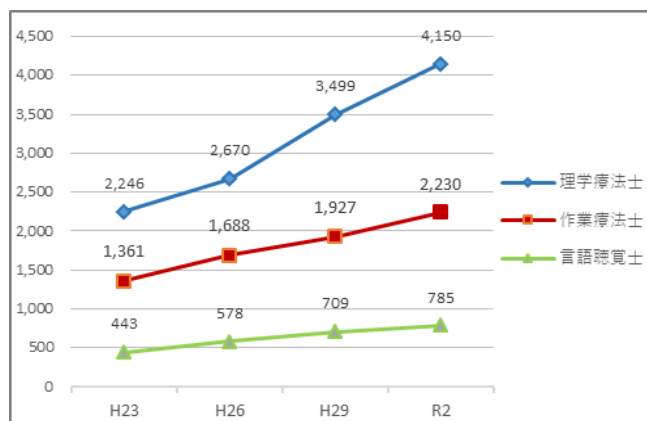
(単位：人)



(出典) 厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計」

図表2-4-6-4
病院従事理学療法士、作業療法士、言語聴覚士数

(単位：人)



(出典) 厚生労働省「医療施設調査 病院報告」

図表2-4-6-5 医療施設におけるリハビリテーションに係る従事者 (単位：人)

	リハビリテーション科に従事する医師 (R2)	理学療法士 (R2)	作業療法士 (R2)	言語聴覚士 (R2)
県	183 (2.0)	4,150 (44.9)	2,230 (24.1)	785 (8.5)
全国	2,903 (2.3)	84,459 (67.0)	47,854 (37.9)	16,799 (13.3)

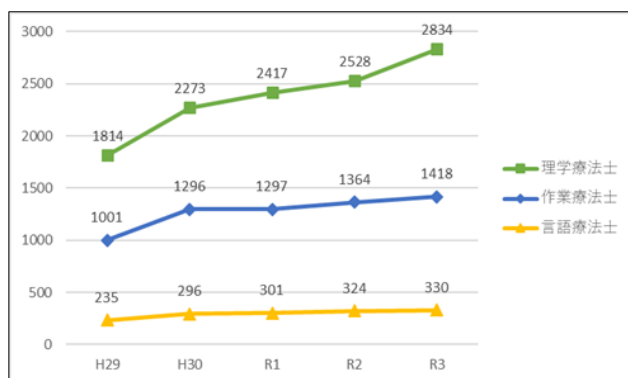
() は人口 10 万人対の従事者数

(出典) 厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計」

厚生労働省「医療施設調査 病院報告」

図表2-4-6-6
介護サービス施設・事業所に従事する理学療法士、作業療法士、言語聴覚士数

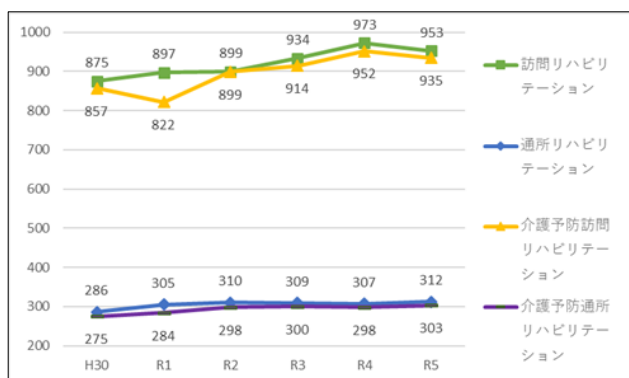
(単位：人)



(出典) 厚生労働省「介護サービス施設・事業所調査」

図表2-4-6-7
介護保険におけるリハビリテーションサービスを提供する事業所の数

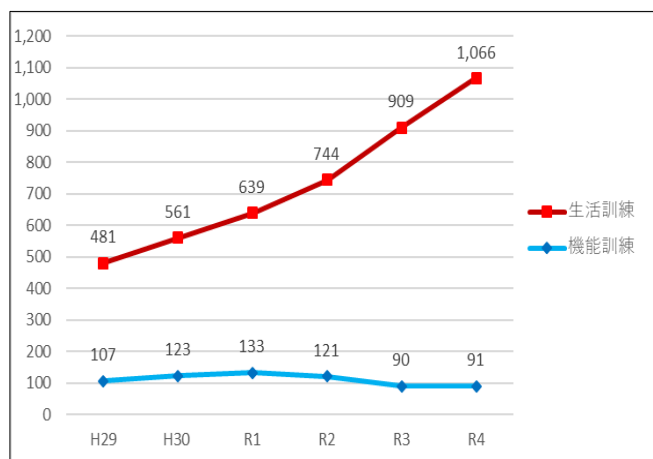
(単位：箇所)



(出典) 県高齢福祉課調べ

図表 2-4-6-8

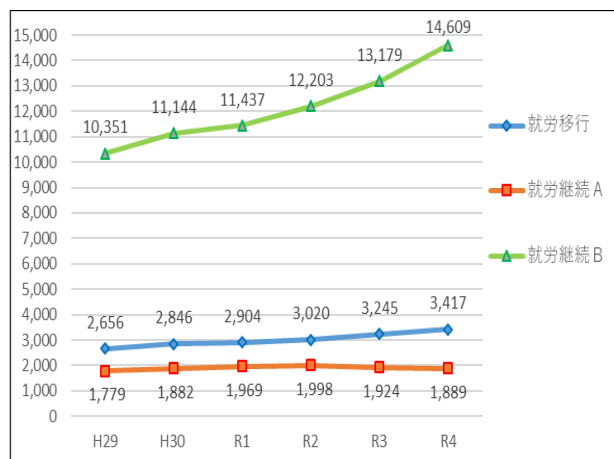
自立訓練（機能訓練、生活訓練）の月間利用状況
(単位：人)



(出典) 県障害福祉課調べ

図表 2-4-6-9

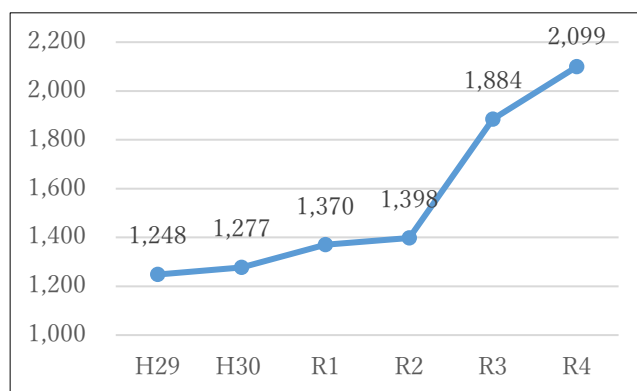
就労移行支援、就労継続支援（A型、B型）の月間利用状況
(単位：人)



(出典) 県障害福祉課調べ

図表 2-4-6-10 福祉施設利用者の一般就労への年間移行実績

(単位：人)



(出典) 県障害福祉課調べ

(4) 地域リハビリテーションにおける課題

ア 介護予防事業の推進

- 高齢者が健康で生き生きした生活を送ることができるよう、生活機能の低下が疑われる状態になった場合、早期に状態の改善や重度化防止を図っていくことが重要です。
- 高齢になっても元気で生き生きと暮らせるように介護予防の取組を機能強化するため、市町村が行う一般介護予防事業の地域リハビリテーション活動支援事業を推進することが必要です。

イ 医療のリハビリテーション体制整備

- 急性期・回復期のリハビリテーションを担う一般医療機関や専門医療機関等の整備は進んでいますが、回復期病床の数は不足しています。今後、在宅復帰に向けた医療やリハビリテーションを必要とする患者の増加が見込まれ、さらなる病床の不足が想定されることから、地域リハビリテーションの推進に当たっては、より一層の体制整備が必要です。

ウ 保健・医療・福祉の連携

- 県民が地域で安定した生活を送るため、かかりつけ医や訪問看護・訪問リハビリテーション・訪問介護・通所リハビリテーション・通所介護等の居宅サービス事業所、居宅介護支援事業所、障がい者相談支援事業所など、保健・医療・福祉の連携を強化し、心身の状態に即した適切な支援を切れ目なく行える地域づくりが必要です。

エ リハビリテーションに係る人材の養成・確保

- 資質の向上及び人材の確保・定着を図る必要があります。
- リハビリテーション従事者が地域リハビリテーションを必要としている方やそれらの関係者に適切にリハビリテーションを提供できるようにするには、リハビリテーション技術の向上が必要です。
- サービス等利用計画を、すべての障害福祉サービスを利用する障がい者等に作成する必要があるため、障がい者のケアマネジメントを担う相談支援人材の確保が必要です。

2 施策の方向性

<めざす方向（最終目標）>

健康でいきいきとした生活ができるよう、保健・医療・福祉が連携し、地域で支えるための体制が構築できている

<目標の達成に向けた施策の方向性>

- ◆介護予防事業における取組の充実やその取組に対する支援の充実
- ◆医療のリハビリテーション体制の充実
- ◆保健・医療・福祉の連携体制の充実
- ◆リハビリテーションに係る人材の養成・確保の取組の充実

(1) 介護予防事業の推進（県、市町村）

- 地域住民が、特に高齢者が健康でいきいきとした生活を送ることができるよう、生活機能の低下が疑われる状態になった場合、早期に状態の改善や重度化の予防を図っていくことが重要であるため、市町村及び県は、要支援者や要支援・要介護状態になるおそれのある人に対して、介護予防の取組を進めます。
- 市町村及び県は、年齢や心身の状況等によって分け隔てることなく、住民が主体となって行う介護予防活動や地域づくりを推進するとともに、地域においてリハビリテーション専門職、その他関係職種を活かした自立支援に資する取組を推進します。
- 地域リハビリテーション活動支援事業の専門職の関わりについての実態をふまえ、今後の地域リハビリテーションを効果的に推進する市町村支援策を検討します。

(2) 医療のリハビリテーション体制整備（県、市町村、医療機関・医療関係者）

- 県、市町村及び医療機関・医療関係者は、保健医療圏ごとに重層的なリハビリテーション体制の整備を進めるとともに、それぞれの役割を踏まえた病院と病院の連携、あるいは病院と診療所の連携を推進します。

一次保健医療圏：かかりつけ医を中心としたリハビリテーション体制の整備

二次保健医療圏：一般医療機関で発症直後からのリハビリテーションが実施できる体制とともに、さらに患者の状態に応じて、その地域が存在する病院等が連携してリハビリテーションを遅延なく適切に実施でき

る体制の整備

三次保健医療圏：二次保健医療圏で対応できない特殊・高機能なリハビリテーションを受け持つ体制の整備

- 県は、医療資源を有効に活用していくため、病床機能の分化・連携が進むよう、回復期病床等の不足している病床への転換及び新規整備や、回復期病床への転換等の準備に伴い、必要となる人材確保等を推進します。

(3) 保健・医療・福祉の連携（県、市町村、医療機関・医療関係者、介護・福祉関係者）

- 県、市町村、医療機関・医療関係者及び介護・福祉関係者は、「県地域リハビリテーション連携指針」に基づき、「神奈川県在宅医療推進協議会リハビリテーション部会」で保健・医療・福祉の連携を図り、地域においてそれぞれの状態に応じた適切なリハビリテーションサービスが円滑に提供されるように推進します。

(4) リハビリテーションに係る人材の養成・確保（県）

- 県は、修学資金の貸付を通じて、理学療法士等の確保・定着を推進します。
- 県は、「県地域リハビリテーション連携指針」に基づき、指定した「県リハビリテーション支援センター」において、地域のリハビリテーションに関する情報の提供、専門相談、人材育成のための研修などを実施し、適切なリハビリテーションの提供に向けた支援に取り組みます。
- 県は、人材育成に向けた研修を実施する団体等を支援します。
- 県は、障害を持つ方やその家族等の相談に応じ、適した障害福祉サービスを利用するためのサービス等利用計画を作成し、関係機関との調整等を担う人材の養成を推進します。

■用語解説

※1 就労移行支援

就労を希望する障害者であって、通常の事業所に雇用されることが可能と見込まれるものにつき、生産活動、職場体験その他の活動の機会の提供その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練、求職活動に関する支援、その適性に応じた職場の開拓、就職後における職場への定着のために必要な相談その他の必要な支援を行う障害福祉サービスのこと。

※2 就労継続支援B型

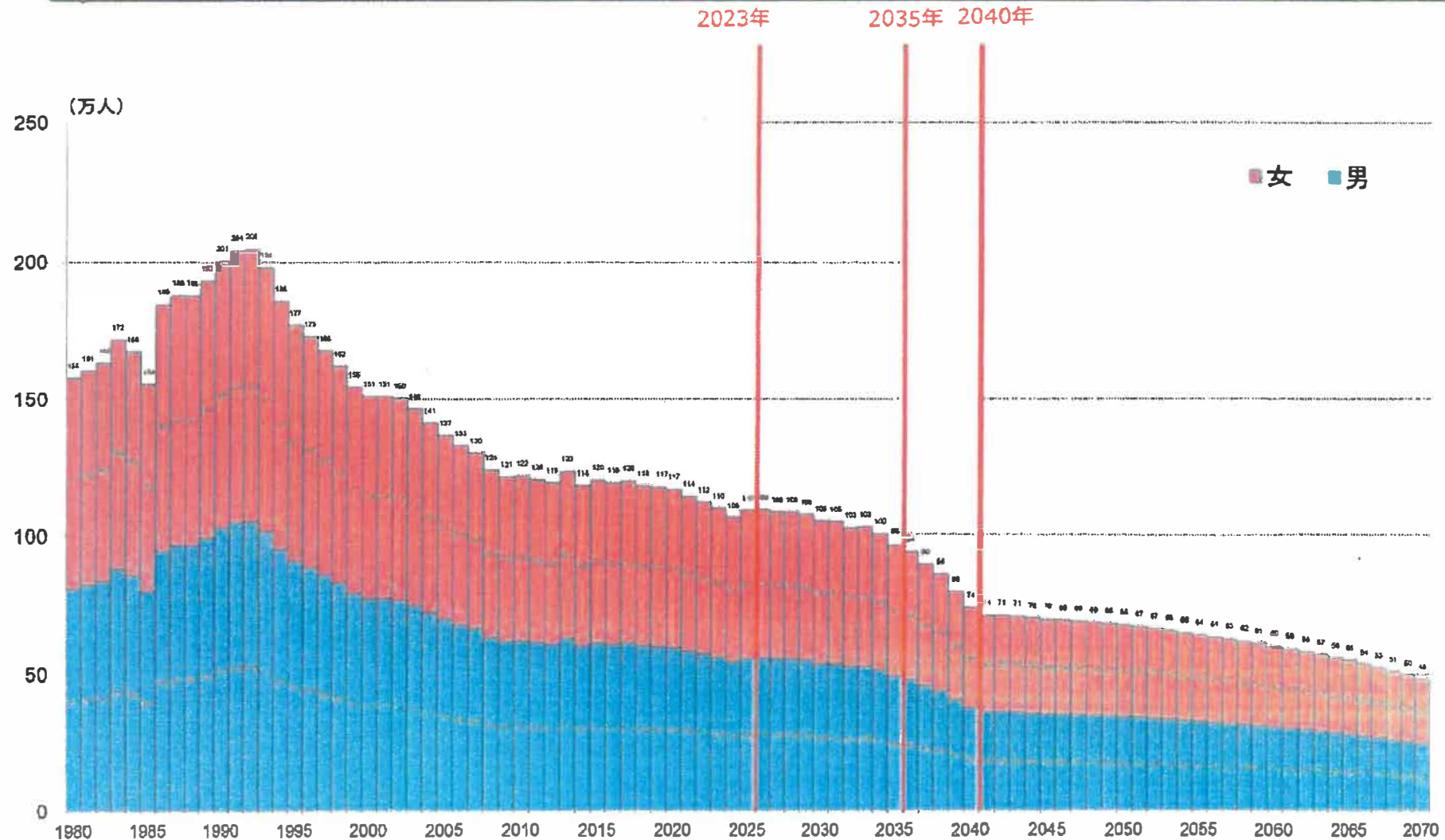
通常の事業所に雇用されることが困難な障害者のうち通常の事業所に雇用されていた障害者であってその年齢、心身の状態その他の事情により引き続き当該事業所に雇用されることが困難となった者、就労移行支援によっても通常の事業所に雇用されるに至らなかった者その他の通常の事業所に雇用されることが困難な者につき、生産活動その他の活動の機会の提供その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援を行う障害福祉サービスのこと。

※3 就労継続支援A型

通常の事業所に雇用されることが困難な障害者のうち適切な支援により雇用契約等に基づき就労する者につき、生産活動その他の活動の機会の提供その他の就労に必要な知識及び能力の向上のために必要な訓練その他の必要な支援を行う障害福祉サービスのこと。

18歳人口(男女別)の将来推計

- 我が国の18歳人口の推移を見ると、2005年には約137万人であったものが、現在は約109万人まで減少している。
- 今後、2035年には初めて100万人を割って約96万人となり、さらに2040年には約74万人にまで減少するという推計もある。



(出典) 2027年以前は文部科学省「学校基本統計」、
2028年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(令和5年推計)(出生低位・死亡低位)」を元に作成

—4—

https://www.mext.go.jp/content/20250221-mxt_koutou02-000040400_3.pdf

【資料7-1】

「我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～(答申)」
(令和7年2月21日中央教育審議会) P4

進学率・進学者数推計結果（出生低位・死亡低位）

- 出生中位・死亡中位の出生数推計より、実際の出生数が少なく推移しているため、進学率・進学者数推計を**出生低位・死亡低位で推計**。
- 急速な人口減少に伴い、大学進学率の伸長を加味したとしても、**2040年の各都道府県の大学進学者数の合計は40万人台**。
- 外国人留学生数が上昇すると仮定しても**、現在の大学の入学定員の規模が維持された場合には、2040年の**定員充足率は70%台**。

【外国人留学生数が現状のままであった場合】

年	2021（実績値）	2025	2030	2035	2040	2045	2050
18歳人口	1,141,140	1,100,314	1,051,986	964,129	739,050	697,120	678,482
進学率	54.90%	56.65%	58.22%	59.14%	59.60%	59.94%	60.22%
(a)進学者数	609,121	623,368	612,514	570,194	440,489	417,861	408,566
(b)留学生等	15,138	17,096	17,096	17,096	17,096	17,096	17,096
(c)その他※1	2,781	3,074	3,021	2,812	2,172	2,061	2,015
大学入学者数 ((a)+(b)+(c))	627,040	643,539	632,631	590,102	459,757	437,018	427,677
定員充足率※2	100.56%	101.83%	100.11%	93.38%	72.75%	69.15%	67.68%

【外国人留学生数が増加すると仮定した場合】（2033年政府目標の留学生比率5%（教育未来創造会議第二次提言）の増加ペースで2023年から2040年まで増加すると仮定）

年	2021（実績値）	2025	2030	2035	2040	2045	2050
18歳人口	1,141,140	1,100,314	1,051,986	964,129	739,050	697,120	678,482
(a)進学者数	609,121	623,368	612,514	570,194	440,489	417,861	408,566
(b)留学生等	15,138	20,077	27,531	34,984	42,438	42,438	42,438
(c)その他	2,781	3,074	3,021	2,812	2,172	2,061	2,015
大学入学者数 ((a)+(b)+(c))	627,040	646,520	643,066	607,990	485,099	462,360	453,019
定員充足率	100.56%	102.31%	101.76%	96.21%	76.76%	73.16%	71.69%

※1 高等学校卒業程度認定試験合格者・専修学校高等課程修了者で大学に進学した者

※2 2023年度の定員に対する定員充足率（2021年度は2021年度の定員に対する定員充足率）

【資料7-3】

2040年の各都道府県進学者等推計（出生低位・死亡低位）②

	道庁別			府県別			市町村別			都道府県別			都道府県別			都道府県別			都道府県別			都道府県別		
18歳人口[2021]	104,150			78,433			19,807			9,656			10,574			7,584			7,768			20,242		
高校等卒業生数[2021]	101,997			67,477			18,071			8,898			10,073			7,246			7,874			18,424		
大学進学者数[2021]	78,180			44,498			8,698			4,561			5,607			4,104			5,018			9,269		
大学進学率[2021]	75.1%			56.7%			43.9%			47.2%			53.0%			54.1%			64.6%			45.8%		
大学進学率(国公私立別)[2021]	6.7%	1.0%	67.3%	3.7%	1.2%	51.8%	9.6%	4.0%	30.4%	13.5%	5.6%	28.2%	13.7%	5.2%	34.1%	14.6%	6.3%	33.3%	9.5%	5.7%	49.4%	8.5%	4.1%	33.2%
短大進学率[2021]	1.9%			2.9%			3.8%			6.4%			5.7%			4.8%			5.4%			6.9%		
専門学校進学率(現役)[2021]	11.8%			14.7%			24.6%			15.8%			13.5%			13.9%			17.9%			19.5%		
大学数[2021]	146			32			22			5			14			6			7			11		
大学数(国公私立別)[2021]	12	2	132	2	2	28	3	4	15	1	1	3	2	4	8	1	2	3	1	2	4	1	4	6
入学定員[2021]	153,377			44,893			6,699			2,575			6,502			2,300			4,169			4,020		
入学定員(国公私立別)[2021]	9,716	1,570	142,091	1,662	1,130	42,101	2,467	765	3,467	1,770	495	310	1,726	590	4,186	855	450	995	825	990	2,354	1,978	960	1,082
大学入学者数[2021]	153,519			45,619			6,592			2,588			6,492			2,362			4,245			4,163		
(国公私立別)[2021]	10,055	1,592	141,872	1,697	1,174	42,748	2,547	826	3,219	1,832	480	276	1,764	620	4,108	895	485	982	851	1,075	2,319	2,023	1,007	1,133
県外から流入[2021]	100,599			28,384			3,132			1,640			3,813			1,083			3,012			2,276		
県内から流出[2021]	25,261			27,263			5,238			3,613			2,928			2,825			3,785			7,382		
流出入差(流入-流出)[2021]	75,339			1,121			-2,106			-1,973			885			-1,742			-773			-5,106		
自県進学率[2021]	67.7%			38.7%			39.8%			20.8%			47.8%			31.2%			24.6%			20.4%		
18歳人口推計[2040]	92,106			52,183			11,136			5,640			6,596			4,651			4,521			11,393		
大学進学者数推計[2040]	74,182			32,200			5,417			3,070			3,958			2,826			3,308			6,113		
大学進学率推計[2040]	80.5%			61.7%			48.6%			54.4%			60.0%			60.8%			73.2%			53.7%		
大学入学者数推計[2040]	121,312			34,648			4,163			1,773			4,473			1,648			3,025			2,831		
(国公私立別)[2040]	7,946	1,258	112,109	1,289	892	32,468	1,609	522	2,033	1,255	329	189	1,215	427	2,831	824	338	685	606	766	1,652	1,376	685	770
入学定員充足率推計[2040]	79.1%			77.2%			62.1%			68.8%			68.8%			71.6%			72.6%			70.4%		
(国公私立別)[2040]	81.8%	80.1%	78.9%	77.6%	78.9%	77.1%	65.2%	68.2%	66.6%	70.9%	66.4%	61.0%	70.4%	72.4%	87.6%	73.0%	75.2%	68%	73.5%	77.4%	70.2%	69.5%	71.3%	71.2%
大学進学者数[2021]-大学進学者数推計[2040]	-3,998 (-5%)			-12,298 (-28%)			-3,281 (-38%)			-1,491 (-33%)			-1,649 (-29%)			-1,278 (-31%)			-1,710 (-34%)			-3,156 (-34%)		
大学入学者数[2021]-大学入学者数推計[2040]	-32,206 (-21%)			-10,971 (-24%)			-2,429 (-37%)			-815 (-32%)			-2,019 (-31%)			-714 (-30%)			-1,220 (-29%)			-1,332 (-32%)		

(参考)

大学進学者…各県に所在する高校等を卒業した者で、全国いずれかの大学に進学した者
大学入学者…各県に所在する大学に入学した者

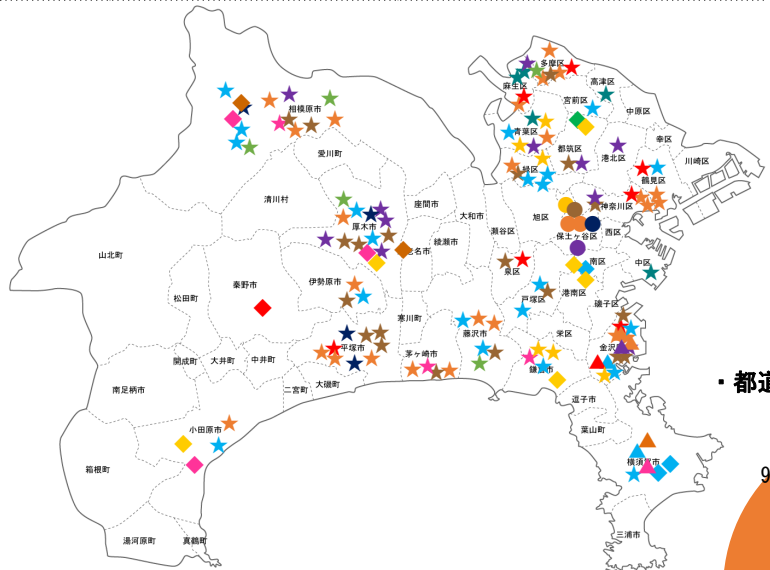
https://www.mext.go.jp/content/20250221-mxt_koutou02-000040400_6.pdf

「我が国の「知の総和」向上の未来像～高等教育システムの再構築～(答申)」
(令和7年2月21日中央教育審議会) P129



● 地域産業に関する基礎データ

県庁所在地		横浜市			
人口	9,232	(単位: 1000人)			
人口シェア	7.4%				
5年間人口増減	59	(単位: 1000人)	事業所数	卸売業、小売業	61,012
				宿泊業、飲食サービス業	32,958
名目GDP	35,287,752	(単位: 100万円)		医療、福祉	32,026
GDPシェア	6.1%			卸売業、小売業	673,439
有効求人倍率	0.69	(R3年4月実数)	従事者数	医療、福祉	596,235
平均賃金	5415.5	(単位: 1000円)		製造業	438,054



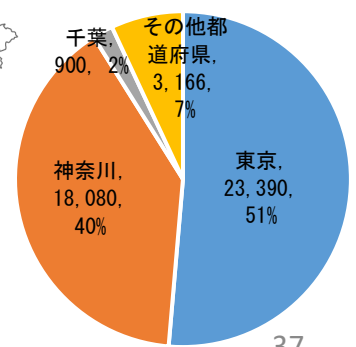
● 高等教育に関する基礎データ

18歳人口【2023】	76,186		
高校等卒業者数【2023】	64,651		
大学進学者数【2023】	45,536		
大学進学率【2023】	59.8%		
大学進学率（国公私別）【2023】	3.9%	1.4%	54.5%
短大進学率【2023】	2.2%		
専門学校進学率（現役）【2023】	12.9%		
大学数【2023】	49		
大学数（国公私別）【2023】	1	3	45
入学定員【2023】	42,847		
入学定員（国公私別）【2023】	1,662	1,230	39,955
大学入学者数【2023】	45,536		
県外から流入【2023】	29,712		
県内から流出【2023】	27,456		
流出入差（流入-流出）【2023】	2,256		
自県進学率【2023】	39.7%		
大学進学率推計（合計）【2040】	61.7%		
大学進学率推計（男）【2040】	65.8%		
大学進学率推計（女）【2040】	57.4%		

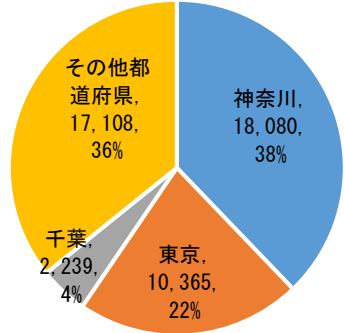
● 大学学部に関する基礎データ①

【国】横浜国立大学（定員合計：1,662）			
経営学部	●	297	横浜市
経済学部	●	258	横浜市
教育学部	●	200	横浜市
理工学部	●●	659	横浜市
都市科学部	●●	248	横浜市
【公】横浜市立大学（定員合計：900）			
国際教養学部	▲	270	横浜市
国際商学部	▲	260	横浜市
データサイエンス学部	▲	60	横浜市
理学部	▲	120	横浜市
医学部	▲	190	横浜市
【公】神奈川県立保健福祉大学（定員合計：230）			
保健福祉学部	▲▲▲	230	横須賀市
【公】川崎市立看護大学（定員合計：100）			
看護学部	▲	100	川崎市
【私】国際医療福祉大学（定員合計：2,045）			
小田原保健医療学部	★	200	小田原市
【私】文教大学（定員合計：1,905）			
情報学部	★	285	茅ヶ崎市
健康栄養学部	★	100	茅ヶ崎市
【私】青山学院大学（定員合計：4,490）			
地球社会共生学部	★	190	相模原市
社会情報学部	★	220	相模原市
コミュニティ人間科学部	★	240	相模原市
理工学部	★★	680	相模原市
【私】北里大学（定員合計：1,783）			
理学部	★	213	相模原市
未来工学部	★	100	相模原市
獣医学部	★	340	相模原市
海洋生命科学部	★	180	相模原市
医学部	★	125	相模原市
医療衛生学部	★	405	相模原市
看護学部	★	125	相模原市
薬学部	★	295	相模原市

・ 都道府県内高卒者の大学進学先



・ 都道府県内大学入学者の出身高校所在地



https://www.mext.go.jp/content/20250528-mxt_daigakuc01-000042828_1.pdf

各都道府県における高等教育の現状に関する調査研究（基礎データ）

● 地域産業に関する基礎データ

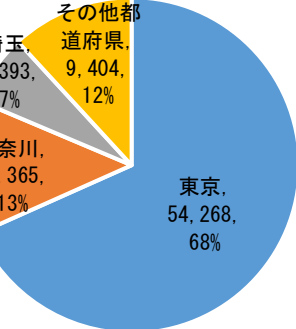
県庁所在地	新宿区				
人口	14,038	(単位：1000人)			
人口シェア	11.2%				
5年間人口増減	270	(単位：1000人)	事業所数	卸売業、小売業	141,057
名目GDP	113,685,917	(単位：100万円)		宿泊業、飲食サービス業	76,165
GDPシェア	19.7%			不動産業、物品賃貸業	64,293
有効求人倍率	1.09	(R3年4月実数)	従事者数	卸売業、小売業	1,968,713
				サービス業（他に分類されないもの）	1,172,889
平均賃金	5849.3	(単位：1000円)		情報通信業	1,085,948



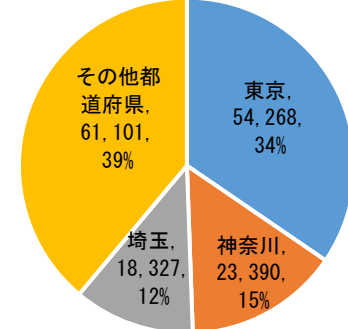
● 高等教育に関する基礎データ

18歳人口【2023】	102,330		
高校等卒業者数【2023】	99,685		
大学進学者数【2023】	79,430		
大学進学率【2023】	77.6%		
大学進学率（国公私立）【2023】	6.6%	1.1%	69.9%
短大進学率【2023】	1.6%		
専門学校進学率（現役）【2023】	9.9%		
大学数【2023】	132		
大学数（国公私立）【2023】	10	1	121
入学定員【2023】	145,060		
入学定員（国公私立）【2023】	8,998	970	135,092
大学入学者数【2023】	79,430		
県外から流入【2023】	102,818		
県内から流出【2023】	25,162		
流出入差（流入-流出）【2023】	77,656		
自県進学率【2023】	68.3%		
大学進学率推計（合計）【2040】	80.5%		
大学進学率推計（男）【2040】	80.5%		
大学進学率推計（女）【2040】	80.5%		

・都道府県内高卒者の大学進学先



・都道府県内大学入学者の出身高校所在地

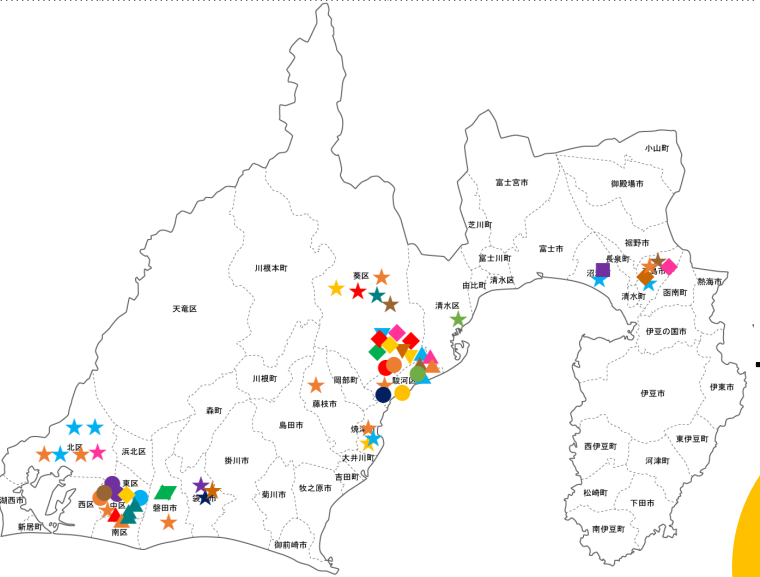


● 大学学部に関する基礎データ①

【国】東京大学（定員合計：3,063）			
文学部	●	350	文京区
法学部	●	400	文京区
経済学部	●	340	文京区
理学部	●	280	目黒区 文京区
工学部	●	938	文京区
農学部	●	290	文京区
医学部	●	150	文京区
薬学部	●	80	文京区
教育学部	●	95	文京区
教養学部	● ●	140	目黒区
【国】東京外国語大学（定員合計：745）			
国際日本学部	●	75	府中市
国際社会学部	●	335	府中市
言語文化学部	●	335	府中市
【国】東京芸術大学（定員合計：471）			
美術学部	●	210	台東区
音楽学部	●	237	台東区 足立区
【国】東京工業大学（定員合計：1,068）			
理学院	●	151	目黒区
工学院	●	358	目黒区
情報理学院	●	92	目黒区
物質理学院	●	183	目黒区
環境・社会理学院	●	134	目黒区
生命理学院	●	150	目黒区
【国】お茶の水女子大学（定員合計：452）			
理学部	●	125	文京区
生活科学部	● ●	125	文京区
文教教育学部	● ●	202	文京区
【国】東京学芸大学（定員合計：1,010）			
教育学部	●	1010	小金井市
【国】東京農工大学（定員合計：821）			
工学部	●	521	小金井市
農学部	●	300	府中市
【国】電気通信大学（定員合計：720）			
情報理工学域	●	720	調布市

● 地域産業に関する基礎データ

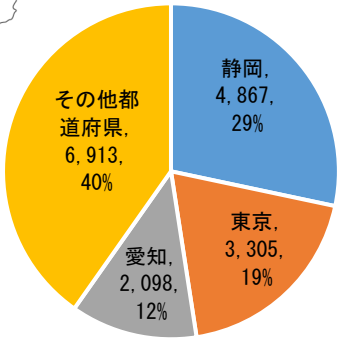
県庁所在地		静岡市			
人口	3,582	(単位：1000人)			
人口シェア	2.9%				
5年間人口増減	-99	(単位：1000人)	事業所数	卸売業，小売業	38,646
				宿泊業，飲食サービス業	18,816
名目GDP	17,530,625	(単位：100万円)		製造業	17,621
GDPシェア	3.0%			製造業	441,008
有効求人倍率	1	(R3年4月実数)	従事者数	卸売業，小売業	315,886
平均賃金	4642.4	(単位：1000円)		医療，福祉	225,219



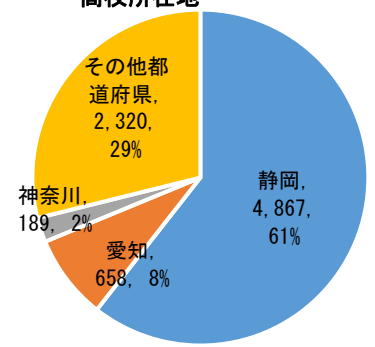
● 高等教育に関する基礎データ

18歳人口【2023】	33,396		
高校等卒業者数【2023】	30,312		
大学進学者数【2023】	17,183		
大学進学率【2023】	51.5%		
大学進学率（国公私別）【2023】	9.1%	4.3%	38.1%
短大進学率【2023】	3.0%		
専門学校進学率（現役）【2023】	14.2%		
大学数【2023】	16		
大学数（国公私別）【2023】	2	3	11
入学定員【2023】	8,260		
入学定員（国公私別）【2023】	2,145	839	5,276
大学入学者数【2023】	17,183		
県外から流入【2023】	3,167		
県内から流出【2023】	12,316		
流出入差（流入-流出）【2023】	-9,149		
自県進学率【2023】	28.3%		
大学進学率推計（合計）【2040】	49.8%		
大学進学率推計（男）【2040】	52.7%		
大学進学率推計（女）【2040】	46.6%		

・ 都道府県内高卒者の大学進学先



・ 都道府県内大学入学者の出身高校所在地



● 大学学部に関する基礎データ①

【国】静岡大学（定員合計：1,970）			
人文社会科学部	●●	415	静岡市
理学部	●	230	静岡市
工学部	●	540	浜松市
農学部	●	175	静岡市
教育学部	●	260	静岡市
グローバル共創科学部	●	115	静岡市
情報学部	●●●	235	浜松市
【国】浜松医科大学（定員合計：175）			
医学部	●	175	浜松市
【公】静岡県立農林環境専門職大学（定員合計：24）			
生産環境経営学部	▲	24	磐田市
【公】静岡県立大学（定員合計：615）			
経営情報学部	▲	125	静岡市
看護学部	▲	120	静岡市
薬学部	▲	120	静岡市
食品栄養科学部	▲	70	静岡市
国際関係学部	▲▲	180	静岡市
【公】静岡文化芸術大学（定員合計：320）			
デザイン学部	▲	110	浜松市
文化政策学部	▲▲▲	210	浜松市
【私】東都大学（定員合計：520）			
沼津ヒューマンケア学部	★	100	沼津市
【私】順天堂大学（定員合計：1,850）			
保健看護学部	★	130	三島市
【私】東海大学（定員合計：6,863）			
人文学部	★	180	静岡市
海洋学部	★☆☆	350	静岡市
【私】日本大学（定員合計：15,346）			
国際関係学部	★★	666	三島市
【私】静岡福祉大学（定員合計：230）			
子ども学部	★	70	焼津市
社会福祉学部	★	160	焼津市
【私】浜松学院大学（定員合計：140）			
現代コミュニケーション学部	★	140	浜松市
【私】静岡英和学院大学（定員合計：210）			
人間社会学部	★★	210	静岡市

【資料8-1】湘南医療大学 全国所在地別入学者数(薬学部)

全体		
北海道		1
青森県		1
福島県		1
茨城県		1
群馬県		2
埼玉県		1
千葉県		5
東京都		23
神奈川県		138
新潟県		2
山梨県		1
長野県		3
静岡県		3
愛知県		1
京都府		1
大阪府		1
山口県		1
福岡県		1
沖縄県		3
		190

神奈川県内					
エリア A	94	横浜地域	68	横浜市	68
		川崎地域	14	川崎市	14
		横須賀三浦地域	12	横須賀市	5
				鎌倉市	4
				逗子市	
三浦市	1				
葉山町	2				
エリア B	44	県央地域	10	相模原市	6
				厚木市	
				大和市	3
				海老名市	
				座間市	
				綾瀬市	1
				愛川町	
				清川村	
				平塚市	5
				藤沢市	9
		湘南地域	30	茅ヶ崎市	11
				秦野市	1
				伊勢原市	1
				寒川町	2
				大磯町	
				二宮町	1
				小田原市	2
				南足柄市	1
				中井町	1
				大井町	
		県西地域	4	松田町	
				山北町	
				開成町	
				湯河原町	
				箱根町	
				真鶴町	

138

横浜市内		
青葉区		2
旭区		4
泉区		4
磯子区		1
神奈川区		2
金沢区		5
港南区		7
港北区		2
栄区		6
瀬谷区		3
都筑区		1
鶴見区		3
戸塚区		11
中区		2
西区		4
保土ヶ谷区		3
緑区		2
南区		6
		68

東京都内		
新宿区		1
文京区		1
品川区		5
目黒区		2
大田区		5
世田谷区		2
渋谷区		1
葛飾区		1
江戸川区		1
八王子市		1
調布市		1
町田市		2
		23

【資料8-1】 湘南医療大学 全国所在地別入学者数(看護学科)

全体	
北海道	3
青森県	1
福島県	1
茨城県	3
栃木県	2
千葉県	1
東京都	17
神奈川県	385
石川県	1
福井県	1
山梨県	5
長野県	9
静岡県	15
愛知県	1
京都府	1
長崎県	1
	447

神奈川県内							
エリア A	267	横浜地域	193	横浜市	193		
		川崎地域	22	川崎市	22		
		横須賀三浦地域	52	横須賀市	35		
				鎌倉市	9		
				逗子市	4		
三浦市	2						
葉山町	2						
エリア B	118	県央地域	35	相模原市	9		
				厚木市	6		
				大和市	7		
				海老名市	2		
				座間市	6		
				綾瀬市	5		
				愛川町			
				清川村			
				平塚市	11		
		湘南地域	71	藤沢市	24		
				茅ヶ崎市	18		
				秦野市	2		
				伊勢原市	7		
				寒川町	6		
				大磯町	2		
				二宮町	1		
				県西地域	12	小田原市	6
						南足柄市	1
		中井町					
		大井町					
松田町							
山北町							
開成町	2						
				2			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			
				1			

横浜市内	
青葉区	4
旭区	14
泉区	11
磯子区	9
神奈川区	7
金沢区	15
港南区	13
港北区	11
栄区	13
瀬谷区	9
都筑区	5
鶴見区	13
戸塚区	22
中区	10
西区	5
保土ヶ谷区	14
緑区	8
南区	10
	193

東京都内	
新宿区	1
文京区	
品川区	1
目黒区	2
大田区	6
世田谷区	2
渋谷区	
葛飾区	
江戸川区	
中央区	1
八王子市	1
調布市	1
町田市	2
	17

【資料8-1】湘南医療大学 全国所在地別入学者数(理学療法学専攻)

全体	
茨城県	
栃木県	1
埼玉県	1
千葉県	
東京都	3
神奈川県	115
新潟県	1
石川県	1
山梨県	1
長野県	1
静岡県	8
愛媛県	1
宮崎県	2
沖縄県	1
	136

神奈川県内					
エリア A	73	横浜地域	61	横浜市	61
		川崎地域	6	川崎市	6
		横須賀三浦地域	6	横須賀市	4
				鎌倉市	1
				逗子市	1
三浦市					
エリア B	42	県央地域	17	葉山町	
				相模原市	4
				厚木市	4
				大和市	2
				海老名市	1
				座間市	2
				綾瀬市	4
				愛川町	
		湘南地域	14	清川村	
				平塚市	
				藤沢市	7
				茅ヶ崎市	6
				秦野市	1
				伊勢原市	
		県西地域	11	寒川町	
				大磯町	
				二宮町	
				小田原市	4
南足柄市	3				
中井町	1				
大井町					
松田町					
		山北町	1		
		開成町	1		
		湯河原町	1		
		箱根町			
		真鶴町			

115

横浜市内	
青葉区	1
旭区	3
泉区	5
磯子区	2
神奈川区	1
金沢区	1
港南区	3
港北区	2
栄区	3
瀬谷区	6
都筑区	1
鶴見区	4
戸塚区	17
中区	
西区	
保土ヶ谷区	6
緑区	2
南区	4
	61

東京都内	
新宿区	
文京区	
品川区	
目黒区	
大田区	1
世田谷区	1
渋谷区	
葛飾区	
江戸川区	
八王子市	
調布市	
町田市	1
	3

【資料8-1】 湘南医療大学 全国所在地別志願者数(薬学部)

全体

	2023年度入試	2024年度入試	2025年度入試
北海道		4	
青森県		1	
岩手県			
宮城県	3		
秋田県			
山形県			
福島県	1		1
茨城県	6	1	1
栃木県	3		
群馬県	1	1	
埼玉県			2
千葉県	12	1	3
東京都	36	16	23
神奈川県	171	119	116
新潟県		2	
富山県	1		
石川県			1
福井県			
山梨県			1
長野県	1	1	4
岐阜県			1
静岡県	3	2	6
愛知県	1		1
三重県			
滋賀県			
京都府			1
大阪府	1		
兵庫県			
奈良県			
和歌山			
鳥取県			
島根県			
岡山県			
広島県			1
山口県		1	
徳島県			
香川県			1
愛媛県			
高知県			
福岡県	2	1	
佐賀県			
長崎県			
熊本県		1	
大分県			
宮崎県			
鹿児島			
沖縄県	1		3
	243	151	165

神奈川県内（エリア別）

	2023年度入試	2024年度入試	2025年度入試
A	119	84	72
B	52	35	44

エリア		2023年度入試	2024年度入試	2025年度入試		2023年度入試	2024年度入試	2025年度入試
A	横浜地域	91	62	48	横浜市	91	62	48
	川崎地域	17	10	14	川崎市	17	10	14
	横須賀三浦地域	11	12	10	横須賀市	4	2	8
					鎌倉市	4	6	
					逗子市	1	1	
					三浦市		2	
					葉山町	2	1	2
	県央地域	20	14	17	相模原市	10	8	
					厚木市	1	2	2
					大和市	2	1	8
					海老名市	4	1	2
					座間市			4
					綾瀬市	3	2	1
					平塚市	5	3	6
					藤沢市	8	3	8
					茅ヶ崎市	10	10	4
					秦野市	3	2	2
B	湘南地域	30	20	25	伊勢原市	1	2	2
					寒川町	1		3
					大磯町			
					二宮町	2		
					小田原市			2
					南足柄市		1	
					中井町	1		
					大井町			
					松田町			
					山北町	1		
	県西地域	2	1	2	開成町			
					湯河原町			
					箱根町			
					真鶴町			
		171	119	116				

神奈川県内（横浜市内）

	2023年度入試	2024年度入試	2025年度入試
青葉区	7	4	3
旭区	5	4	1
泉区	3	5	4
磯子区	2		
神奈川区	6		1
金沢区	3	5	1
港南区	13	6	4
港北区	10	1	2
栄区	6	6	3
瀬谷区	1	3	2
都筑区	3	2	4
鶴見区	3	7	3
戸塚区	7	7	6
中区	3	4	5
西区	4	1	2
保土ヶ谷区	5		5
緑区	4	3	1
南区	6	3	1
	91	61	48

東京都内

	2023年度入試	2024年度入試	2025年度入試
目黒区	1	2	
大田区	6	2	7
足立区	1	1	2
品川区	3	4	2
世田谷区	3	1	2
新宿区		1	
江東区		1	
文京区	1		1
練馬区	2		
港区	2		2
中央区	2		
台東区	1		
葛飾区	3		
江戸川区	1		
渋谷区			2
北区			1
杉並区			
豊島区			
墨田区			
町田市	3	3	2
調布市		1	
八王子市	5		1
狛江市	1		
東大和市	1		
日野市			1
国分寺市			
小金井市			
青梅市			
東村山市			
府中市			
	36	16	23

【資料8-1】湘南医療大学 全国所在地別志願者数(看護学科)

全体

	2023年度入試	2024年度入試	2025年度入試
北海道	3	6	1
青森県	1	0	0
岩手県	0	0	0
宮城県	0	0	0
秋田県	0	1	0
山形県	0	0	3
福島県	0	2	0
茨城県	4	4	2
栃木県	0	3	0
群馬県	0	0	0
埼玉県	2	1	1
千葉県	2	0	1
東京都	38	31	14
神奈川県	415	281	292
新潟県	3	4	3
富山県	0	0	0
石川県	0	0	1
福井県	1	0	0
山梨県	2	2	6
長野県	8	6	4
岐阜県	0	0	0
静岡県	28	16	10
愛知県	0	1	0
三重県	0	0	0
滋賀県	0	0	0
京都府	1	0	0
大阪府	0	0	0
兵庫県	0	0	0
奈良県	0	0	0
和歌山	0	0	0
鳥取県	0	0	0
島根県	0	0	0
岡山県	0	0	0
広島県	0	0	0
山口県	0	0	0
徳島県	0	0	0
香川県	0	0	0
愛媛県	0	0	1
高知県	0	0	0
福岡県	0	0	0
佐賀県	0	0	0
長崎県	0	0	1
熊本県	0	0	2
大分県	1	0	0
宮崎県	0	0	0
鹿児島	0	0	0
沖縄県	2	0	0
	511	358	342

神奈川県内（エリア別）

	2023年度入試	2024年度入試	2025年度入試
A	271	211	206
B	144	70	86

エリア		2023年度入試	2024年度入試	2025年度入試		2023年度入試	2024年度入試	2025年度入試
A	横浜地域	199	156	141	横浜市	199	156	141
	川崎地域	18	29	21	川崎市	18	29	21
	横須賀三浦地域	54	26	44	横須賀市	30	17	27
					鎌倉市	17	5	11
					逗子市	1	3	4
					三浦市	4	0	0
					葉山町	2	1	2
B	県央地域	57	20	32	相模原市	15	6	13
					厚木市	8	4	3
					大和市	23	2	4
					海老名市	2	4	3
					座間市	7	1	3
					綾瀬市	2	3	6
	湘南地域	73	41	49	平塚市	13	5	8
					藤沢市	24	17	21
					茅ヶ崎市	14	11	8
					秦野市	11	2	3
					伊勢原市	3	1	6
					寒川町	5	1	2
					大磯町	2	4	1
					二宮町	1	0	0
	県西地域	14	9	5	小田原市	9	4	0
					南足柄市	1	1	1
					中井町	0	2	0
					大井町	3	0	1
					開成町	0	1	1
					湯河原町	0	1	0
箱根町					0	0	1	
真鶴町					1	0	1	
		415	281	292				

神奈川県内（横浜市内）

	2023年度入試	2024年度入試	2025年度入試
青葉区	6	2	4
旭区	16	15	9
泉区	9	6	8
磯子区	6	7	4
神奈川区	11	7	4
金沢区	11	11	10
港南区	22	19	13
港北区	9	6	11
栄区	9	14	9
瀬谷区	8	7	4
都筑区	14	4	4
鶴見区	11	15	7
戸塚区	24	15	15
中区	11	2	7
西区	5	0	4
保土ヶ谷区	13	12	13
緑区	7	5	6
南区	7	9	9
	199	156	141

東京都内

	2023年度入試	2024年度入試	2025年度入試
江東区	0	1	0
渋谷区	1	0	0
新宿区	0	0	1
杉並区	2	0	0
世田谷区	3	4	0
大田区	8	13	3
中央区	0	1	0
品川区	3	1	5
豊島区	1	0	0
北区	1	0	0
墨田区	1	0	0
目黒区	1	4	0
国分寺市	0	1	0
小金井市	2	0	0
青梅市	3	0	0
町田市	8	3	3
調布市	2	1	0
東村山市	1	0	0
日野市	0	1	0
八王子市	1	0	2
府中市	0	1	0
	38	31	14

【資料8-1】湘南医療大学 全国所在地別志願者数

全体

	2023年度入試	2024年度入試	2025年度入試
北海道		3	2
青森県			
岩手県			2
宮城県			
秋田県			
山形県			
福島県			
茨城県	2	3	2
栃木県	2		3
群馬県			
埼玉県	2		2
千葉県	1	1	1
東京都	6	8	7
神奈川県	148	101	140
新潟県		3	
富山県		1	
石川県			3
福井県			
山梨県	1	6	1
長野県	5		2
岐阜県			
静岡県	12	5	11
愛知県			
三重県			
滋賀県			
京都府			
大阪府			
兵庫県			
奈良県			
和歌山			
鳥取県			
島根県			
岡山県			
広島県			
山口県			
徳島県	1		
香川県			
愛媛県			1
高知県			
福岡県			
佐賀県			
長崎県			
熊本県			
大分県			
宮崎県	1	3	
鹿児島			
沖縄県		1	
	181	135	177

神奈川県内（エリア別）

	2023年度入試	2024年度入試	2025年度入試
A	95	67	93
B	53	34	47

エリア		2023年度入試	2024年度入試	2025年度入試		2023年度入試	2024年度入試	2025年度入試
A	横浜地域	77	57	65	横浜市	77	57	65
	川崎地域	4	6	13	川崎市	4	6	13
	横須賀三浦地域	14	4	15	横須賀市	7	1	11
					鎌倉市	4		3
					逗子市			1
					三浦市	2	1	
					葉山町	1	2	
B	県央地域	14	21	23	相模原市	4	10	6
					厚木市	2	6	1
					大和市	1	1	3
					海老名市	4	3	5
					座間市	1	1	4
					綾瀬市	2		4
					平塚市	1	1	1
	湘南地域	33	9	17	藤沢市	14	1	5
					茅ヶ崎市	10	1	8
					秦野市	8	2	3
					伊勢原市		2	
					寒川町			
					大磯町			
					二宮町		2	
					県西地域	6	4	7
南足柄市	3	1	1					
中井町	2							
大井町								
山北町			1					
開成町			1					
湯河原町			1					
箱根町								
真鶴町								

神奈川県内（横浜市内）

	2023年度入試	2024年度入試	2025年度入試
青葉区	2	2	1
旭区	10	2	1
泉区	9	3	7
磯子区	7	3	3
神奈川区	2	2	
金沢区	3	4	2
港南区	6	5	6
港北区	1	4	2
栄区	2	3	3
瀬谷区	3	5	5
都筑区	5	5	10
鶴見区	2		10
戸塚区	10	13	5
中区			1
西区			
保土ヶ谷区	6	1	4
緑区	6		4
南区	3	5	1
	77	57	65

東京都内

	2023年度入試	2024年度入試	2025年度入試
世田谷区	2	1	1
品川区	2		
大田区		1	
板橋区		2	
目黒区		1	1
江東区			
渋谷区			
新宿区			
杉並区			
中央区			
豊島区			
北区			
墨田区			
町田市	2	2	3
府中市		1	
調布市			1
八王子市			1
国分寺市			
小金井市			
青梅市			
東村山市			
日野市			
	6	8	7

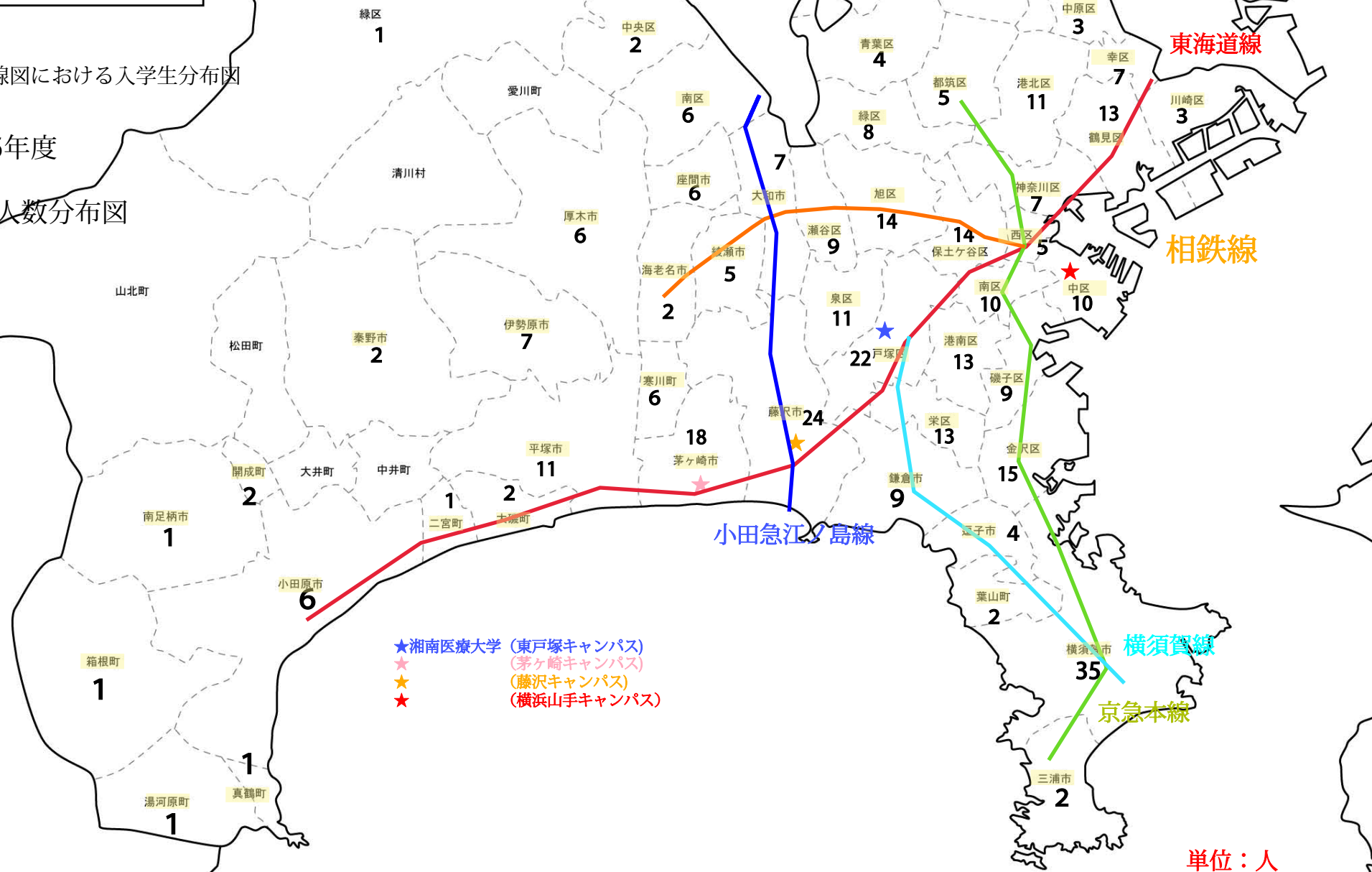
神奈川県

0 10km
1:106000

【資料8-2】

神奈川県内路線図における入学生分布図

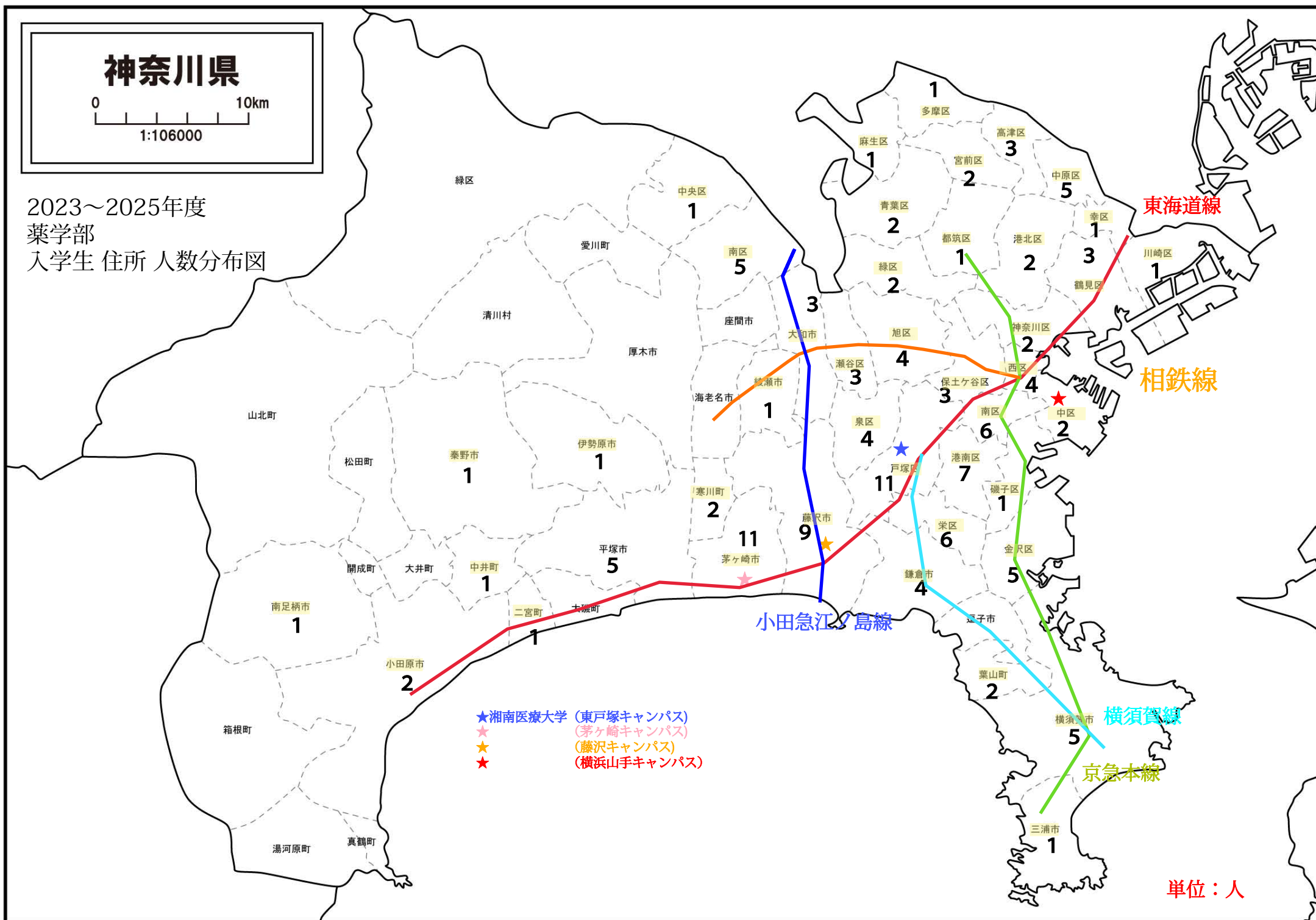
2023～2025年度
看護学科
入学生 住所 人数分布図



神奈川県

0 10km
1:106000

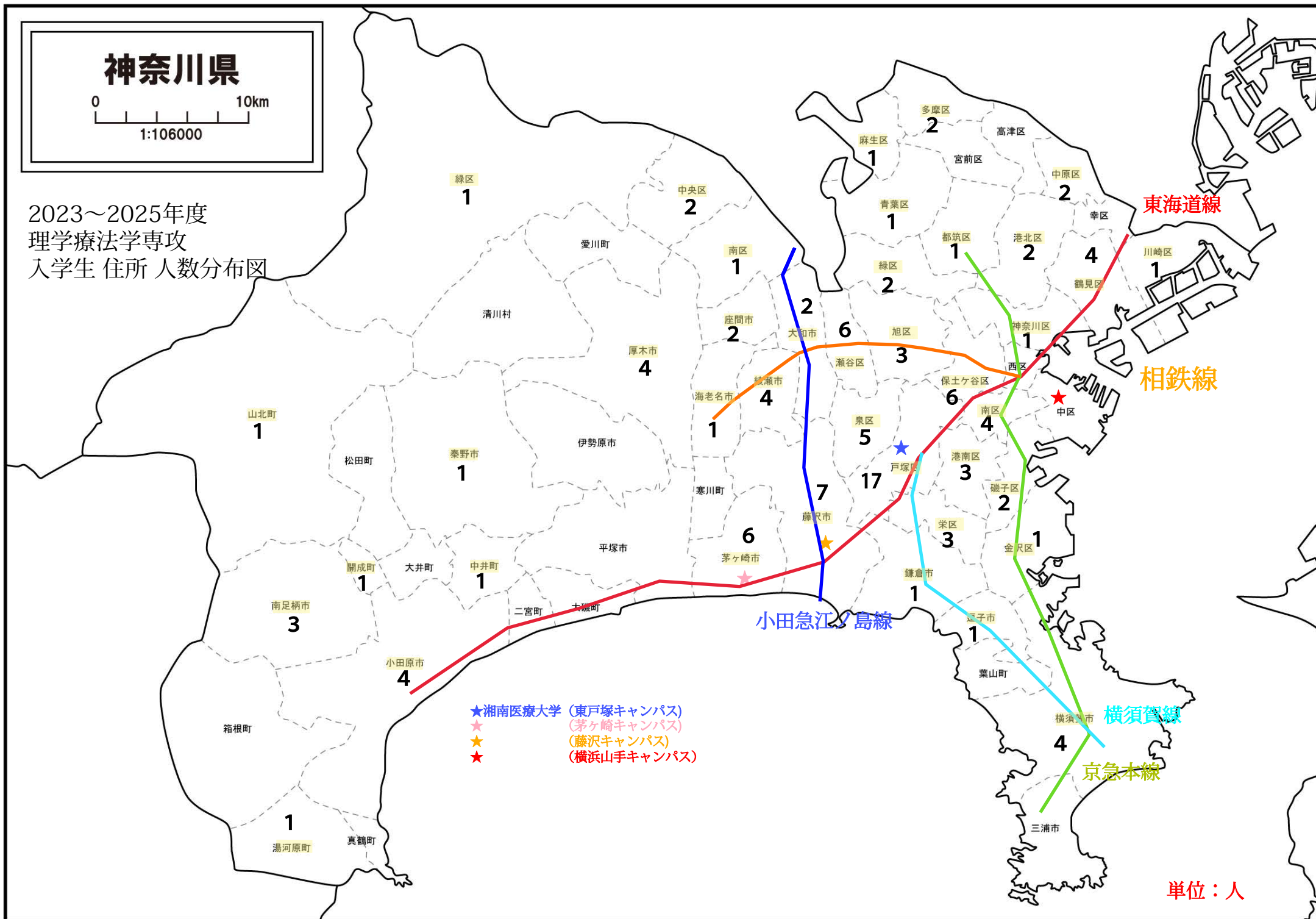
2023～2025年度
薬学部
入学生 住所 人数分布図



神奈川県

0 10km
1:106000

2023～2025年度
理学療法学専攻
入学生 住所 人数分布図



【資料 9】 日本私立学校振興・共済事業団の「私立大学・短期大学等入学志願動向」
(令和5年度・令和6年度) 抜粋

5. 主な学部別の志願者・入学者動向(大学)【令和5年度】

学部名称の表記は、集計数3以上の学部とし、集計数2以下は「その他」とした。

系 統 区 分	集計学部数			入学定員(人)			志願者数(人)			入学者数(人)			入学定員充足率(%)			
	学 部 名	R4年度	R5年度	増減	R4年度	R5年度	増減	R4年度	R5年度	増減	R4年度	R5年度	増減	R4年度	R5年度	増減
医学		31	31	0	4,125	4,153	28	97,957	102,448	4,491	4,146	4,171	25	100.51	100.43	△ 0.08
歯学		17	17	0	2,015	1,995	△ 20	7,773	7,423	△ 350	1,534	1,566	32	76.13	78.50	2.37
薬学		60	60	0	11,391	11,276	△ 115	76,635	74,627	△ 2,008	10,798	10,674	△ 124	94.79	94.66	△ 0.13
保健系		266	272	6	39,729	40,720	991	184,961	171,927	△ 13,034	39,444	39,414	△ 30	99.28	96.79	△ 2.49
看護学部		107	110	3	9,723	9,978	255	51,399	48,896	△ 2,503	9,894	9,900	6	101.76	99.22	△ 2.54
保健医療学部		34	35	1	6,700	6,954	254	26,850	24,931	△ 1,919	6,623	6,648	25	98.85	95.60	△ 3.25
リハビリテーション学部		16	16	0	1,845	1,885	40	6,811	5,986	△ 825	1,794	1,799	5	97.24	95.44	△ 1.80
医療保健学部		8	8	0	1,820	1,900	80	7,124	6,715	△ 409	1,756	1,709	△ 47	96.48	89.95	△ 6.53
医療技術学部		7	8	1	2,125	2,245	120	12,788	12,641	△ 147	2,196	2,241	45	103.34	99.82	△ 3.52
医療科学部		7	7	0	1,180	1,180	0	5,540	5,162	△ 378	1,147	1,053	△ 94	97.20	89.24	△ 7.96
栄養学部		6	7	1	1,257	1,337	80	5,317	4,233	△ 1,084	1,130	1,258	128	89.90	94.09	4.19
医療学部		5	5	0	470	510	40	901	871	△ 30	437	419	△ 18	92.98	82.16	△ 10.82
保健科学部		4	4	0	910	910	0	3,382	3,023	△ 359	1,016	1,035	19	111.65	113.74	2.09
リハビリテーション学部 (専門職)		4	4	0	510	510	0	602	542	△ 60	448	416	△ 32	87.84	81.57	△ 6.27
看護福祉学部		3	3	0	600	600	0	2,446	2,225	△ 221	563	522	△ 41	93.83	87.00	△ 6.83
医療福祉学部		3	3	0	716	716	0	1,000	950	△ 50	524	450	△ 74	73.18	62.85	△ 10.33
健康医療科学部		3	3	0	550	550	0	3,042	2,901	△ 141	570	558	△ 12	103.64	101.45	△ 2.19
看護栄養学部		3	3	0	455	455	0	1,372	1,380	8	489	481	△ 8	107.47	105.71	△ 1.76
保健看護学部		3	3	0	340	340	0	1,977	1,886	△ 91	368	370	2	108.24	108.82	0.58
ヒューマンケア学部		3	3	0	657	657	0	5,527	4,368	△ 1,159	680	682	2	103.50	103.81	0.31
総合リハビリテーション学部		3	3	0	460	460	0	2,415	2,528	113	469	459	△ 10	101.96	99.78	△ 2.18
その他		47	47	0	9,411	9,533	122	46,468	42,689	△ 3,779	9,340	9,414	74	99.25	98.75	△ 0.50
理・工学系		166	172	6	62,294	60,899	△ 1,395	777,971	745,078	△ 32,893	65,001	62,044	△ 2,957	104.35	101.88	△ 2.47
工学部		51	51	0	21,834	21,069	△ 765	243,538	226,594	△ 16,944	22,887	21,098	△ 1,789	104.82	100.14	△ 4.68
理工学部		29	29	0	17,870	16,890	△ 980	252,100	237,957	△ 14,143	18,621	17,539	△ 1,082	104.20	103.84	△ 0.36
理学部		14	14	0	4,364	4,104	△ 260	48,211	45,574	△ 2,637	4,415	4,120	△ 295	101.17	100.39	△ 0.78
建築学部		11	11	0	2,137	2,137	0	32,233	28,970	△ 3,263	2,389	2,308	△ 81	111.79	108.00	△ 3.79
生命科学部		9	9	0	2,032	2,042	10	25,634	28,171	2,537	2,091	2,134	43	102.90	104.51	1.61
情報科学部		4	4	0	1,100	1,100	0	35,040	34,286	△ 754	1,165	1,231	66	105.91	111.91	6.00
デザイン工学部		4	4	0	1,089	1,089	0	16,431	15,852	△ 579	1,118	1,114	△ 4	102.66	102.30	△ 0.36
情報工学部		3	3	0	735	735	0	14,383	13,216	△ 1,167	795	810	15	108.16	110.20	2.04
工科学部(専門職)		3	3	0	480	480	0	1,109	1,344	235	553	525	△ 28	115.21	109.38	△ 5.83
その他		38	44	6	10,653	11,253	600	109,292	113,114	3,822	10,967	11,165	198	102.95	99.22	△ 3.73
農学系		25	25	0	8,875	8,850	△ 25	79,742	82,069	2,327	9,110	9,144	34	102.65	103.32	0.67
農学部		10	10	0	3,661	3,636	△ 25	46,938	47,034	96	3,727	3,757	30	101.80	103.33	1.53
獣医学部		4	4	0	970	970	0	10,936	12,536	1,600	1,033	1,025	△ 8	106.49	105.67	△ 0.82
その他		11	11	0	4,244	4,244	0	21,868	22,499	631	4,350	4,362	12	102.50	102.78	0.28
人文科学系		250	251	1	68,634	68,526	△ 108	498,558	474,386	△ 24,172	67,898	65,979	△ 1,919	98.93	96.28	△ 2.65
文学部		84	84	0	32,856	32,566	△ 290	270,070	254,016	△ 16,054	33,262	31,600	△ 1,662	101.24	97.03	△ 4.21
人文学部		32	32	0	6,605	6,720	115	37,548	33,371	△ 4,177	6,454	6,415	△ 39	97.71	95.46	△ 2.25
外国語学部		27	27	0	9,588	9,533	△ 55	59,645	57,251	△ 2,394	9,455	9,212	△ 243	98.61	96.63	△ 1.98
心理学部		25	26	1	3,528	3,783	255	28,259	32,716	4,457	3,740	3,942	202	106.01	104.20	△ 1.81
国際文化学部		11	12	1	1,950	2,061	111	11,883	11,590	△ 293	1,720	1,910	190	88.21	92.67	4.46
人間学部		11	11	0	2,260	2,250	△ 10	6,217	5,679	△ 538	1,894	1,884	△ 10	83.81	83.73	△ 0.08
神学部		6	6	0	181	191	10	800	843	43	174	173	△ 1	96.13	90.58	△ 5.55
仏教学部		5	5	0	487	493	6	1,643	1,512	△ 131	458	406	△ 52	94.05	82.35	△ 11.70
人間関係学部		5	5	0	1,045	1,045	0	3,151	2,560	△ 591	1,009	945	△ 64	96.56	90.43	△ 6.13
グローバル・コミュニ ケーション学部(群)		5	5	0	888	858	△ 30	4,943	4,668	△ 275	758	808	50	85.36	94.17	8.81
文芸学部		3	3	0	1,240	1,240	0	19,655	19,140	△ 515	1,334	1,281	△ 53	107.58	103.31	△ 4.27
その他		36	35	△ 1	8,006	7,786	△ 220	54,744	51,040	△ 3,704	7,640	7,403	△ 237	95.43	95.08	△ 0.35
社会科学系		528	541	13	171,944	174,614	2,670	1,379,714	1,355,137	△ 24,577	176,631	179,337	2,706	102.73	102.70	△ 0.03
経済学部		90	89	△ 1	38,782	38,546	△ 236	342,042	345,052	3,010	40,180	40,624	444	103.60	105.39	1.79
経営学部		88	89	1	27,806	28,334	528	248,941	249,399	458	29,136	30,190	1,054	104.78	106.55	1.77
法学部		79	80	1	30,800	31,087	287	258,672	236,821	△ 21,851	32,380	32,066	△ 314	105.13	103.15	△ 1.98
商学部		29	29	0	14,421	14,421	0	110,369	114,493	4,124	15,122	14,931	△ 191	104.86	103.54	△ 1.32
社会学部		26	27	1	8,564	8,519	△ 45	87,838	83,754	△ 4,084	8,787	8,616	△ 171	102.60	101.14	△ 1.46
社会福祉学部		21	20	△ 1	3,649	3,410	△ 239	9,332	7,234	△ 2,098	3,132	2,737	△ 395	85.83	80.26	△ 5.57
現代社会学部		13	14	1	2,931	3,081	150	19,933	22,979	3,046	2,979	3,107	128	101.64	100.84	△ 0.80
情報学部		10	14	4	2,410	3,285	875	37,270	38,060	790	2,689	3,724	1,035	111.58	113.36	1.78
人間社会学部		13	13	0	3,570	3,474	△ 96	13,227	11,467	△ 1,760	3,251	3,164	△ 87	91.06	91.08	0.02
総合政策学部		12	12	0	2,840	2,840	0	20,157	21,926	1,769	3,048	2,877	△ 171	107.32	101.30	△ 6.02

※次のページに続く

5. 主な学部別の志願者・入学者動向（大学）【令和6年度】

学部名称の表記は、集計数3以上の学部とし、集計数2以下は「その他」とした。

系 統 区 分 学 部 名	集計学部数			入学定員(人)			志願者数(人)			入学者数(人)			入学定員充足率(%)		
	R5年度	R6年度	増減	R5年度	R6年度	増減	R5年度	R6年度	増減	R5年度	R6年度	増減	R5年度	R6年度	増減
医学	31	31	0	4,153	4,243	90	102,449	113,753	11,304	4,171	4,261	90	100.43	100.42	△ 0.01
歯学	17	17	0	1,995	1,995	0	7,423	7,982	559	1,566	1,525	△ 41	78.50	76.44	△ 2.06
薬学	60	62	2	11,276	11,416	140	74,627	71,663	△ 2,964	10,674	10,304	△ 370	94.66	90.26	△ 4.40
保健系	272	279	7	40,720	41,435	715	171,920	153,563	△ 18,357	39,414	37,724	△ 1,690	96.79	91.04	△ 5.75
看護学部	110	115	5	9,978	10,455	477	48,896	43,923	△ 4,973	9,900	9,782	△ 118	99.22	93.56	△ 5.66
保健医療学部	35	35	0	6,954	6,954	0	24,931	21,081	△ 3,850	6,648	6,193	△ 455	95.60	89.06	△ 6.54
リハビリテーション学部	16	18	2	1,885	2,065	180	5,986	5,350	△ 636	1,799	1,842	43	95.44	89.20	△ 6.24
医療技術学部	8	8	0	2,245	2,185	△ 60	12,641	12,012	△ 629	2,241	2,180	△ 61	99.82	99.77	△ 0.05
医療保健学部	8	8	0	1,900	1,895	△ 5	6,715	5,722	△ 993	1,709	1,608	△ 101	89.95	84.85	△ 5.10
栄養学部	7	7	0	1,337	1,337	0	4,233	3,323	△ 910	1,258	1,102	△ 156	94.09	82.42	△ 11.67
医療科学部	7	7	0	1,180	1,140	△ 40	5,162	5,113	△ 49	1,053	1,097	44	89.24	96.23	6.99
医療学部	5	5	0	510	550	40	871	1,687	816	419	497	78	82.16	90.36	8.20
保健科学部	4	4	0	910	910	0	3,023	2,553	△ 470	1,035	991	△ 44	113.74	108.90	△ 4.84
リハビリテーション学部 （専門職）	4	4	0	510	510	0	542	455	△ 87	416	351	△ 65	81.57	68.82	△ 12.75
看護福祉学部	3	3	0	600	600	0	2,225	2,028	△ 197	522	541	19	87.00	90.17	3.17
医療福祉学部	3	3	0	716	716	0	950	814	△ 136	450	414	△ 36	62.85	57.82	△ 5.03
健康医療科学部	3	3	0	550	550	0	2,901	2,864	△ 37	558	486	△ 72	101.45	88.36	△ 13.09
看護栄養学部	3	3	0	455	455	0	1,380	1,102	△ 278	481	446	△ 35	105.71	98.02	△ 7.69
保健看護学部	3	3	0	340	370	30	1,886	1,589	△ 297	370	420	50	108.82	113.51	4.69
ヒューマンケア学部	3	3	0	657	657	0	4,368	3,440	△ 928	682	580	△ 102	103.81	88.28	△ 15.53
総合リハビリテーション学部	3	3	0	460	500	40	2,528	2,379	△ 149	459	512	53	99.78	102.40	2.62
その他	47	47	0	9,533	9,586	53	42,682	38,128	△ 4,554	9,414	8,682	△ 732	98.75	90.57	△ 8.18
理・工学系	172	171	△ 1	60,899	60,725	△ 174	745,076	753,291	8,215	62,044	60,355	△ 1,689	101.88	99.39	△ 2.49
工学部	51	52	1	21,069	21,045	△ 24	226,592	223,592	△ 3,000	21,098	20,185	△ 913	100.14	95.91	△ 4.23
理工学部	29	29	0	16,890	16,777	△ 113	237,957	234,724	△ 3,233	17,539	16,954	△ 585	103.84	101.06	△ 2.78
理学部	14	14	0	4,104	4,104	0	45,574	44,775	△ 799	4,120	4,077	△ 43	100.39	99.34	△ 1.05
建築学部	11	12	1	2,137	2,342	205	28,970	29,747	777	2,308	2,502	194	108.00	106.83	△ 1.17
生命科学部	9	9	0	2,042	2,155	113	28,171	30,025	1,854	2,134	2,249	115	104.51	104.36	△ 0.15
デザイン工学部	4	4	0	1,089	1,089	0	15,852	15,877	25	1,114	1,123	9	102.30	103.12	0.82
データサイエンス学部	4	4	0	505	505	0	3,168	2,901	△ 267	454	449	△ 5	89.90	88.91	△ 0.99
情報工学部	3	4	1	735	860	125	13,216	13,450	234	810	860	50	110.20	100.00	△ 10.20
情報科学部	4	3	△ 1	1,100	820	△ 280	34,286	10,119	△ 24,167	1,231	843	△ 388	111.91	102.80	△ 9.11
環境学部	3	3	0	450	440	△ 10	2,818	3,394	576	458	464	6	101.78	105.45	3.67
その他	40	37	△ 3	10,778	10,588	△ 190	108,472	144,687	36,215	10,778	10,649	△ 129	100.00	100.58	0.58
農学系	25	25	0	8,850	8,890	40	82,069	86,942	4,873	9,144	9,028	△ 116	103.32	101.55	△ 1.77
農学部	10	10	0	3,636	3,636	0	47,034	50,836	3,802	3,757	3,619	△ 138	103.33	99.53	△ 3.80
獣医学部	4	4	0	970	1,010	40	12,536	13,930	1,394	1,025	1,096	71	105.67	108.51	2.84
その他	11	11	0	4,244	4,244	0	22,499	22,176	△ 323	4,362	4,313	△ 49	102.78	101.63	△ 1.15
人文科学系	251	252	1	68,526	68,939	413	474,386	486,534	12,148	65,979	66,154	175	96.28	95.96	△ 0.32
文学部	84	82	△ 2	32,566	32,198	△ 368	254,016	260,689	6,673	31,600	31,180	△ 420	97.03	96.84	△ 0.19
人文学部	32	32	0	6,720	6,945	225	33,371	36,258	2,887	6,415	6,610	195	95.46	95.18	△ 0.28
外国語学部	27	28	1	9,533	9,728	195	57,251	60,507	3,256	9,212	9,427	215	96.63	96.91	0.28
心理学部	26	26	0	3,783	3,884	101	32,716	31,032	△ 1,684	3,942	4,119	177	104.20	106.05	1.85
国際文化学部	12	13	1	2,061	2,151	90	11,590	11,014	△ 576	1,910	1,833	△ 77	92.67	85.22	△ 7.45
人間学部	11	10	△ 1	2,250	2,280	30	5,679	6,055	376	1,884	1,676	△ 208	83.73	73.51	△ 10.22
神学部	6	6	0	191	191	0	843	1,098	255	173	179	6	90.58	93.72	3.14
仏教学部	5	5	0	493	493	0	1,512	1,757	245	406	446	40	82.35	90.47	8.12
人間関係学部	5	5	0	1,045	1,035	△ 10	2,560	2,482	△ 78	945	925	△ 20	90.43	89.37	△ 1.06
グローバル・コミュニ ケーション学部（群）	5	5	0	858	858	0	4,668	4,264	△ 404	808	763	△ 45	94.17	88.93	△ 5.24
総合心理学部	3	4	1	450	630	180	5,977	6,679	702	504	661	157	112.00	104.92	△ 7.08
文芸学部	3	3	0	1,240	1,240	0	19,140	20,719	1,579	1,281	1,352	71	103.31	109.03	5.72
その他	32	33	1	7,336	7,306	△ 30	45,063	43,980	△ 1,083	6,899	6,983	84	94.04	95.58	1.54
社会科学系	541	543	2	174,614	174,681	67	1,355,134	1,338,226	△ 16,908	179,337	179,019	△ 318	102.70	102.48	△ 0.22
経営学部	89	93	4	28,334	28,939	605	249,399	248,296	△ 1,103	30,190	30,715	525	106.55	106.14	△ 0.41
経済学部	89	89	0	38,546	38,731	185	345,052	342,340	△ 2,712	40,624	41,029	405	105.39	105.93	0.54
法学部	80	79	△ 1	31,087	30,962	△ 125	236,821	234,672	△ 2,149	32,066	31,299	△ 767	103.15	101.09	△ 2.06
商学部	29	29	0	14,421	14,251	△ 170	114,493	111,355	△ 3,138	14,931	14,914	△ 17	103.54	104.65	1.11
社会学部	27	27	0	8,519	8,499	△ 20	83,754	92,969	9,215	8,616	8,547	△ 69	101.14	100.56	△ 0.58
社会福祉学部	20	19	△ 1	3,410	3,290	△ 120	7,234	6,851	△ 383	2,737	3,157	420	80.26	95.96	15.70
情報学部	14	14	0	3,285	3,380	95	38,060	35,746	△ 2,314	3,724	3,554	△ 170	113.36	105.15	△ 8.21
現代社会学部	14	13	△ 1	3,081	2,953	△ 128	22,979	19,242	△ 3,737	3,107	2,946	△ 161	100.84	99.76	△ 1.08
総合政策学部	12	13	1	2,840	2,950	110	21,926	20,912	△ 1,014	2,877	2,907	30	101.30	98.54	△ 2.76
人間社会学部	13	12	△ 1	3,474	3,224	△ 250	11,467	9,969	△ 1,498	3,164	3,102	△ 62	91.08	96.22	5.14

※次のページに続く

学問を感じる。
キャンパスライフを感じる。

Feel the Campus

オープンキャンパス 2025

3.20_{Thu.} 6.14_{Sat.} 7.12_{Sat.}
8.9_{Sat.} 8.10_{Sun.} 8.23_{Sat.}

10:00~15:00(受付9:30~)

於：東戸塚キャンパス(横浜市戸塚区上品濃16-48)



大学説明、模擬授業、体験コーナー、入試説明
学内見学、学食ランチ体験、個別相談 など

(内容は変更となる可能性があります)

詳しくは
公式サイトから



湘南医療大学

Shonan University of Medical Sciences

入試事務室

✉ nyushi@sums.ac.jp

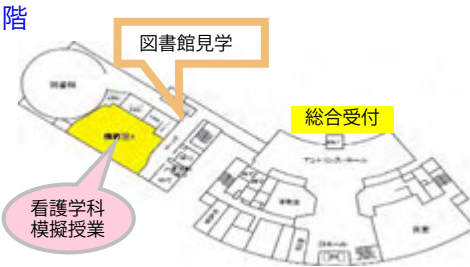
☎ 045-821-0115

保健医療学部 看護学科・リハビリテーション学科(理学療法学専攻・作業療法学専攻)
薬学部 医療薬学科

■フロアマップ

■保健医療学部棟

4 階



2 階



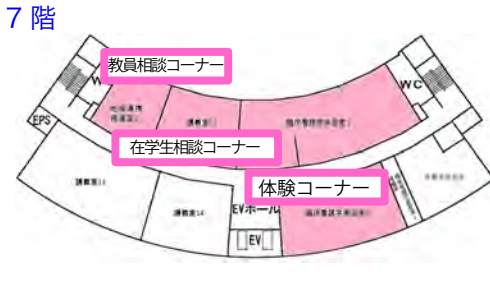
3 階



5 階



7 階



保健医療学部図書館



■薬学部棟

1 階



2 階



薬学部薬用植物園



■アンケートへのご協力

アンケートサイト



本日の感想や今後やってもらいたいことなど
皆さんの貴重なご意見を頂きたいと存じます。

ぜひご協力をお願いします。

■無料シャトルバスをご利用ください



大学前から東戸塚駅までの送迎バスを運行中。

左記発着場にて乗降できます。

【運行時間】
9:00 - 15:00 ※15分間隔で運行

■バス乗降場



西口より東急ストアを左手にエスカレータを上り、駐輪場を抜け、地下道入口前でお待ち下さい。

■シャトルバス外観



地下道入口前に停車。
※病院利用者がいる場合は優先乗車にご協力下さい。



10:00~15:00(受付9:30~)
於：東戸塚キャンパス(横浜市戸塚区上品濃16-4B)



大学説明、模擬授業、体験コーナー、入試説明
学内見学、学食ランチ体験、個別相談 など

(内容は変更となる可能性があります)

詳しくは
公式サイトから



湘南医療大学
Shonan University of Medical Sciences

入試事務室
nyushi@sums.ac.jp
045-821-0115

保健医療学部 看護学科・リハビリテーション学科(理学療法学専攻・作業療法学専攻)
薬学部 医療薬学科

Schedule

		10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00
看護学科	4階 講義室4	イベント説明	学科説明	模擬授業				イベント説明	学科説明	模擬授業		
	7階 講義室				体験コーナー						体験コーナー	
					個別相談コーナー (学生生活、学修相談)						個別相談コーナー (学生生活、学修相談)	
リハビリテーション学科	2階 講義室2	イベント説明	学科説明	作業療法学専攻 模擬授業	理学療法学専攻 模擬授業							
	3階 実習室他											
	5階 実習室他											
医療薬学科	薬学部棟 2階 大講義室	イベント説明	学科説明	医療薬学科 入試説明						模擬授業		
	薬学部棟 2階 臨床実習室											
					体験コーナー							
入試個別相談 キャンパスツアー	4階 食堂				学食ランチを味わおう♪							
	4階 エントランス				在学生とおしゃべり★ キャンパスツアー			①11:10～ ②11:50～ ③12:20～ ④13:00～				
	4階 図書館				図書館見学							
	4階 エントランス				個別相談（入試・奨学金）							

学食ランチを味わおう♪

11:30～13:30



学生に大人気の『カレーライス』がオープンキャンパスに登場。この機会に学食体験してみよう！保健医療学部棟4階でお待ちしています♪

キャンパスツアー

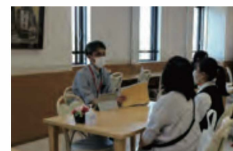
11:10～13:30



在学生が保健医療学部棟・薬学部棟をご案内します。普段見ることのできない施設を在学生とおしゃべりしながら周っちゃおう♪（所要時間：30分程度）

個別相談（入試・奨学金）

11:00～15:00



昨年までの入試情報や、入試に関するアドバイスをを行います。その他、奨学金相談や過去問題の閲覧も可能。お気軽にご相談ください。

模擬授業

大学の授業に参加してみよう！



看護学科

学科説明 10:10～10:30、13:00～13:20

看護学科について詳しく説明します。

模擬授業 10:30～11:10、13:20～14:00

「人生100年時代、健やかな人生を過ごすために」【ラウ優紀子 教授】

体験コーナー 11:10～12:30、14:00～15:00

- ① 見て、聞いて、触って、測ってみよう！
- ② 手を綺麗に洗えますか？

個別相談コーナー 11:10～12:30、14:00～15:00

看護学科の学生が、学生生活や普段の授業のことなど、受験生の『気になること』にお答えします！

個別相談コーナー 11:10～12:30、14:00～15:00

「看護師国家試験対策」「大学生活の相談」「看護師になるためには（保健師・助産師）」など、看護学科の教員が詳しく説明します。



リハビリテーション学科（理学療法学専攻・作業療法学専攻）

学科説明 10:30～11:00

リハビリテーション学科（理学療法学専攻・作業療法学専攻）について詳しく説明します。

模擬授業 11:50～12:20

「目指すなら理学療法士！」【坂上昇 教授】

体験コーナー 13:00～15:00

治療や実験で使う機器にさわって、実際に体験してみよう！

模擬授業 11:10～11:40

「作業療法士の魅力をお伝えします！」【田邊浩文 教授】

体験コーナー 13:00～13:40、14:10～14:50

- ① うまく動かなかった手の動きをサポート！治療用装具（スプリント）を作ってみよう
- ② セラピストのための自己理解コーナー
- ③ 声が出なくなったらどうする？！コミュニケーション支援機器を体験しよう
- ④ 高齢者・障害者のための防災を考えてみよう

個別相談コーナー 個別相談コーナー 13:00～15:00

理学療法学専攻・作業療法学専攻それぞれの教員が学生生活やアルバイト、就職のことなどを詳しく説明します。気になることは何でも聞いてください♪



医療薬学科

学科説明 10:30～10:50

医療薬学科について詳しく説明します。

入試説明 10:50～11:25

医療薬学科の2025年度入試の結果や、2026年度入試に向けたアドバイスをお話しします！

体験コーナー 11:30～13:00

1日薬剤師を体験しよう！
医師の処方に基づき、薬を安心・安全に患者さんに使ってもらうための薬剤師の大切な仕事「調剤」を、模擬薬局で体験しよう。

模擬授業 13:30～14:30

「薬学を通して生命や健康の大切さを学ぼう～薬学部で学ぶ「衛生薬学」の講義～」【加藤英明 准教授】



【資料11】高校生のためのオンライン講座

学校法人 湘南ふれあい学園
湘南医療大学
受験生応援サイト

入試情報	イベント情報	学びを知る	学生生活を知る	在学生・卒業生の声
国家試験・就職情報	パンフレット	資料請求	アクセス	お問い合わせ・個別相談

ホーム > 高校生のための特別講座

高校生のための特別講座

湘南医療大学では、一部講座をYouTube動画にて公開しております。
「医療の大切さ」「医療の不思議」そして「医療のお仕事」について、動画を通して学んでいきましょう。

命のそばで働くということ
保健医療学部 看護学科 山勢 善江 教授

身体は柔らかい方がよいの？怪我予防に対する柔軟性の考え方
保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 中尾 陽光 准教授

薬の生体内運命
薬学部 医療薬学科 佐野 和英 教授

個別医療をささえる薬剤師の役割
薬学部 医療薬学科 国分 秀也 教授

薬局薬剤師のお仕事紹介 ～薬局から出て、こんなこともしています～
薬学部 医療薬学科 竹内 尚子 准教授

生薬とは～医薬品と食品の観点から～
薬学部 医療薬学科 片川 和明 准教授

入試情報

イベント情報

学びを知る

学生生活を知る

在学生・卒業生の声

国家試験・就職状況

外国人留学生選抜

パンフレット

資料請求

アクセス

お問い合わせ

痛みを取り除く！緩和ケア～医療用麻薬を中心に～

薬学部 医療薬学科 鳥越 一宏 准教授



薬学の知識で理解する薬物依存症

薬学部 医療薬学科 船田 正彦 教授



ワクチンの現在と未来

薬学部 医療薬学科 石橋 芳雄 教授



（知って得する薬の豆知識）薬の正しい服用方法

薬学部 医療薬学科 加藤 裕久 教授



「お酒は百薬の長」って本当ですか？（お酒と健康について）

薬学部 医療薬学科 加藤 英明 准教授



これからの薬剤師を育てる新たな薬学教育へのチャレンジ ～薬剤師のマスプロダクトからハンドメイド教育へ～

薬学部 医療薬学科 加賀谷 肇 教授



薬剤師が教えるサプリメントの知っ得なお話

薬学部 医療薬学科 佐藤 淳也 教授



痛み止めはなぜ効くの？薬学の視点から探る鎮痛薬の秘密

薬学部 医療薬学科 山崎 泰弘 准教授



【資料12】 市民公開講座

■令和7年度地域連携活動実施一覧案

■ 1. 市民公開講座

	公開日	会場名	担当学科	テーマ	所属学科	講師
第1回	6/28(土)11:00～	湘南医療大学	薬学部長	「がんの痛み治療と麻薬性鎮痛薬」	薬学部	鈴木 勉 学部長
第2回	7/26 (土)10:00～	湘南医療大学	看護学科担当	「認知症の方の感じている世界を知る」	看護学科	佐々木千佳 准教授
第3回	8/30 (土) ①10:00～ ②14:00～	湘南医療大学	薬学部担当	①「薬学は何を学ぶ?～薬剤師の社会貢献～」	薬学部	市丸 嘉 講師
			看護学科担当	②「朝食と健康の関係」	看護学科	伊藤ふみ子 准教授
第4回	11/1 (土) 10:00～ (大学祭同時開催)	湘南医療大学	リハビリテーション学科担当	「子どもと地域をつなぐ居場所づくり：手探りの中で見えた課題」	作業療法学専攻	池田 晋平 教授
	11/2 (日) 13:00～ (大学祭同時開催)		薬学部担当	学術フォーラム [若者の薬物乱用問題最前線：おくすりのオーバードーズについて考える]	薬学部	船田正彦 教授
第5回	12/20 (土) 10:00～	湘南医療大学	リハビリテーション学科担当	「災害×リハビリテーション：理学療法士が“命と暮らし”を支える現場」	理学療法学専攻	下田 栄次 講師

【資料13】 地域連携活動

■令和7年度地域連携活動実施一覧案

■地域連携活動

日程	イベント名	対象	講師
夏季休暇中（7，8月）	戸塚区役所 （大学と行政との連携 事業）	ヘルスメイト研修	戸塚区が現在計画立案中（5月末）
10/4（土）	戸塚区上矢部地区自治 会	公開講座（リハビリテーション分 野）	池田 晋平教授
9月	保土ヶ谷区自治会	公開講座（フレイルに関す る講義）	理学療法学専攻

【資料 14】

【2024 年度入学生募集】

①高校・予備校訪問

神奈川県、東京都、静岡県、茨城県、長野県、山梨県を中心に 312 校の高校、及び予備校 60 校を訪問した。また、学校説明会・進路相談会（WEB 含）も実施し、8 月末迄で 74 回開催した。

②オープンキャンパス（OC）

毎週末土曜日にオープンキャンパスを実施し、認知度向上に努めた。OC では、模擬授業の他に、オープンラボ等の最新研究設備や模擬薬局等の実習施設、新図書室等を案内し本学の魅力を訴求した。

結果、受験対象者 114 人を集めた。昨年度高校 2 年次の来校者数 129 人の中で 45 人が今年度も参加した。

③職業体験会

新たな試みとして病院薬剤師を知ってもらう職業体験を隣接するふれあい東戸塚ホテルと連携し、実施している。実際の薬剤師業務、専門薬剤師という職業実態について講話だけでなく、院内薬局、窓口業務、薬事指導業務を実際に見学する機会を 4 回実施した。

④医療職キャリアデザイン説明会

高校教員向けに 3 回、医療職キャリアデザイン説明会を実施した。医療職のキャリアパスなど、本学教員から直接、高校生の将来の進路選択の支援を行った。また、高校ガイダンス 108 回、会場ガイダンス 31 回実施した。

⑤高大連携事業

低学年の進路決定、「探求」の授業の一環として研究室見学を中心とした高大連携事業を行っている。私立高校 3 校（桐蔭学園、湘南学園、北鎌倉女子）、鎌倉湘南地区県立高校と連携して 1 回実施、また、私立高校 2 校（法政国際、桜美林）と実施した。

⑥ホームページ

HP、Twitter 等にて、最新公式情報や身近な話題の迅速に随時提供し本学の知名度向上に努めている。今年度より LINE を活用し、オンライン相談、個別相談など WEB で受験生の質問に、随時回答を行っている。

また、instagram などの SNS へのコンテンツ配信も行っている。HP では、動画による薬学部紹介や「研究室」コーナーを設け、興味や関心を引き出した。研究については進学サイト上に研究内容を出すなど志願者との接点を増やす試みを開始した。（夢ナビ）オープンキャンパス

ンパスの模擬授業内容を予告するなど、本学の教育研究の情報発信に努めた。

⑥進学情報媒体の活用

広報誌、デジタルサイネージ、医療系進学情報誌（WEB）、「健康お役立ち新聞」への記事（教授インタビュー、オープンキャンパス、入試日程案内）を執筆した。交通広告（JR 横須賀線）、SNS 広告などマスメディア媒体と連動した広告を展開した。更に進学系サイトは説明会予約を簡易的にできるようサイト構成を変更した。

⑦教員出張模擬授業の実施

2023（令和 5）年度の教員による高校への上出張授業は、合計 45 校で実施した。高校生たちが興味を持っている学部の各先生達の研究テーマを紹介することで、今後の進路や学問への興味の発見や意欲を引き出す地域貢献活動を実践した。

⑧公開講座

神奈川県生涯学習センターと協働で「がん専門看護師による抗がん剤治療の最新情報」を県民向けに 10 月に実施した。また、大学独自開催として薬学部教授による公開講座（10 月、11 月、3 月 計 3 回）を実施し、本学部の魅力を発信した。

⑨志願者動向分析業務

オープンキャンパス等参加者、資料請求者から出願者の受験に至った経路の分析を続け、改善に活用した。

【2025 年度入学生募集】

2025 年度は、特に薬学部の入学定員充足に向けて具体的な募集計画を策定した。

以下の 3 点を重視した。

- 1) 本学部の魅力並びに「どのような受験生を求め、どんな力をどこまで育成するのか。」というメッセージの一貫性を持ってステークホルダーに平易に発信する。
- 2) オープンキャンパス、ガイダンス等で直接に高校生に接する機会を増やし、それを有効に活用する。また、小規模大学であるため、face to face の募集活動を重視する。
- 3) 高校対策としては、大学教員の授業、高校生の研究室訪問など高大連携事業を拡大させるとともに、指定推薦校を募集重点校として関係を緊密にし、信頼関係を確立していく。

2024 新入生アンケート結果【資料 15】より、本学部の志望理由は、「通学の利便性（13.1%）」、「専門分野への興味（11.4%）」、「教育環境・施設設備の魅力（11.4%）」「大学での教育内容の魅力（11.4%）」が挙げられた。この結果、本薬学部入学者の多数は、「薬学、化学への興味があり、自宅からの通学可能な範囲で整備された本学薬学部が目指す薬学教育、及び教

育環境の下で薬剤師を目指す」学生である。

また、過去4年間の入学者の出身都道府県の割合は、神奈川県65%、東京都13%、千葉県4%、静岡県3%、その他15%である。神奈川県及び近隣都県が85%を占めているため、100名から110名を神奈川県及び近隣都県から、そして、20名から30名をその他道府県、及び日本語学校から確保を目標に、以下の活動を実行した。

① オープンキャンパスの改善

入学定員確保に必要な受験対象者を286名としてOC参加数の目標値を掲げた。それを達成するために、「本薬学部とグループ病院施設との連携」において「臨床実習」を魅力に挙げた入学者が85%いる【資料15】ことを受け、臨床教育の魅力を伝えるべくオープンキャンパスで「病棟薬剤師を知る」というテーマで、病棟薬剤師の役割、実務と病院薬剤部を見学するイベントを開催したが、参加者は114名に止まった。

② 高校訪問

今年度は、高大連携を意識した高校訪問活動を行った。また、本学は、学生一人当たりの教員数が多いため、学修支援や生活面で面倒見がよい大学としてPRしていくこととした。

2024（令和6）年度は、高校289校、予備校122校、日本語学校26校を入試広報担当職員5名に加え全教員（120名）で訪問した。

訪問する高校等の基準は以下のとおり。

- 1）在学生出身校・・・（2026年度入学者募集では重点校）
- 2）神奈川県、東京都、静岡県、千葉県の指定校
- 3）オープンキャンパス参加者の出身高校
- 4）薬学部進学者の多い高校
- 5）大規模かつ医療系大学に進学者多い日本語学校
- 6）個別指導予備校

各都県指定校（764校）の内訳は以下のとおりである。

神奈川県153校、東京都144校、静岡県49校、千葉県41校、その他337校

③ 高大連携の強化

【資料12】の調査結果における志望理由に挙げられていた「専門分野への興味（11.4%）」より、高校との学びの接続に一層力を入れ、「出張講義」・「公開講座」・「大学見学（模擬授業・実習見学）」に加えて、研究室体験を積極的に受け入れた。また、「湘南鎌倉地区の高校生インターンシップ」も受け入れ、大学の認知度向上に努めた。

2024（令和6）年度は、下記15件の高大連携事業を実施し志願者の獲得をめざした。

- 1 三浦学苑高等学校 3年生大学見学会
- 2 横浜学園高等学校 大学見学会

- 3 相洋高等学校 大学見学会
- 4 桐蔭学園高等学校 研究室ジョブシャドウイング
- 5 三浦学苑高等学校 入試対策講座
- 6 三浦学苑高等学校 1・2年生大学見学会
- 7 鎌倉・湘南地区、横浜南地区高等学校インターンシップ
- 8 湘南学園高等学校 進路探究プログラム
- 9 横浜水取沢高等学校 化学・生物の研究授業の実施
- 10 横浜水取沢高等学校 模擬授業・大学見学会
- 11 霞ヶ浦高等学校 看護学、リハビリテーション学、薬学の出張講義
- 12 鶴沼高等学区 看護学出張講義
- 13 神奈川県立追浜高等学校等学校 3学科合同出張講義
- 14 向上高等学校 研究室探訪
- 15 静岡県立熱海高等学校 模擬授業・大学見学会

④ 広報活動

1) デジタルツールによる情報発信

【資料 15】の調査結果、「大学での教育内容の魅力（11.4%）」より、各進学サイトを通じた情報発信が、資料請求数を増加させる有効なツールであることがわかる。ホームページでは薬学部の紹介（教育内容や受験対策、教育支援、研究紹介）動画に加え、「在校生の動画やインタビュー記事」など新しいコンテンツもホームページやSNSに配信している。また、高校生が、高校入学後に新たな大学を知る方法（スタディプラス社：2022（令和4）年8月26日付記事）の上位に「親から聞く」「友だち、知人から聞く」といった項目もあるため、保護者、友人・知人、高校教員を対象にした情報発信に努めた。

2) 県内高校への広報活動の強化

本学部への「出願者居住地都県状況」【資料 14-1】、「本学薬学部薬学部入学者出身高校分布図（神奈川県）」【資料 14-2】より、2024（令和6）年度入学者の出身高校の最寄り駅や入学者の居住地は、JR東海道線・横須賀線・横浜線、及び京浜急行線の路線に集中しているため、当該路線の募集活動を強化することとした。また、2022（令和4）年度から、神奈川県内の高校（142校）の近隣の電柱に広告を掲載し、知名度向上を図っている。

3) 公開講座・出張講義の拡充

【資料 15】の結果で志望理由に挙げられていた「教育環境・施設設備の魅力（11.4%）」及び「大学での教育内容の魅力（11.4%）」より、本学の教育研究内容を伝える機会として、「公開講座」を神奈川県、東京都、静岡県の計20か所で開催した【資料 14-3】。また、高校39校への出張講義を行った【資料 14-4】。

⑤新しい入試制度の導入

1) 特別指定校推薦

学校推薦型受験生数増加のため、2025（令和7）年度入試から特別指定校推薦（授業料全額免除）を導入した。学力優秀高校、薬学部進学実績校、並びに過年度の本薬学部への出願者数の多かった高校 133 校を指定した。この入試区分の 30 名の確保を目標としたが 9 名にとどまった【資料 14-5】。

2) 特待生制度

本薬学部は、本学専願、成績優秀かつ経済的困難な受験生を対象に、「特待生制度（学費減免）」を 2024（令和6）年度入試に導入した。結果、定員 19 名に対して 15 名の入学者があり、一定の成果を出した。2025（令和7）年度入試では、全入試区分に対象を拡げ特待生制度を継続し定員枠を最大 50 名に拡大し、出願者のうち 89 名の特待生希望者、うち適用者 16 名であったが、最終的に特待生としての入学は 10 名にとどまった【資料 14-5】。

3) 外国人留学生入試

2025（令和7）年度より、優秀な外国人留学生の確保をめざし、成績上位者には特待生制度を導入した外国人留学生募集を実施したが、応募者はなかった。

【資料14-1】 出願者居住地状況（都道府県別） 【薬学部】

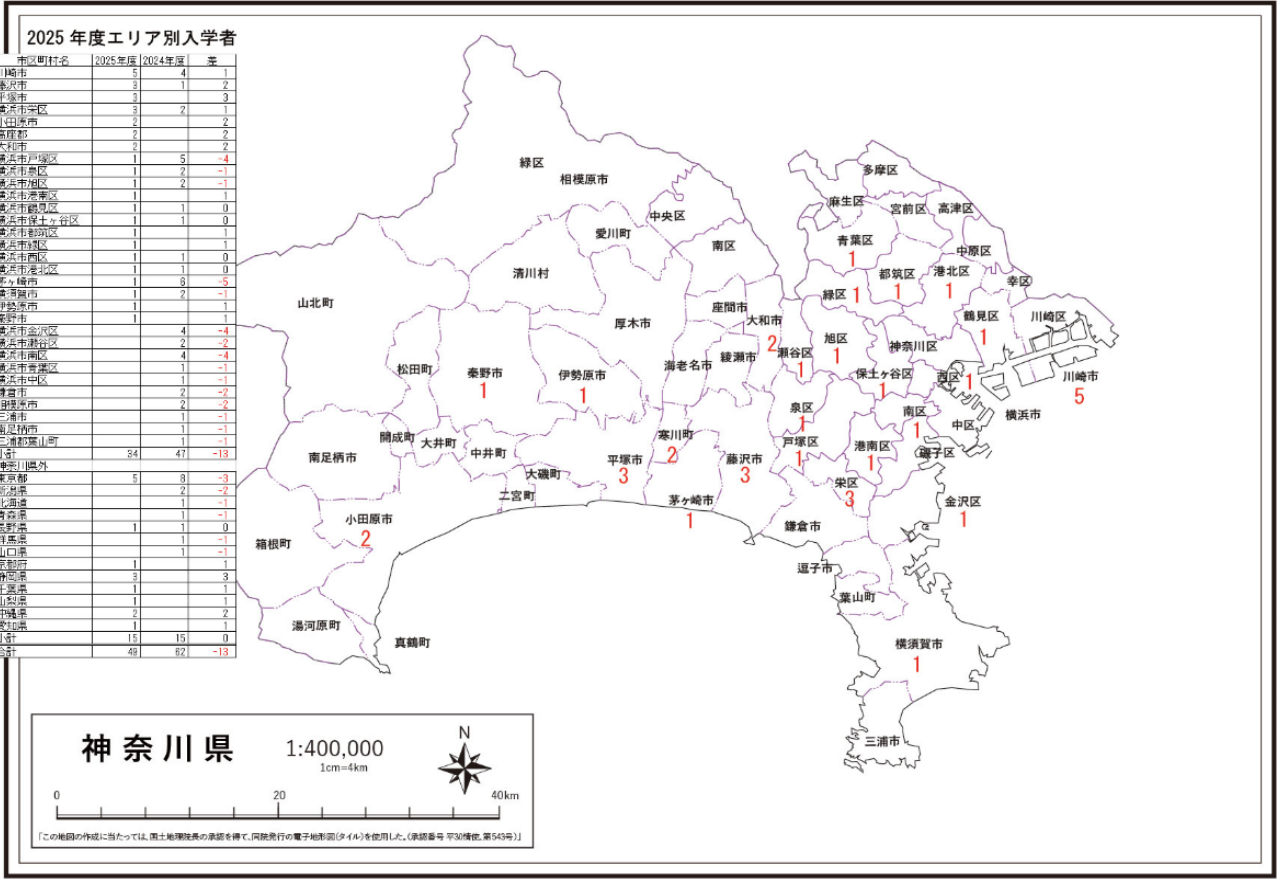
薬学部出願状況(都道府県別)

都道府県別	2025年度	2024年度	差
神奈川県	117	119	-2
東京都	25	16	9
千葉県	3	1	2
群馬県		1	-1
茨城県	1	1	0
山梨県	1		1
静岡県	7	2	5
北海道		4	-4
新潟県		2	-2
青森県		1	-1
福岡県		1	-1
長野県	4	1	3
山口県		1	-1
熊本県		1	-1
愛知県	1		1
埼玉県	3		3
石川県	1		1
岐阜県	1		1
香川県	1		1
沖縄県	3		3
京都府	1		1
広島県	1		1
	170	151	19

【資料14-2】 本学薬学部入学者出身高校分布図（神奈川県）

出願者		入学者			
市区町村名	件数	市区町村名	2025年度	2024年度	差
横浜市	47	川崎市	5	4	1
川崎市	14	藤沢市	3	1	2
横須賀市	8	平塚市	3		3
大和市	8	横浜市栄区	3	2	1
藤沢市	8	横浜市西区	1	1	0
平塚市	6	茅ヶ崎市	1	6	-5
横浜市保	5	小田原市	2		2
茅ヶ崎市	4	高座郡	2		2
座間市	4	大和市	2		2
高座郡	3	横浜市戸塚区	1	5	-4
伊勢原市	2	横浜市泉区	1	2	-1
海老名市	2	横浜市旭区	1	2	-1
厚木市	2	横浜市港南区	1		1
三浦郡	2	横浜市中区		1	-1
小田原市	2	横浜市鶴見区	1	1	0
秦野市	2	横浜市保土ヶ谷区	1	1	0
綾瀬市	1	横浜市都筑区	1		1
		横浜市緑区	1		1
		横須賀市	1	2	-1
		伊勢原市	1		1
		秦野市	1		1
		横浜市金沢区		4	-4
		横浜市瀬谷区		2	-2
		横浜市南区		2	-2
		横浜市港北区	1	1	0
		横浜市青葉区		1	-1
		鎌倉市		2	-2
		相模原市		2	-2
		三浦市		1	-1
		南足柄市		1	-1
		三浦郡葉山町		1	-1
		小計	34	37	-3
神奈川県外					
		東京都	5	8	-3
		新潟県		2	-2
		北海道		1	-1
		青森県		1	-1
		長野県	1	1	0
		群馬県		1	-1
		山口県		1	-1
		京都府	1		1
		静岡県	3		3
		千葉県	1		1
		山梨県	1		1
		沖縄県	2		2
		愛知県	1		1
		小計	15	15	0
		合計	49	52	-3

(図12) 本学薬学部の居住地分布



公開講座

No.	会場名	予約日	当日参加者数	講演担当者と演題							
				医師	講演（参考）	薬学部	講演名	看護学科	講演名	リハ学科	講演名
1	沼津商工会議所	5/17（金）	38	沼津HP 加藤院長	認知症の薬の話	山崎泰広 准教授	痛み止めはなぜ効くの？ 薬学の視点から探る鎮痛薬の秘密	山勢善江 教授	命のそばで働くということ	田島明子 教授OT	認知症の人とのコミュニケーション方法
2	藤沢商工会議所	5/22（水）	14	湘南東部 平野副院長	放っておくと怖い脂肪肝	湯本哲郎 教授	少人数教育を強みに薬学共用試験・薬剤師国家試験全員合格にコミットする～本学独自の学修支援システム（S-プログラム）について～	ラウ優紀子 教授	人生100年時代－健やかな老年期を生きる－	中尾陽光 准教授PT	身体は柔らかい方がいいのか？～ケガ予防に対する柔軟性の考え方～
3	茅ヶ崎市民文化会館	5/24（金）	15	湘南東部 中山医師	がんにならない生活、なってしまった時のコツ、ロボットで治す大腸がん	湯本哲郎 教授	少人数教育を強みに薬学共用試験・薬剤師国家試験全員合格にコミットする～本学独自の学修支援システム（S-プログラム）について～	牛田貴子 教授	家族の発達と健康との関係-「10代の子どもを持つ家族」を中心に-	小林和彦 教授	人生100年時代を健康に過ごすために～高齢社会に貢献する理学療法～
4	小田原市民交流センターUMECO	5/29（水）	11	大和成和 倉田院長	弁膜症の治し方について	佐藤淳也 教授	街の健康サポーター ～薬剤師が教えるサプリメントの知っ得なお話～	清水奈緒美 准教授	がんになっても働き続けるために	鶴見隆正 学科長	リハビリテーション醍醐味
5	ユニコム相模原	5/31（金）	11	大和成和 土井尻医師	足は第二の心臓	竹内尚子 准教授	薬局薬剤師のお仕事紹介 ～薬局から出て、こんなこともしています～	小林紀明 教授	自分らしく生きる～いきいきアンチエイジング～	三川年正 准教授OT	作業療法士はこころと身体に関わるリハビリテーションの専門職
6	大井町きゅりあん	6/5（水）	6	町田HP 鈴木裕院長	パーキンソン病について	加藤裕久 教授	知って得する薬の豆知識	田中秀子 教授	高齢者の皮膚のケア	田島明子 教授OT	認知症の人とのコミュニケーション方法
7	川崎市教育文化会館	6/14（金）	15	鶴見HP 石井副院長	「知って安心 認知症の基礎知識」	船田正彦 教授	薬学の知識で理解する薬物依存症～どうしてヒトは薬物に魅了されてしまうのか？～	石川真里子 教授	乳幼児の健康を守る看護	柴田昌和 教授PT	人体の不思議 骨は語る
8	杜のホールはしもと	6/28（金）	10	大和成和 田畑医師	「MISCって何ですか？」体に負担の少ない手術	加賀谷肇 教授	これからの薬剤師を育てる新たな薬学教育へのチャレンジ-薬剤師のマスプロダクトからハンドメイド教育へ-	山勢善江 教授	命のそばで働くということ	大森圭貢 教授PT	転倒予防の運動
9	ラスカ平塚	7/10（水）	15	中央 佐藤院長	身近にある病気～心臓弁膜症～	山崎泰広 准教授	痛み止めはなぜ効くの？ 薬学の視点から探る鎮痛薬の秘密	伊藤ふみ子 准教授	朝食と健康の関係	田邊浩文 教授OT	再生医療が普及する近未来と作業療法の需要拡大
10	ヴェルクよこすか 市立勤労福祉会館	7/12（金）	11	湘南東部 茂垣医師	乳がん	加藤英明 准教授	「酒は百薬の長」って本当ですか？ ～お酒と健康について～	渡部節子 教授	看護師が実践する病院内における感染制御	櫻井好美 准教授PT	産後の体のトラブルと理学療法
11	横浜西公会堂	7/17（水）	10	横浜HP 青田医師	末梢神経の締め付けによる腰とおしりの痛みについて	片川和明 准教授	生薬とは～医薬品と食品の観点から～	松月みどり 教授	知っておこう！急変時の対応の意味	坂上昇 専攻長PT	小児理学療法の魅力-障害を持つ子どもを支援する理学療法士を目指して-
12	ラポール横浜	7/24（水）	10	鎌倉HP 小山医師	血栓症の病態と治療	佐藤淳也 教授	街の健康サポーター ～薬剤師が教えるサプリメントの知っ得なお話～	東村志保 准教授	脱水症ってなに？	増田雄亮 准教授OT	Society5.0時代の脳卒中リハビリテーションと作業療法のエビデンス
13	福祉保健研修交流センターウイリング横浜	7/26（金）	11	湘南東部 櫻井副院長	胃がんの診断・治療について	国分秀也 教授	個別化医療をささえる薬剤師の役割	渡邊眞理 教授	がんになった時のサポーター	増田雄亮 准教授OT	Society5.0時代の脳卒中リハビリテーションと作業療法のエビデンス
14	町田市民ホール	7/31（水）	5	さがみ野 山田院長	骨粗鬆症治療～最新のトピックス～	定本清美 教授	薬の進歩と関節リウマチ薬物流行	小林紀明 教授	自分らしく生きる～いきいきアンチエイジング～	田邊浩文 教授OT	再生医療が普及する近未来と作業療法の需要拡大
15	海老名市民文化会館	8/9（金）	11	綾瀬厚生 相澤 智史 （あいざわともふみ） 医師	骨粗鬆症の診断と治療	竹内尚子 准教授	薬局薬剤師のお仕事紹介 ～薬局から出て、こんなこともしています～	佐々木千佳 准教授	認知症の方の感じている世界を知る	三川年正 准教授OT	作業療法士はこころと身体に関わるリハビリテーションの専門職
16	戸塚区総合庁舎3階多目的スペース	8/16(金)	台風により中止	大学 寺本学部長	100歳まで脳を元気に	片川和明 准教授	生薬とは～医薬品と食品の観点から～	山崎圭子 教授	もしかしたら不妊症？ 受診前の基礎知識	鈴木雄介 教授OT	高次脳機能障害と作業療法
17	TIMES SHARING蒲田第二美須ビル	8/21（水）	10	湘南東部 大川院長	肝胆膵がん	鳥越一宏 准教授	痛みを取り除く！緩和ケア～医療用麻薬を中心に～	片山典子 教授	ストレスコーピングでセルフケア	斉藤琴子 准教授PT	運動による認知症予防～理学療法士がどこまで貢献できるか？～
18	川崎市総合福祉センター（エポックなかはら）	9/4（水）	11	鶴見HP 土屋医師 （水曜日）	習慣から脳梗塞を予防しよう	石橋芳雄 教授	ワクチンの現在と未来	三ツ井圭子 准教授	おなかの健康	田邊浩文 教授OT	再生医療が普及する近未来と作業療法の需要拡大
19	関内ホール	9/18（水）	12	横浜HP 鮫島院長	潰瘍性大腸炎とクローン病	国分秀也 教授	個別化医療をささえる薬剤師の役割	山勢善江 教授	命のそばで働くということ	増田雄亮 准教授OT	Society5.0時代の脳卒中リハビリテーションと作業療法のエビデンス
20	麻生文化センター	9/24（肥）	11	鶴見HP 田草川院長	心不全とは？心不全を知って予防しよう	佐野和美 教授	薬学への誘い～くすりの生体内運命～	小林紀明 教授	自分らしく生きる～いきいきアンチエイジング～	森尾 裕志 教授PT	筋力と日常生活活動の関連

合計 237

2.地域連携活動

NO	イベント名	日程	参加者数	講師名	対象
1	ヨコハマ大学フェア	9月28日（土）	25	薬学部 佐野教授	公開講座
2	ヴィルヌーブ保土ヶ谷自治会	10月27日（日）	24	薬学部 竹内准教授	薬学講座
3	上矢部地区自治会	11月16日（土）	42	薬学部 佐藤教授	薬学講座
				作業療法学 専攻 田島教授	作業療法学講座
4	社会福祉法人 朝日の里	1月21日（火）	15	薬学部 寺島准教授	感染症予防の基本
5	社会福祉法人 朝日の里	2月26日（火）	11	看護学科 三ツ井准教授	お腹の健康

合計 117

【資料14-4】 2023年度出張講義

(2) 出張講義

No.	日程	学部・学科		場所	学年	都道府県	訪問者	参加者数
1	2023/04/11	看護, 理学, 作業	教員(看護)	神奈川県立金沢総合高等学校	高校2年生	神奈川県	看護/小林紀明先生 理学/櫻井好美先生	9
2	2023/05/11	薬学	教員(薬)	川崎市立橘高等学校	高校1年生	神奈川県	薬/須藤遥先生	24
3	2023/05/22	看護	教員(看護)	横須賀市立横須賀総合高等学校	高校1年生	神奈川県	看護/塚原ゆかり先生	5
4	2023/05/29	作業, 理学	教員(理学)	神奈川県私立 カリタス女子高等学校	高校2年生	神奈川県	理学/斉藤琴子先生	7
5	2023/05/29	理学, 作業	教員(作業)	横須賀市立 横須賀総合高等学校	高校1年生	神奈川県	作業/西野由希子先生	16
6	2023/06/22	薬学	教員(薬)	神奈川県私立 清泉女学院高等学校	高校3年生, 高校2年生,	神奈川県	薬/東山公男先生	4
7	2023/06/23	理学, 作業	教員(作業)	神奈川県私立 横浜学園高等学校	高校3年生	神奈川県	作業/増田 雄亮 先生	7
8	2023/06/27	看護	教員(看護)	神奈川県立秦野総合高等学校	高校2年生	神奈川県	看護/松島泰恵先生	2
9	2023/07/18	理学	教員(理学)	神奈川県立 上溝高等学校	高校2年生	神奈川県	薬/竹内尚子先生	15
10	2023/07/21	看護	教員(看護)	神奈川県立大和南高等学校	高校2年生	神奈川県	看護/石川眞理子先生	35
11	2023/10/13	理学, 作業	教員(作業)	神奈川県立津久井浜高等学校	高校1年生	神奈川県	作業/西野由希子先生	7
12	2023/10/25	薬学	教員(薬)	私立 森村学園高等部	高校1年生	神奈川県	薬/細谷龍一郎先生	32
13	2023/10/25	看護	教員(看護)	静岡県立富士宮東高等学校	高校2年生	静岡県	看護/小林紀明先生	5
14	2023/10/27	薬学	教員(薬)	神奈川県立 伊志田高等学校	高校2年生, 高校1年生	神奈川県	薬/佐藤淳也先生	35
15	2023/10/28	薬学	教員(薬)	東京都私立 駒沢学園女子高等学校	高校1年生	神奈川県	薬/東山公男先生	40
16	2023/11/06	薬学	教員(薬)	神奈川県立 麻生高等学校	高校1年生	神奈川県	薬/小野塚真理先生	8
17	2023/11/09	薬学	教員(薬)	神奈川県立 旭高等学校	高校1年生	神奈川県	薬/細谷龍一郎先生	20
18	2023/11/09	看護	教員(看護)	神奈川県立上鶴間高等学校	高校2年生	神奈川県	看護/岡多恵先生	14
19	2023/11/10	看護	教員(看護)	神奈川県私立 光明学園相模原高等学校	高校1年生	神奈川県	看護/牛田貴子先生	9
20	2023/11/11	看護	教員(看護)	私立 湘南学院高等学校	高校2年生	神奈川県	看護/三ツ井圭子先生	12
21	2023/11/15	看護	教員(看護)	神奈川県立厚木東高等学校	高校1年生	神奈川県	看護/清水奈緒美先生	16
22	2023/11/16	看護	教員(看護)	神奈川県立 横浜桜陽高等学校	高校2年生	神奈川県	看護/野口京子先生	7
23	2023/11/16	薬学	教員(薬)	私立 向上高等学校	高校1年生	神奈川県	薬/加藤裕久先生	14
24	2023/11/21	看護	教員(看護)	神奈川県立 新羽高等学校	高校1年生	神奈川県	看護/櫻井友子先生	9
25	2023/12/19	理学, 作業	教員(理学)	神奈川県立茅ヶ崎高等学校	高校2年生, 高校1年生	神奈川県	理学/大村優慈先生	72
26	2023/12/21	薬学	教員(薬)	東京都立 府中東高等学校	高校2年生	東京都	薬/東山公男先生	3
27	2024/01/30	理学	教員(理学)	神奈川県立大師高等学校	高校2年生	神奈川県	理学/山田拓実先生	1
28	2024/02/06	理学, 作業	教員(理学)	神奈川県立 伊勢原高等学校	高校1年生	神奈川県	理学/中村 壽志先生	20
29	2024/02/22	理学, 作業	教員(理学)	私立 武相高等学校	高校1年生	神奈川県	理学/中尾陽光先生	4
30	2024/03/04	薬学	教員(薬)	私立 湘南学院高等学校	高校1年生	神奈川県	薬/石井英俊先生	30
31	2024/03/07	理学, 作業	教員(作業)	神奈川県立大和南高等学校	高校2年生	神奈川県	作業/田邊浩文先生	5
32	2024/03/13	理学, 作業	教員(理学)	神奈川県立座間総合高等学校	高校2年生	神奈川県	理学/中村 壽志先生	3
33	2024/03/14	看護	教員(看護)	神奈川県立 藤沢清流高等学校	高校1年生	神奈川県	看護/坂口達哉先生	6
34	2024/03/14	看護	教員(看護)	私立 三浦学苑高等学校	高校2年生, 高校1年生	神奈川県	看護/渡部節子先生	42
35	2024/03/18	薬学	教員(薬)	横浜市立桜丘高等学校	高校1年生	神奈川県	薬/浦裕之先生	26
36	2024/03/18	理学, 作業	教員(理学)	神奈川県立生田東高等学校	高校1年生	神奈川県	理学/森尾裕志先生	5
37	2024/03/19	薬学	教員(薬)	神奈川県立西湘高等学校	高校1年生	神奈川県	薬/尾関あゆみ先生	27
38	2024/03/21	薬学	教員(薬)	東京都立桜町高等学校	高校1年生	東京都	薬/東山公男先生	19
39	2024/03/21	看護	教員(看護)	神奈川県立厚木西高等学校	高校1年生	神奈川県	看護/山崎圭子先生	22
合計								385

【資料14-5】

2025年度入試 薬学部特待生制度適用状況等一覧

試験区分	期別	募集人数	出願者数	受験者数	特待希望者数	全額適用	半額適用	適用率	入学者数	備考
総合型選抜		15	3	3	2	0	0	0.0%	0	
社会人選抜	I 期	若干名	0	0	—	—	—	—	—	
	II 期		0	0	—	—	—	—	—	
学校推薦型選抜 (一般公募型)	I 期	65	4	4	4	1	1	50.0%	1	入学者は全額免除
	II 期		5	5	2	0	0	0.0%	0	
	III 期		5	5	2	0	0	0.0%	0	
学校推薦型選抜 (指定校型)	I 期		12	11	9	0	0	0.0%	0	
	II 期		0	0	—	—	—	—	—	
学校推薦型選抜 (特別指定校型)	I 期		9	9	9	9	0	100.0%	9	入学者は全員全額免除
	II 期		0	0	—	—	—	—	—	
一般選抜	I 期	50	53	52	27	0	4	14.8%	0	
	II 期		23	17	8	0	0	0.0%	0	
	III 期		9	8	3	0	0	0.0%	0	
大学入学共通テスト利用選抜	I 期	若干名	35	35	19	0	0	0.0%	0	
	II 期		2	2	0	—	—	—	—	
	III 期		5	5	4	0	1	25.0%	0	
合計		130	165	156	89	10	6	18.0%	10	

※全額免除は1,450,000円／年、半額免除は725,000円／年

【資料15】

湘南医療大学 2024 年度新入生アンケート

アンケートの概要

○実施日：2024 年 4 月

○回答者の属性について

1) 学部学科専攻

学部学科専攻名	回答数	入学者数
看護学科	145	147
理学療法学専攻	44	44
作業療法学専攻	39	40
薬学部	60	62
学校全体	288	293

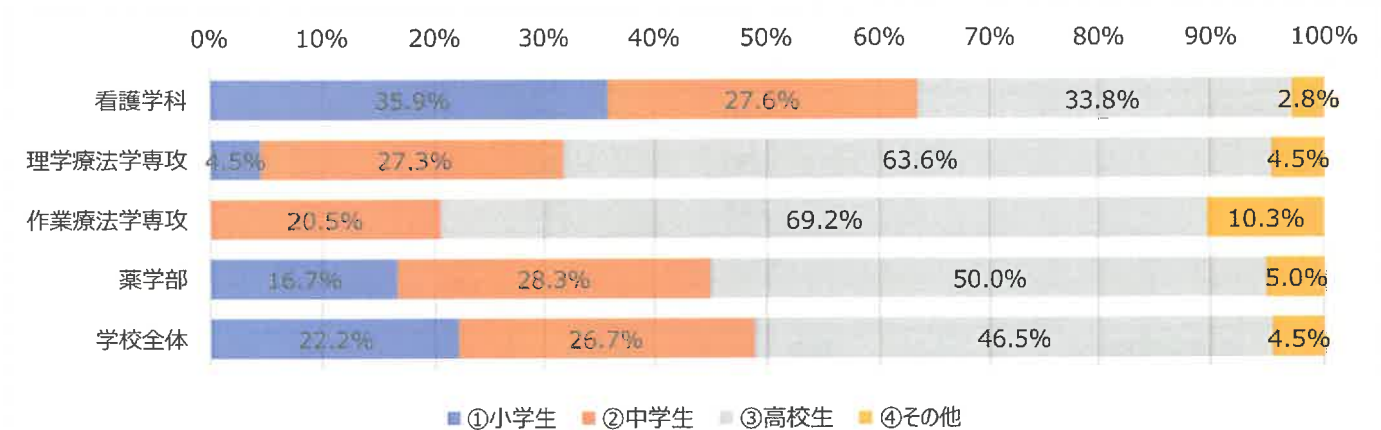
2) 性別

学部学科専攻名	男性	女性
看護学科	20	125
理学療法学専攻	22	22
作業療法学専攻	20	19
薬学部	24	36
学校全体	86	202

【問 1】あなたが看護師、理学療法士、作業療法士、薬剤師という仕事に興味を持ったきっかけを教えてください。（記述回答）

	看護	理学	作業	薬学
看護師、理学療法士、作業療法士、薬剤師に関わる機会があり、憧れた	39	25	4	8
働いている姿や仕事内容を知って憧れた	22	7	3	16
人の役に立ちたい、誰かを助けたいと思った	26	3	5	2
身内や知り合いに医療従事者がいる	40	3	3	10
手に職をつけたい、資格を取りたいと思った	6	0	1	0
医療ドラマや医療系ドキュメンタリー番組を見て憧れた	18	0	1	5
看護師、理学療法士、作業療法士、薬剤師が向いていると思った	3	0	0	0
中学・高校の体験や授業から	5	2	3	6
入院、通院などの経験から	33	2	9	6
助産師になりたいから	4	0	0	0
何かあった時に適切な対応が出来るようになりたいと思った	3	0	0	0
医療に携わる仕事に魅力を感じた	8	0	3	3
親・知人からの勧め	4	2	4	1
オープンキャンパス	0	0	1	0
合格したから	0	0	1	0
国家資格	0	0	0	1
化学が得意・薬学に興味があった	0	0	0	3

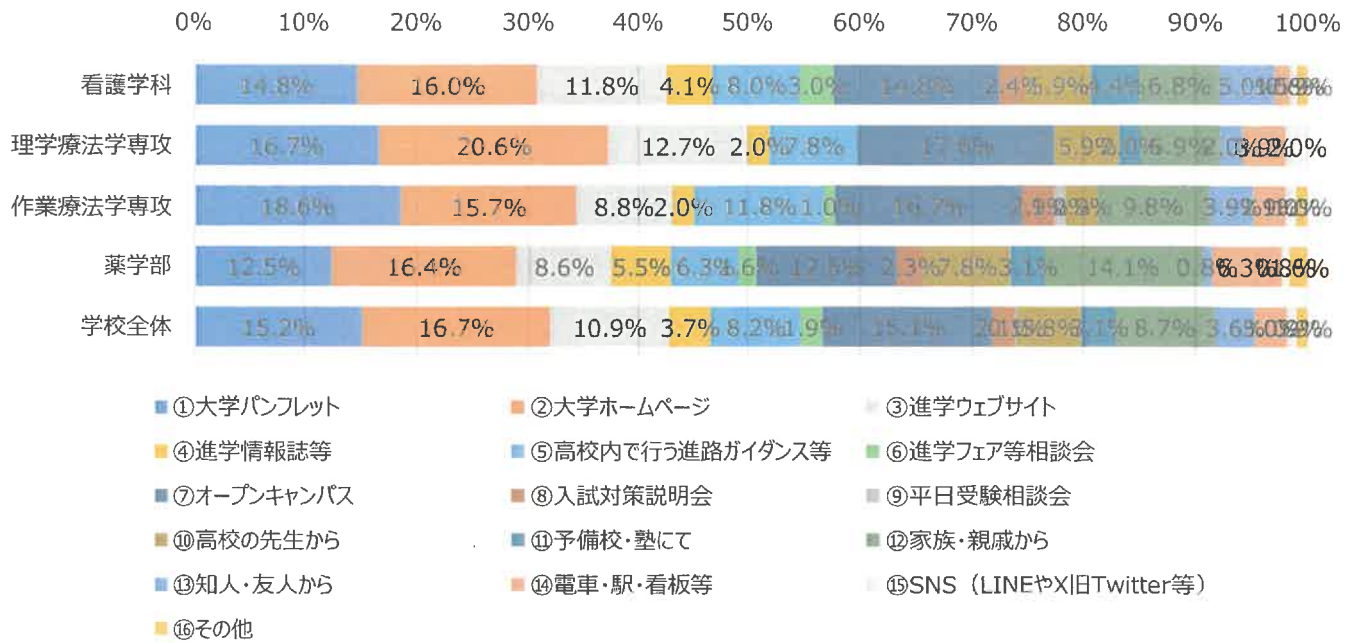
【問 2】あなたが看護師、理学療法士、作業療法士、薬剤師という仕事に興味を持ったのはいつ頃ですか。



その他（記述回答）

この大学に合格した時、祖父が亡くなった時、保育園、幼稚園、浪人中

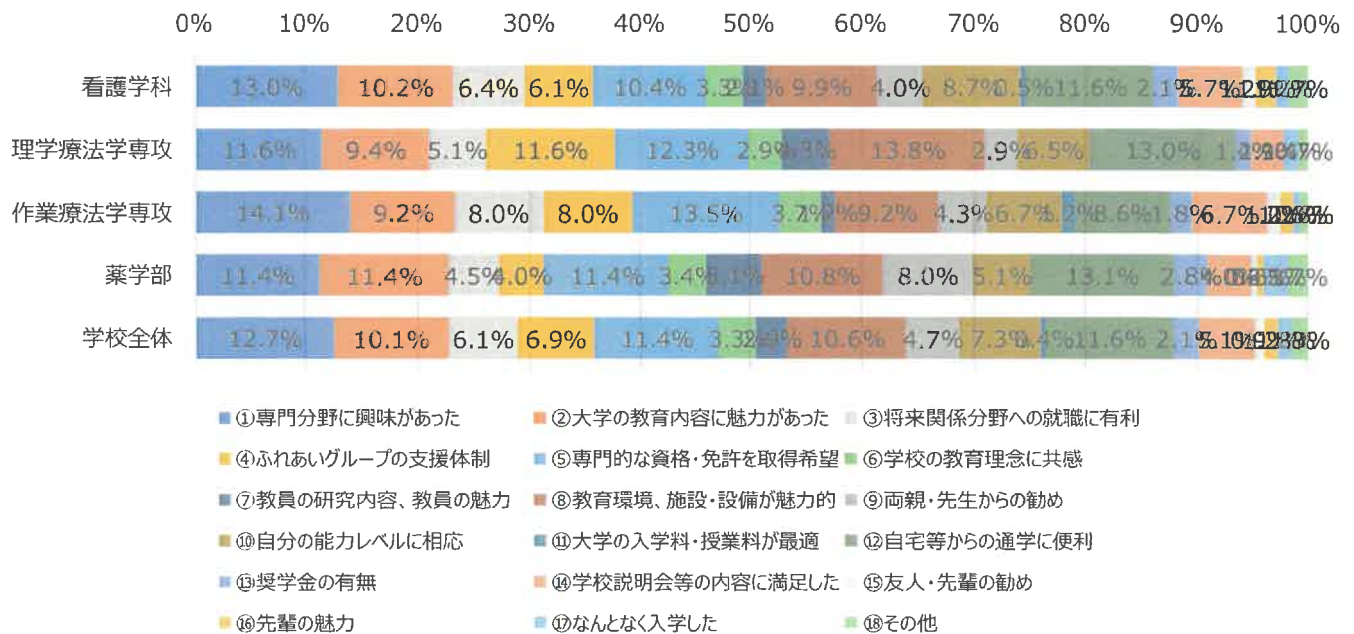
【問 3】あなたが本学を知った、または調べた媒体を選択してください。（複数回答可）



その他（記述回答）

- ・看護学校を調べていた際
- ・下田看護専門学校や茅ヶ崎看護専門学校から助産師の話を聞いたときに系列の大学があることを知った
- ・それまで受けた大学が落ちていてまた出願してるところを探して見つけた
- ・他の大学見学の際の質疑応答より

【問 4】あなたが本学に入学した理由を選択してください。（複数回答可）

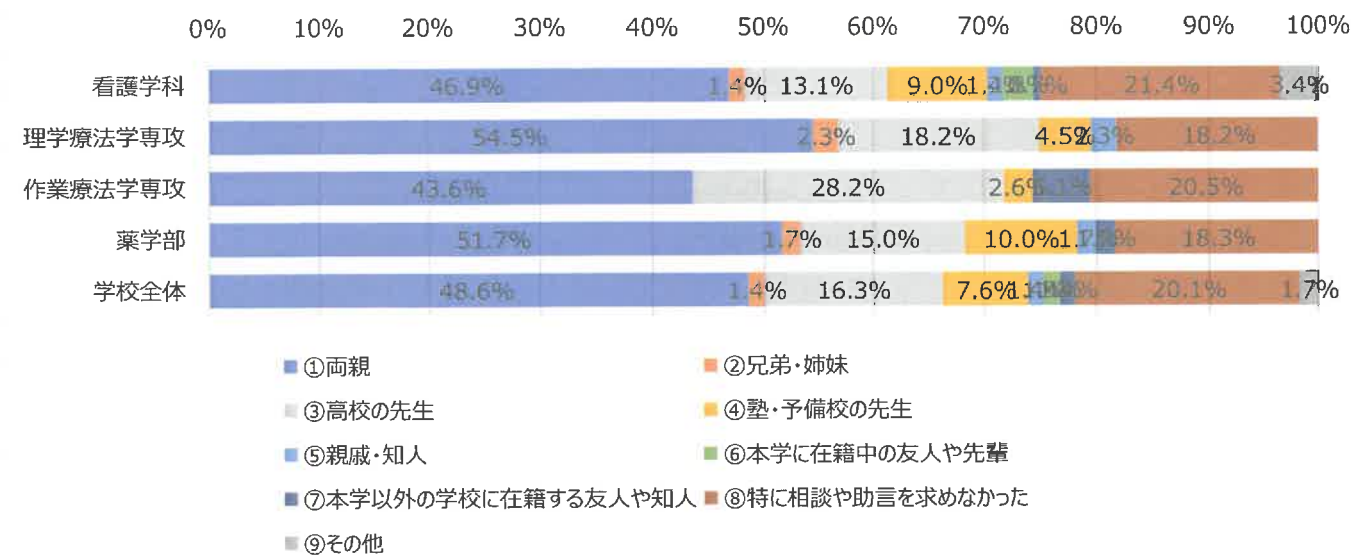


その他（記述回答）

- ・チューター制度
- ・東戸塚キャンパスの図書室
- ・本校に助産学専攻があるから（看護師になった後助産師になりたい）

- ・専攻科に行きたいから
- ・一般受験で第1志望に落ちてしまったから
- ・教師と学生との距離が近く感じたから
- ・少人数教育制度
- ・入試日程的に出願が間に合うのがこしかなかった
- ・特待生が取れたから

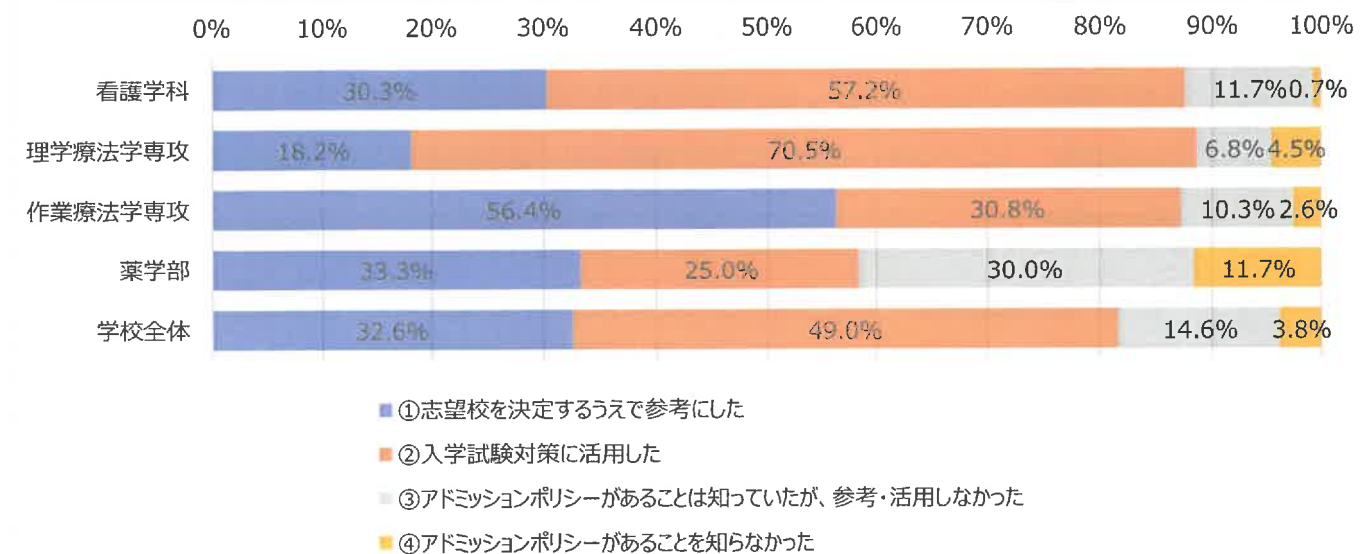
【問5】あなたが本学への入学を決めるにあたり、最も重視したのは誰からのアドバイスや意見でしたか。



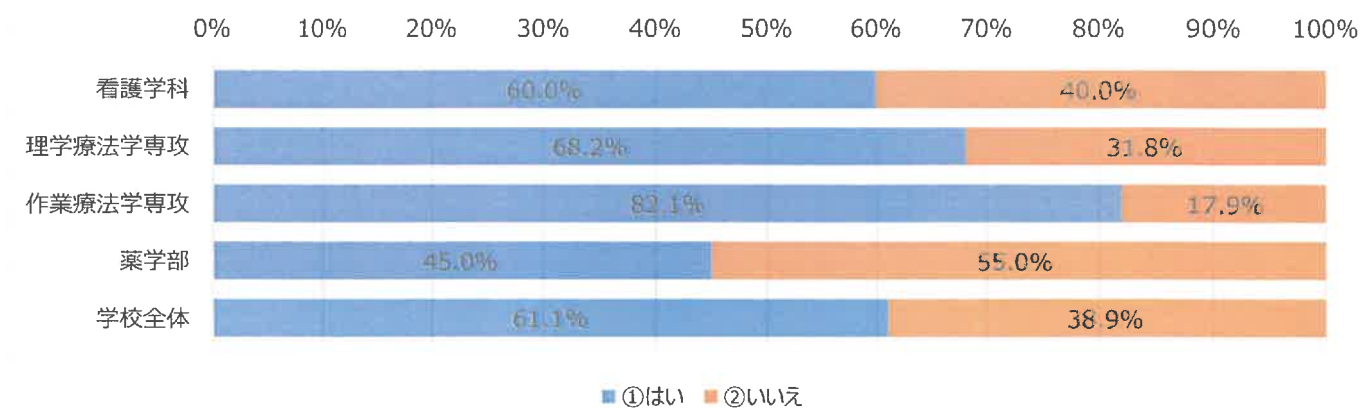
その他（記述回答）

- ・本学を卒業し、看護師として働いている知人
- ・高校の事務長

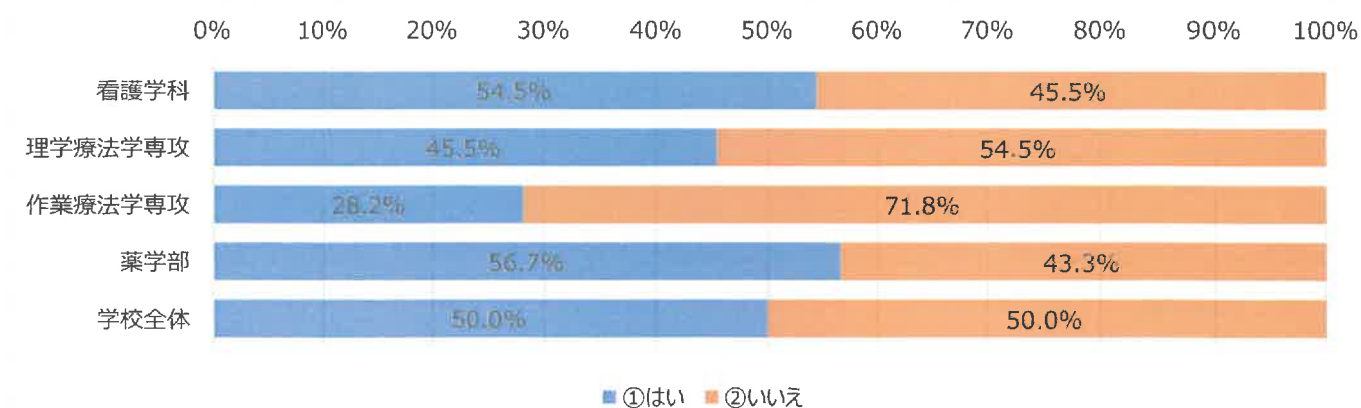
【問6】本学のアドミッションポリシー（入学者受入方針）について、下記選択肢の中から当てはまるものを選択してください。



【問 7】本学は第一志望でしたか。



【問 8】大学受験にあたり、予備校等の学習塾へ通われていましたか。

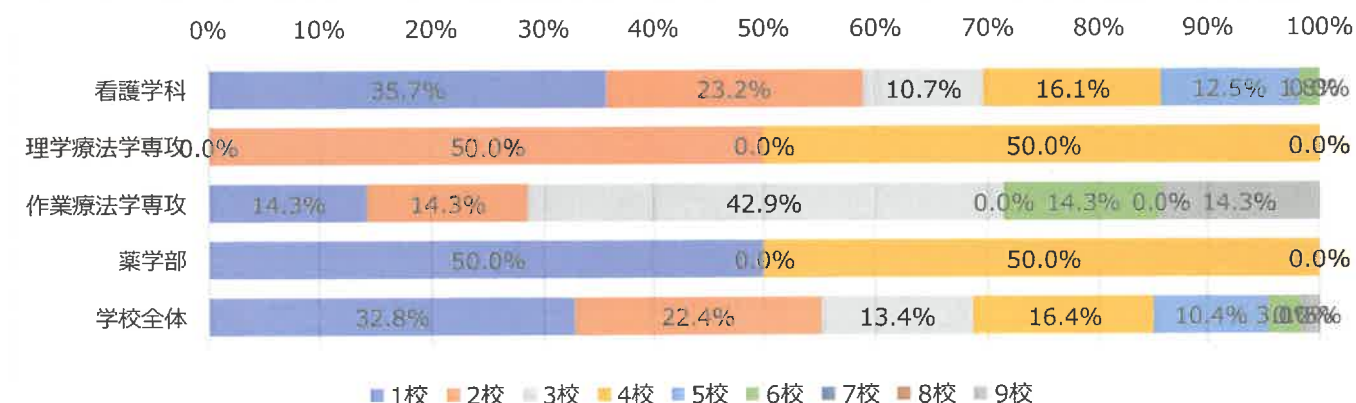


「①はい」と回答された方は、差し支えなければ、通われていた予備校・学習塾名を教えてください。回答例：〇〇塾◆◆校、△△ゼミナール◎◎校など

看護学科		理学療法学専攻		作業療法学専攻		薬学部	
予備校・学習塾	件数	予備校・学習塾	件数	予備校・学習塾	件数	予備校・学習塾	件数
東京個別指導学院	8	スクールIE	2	さなる個別@will	1	東京個別指導学院	4
河合塾	6	臨海セミナー	2	スクールIE	1	四谷学院	4
スクールIE	4	TOMAS	1	ナビ個別指導学院	1	河合塾マナビス	2
河合塾マナビス	4	ステップ	1	栄光ゼミナール	1	東進ハイスクール	2
湘南ゼミナール個別指導	3	河合塾	1	佐鳴予備校	1	アルファ家庭教師	1
創英ゼミナール	3	河合塾マナビス	1	多摩進学教室	1	スクールIE	1
ena看護	2	個別教室のトライ	1	東進衛星予備校	1	そら塾	1
ナビオ	2	さなる個別@will	1	臨海セミナー	1	トーマス	1
個別教室トライ	2	創英ゼミナール	1			メガスタ	1
湘南ゼミナール	2	東京個別指導学院	1			河合塾	1
城南コベッツ	2	武田塾	1			志学会	1
東進衛星予備校	2	明光義塾	1			湘南ゼミナール	1
明光義塾	2					森塾	1
est本山校	1					創英ゼミナール	1
Qゼミ	1					東進衛星予備校	1
Wip少人数塾	1					理数学館	1
Z会	1					翔進予備校	1
さなる個別塾	1						
プールダック	1						
よろぶん	1						
レスQ学習館	1						
栄進ゼミナール	1						
学習塾フラップス個別指導部	1						
看護医療予備校	1						
四谷学院	1						
湘南藤沢看護医療予備校	1						
湘南藤沢受験予備校	1						
新宿ゼミナール	1						
石川数学塾	1						
大学受験ステップ	1						
臨海セレクト	1						

【問 9】 本学以外に何校受験されましたか。また差し支えなければ、受験された学校名を教えてください。

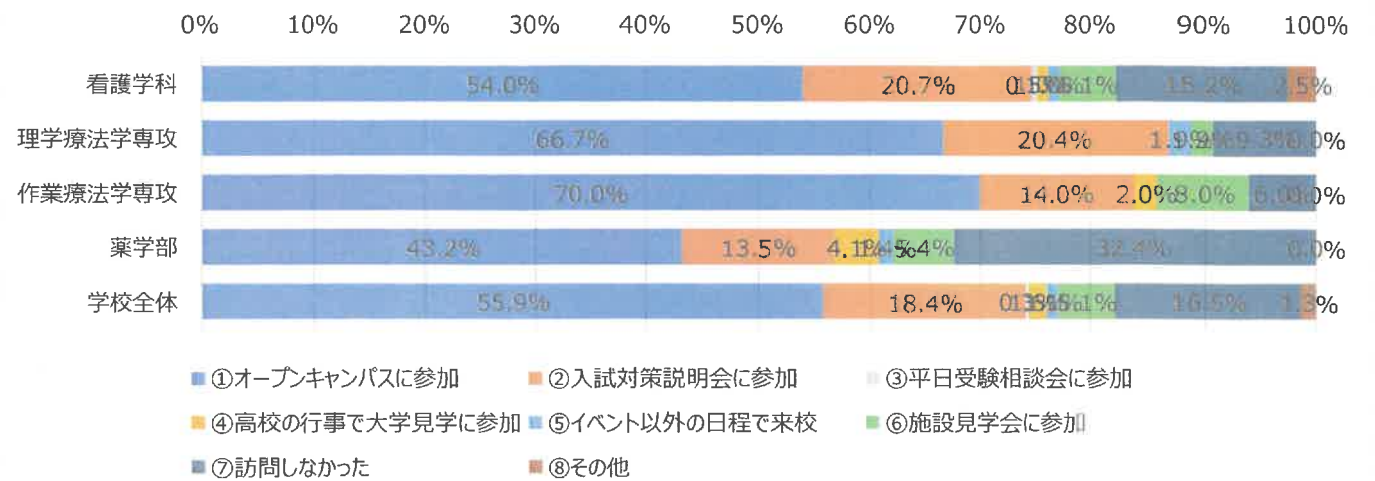
<受験校数>



<受験された学校名>

看護学科		理学療法学専攻		作業療法学専攻		薬学部	
受験校	件数	受験校	件数	受験校	件数	受験校	件数
国際医療福祉大学	8	杏林大学	3	東京工科大学	4	昭和薬科大学	5
昭和大学	7	神奈川県立保健福祉大学	3	帝京平成大学	2	帝京平成大学	5
東京医療保健大学	5	帝京平成大学	3	北里大学	2	横浜薬科大学	4
杏林大学	4	北里大学	4	杏林大学	1	高崎健康福祉大学	4
関東学院大学	4	順天堂大学	2	関東学院	1	星薬科大学	4
東海大学	4	沖縄リハビリテーション福祉学院	1	国際医療福祉大学	1	東京薬科大学	4
順天堂大学	3	県立保健福祉大学	1	昭和大学	1	昭和大学	3
湘南鎌倉医療大学	3	昭和大学	1	常葉	1	北里大学	3
帝京大学	3	帝京科学大学	1	神奈川県立保健福祉大学	1	城西大学	2
帝京平成大学	3	東京医療学院大学	1	東京医療学院	1	帝京大学	2
東京工科大学	3	東京工科大学	1	東京都立大学	1	東邦大学	2
東邦大学	3			東京保健医療専門職大学	1	武蔵野大学	2
北里大学	3			文京学院大学	1	国際医療福祉大学	1
横浜創英大学	2					新潟薬科大学	1
神奈川県立保健福祉大学	2					聖マリアンナ医科大学	1
神奈川工科大学	2					早稲田大学	1
日本赤十字看護大学	2					東海大学	1
武蔵野大学	2					北陸大学	1
亀田医療大学	1					麻布大学	1
共立女子大学	1					名古屋工業大学	1
国立看護大学校	1					明治薬科大学	1
首都医校	1						
湘南看護専門学校	1						
信州大学	1						
新潟県立看護大学	1						
聖隷クリストファー大学	1						
川崎市立看護大学	1						
創英大学	1						
帝京科学大学	1						
東京医療大学	1						
東都大学	1						
藤田医科大学	1						
有明医療大学	1						
獨協医科専門学校	1						
獨協医科大学	1						

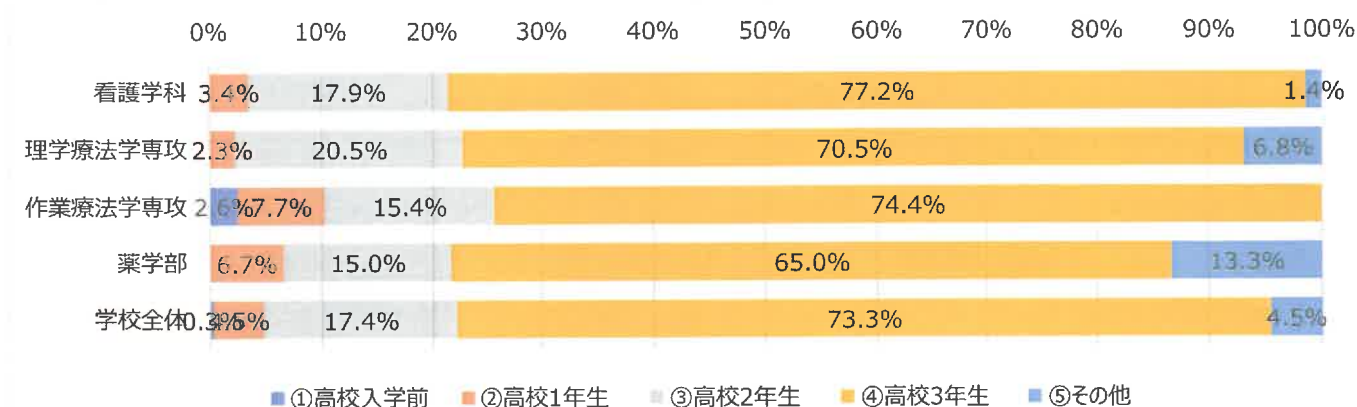
【問 10】受験前に本学を訪問しましたか。下記選択肢の中から当てはまるものを選択してください。（複数回答可）



その他（記述回答）

- ・大学祭
- ・外観を見に行った

【問 11】あなたが本学を受験しようと思った時期について、下記選択肢の中から当てはまるものを選択してください。

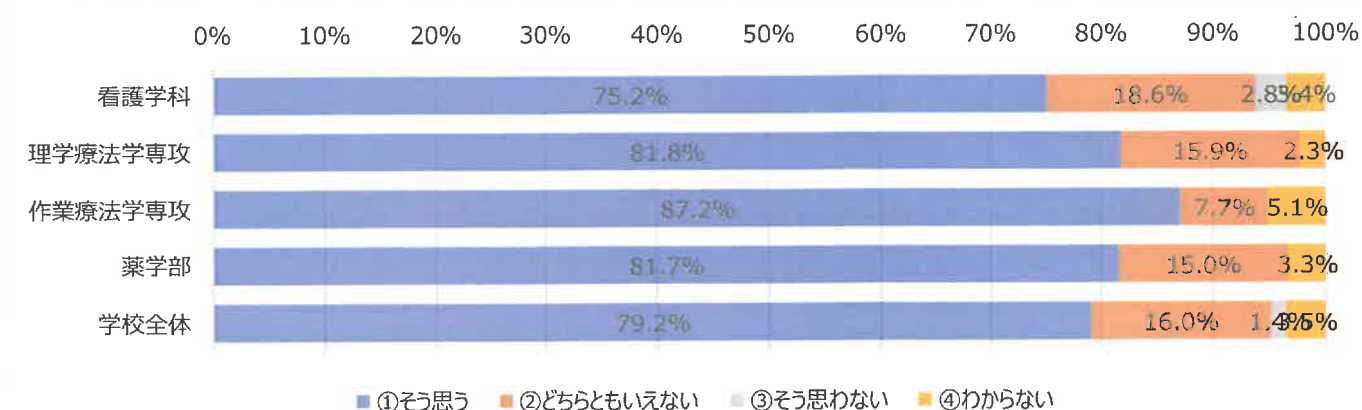


その他（記述回答）

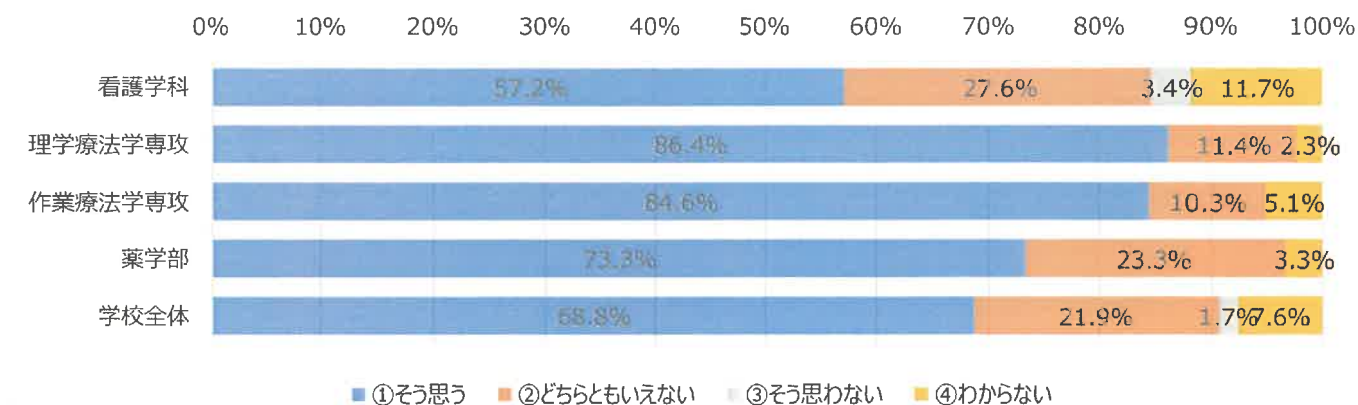
- ・23歳の頃
- ・高校卒業後、他大学に在籍中のとき
- ・社会人
- ・受験期直前
- ・第一志望の学校に、落ちた時
- ・浪人時
- ・受験日の約3ヶ月前

【問 12】本学の魅力について、下記選択肢の中から当てはまるものを選択してください。

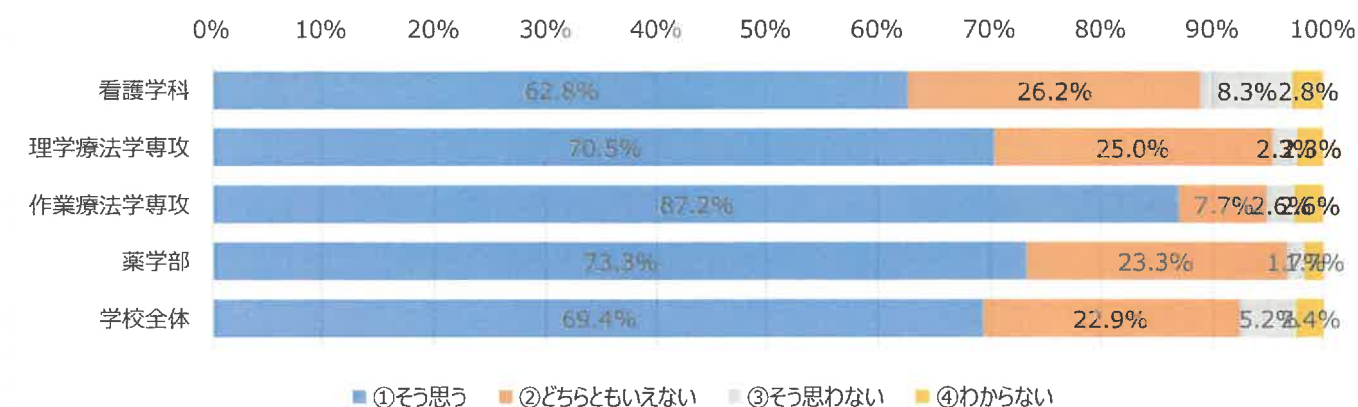
《12-1》本学の教育方針・カリキュラムが魅力的である。



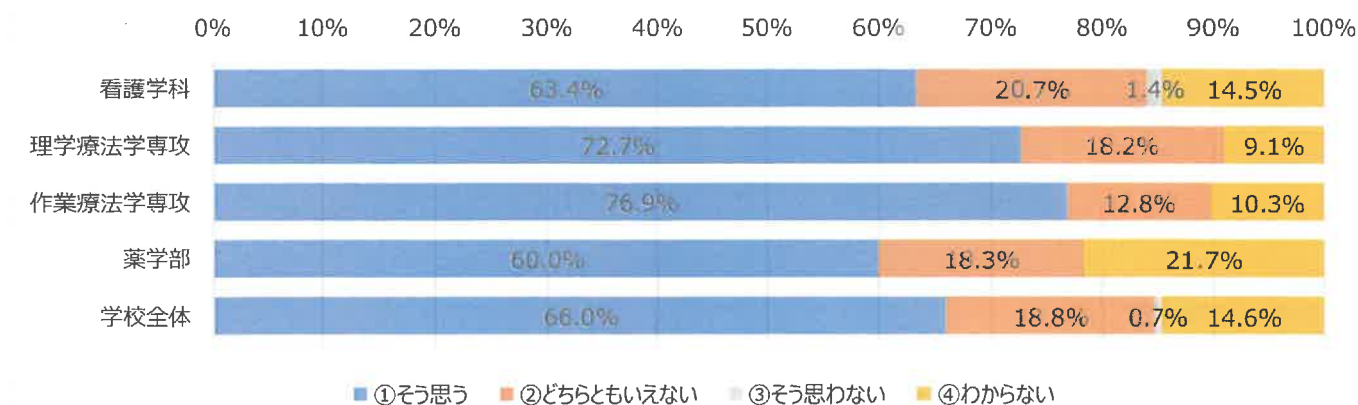
《12-2》本学の教職員が魅力的である。



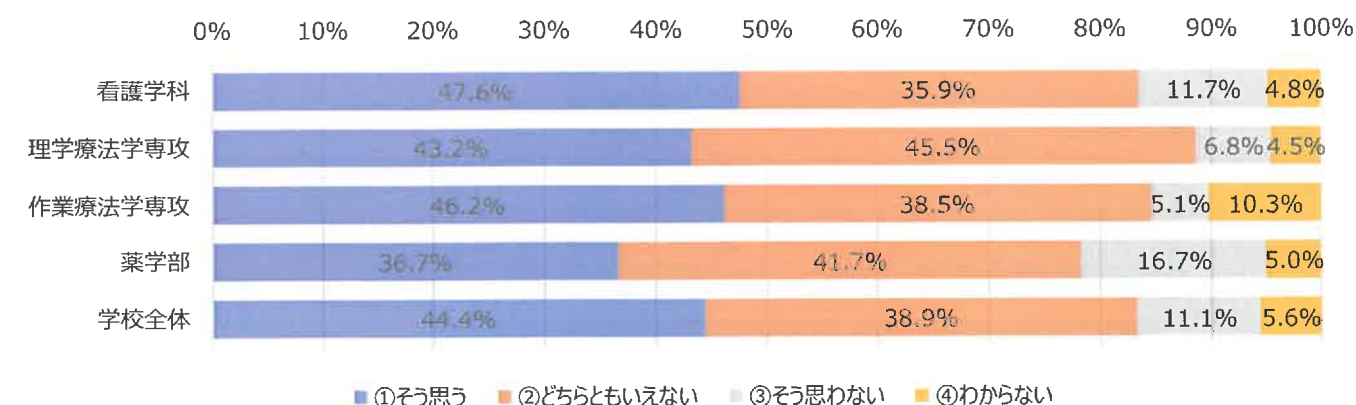
《12-3》本学の施設・設備が魅力的である。



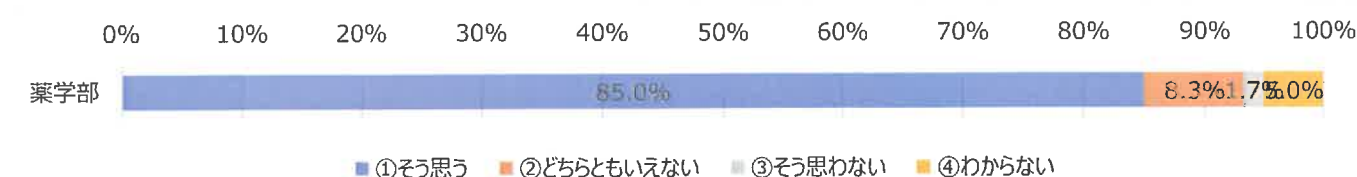
《12-4》本学の就職支援が魅力的である。



《12-5》本学周辺の自然環境・文化環境が魅力的である。

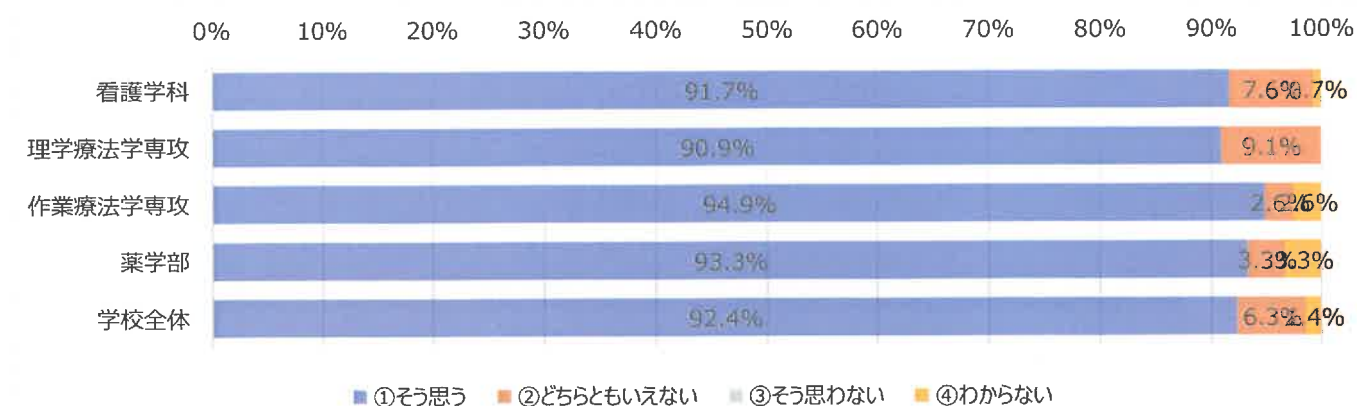


《12-6》ふれあいグループ施設と連携した臨床実習が魅力的である。(薬学部のみ)

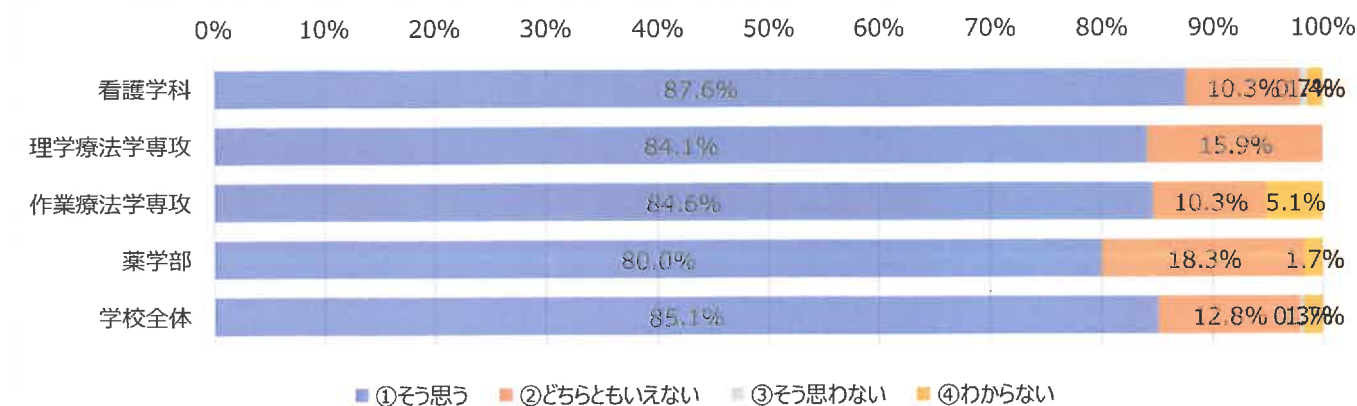


【問 13】在学中に取り組みたいことについて、下記選択肢の中から当てはまるものを選択してください。

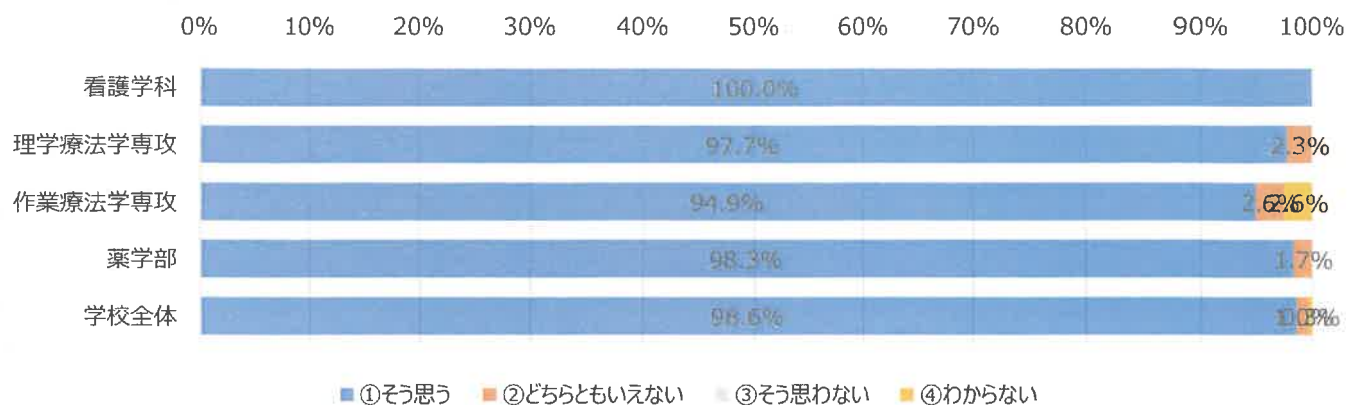
《13-1》専攻する分野の知識を深く学びたい。



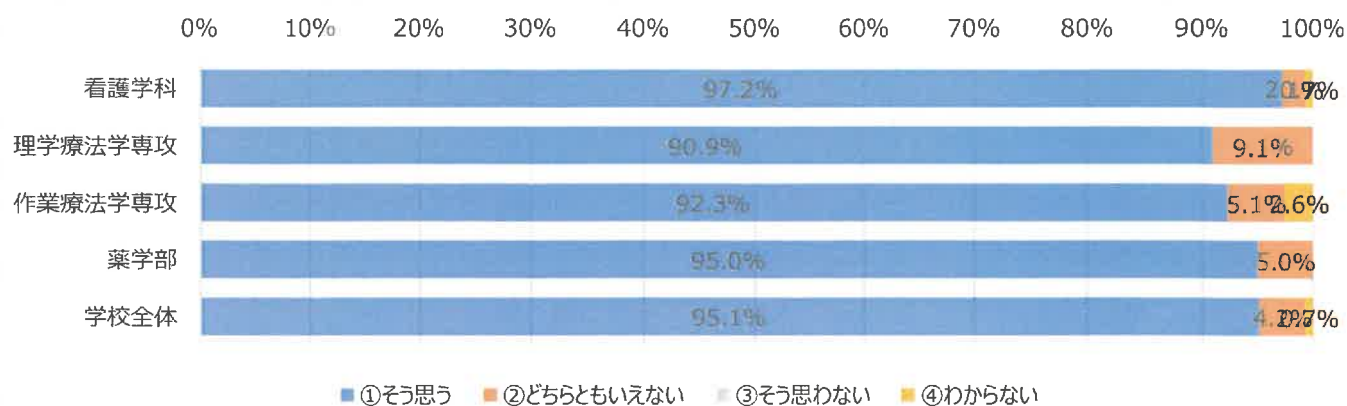
《13-2》幅広い教養を身に付けたい。



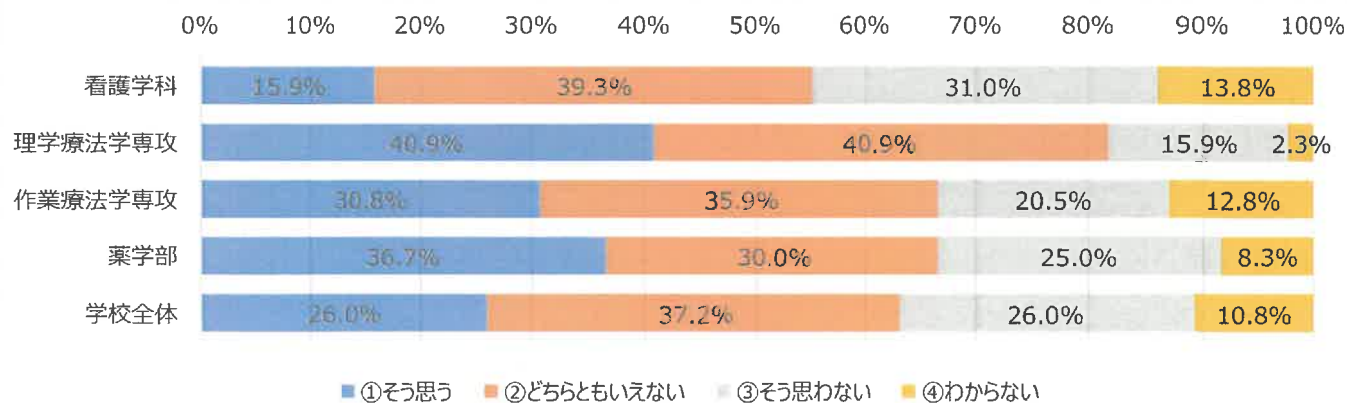
《13-3》国家資格試験に合格したい。



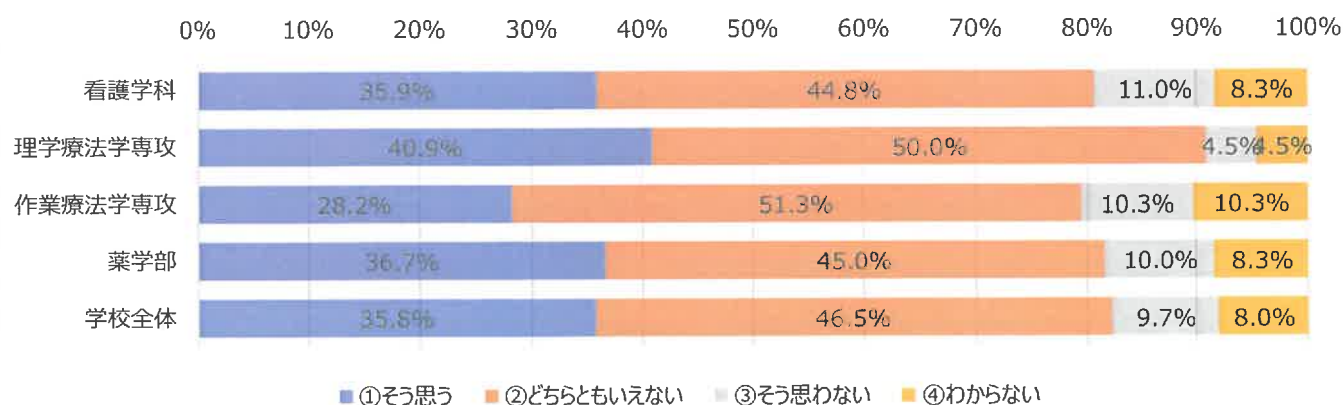
《13-4》良好な人間関係を構築したい。



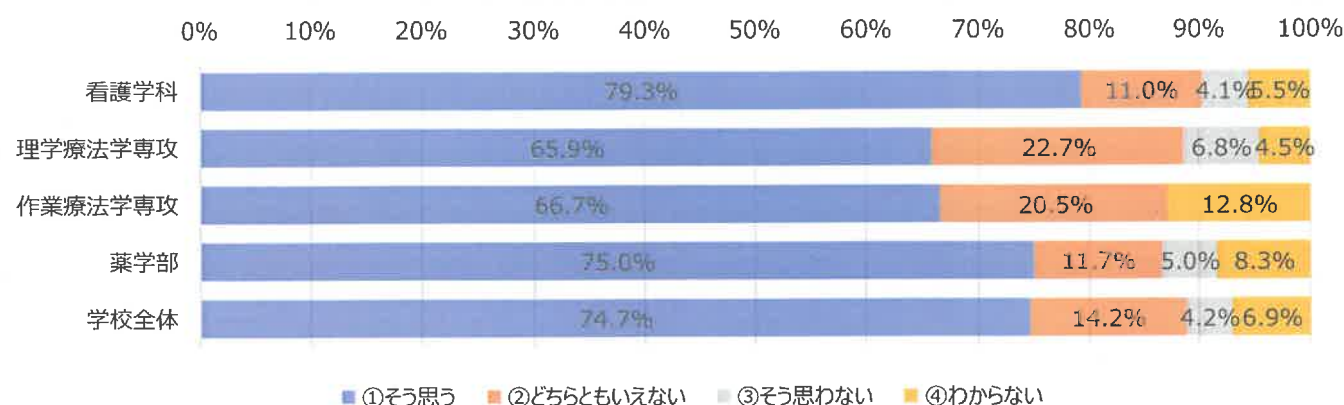
《13-5》スポーツ・サークル活動に力を入れたい。



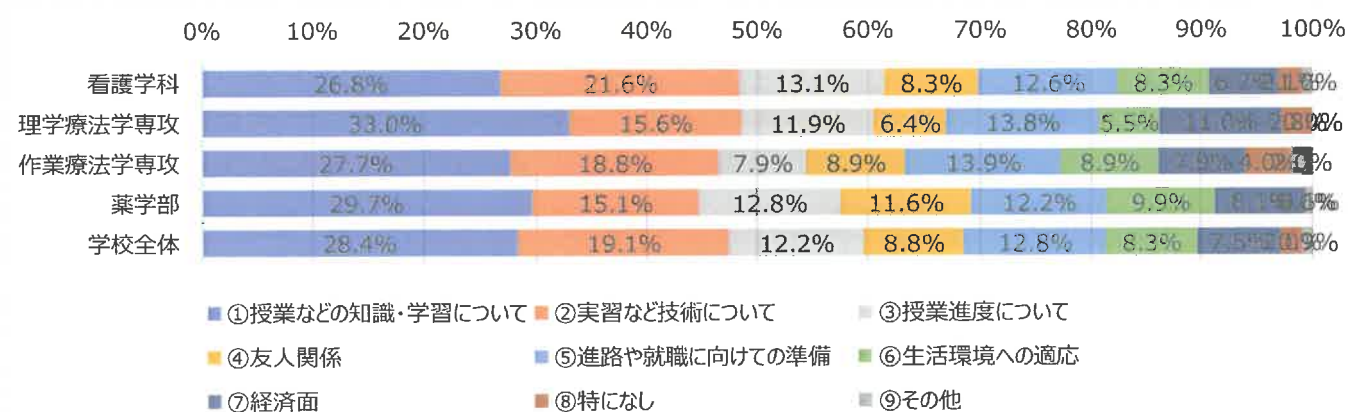
《13-6》社会活動・ボランティア活動に力を入れたい。



《13-7》留学・国際交流・趣味・旅行など自分の時間を持ちたい。



【問 14】大学生活で不安に思っていることについて、下記選択肢の中から当てはまるものを選択してください。（複数選択可）



その他（記述回答）

- ・一人暮らしについて
- ・睡眠時間
- ・看護学科 1.2 年にサークルにはいる余裕があるのか、そもそも入っている人はいるか
- ・体調を崩しやすいため体調管理
- ・国家資格を取得できるか心配です
- ・勉強面

- ・学校の試験
- ・大学在学中に服用している薬を減らしていく予定ですが、発作が起きないか心配
- ・物理の授業が全く理解出来ず、焦りを感じています

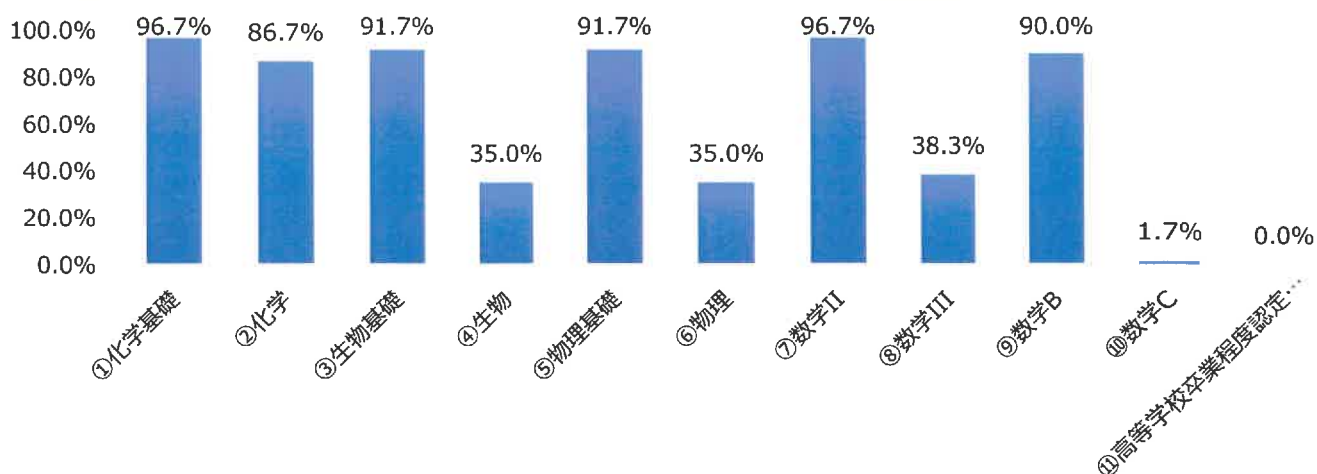
【問 15】新型コロナウイルス感染症に関して何か対策をしていますか。あればお答えください。(自由回答) (保健医療学部のみ)

対策	件数
手洗い・うがい	31
マスクの着用	27
こめな手指消毒	13
ワクチン接種	8
人混みを避ける	2
体調管理	2
帰宅後すぐの入浴	1
咳エチケット	1
していない	1

【問 15】現在の通学時間（片道、ドア to ドア）を下記選択肢の中から当てはまるものを選択してください。(薬学部のみ)



【問 16】高校で履修した科目を、下記選択肢の中からすべて選択し回答してください。(薬学部のみ)



2024年度薬学部FD活動計画

資料NO.2

重点項目	目標・目的	実施者	対象	時期	実施事項	目標・指標	実施方法	実施概要、結果（具体的にはそれぞれの別添資料参照）
②授業評価等の結果を活かした授業改善、教育活動改善への活用	(1)授業評価アンケートの有効活用	調整：FD委員（定本教授、佐野教授、加藤紘一講師、浦助教、須藤助教）	(1) 科目担当者	各科目終講日	(1) 授業評価アンケートの実施	(1) 薬学部教員実施科目について、評定点の平均値85%以上	(1) 授業評価アンケートを前年度と本年度で比較して授業内容の改善がなされたか評価する。	(1) 授業評価アンケートの結果を比較するにあたり、精度の向上を図るため、まずは 回答率の改善のための方策を考案・実施 した。結果として、薬学部教員が担当する科目については、回答率の平均値を 75%まで向上 することができた。それにより得られた結果、評定点の平均値は90点で昨年度と同程度の教育効果を維持した。（目標85点以上）
	(2)S-プログラム支援		(2)薬学部全教員、全学生	随時	(2) S-カルテを活用したリアルタイムな学習状況・出欠状況の共有	(2)薬学部必修科目について、授業出席率80%以上、科目単位取得率90%以上	(2)教員による S-カルテの活用を支援する。また、S-カルテを用いたリアルタイムな学習状況・出欠状況の把握と、それに伴う指導体制を定着させる。	(2)S-カルテの内容を常に充実させ、その内容について全教員に周知した。また、作成した S-カルテはチューターによる学生や保護者と面談に活用 された。その結果、授業出席率94%、科目単位取得率96%を達成するための一つの要因となった。
	(3)リフレクションペーパーの活用		(3) 薬学部全教員	5月、9月	(3)授業方法の改善に関する情報収集	(3)薬学部必修科目について、授業出席率80%以上、科目単位取得率90%以上	(3)授業評価アンケートを基に作成されたリフレクションペーパーから、各教員の取組みを学び合う。	(3)授業評価アンケートを基にした授業改善について、科目責任者にリフレクションペーパーの作成を依頼した。全科目分について回収したのち、学生へのフィードバックを兼ねて manabaで全リフレクションペーパーを公開 した。全教員が全てのリフレクションペーパーを閲覧できるように公開したため、これを基にさらなる授業改善に繋がると期待される。今年度現状のデータでは、 授業出席率94%、科目単位取得率96%を達成 した。
⑥FD・SD研修の充実	(1)FD・SDの充実	調整：FD委員（定本教授、佐野教授、加藤紘一講師、浦助教、須藤助教）	(1) 薬学部全教員	4月～翌年3月	(1)組織的且つ持続的なFD活動	(1) 全体研修会および医療・教育研究会への出席率100%	(1) 全体研修会（年5回）及び医療・教育研究会（3，6月）において、教育方法と研究領域を発展させることを目的として、組織的且つ持続的なFD活動を実施する。より多くの教員が全体研修で発表し、相互に評価する。	(1) 全ての全体研修会、医療・教育研究会において教育・研究領域の演題を取り入れ、教育・研究レベルの向上を図った。全教員が出席し、報告書を提出した。
	(2)教育の質の向上		(2) 薬学部全教員	4月～翌年3月	(1-2)FD研修会・講演会の実施およびそれらに向けたニーズの把握	(1-2) FD研修会・講演会の教員参加率100%（講義等で参加不可の教員を除く）	(1-2) 薬学部教員全体にアンケートを行い、FD研修会で実施する内容に関して希望を収集する。教員のニーズに合わせて講演会を計画する。	(1-2) 全教員に対して、5月にFD研修会で取り上げてほしいテーマについてアンケートを実施した。その結果をもとに、次年度のFD研修会の計画を立案した。今年度の研修会については計画通りに実施し、 <u>FD研修会・講演会の教員参加率100%を達成</u> した。
	(3)自律的な学生を育てるための取組み		(3) 薬学部全教員	4月～翌年3月	(2)FD研修会の効果反映	(2)FD研修会の効果を教育の質の向上に反映・維持する	(2)FD研修会の効果が教育の質の向上に反映・維持されているかを確認するためにリフレクションペーパーを検証する。	(2)今年度現状のデータにおいて、授業出席率94%、科目単位取得率96%を達成した。引き続き、来年度の授業アンケート及び、学力向上（CBT模試平均点など）を検証する。
	(4)臨床教育に対する意識の共有		(4) 薬学部全教員	4月～翌年3月	(3)自律的な学生を育てるための取組み	(3) アクティブラーニングに関する研修会実施1回以上	(3) 「自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、より良く問題を解決する資質や能力」を育てる授業の実施を検討する。	(3) FD研修にて最新の双方向型授業（アクティブラーニング）の一例を学び、体験した。その後実際に一部の必修科目及びCBT対策講義に取り入れることができた。
⑨キャリア支援と地域社会への講演	(1) キャリア支援を視野に入れた講演会の提案	調整：FD委員（定本教授、佐野教授、加藤紘一講師、浦助教、須藤助教）	(1) 薬学部全教員	4月～翌年3月	(4)実務実習における学生担当教員の資質向上に係るFD活動	(4) 地域薬剤師会の実務実習担当者による研修会実施1回以上	(4) 横浜市薬剤師会の実務実習担当者を招聘し、臨床薬学教育の水準の維持・向上や、実習施設での質の高い実務実習実現のための認識を共有する（資料NO.3）。	(4) FD研修として、横浜市薬剤師会の中里先生に講演いただき、実務実習研修会で行われている講義やSGDの内容について共有していただいた。これにより、現場教育の実施状況や工夫、今後の課題を確認できた。
	(2) 地域社会（高校、中学、小学校）での薬学の理解を進めるための活動		(2) 薬学部全教員		(1) 合同公開講演会への参加・大学広報	(1) 薬学部定員確保	(1) 合同公開講演会による地域社会への大学の知名度向上のために、講演会へ参加し、薬学部の広報に努める。	(1) 薬学部教員による講演会を20回実施し、薬学部の広報に努めた。参加者は計203人であった。
					(2) 高校、中学、小学校での薬学の理解を進めるための活動	(2) 高校、中学、小学校における理科の特別授業、薬物依存を警告する派遣授業などに参加又は企画し、薬学への興味を育てる企画を提案する。	(2) 高校、中学、小学校における理科の特別授業、薬物依存を警告する派遣授業などに参加又は企画し、薬学への興味を育てる企画を提案する。	(2) 子供薬剤師や高校での模擬授業など、薬学への興味を育てる企画を実施した。 子供の 薬剤師体験は計82名、キッズ研究体験は計82名、キッズ公開実験は計42名 が参加した。高校での 模擬授業は12回実施し、計160名以上の高校生が参加 した。薬学への興味だけでなく、本学の知名度向上にも貢献した。
	(1)低学年生の学修意欲向上を促す工夫		(1)薬学部全教員	4月～翌年3月	(1)教育方法の発展	(1)1年次必修科目における評定点の平均値85%以上	(1)低学年生の学修意欲を向上させるために、薬学の楽しさを表現できるような演習・指導方法の工夫について共有する。	(1) アクティブラーニングの取入れや、学生目線での授業改善のため、FD研修の実施やリフレクションペーパーの共有を行った。これにより、 各教員が授業で取り入れている工夫を共有することができ、継続的な授業改善の体制が整備された 。その結果、1年次必修科目における評定点の平均値は92.3点であった。データが得られている 前期必修科目の出席率は91%、科目単位修得率は95% であった。

FD活動重点項目と各項目に関する活動の実施内容

1) 教育の質の向上	2) 学力低迷者の個性の理解と学修支援 3) 休退学者の支援	4) その他
1. 本学の理念に基づいた「新カリキュラムとアセスメント」「アセスメントポリシー」についての研修 実施日時：2024年6月13日10：00～12：00、6月14日10：00～12：00 いずれかの日程で日程を調整し参加する。（両日ともに講義室2で実施） 講師：山勢善江教授 対象者：看護学科教員（参加者46名） 内容：2022年度からの新カリキュラムを再確認し、今後の授業設計・運営に役立てるため、「新カリキュラム」の再確認を行った。さらに、「アセスメントポリシー」を確認し3ポリシーの評価につなげるとともに、それらの意義を確認した（配布資料あり）。 2. 新カリキュラム実習構成と内容について 実施日：6月18日16：00～17：30（講義室19） 講師：山勢善江教授 対象者：看護学科教員（参加者46名） 内容：本学のDPのうち臨地実習で特に育成したいと考える力に基づき、2年次後期までに看護基盤実習Ⅰ・Ⅱが設けられている。3年次後期からの新カリキュラムの実習は、これまでのように発達段階ではなく、健康レベルに応じて急性期看護実習、慢性期看護実習、ヘルスプロモーション実習に分かれていることが確認された（資料あり）。 3. 「看護系大学における特別な配慮を必要とする学生への教育支援の実際」 実施日：実施日時：2024年8月19日9：00～12：00（講義室4） 対象者：看護学科、専攻科教員（参加者54名） 司会：松月みどり教授 方法：動画「看護系大学における特別な配慮を必要とする学生への教育支援の実際」（日本私立看護系大学協会の了承済み）を視聴し、特別な配慮を必要とする学生への支援方法の知識や實際を学ぶとともにグループワークを実施し特別な配慮を必要とする学生へ指導方法を検討をした。（配布資料なし）。 4. 大学教員の教育力向上のための基準枠組みFDマップ運用に関する検討会 実施日時：2024年8月30日（講義室4） 対象者：看護学科教員（参加者46名） 内容：2023年度に運用を開始されたFDマップであるが、活用に関するアンケートにより「活用しづらい」との意見が45.8%（2024年4月のアンケ-実施）であった。そのため改めて活用方法について確認し、FDマップの要素についてグループワークで検討した（資料なし）。 司会：松月みどり教授 5. ICTを活用した授業運営についての研修 実施日：2024年9月5日13：00～12：00（講義室4） 対象者：看護学科教員 希望者（28名） 講師：坂口達哉助教 内容2023年度から実施しているICTセミナーでは、学生の学習の動機つけや双方向授業をめざして、具体的なmanabaの活用方法の技術を学び授業に反映できる方法を習得した（配布資料なし）。 6.新カリキュラム3年次後期から実習：学内実習(1月)の運用について 実施日時：2024年9月18日16：30～18：00（講義室19） 対象者：看護学科教員（参加者46名） 内容：3領域実習終了後の1月の実習は、既習の学びを統合することを目的に目標を①倫理的葛藤を感じた場面を振り返り、議論することで倫理的感受性を高める。②訪問事例を通し各実習で学んだ内容を統合する。③学んだ内容の文献的考察をもとに、自己の興味関心のある看護について明らかにし、統合実習に繋げることが示され、展開方法の共通理解を図った。 7.新カリキュラム3年次後期の臨地実習 急性期看護学実習について 実施日：2024年11月1日16：00～17：00 対象者：看護学科教員（参加者46名） 講師：野口京子講師 内容：新カリキュラム3年次後期から展開される臨地実習である急性期看護実習は、インホスピタル実習2週間、プレホスピタル実習2週間の計4週間で構成される。プレホスピタル実習では、従来の施設内での個の急性期状態に応じたケアのみならず、災害や救急時などの場の急激な変化にも焦点をあてた体験学習を追加し展開をした。新カリキュラムので初めての急性期看護実習の紹介をし、学部内の教員の共通理解を得た（資料あり）。	1.成績低迷者（単位未修得者）の履修指導とその評価 実施日：2024年4月10日16：00～15：00（講義室19） 講師：片山典子教授 対象者：看護学科教員（参加者46名） 内容：各学年の履修状況を確認し単位未修得者を抽出するとともに履修計画の立案と履修指導を実施した。また、その評価を教員間で検討し課題を見い出すことができた（資料なし）。 2.看護基礎ゼミ（1年生対象）の実施とその効果について 実施日：2024年4月17日16：00～17：00（講義室19） 対象者：看護学科教員（参加者46名） 内容：看護基礎ゼミにおいて、大学で学ぶために必要なスタディスキル、アカデミックスキルを修得する。大学生の現状や諸問題を題材に取り上げ、求められる学士力と学習方法について検討し、今後の大学生生活の見通しを立てるために実施している。1～3回においては、4年次生との交流を設け（ピア・エディケーション）、先輩から大学生の具体的な内容を聞く機会を設けることで大学生生活の具体的なイメージが持つことに効果が示された。 3.学習習慣の定着のための支援についての研修 実施日：2024年4月25日15：00～16：00 講師：山勢善江教授 対象者：看護学科1・2年生のチューター教員（22名参加） 内容：低学年時の成績の低迷は、休退学へ繋がる場合が多いため、学習習慣の定着に必要な支援の方法と個人にあった学習指導にあった内容を検討した。事例検討も行き、その結果チューター面談を行いながら、必要に応じて学習状況を確認し必要時個別指導をおこなっていくことが有効であると示された。 4.出欠席状況の芳しくない学生への対応と支援について 実施日：2024年5月19日16：30～17：30（講義室19） 講師名：松月みどり 対象者：看護学科教員（参加者46名） 内容：出席状況の芳しくない学生の事例を用い、指導内容について検討した。学生へアルバイトの有無や学習意欲などの生活状況を確認し、生活の乱れ等を学生とともに検討していくといった丁寧な個別指導を実施していくことが確認された（資料なし）。 5.学修計画表に基づく支援の検討 実施日：2024年5月22日16：30～18：00（講義室19） 対象：看護学科教員（参加者46名） 内容：各学年、主体的に学修を実施するため学修計画表を学生に記載するよう指導している。成績低迷者や休退学者を防止するため、学修計画表を用いた個別面談を実施し、学修面の躓きを早期に把握し指導や支援に繋げる方法を検討した（資料なし）。 6.出席状況の把握と学生指導の評価について 実施日：2024年6月12日15：00～16：00（講義室19） 対象者：看護学科教員（参加者46名） 内容：出欠席状況の芳しくない学生を把握し、各学年のチューター教員による個別指導状況を確認し今後の指導方法を検討した（資料なし）。 7.模試を活用した学習方法の検討 実施日：2024年7月11日16：00～16：00 講師：伊藤准教授 対象者：看護学科教員（46名） 内容：本学は、看護師国家試験模擬試験は1年次の低学年から実施をしている。模試によって成績低迷者を早期に検討し、その後の学習指導に役立っている。また、模試を受けっぱなしにするのではなく、模試を活用し模試の誤答問題の解説書を作成したり等の学習支援に用いている。また、模試を活用することで、継続した学修低迷者への支援にも活用することができている（資料あり）。 8.各学年の成績低迷者休退学者現象のための学生支援の取組の共有 実施日：2024年8月7日16：00～17：00（講義室19） 講師：川本利恵子教授 対象者：看護学科教員（参加者46名） 内容：各学年の成績低迷者の現状と休退学を予防するための支援対策を事例を用いて検討し有効な方法を共有した（資料なし）。	1.看護学科におけるPDCに関する研修① 実施日時：2024年4月9日16：00～17：00（遠隔会議システムZoom） 講師：松月みどり教授 講演タイトル：：看護学科におけるPDC活動の策定 内容：2023年度のFD活動の振り返りを実施し、FD看護学科の重点項目に基づき2024年度のFD活動内容を看護学科の教員で検討し、①休退学者の支援、②学力低迷者の個性の理解と学修支援、③教員の教育力向上に関する内容とすることを決定した。 2.看護学科におけるPDCに関する研修② 実施日：2024年5月22日13：00～15：30（教員研究室等） 対象者：看護学科教員（参加者46名） 講師名：田中秀子教授 講演タイトル：：看護学科PDCの3月分の検証と4月分のアクションプランについて 内容：休退学者の減少への取り組み、国家試験対策、チューター活動について、キャリア支援についてである。 3.看護学科におけるPDCに関する研修③ 実施日：2024年9月18日13：00～15：30（教員研究室等） 対象者：看護学科教員（参加者46名） 講師名：倉田慶子教授 講演タイトル：看護学科PDCにおける2024年度7月の検証と8月のアクションプランについて 内容：効果的なチューター活動について、学修支援・国家試験対策について、入学定員確保等についてである。 4.看護学科におけるPDCに関する研修④ 実施日：2024年11月27日13：00～15：30（教員研究室等） 対象者：看護学科教員（参加者46名） 講師名：伊藤ふみ子准教授 講演タイトル：看護学科PDCにおける2024年度10月の検証と11月のアクションプランについて 内容：効果的なチューター活動について、学修支援・国家試験対策について、入学定員確保等についてである。

FD活動重点項目と各項目に関する活動の実施内容		
1）教育の質の向上	2）学力低迷者の個性の理解と学修支援 1）休退学者の支援	4）その他
8. <u>新カリキュラム（ナースिंगスキルとヘルスアセスメント）の構造について</u> 実施日時：2024年12月18日16：030～18：00（講義室 1 9） 対象者：看護学科教員（参加者46名） 講師：川本利恵子学科長 内容：看護は、人間の行動を対象としているため、日常生活行動（動作）に加えて初めて人体の構造と機能の知識が一緒に必要になると考えるため2段階で考えていく。第一段階：生きて社会のなかで日常生活している人をとらえること。食べる・出すが行動（動作）として出る。その後第二段階：排尿・排泄の機能的な知識を得て、医学的な知識スキルを学修するという構造である。これらを踏まえ、ナースिंगスキルの技術項目を7つの大項目に整理内容を検討されている。今回、ナースिंगスキルおよびヘルスアセスメントの構造について説明され学科教員で共通認識した（資料あり）。 9. <u>新カリキュラム（ナースिंगスキルとヘルスアセスメント）の授業内容の検討について</u> 実施日時：2025年1月22日16：30～18：00（講義室19） 対象者：看護学科教員（参加者46名） 講師：川本利恵子学科長 内容：ナースिंगスキル学Ⅰ、ナースिंगスキル学Ⅱ、ヘルスアセスメント学Ⅰ、ヘルスアセスメント学Ⅱ、ヘルスアセスメント学Ⅲの5科目に特化し、科目が目指すもの、授業内容について検討され、周知された（資料あり）。 10. <u>看護学教育における評価について</u> 実施日：2025年 3 月 6 日13：00～16：00（講義室 4） 対象者：看護学科教員、専攻科教員、キャリアコアセンター教員（56名参加） 講師：川本利恵子教授 内容：看護学演習や実習評価は、教師が学生の実践能力を評価し目標の達成度を確認するものであるが、評価基準の統一がむずかしく評価は客観性に欠けることがある（配布資料あり）。	9. <u>個性豊かな学生を指導するヒント①</u> 実施日：2024年8月22日 15：30～16：00（講義室 4） 講師：片山典子教授 対象者：看護学科教員（46名） 内容：本学でも発達障害を持つ学生やグレーゾーンと疑われる学生が散見されるようになった。人を対象とする臨地実習において指導に苦慮する場面も見受けられるようになった。それらの学生を支援する際に必要となる発達障害の概念や基本的な知識について研修を行った（配布資料あり） 10. <u>看護学科の国家試験対策について</u> 実施日：2024年9月3日16：00～18：00（講義室19） 講師：伊藤ふみ子准教授 対象者：看護学科教員（参加者46名） 内容：本学の国家試験対策は、全国平均合格率を上回ることができている。その背景として、低学年からの段階的継続的な支援によるものである。低学年からの国家試験対策は、成績低迷者を早期に割り出し、個別指導や支援へとつながることができる。本学の国家試験対策について紹介した。 11. <u>チューターの在り方についての研修</u> 実施日：2024年9月18日16：00～17：30（講義室19） 対象者：看護学科教員（参加者46名） 講師：倉田慶子教授 内容：各学年のチューター教員より、前期の定期試験、履修状況より成績低迷者や学籍移動となった学生等の情報交換を行うとともに、今後の支援内容の検討を行った。また、成績低迷者は、休退学につながる場合が多いため、出席状況が芳しくない学生は早期にチューター面談等を行うこととなった（資料なし）。 12. <u>問題行動のある学生へ行動変容を促す支援について①</u> 実施日：2024年11月20日（講義室19） 講師：田中秀子教授 対象者：看護学科教員（参加者46名） 内容：青年期にある大学生は、心身の変化に伴い問題行動を起こしてしまう場合がある。それらの問題行動から休退学へ繋がる場合も多いとされえている。問題行動をとる学生の支援方法について、事例を通して検討した（資料あり）。 13. <u>問題のある学生へ行動変容を促す支援について②</u> 実施日：2024年度12月18日（講義室19） 講師：渡部節子教授 対象者：看護学科教員（参加者46名） 内容：マナーやルールを守らないなどの問題行動のみられる学生が、自らを振り返り行動変容を促すことのできる支援方法を検討した（資料あり）。 14. <u>個性豊かな学生を指導するヒント②～発達の視点で学生をとらえて指導する～</u> 実施日：2025年3月13日15：30～16：00 対象者：看護学科教員（46名参加予定） 講師：倉田慶子教授、本間誠淳助教 内容：発達障害や精神疾患をもつ学生の臨地実習での学修上の特徴を事例で提示し、その支援方法について具体的に検討していく（資料資料あり）。	

2024年度（前期）保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻におけるFD活動の実績

F D 活動重点項目と各項目に対する活動の実施内容				
①教育の質的向上 ②学力低減者への支援策 ③休退学者防止 ④初年次教育				⑤その他
1. 教育の質的向上（含：学力低減者への支援策、休退学者防止、初年次教育）に関するFD研修（1） 実施日時：2024.6.19(水) 11:30～11:50 実施場所：義肢装具室 研修タイトル：シラバスの役割について 教育リソース名：大阪大学教育推進機構によるe-learningプログラム（chapter1） 対象者：理学療法学専攻教員（参加者数：13名） 配布資料：（資料①②③④-1） 内容：講演の概要について説明し、講演終了後、参加者全員で意見交換を行った。内容を以下に示す。シラバスの役割について。シラバスは授業全体の設計図である。(1) 学生にとってのシラバスの役割とは①授業選択ガイドとして②契約書として：学生と教員の間での契約→シラバスに基づいて学生は学び、教員は学生が到達目標を達成できるように指導する→授業内容を変更する場合には、教員は学生にシラバスを配り直して共有する必要がある③学習効果を高める文書として→授業の計画をより詳しく書いたり、もっと学びたい人のための参考文献リストを書いたりする④教員と学生の人間関係づくりのツールとして→シラバスは0回目の授業⑤授業の雰囲気や伝える文書として→シラバスは0回目の授業(2) シラバスは授業全体を設計する書類。				1. FD活動に関する研修（1） 実施日時：2024.1.31(水) 13:30～13:40 実施場所：教員研究室等 講演タイトル：リハビリテーション学科における2024年度重点項目について 講師名：鶴見学科長 対象者：理学療法学専攻教員（参加者数：14名） 配布資料：なし 内容：(1) 2024年度のリハ学科重点目標の相互構成について。(2) 2024年度におけるリハ学科の事業計画について。「経常経費補助金の獲得増および私立大学等改革相互支援事業の採択」における重点項目として、①IR機能の強化、②学修成果等の視覚化、③アドミッション・オフィサーの配置、④高等学校を教育と大学教育の連携強化、⑤教育リソースの活用、等が挙げられる。(3) OT専攻定員確保。(4) 休退学者減少に向けて。(5)学修支援・国家試験対策支援については、入学者全員卒業と国家試験合格率、全員就職を達成すべく4つの活動を実施する。(6) FD・SD研修の充実、及び2つのポリシーを踏まえた自己点検・評価および認証評価への取り組み。(7) キャリア支援
2. 教育の質的向上（含：学力低減者への支援策、休退学者防止、初年次教育）に関するFD研修（2） 実施日時：2024.6.26(水) 10:50～11:30 実施場所：義肢装具室 対象者：理学療法学専攻教員（参加者数：10名） 配布資料：（資料①②③④-2） 内容：講演の概要について説明し、講演終了後、参加者全員で意見交換を行った。内容を以下に示す。(1) 大学カリキュラムの構造 シラバスは科目を設計して示すもの。①授業設計の手順：バックワード・デザイン（逆向き設計）、②学生は何ができるようになるのか、③目標達成をどのように確かめるのか、目標達成のために何をどのようにどの順番で教えたらいのか、というように学生中心で授業を設計していく。(2) 到達目標の設定 学生を主語にして書く。①授業終了後に学生は何ができるようになるのかを書く。②到達目標は測定できるように書く。③到達目標のレベル設定 ジャンプすれば届くレベルに設定する。④目の前の学生のレベルに合わせる。(3) 到達目標の領域を意識する。①認知領域：講義など運動領域：実験、演習など。②情意領域：課題に対してどのくらい意欲を持って取り組んだか。③到達目標は動詞を使って表現する。④よい到達目標は評価（測定）できる。学習目標を達成するために、授業設計を念頭に置いてシラバス書くことはあまり意識していなかったので勉強になった、等の意見が聞かれた。				2. FD活動に関する研修（2） 実施日時：2024.7.3(水) 11:20～11:40 実施場所：義肢装具室 講演タイトル：アセスメントポリシーの意義と実際 講師名：鶴見学科長 対象者：理学療法学専攻教員（参加者数：13名） 配布資料：（資料⑤-1） 内容：前回の認証評価より先送りとなっていたリハビリテーション学科のアセスメント・ポリシーについて、鶴見学科長より説明がなされた。(1) 大学教育における「3ポリシー」の導入(2) リハビリテーション学科のDRCRAPとアセスメントポリシーとの関連(3) アセスメント・ポリシーについて(4) アセスメント・ポリシーの指標と具体化について(5) アセスメント・ポリシーの指標と具体化について。お講演後、質疑応答等ディスカッションを行った。
3. 授業参観（1） 担当者：大村講師 授業科目名：義肢・装具学Ⅱ 授業タイトル：片麻痺者の生活期の下肢装具 使用教室：義肢装具室 授業時間：7月5日（金）1 限（対象学年：2 年） 参加者：理学療法学専攻教員 5 名 己装着的工夫(5) 下肢装具の外観の工夫(6) 義肢装具福祉用品ユーザーのファッションショー「かっこよさへの挑戦」視聴(7) レポート作成。担当者による授業の進行中、各参加者に授業参観シートの記入を行ってもらった。授業終了後、各参加者により授業評価項目のチェックと自由記載がなされたシートを授業担当者に渡してフィードバックを行った。				
4. 教育の質的向上（含：学力低減者への支援策、休退学者防止、初年次教育）に関するFD研修（3） 実施日時：2024.7.17(水) 10:50～11:10 実施場所：義肢装具室 研修タイトル：授業スケジュールおよび授業改善について 教育リソース名：大阪大学教育推進機構によるe-learningプログラム（chapter3,4） 対象者：理学療法学専攻教員（参加者数：14名） 配布資料：（資料①②③④-4） 内容：講演の概要について説明し、講演終了後、参加者全員で意見交換を行った。講演の内容を以下に示す。(1) スケジュールを詳細に示すことで、シラバスは学習のガイドになる。①何を教えるのか？、②教える内容の決定 重要なことを厳選する（→網羅主義）、③授業外での学習内容もシラバスに書き込む例：家で教科書を読ませる→一学生にとって、学習のガイドになる。④どの順番で教えるのか？、⑤階層型 基礎から応用に、⑥らせん型 トピックを積み上げていく、⑦到達目標達成のための道筋を考える、⑧グラフィックシラバス 図示化して各授業間の関係性を表現する、⑨グラフィックシラバスには、課題や試験の情報も書き込むことができる→一学生は学習のスケジュールを立てることができる。(2) 授業を改善するためには？、①授業設計のサイクル 到達目標から学習評価までのシラバスの一貫性に加えも参考に、④授業設計を繰り返すことで授業改善につながる。				
5. 授業参観（2） 担当者：山田教授 授業科目名：理学療法研究法 授業タイトル：研究の質を高めるには 使用教室：講義室8 授業時間：7月22日（月）4限（対象学年：3年） 参加者：理学療法学専攻教員6名 配布資料：（資料①②③⑤） 授業内容：(1) 研究の質を高めるには①研究には誤差がつきもの②誤差の種類(2) 偶然誤差とその対策①誤差の種類②偶然誤差③偶然誤差への対策(3) 系統誤差とその対策①誤差の種類②バイアス③誤差の種類④選択バイアス⑤選択バイアスへの対策⑥誤差の種類⑦情報バイアス⑧情報バイアスへの対策⑨その他のバイアス⑩どんなRCTでもエビデンスレベルが高いと言えるのか？ 担当者による授業の進行中、各参加者に授業参観シートの記入を行ってもらった。授業終了後、各参加者により授業評価項目のチェックと自由記載がなされたシートを授業担当者に渡してフィードバックを行った。				
6. 教育の質的向上（含：学力低減者への支援策、休退学者防止、初年次教育）に関するFD研修（4） 実施日時：2024.8.14(水) 10:50～11:10 実施場所：義肢装具室 研修タイトル：『講義法は時代遅れ？』『学生が寝ない授業にするには？』 教育リソース名：大阪大学教育推進機構によるe-learningプログラム（講義法 Chap.1,2） 対象者：理学療法学専攻教員（参加者数：12名） 配布資料：（資料①②③④-6） 内容：講演の概要について説明し、講演終了後、参加者全員で意見交換を行った。パート1. 講義法は時代遅れ？・講義法は知識伝達には有効・学習とは既にある知識を元に新しい知識をアクティブに取り込むプロセス・講義法の目的は長期記憶に情報をもたらすこと・講義法の定義：「学生が理解し記憶することを目的として教員が必要に応じて視聴覚メディアを使いながら口頭で知識を伝達する教育技法」・講義法では教員の身体そのものがメディア1 関西FD連絡協議会 シリーズ 大学の授業を極める（1）講義法 自学自習用ハンドアウト パート2. 学生が寝ない授業にするには？・授業は三部構成で・導入では前回の復習をすることで学習効果を高める・授業は15分単位で区切る・トピックスは増やし過ぎず絞り込む・違和感や矛盾は知的好奇心の喚起に有効・7分に1回、変化を加える。				

2024年度（後期）保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻におけるFD活動の実績

F D活動重点項目と各項目に対する活動の実施内容				
①教育の質的向上	②学力低迷者への支援策	③休退学者防止	④初年次教育	
1. 教育の質的向上（含：学力低迷者への支援策、休退学者防止、初年次教育）に関するFD研修（1） 実施日時：2024.10.9(水) 10:50～11:10 実施場所：義肢装具室 研修タイトル：わかりやすい授業と記憶に残りやすい教育法 教育リソース名：大阪大学教育推進機構によるe-learningプログラム（講義法 Chap.3,4） 対象者：理学療法学専攻教員（参加者数：12名） 配布資料：（資料①②③④-1） 内容：パート3. わかりやすい授業にするには？スキーマを呼び出しやすい授業を行う。スキーマは諸刃の剣でもある。学生の持つスキーマの確認を。授業の構造を示す。構造を口頭で伝える。パート4.記憶に残りやすく教えるには？情報はチャック化して提示する。内容は4つに整理する。自我を関与させる。アクティブラーニングを取り入れる。学習の形態を変えて繰り返す。講義法についてもっと学びたい人のための参考文献について。講演の概要について説明し、講演終了後、参加者全員で意見交換を行った。 2. 教育の質的向上（含：学力低迷者への支援策、休退学者防止、初年次教育）に関するFD研修（2） 実施日時：2024.10.23(水) 11:10～11:40 実施場所：義肢装具室 研修タイトル：『アクティブラーニングとは？』『学習意欲を高めるには？』 教育リソース名：FD教材「シリーズ 大学の授業を極める」、関西地区FD連絡協議会編 対象者：理学療法学専攻教員（参加者数：13名） 配布資料：（資料①②③④-2） 内容を学ぶ。学生が学ぶための仕掛けづくりが大切！、学習課題とは：「学生がどのような学習をすべきかを提示するもの」、重要なのは、魅力的な学習課題を設定すること。パート2. 学習意欲を高めるには？ アクティブラーニングでは、問いかけで考えさせる→学習意欲を高める。教師の言葉には説明・発問・指示の3種類がある、そのうち、発問と指示がアクティブラーニングには重要。質問とは：自分が答えを知りたいと問いかけること。発問とは：学習者を考えさせるために問いかけること。発問の効果高めるには指示が重要。発問は連続して使うと効果的。答え一つに定まらないほうが議論は盛り上がる。経験を学習に変えるためには、リフレクティブサイクルを意識する。その際の留意点は、1. 過去から未来へ、2. 具体を抽象化する、3. 事実だけでなく感覚を大切に。講演の概要について説明し、講演終了後、参加者全員で意見交換を行った。 3. 教育の質的向上（含：学力低迷者への支援策、休退学者防止、初年次教育）に関するFD研修（3） 実施日時：2024.11.27(水) 13:50～14:10 実施場所：義肢装具室 研修タイトル：『学生指導と学生評価』 講師名：中尾准教授 参加者：理学療法学専攻教員（参加者数：13名） 配布資料：（資料①②③④-3） 内容：1. 学生指導をする。(1) こんな授業になっていませんか？(1) 目的・目標。①メンターゲットが絞れておらず、項目を網羅することになっている。②個別の知識・技能中心。③目標を学習者の家で明確化できておらず、別の学習場面で生かせないまゝになっている。(2) 教材・学習課題。①教科書の内容・記述をそのまま教え、説明する。②盛り上がりをもって何を学んだかわからない。(3) 学習の流れと場の構造。①指導者の考える正答をさぐる関係性と正答主義の文化。③常に一方的で単なる学習。(4) 技とテクノロジー。①わかりにくく不明瞭な説明や支持、クイズ的な問いを中心管理的な指示中心、学習者に届ける意識がない。②学習者の意見や反応を受け止める間がない。(4) 評価。①評価しっぱなしでフィードバックがない。②授業の活動との整合性がない。2) 日々の「わかる」授業を構想するポイント。(1) 毎時間のメンターゲットをひとつに絞る。(2) 「目標と評価の一体化」を意識して、具体的な学生の姿で目標を明確にイメージする。まともを学生の言葉でイメージするのの一つの方法となる。(3) メンターゲットについて、それを学生自身につかませるような試行し表現する機会を設定する。(4) ③を授業のヤマ場において、授業のストーリーをシンプルに組み立てる。(5) 試行し表現する活動を評価のポイントとして意識する。(6) 計画は計画すること自体に意味があるとし、指導者の想定する「まとも」を越える学習が出てくることが目指す。3) ヒドゥン・カリキュラム。(1) 学生が学んでいるのは、教科書の内容だけなのか？(2) 学生たちは、臨床の先生方（PT・OT）の患者様への接し方・家族への説明の仕方、態度・仕事、そのすべてを感じて学んでいる。4) 教育評価の二つの目的。(1) 学生の実習・能力を誰もわかる形での確認。(2) 深く確かな学生把握に基づく実践の反省と改善。5) 評価するとは？。(1) 指導者は実習を進めながら、学生のいろいろなところが見えるし、見ようとしている（「見取り」）。(2) ただ実習中に熱心に聞いているように見えても、後で確認してみると理解できていなかったりと、学生の内で生じていることは、実習を進めているだけでは見えない。(3) 指導者側の責務を果たすために、学生の学習・理解度の実態を把握したい時、「評価」を意識することの意味がある。 4. 授業参観（1） 担当者：坂上教授 授業科目名：運動器系検査測定学演習 授業タイトル：徒手筋力検査法（MMT） 使用教室：PT実習室 授業時間：11月21日（木）2限（対象学年：2年） 参加者：理学療法学専攻教員4名 配布資料：（資料①②③④-4） 授業内容：講義内容は筋力検査の理論と実際についての演習である。検査の方法について講義したのち、学生同士でペアとなって演習を行った。演習では、身体部位の固定法や代償動作等について詳しく解説されていた。具体的な演習内容は以下の通りである。1. MMTの学習ポイントについて。運動名・筋名、肢位・固定、抵抗：抵抗部位、抵抗量、触知(palpation)：起始、付着、筋腹、代償運動(trick motion)、段階付けの判定基準。2. MMTの判定基準について。3. MMTの実際について（股関節）。1) 股関節屈曲のMMT。2) 股関節伸張のMMT。3) 股関節外転のMMT。4) 股関節屈曲位からの外転のMMT。5) 股関節内転のMMT。理学療法学専攻教員4名が授業参観を行いながら授業参観シートにチェックおよびフィードバックコメントを記載し、授業終了後、本人に渡した。授業のわかりやすさや教科書の活用方法等にポジティブな意見が多かった一方、途中でペアを変える、測定する位置を変える等の工夫があった方が良かったなどの意見も聞かれた。 5. 授業参観（2） 担当者：斎藤准教授 授業科目名：運動学演習 授業時間：12月2日（月）3限（対象学年：2年） 参加者：理学療法学専攻教員4名 配布資料：（資料①②③⑤） 授業内容：身体運動を客観的に把握し解析方法を理解し習得することを目的に、基礎運動学・運動機能学で学んだ身体運動のメカニズムについて実際の運動学の知識を基に、観察、計測、分析、考察を演習形式にて行う授業である。実際の授業はグループに分かれて各課題について計測を行い、計測結果と得られた情報からわかった事をレポートにまとめるというもので、重心動揺計、筋電計、筋力測定装置のグループに分かれてそれぞれの課題の元で計測を行った。参観対象者の授業内容は、重心動揺計、筋電計、筋力測定装置の計測準備と計測の実習であった。理学療法学専攻教員6名が授業参観を行いながら授業参観シートにチェックおよびフィードバックコメントを記載し、授業終了後、本人に渡した。「電極の貼り付け位置について、わかりやすく明確に指示すべきではないか」、「演習課題を具体的に提示し、測定・分析の手順を資料で示した方が良い」とする指摘が見られた反面、学生たちが楽しそうに実習を行っているのが印象的であった」とのコメントも見られた。 6. 教育の質的向上（含：学力低迷者への支援策、休退学者防止、初年次教育）に関するFD研修（4） 実施日時：2025.12.11(水) 11:10～11:30 実施場所：各教員研究室 研修タイトル：『学生が理解しやすい授業を行うためには』 講師：小林教授 対象者：理学療法学専攻教員（参加者数：14名） 配布資料：（資料①②③④⑥） 内容：スキーマとは、過去の知識の体系、データベース。人は学習を行うとき、文章を読んだり、話を聞いたりして情報を取得し、脳内で情報処理を行ったうえで理解する。この「わかる」という過程において、重要な働きをするのがスキーマと言われている。具体的には、導入、展開、まとめを15分単位で区切るとよい。実際に、授業は90分あるので、適度な間隔で注意力の喚起が必要となる。注意喚起の方法としては、生理的喚起、認知的喚起、変化などがある。人の脳は説明の内容が構造化されていると理解しやすいと言われている。構造化の方法について、いくつかの例を紹介する。授業の構造を口頭で説明するものも良い。「方向指示」、「強調」、「関連付け」などがある。 7. 教育の質的向上（含：学力低迷者への支援策、休退学者防止、初年次教育）に関するFD研修（5） 実施日時：2025.1.12(水) 11:10～11:30 実施場所：義肢装具室 研修タイトル：『アクティブラーニングに効果的に書く活動を取り入れるには？』『グループ学習を上手く運営するには？』 教育リソース名：FD教材「シリーズ 大学の授業を極める」、関西地区FD連絡協議会編対象者：理学療法学専攻教員（参加者数：13名） 配布資料：（資料①②③④⑦） 内容：パート3. 効果的に「書く活動」を取り入れるには？・書くことのメリットは「保存性」・学生に提出物を管理させるには、のちの学習で使うことを事前に指示しておく・ミニツツペーパー：授業で配布し、学生に疑問点・要約などを数分間で記入してもらい回収する紙のこと。出席を確認する、内容の理解度を評価する、次回の授業で話題にするなどで活用できる。・大看板：教員と学生の間でコミュニケーションを取れる紙のこと。学生の内海のコメントを一覧できるのが特徴。・これらを組み合わせた活用も効果的・書く時間を確保する方法① 授業時間外に書いてもらう② ICTを活用する③ LMS（Learning Management System）を活用する。・携帯端末も活用していく。→最終的に、学生が自身の力でまとめられるようになる。パート4. グループ学習をうまく運営するには？・グループワークは事前の設計が大切・学習形態の3種類をうまく組み合わせる・フリーライダーを生まないために・グループワークのルールを明確化する。・グループワークそのものを評価する・グループワークは少人数単位で行う。・グループ編成の3つの方法・座席の種類・指導が必要な場合：アイルランド型・指導が必要な場合：サークル型、分散型が効果的・発言しない学生をグループワークに参加させる工夫を行う。・話す方だけがアクティブにならないように、グループ発表の際の工夫を行う。・教員個人だけでなく、カリキュラム全体でアクティブ・ラーニングを見直すことが重要。講演の概要について説明し、講演終了後、参加者全員で意見交換を行った。				

2024年度前期 保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻におけるFD活動の実績

2024年度前期 リハ学科作業療法学専攻FD活動重点項目			
1)学力低迷者への支援策、教育力向上	2)休退学者防止	3)受験生の獲得	4)その他
1. 昨年度の結果を踏まえた国家試験対策の工夫についての研修 実施日時・場所: 2024.4.26(水) 11:00～11:30(カンファレンス室3) 講師名: 三川年正 対象者: OT専攻教員全員 配布資料: あり 内容: 昨年度の結果を踏まえ、今年度は、チューター制度を活用し、チューター担当学生のしっかりしたフォローを行いつつ、100%合格を目指す方針が示された。 2. 授業参観(1) 科目名: 作業療法評価学 担当教員: 宮内貴之 実施日: 2024年5月8日 参観者数: 1名 3. 国家試験対策の在り方についての研修 実施日時・場所: 2024.8.7(水) 11:00～11:30(カンファレンス室3) 講師名: 田島明子 対象者: OT専攻教員全員 配布資料: あり 内容: これまでの国家試験対策の在り方を踏まえ、今年度100%合格に向けて、国家試験チューター制度を設けて、学生を割り振り、さらに個別的・丁寧な指導をすることとなった。 4. 授業参観(2) 科目名: 運動学Ⅰ 担当教員: 神保洋平 実施日: 2024年4月23日 参観者数: 1名 5. 国家試験対策の在り方についての研修 実施日時・場所: 2024.9.25(水) 11:00～11:30(カンファレンス室3) 講師名: 田邊浩文専攻長、三川年正 対象者: OT専攻教員全員 配布資料: あり 内容: 4年生の国家試験勉強の取り組み状況について、実施した模擬試験を踏まえ、現状と課題、今後の対策について教員に丁寧な説明がなされた。	1. 他大学のFD活動状況についての研修 実施日時・場所: 2024.6.12(水) 11:00～10:30(カンファレンス室3) 講師名: 田邊浩文専攻長 対象者: OT専攻教員全員 配布資料: あり 内容: 他大学において、具体的にどのようなFD活動を実施しているが、各大学のFD活動規定が紹介され、本学作業療法学専攻において、2024年度FD活動方針に則りどのような活動を行うべきかについて話し合いが行われた。 2. 他校における臨床実習教育の状況の研修 実施日時・場所: 2024.8.7(水) 11:00～11:30(カンファレンス室3) 講師名: 神保洋平 対象者: OT専攻教員全員 配布資料: あり 内容: 臨床実習教育において成績不良となり、休退学につながる学生が毎年一定数いるため、他校における臨床実習教育の状況を知り、本学の教育体制に活かすため、本学教員の前任校における臨床実習教育の状況について報告がなされた。	1. 産学連携のアクティブラーニングの機会創出についての研修 実施日時・場所: 2024.5.15(水) 11:00～11:30(カンファレンス室3) 講師名: 田島明子 対象者: OT専攻教員全員 配布資料: なし 内容: 教育力向上として、より実践的なアクティブラーニングの機会として、当事者の人権に着目した神奈川県が行う産学連携の学生参加の企画があったため、その紹介を行い、本学作業療法学専攻として想定できる取組についての紹介も行った。 2. 今年度のオープンキャンパスの在り方についての研修 実施日時・場所: 2024.4.17(水) 11:00～11:30(カンファレンス室3) 講師名: 西野由希子 対象者: OT専攻教員全員 配布資料: あり 内容: 昨年度を踏まえ、今年度実施するオープンキャンパスの方針について説明がなされた。各教員の専門領域をわかりやすく高校生に説明できるようにブースを設置することとなった。また、キャンパスツアーは、PT・OT両方の見学が行えるように変更すること等の説明がなされた。	1. OT専攻における2024年度FD計画の策定 実施日時・場所: 2024.4.17(水) 11:00～11:30(カンファレンス室3) 講師名: 田島明子 対象者: OT専攻教員全員 配布資料: あり 内容: 2023年度FD活動の振り返りおよび2024年FD・SD活動における重点項目をもとにOT専攻の2024年度FD計画の策定するよう指示があった。そのことを受け、OT専攻としての2024年度FD計画の方針を決定すべく専攻内で意見交換を行った。その結果OT専攻における課題・テーマと優先順位として、①学力低迷者への支援策、②教育力向上、③休退学者防止とすることに決定し、役割分担を明確化した。 2. アセスメントポリシーの実際に関する研修 実施日時: 2024.7.3(水) 9:40～10:20 実施場所: 義肢装具室 講師名: 鶴見隆正学科長 講演タイトル: アセスメントポリシーの実際について 対象者: 理学療法学専攻及び作業療法学専攻教員 配布資料: あり 内容: 大学教育において3ポリシーが導入されたことを受けて、DP、CP、APの関連性はどのようなものであるか、アセスメントポリシーが、学生の学修成果の評価について、その目的、達成すべき質的水準及び具体的実施方法などについて定めた学内の方針であることの説明がなされた。アセスメント・ポリシーの指標と具体化について、本学のカリキュラムに即した説明がなされ、ご自身の担当科目であるリハビリテーション概論のなかでのアセスメントの方針と方法がわかりやすく提示された。

2024年度後期 保健医療学部リハビリテーション学科作業療法学専攻におけるFD活動の実績

2024年度後期 リハ学科作業療法学専攻FD活動重点項目		
1)学力低迷者への支援策、教育力向上	2)休退学者防止	3)受験生の獲得
1. 国家試験対策の在り方についての研修 実施日時・場所: 2024.10.16(水) 11:00～11:30(カンファレンス室3) 講師名: 三川年正 対象者: OT専攻教員全員 配布資料: あり 内容: 昨年度と比較し、模擬試験の結果が芳しくなく、チューター担当学生のしっかりしたフォローと現時点での目標点数等が示された。集中的な勉強を要する学生のリストを示し、対策を検討した。 2. 授業参観(1) 科目名: 老年期作業療法学Ⅱ 担当教員: 岡本絵里加 実施日: 2024年11月26日 参観者数: 1名 3. 国家試験対策の在り方についての研修 実施日時・場所: 2024.12.4(水) 11:00～11:30(カンファレンス室3) 講師名: 三川年正 対象者: OT専攻教員全員 配布資料: あり 内容: 今後の模擬試験スケジュールについての確認と成績を踏まえた合格者の評価基準についての検討を行った。 4. 授業参観(2) 科目名: 作業療法評価学総合講義 担当教員: 杉村直哉 実施日: 2024年12月11日 参観者数: 1名 5. 国家試験対策の在り方の検討 実施日時・場所: 2024.12.18(水) 11:00～11:30(カンファレンス室3) 講師名: 田邊浩文専攻長、三川年正 対象者: OT専攻教員全員 配布資料: なし 内容: 4年生の国家試験対策の状況を踏まえ、年末年始に集中的に勉強の取り組むための教室を開設し、教員間で、教室の監督をし、学生の集中力を高める配慮を行うことを検討した。	1. これまでの休退学者の状況整理と課題把握の研修 実施日時・場所: 2024.10.16(水) 11:00～10:30(カンファレンス室3) 講師名: 鈴木雄介 対象者: OT専攻教員全員 配布資料: なし 内容: これまでの休退学者の状況についての振り返りがなされ、休退学を未然に防ぐための対策について教員間で検討を行った。 2. 2024年度卒業生の休退学者の状況整理と課題把握の研修 実施日時・場所: 2024.1.29(水) 11:00～11:30(カンファレンス室3) 講師名: 田島明子 対象者: OT専攻教員全員 配布資料: あり 内容: 2021年度入学生の4年間の休退学の動向について整理を行い、休退学を未然に防ぐための対策について教員間で検討を行った。	1. オープンキャンパスにおける作業療法の魅力発信の成果と課題についての研修 実施日時・場所: 2024.1.15(水) 11:00～11:30(カンファレンス室3) 講師名: 西野由希子 対象者: OT専攻教員全員 配布資料: あり 内容: 今年度のオープンキャンパス実施後の参加者アンケートを踏まえて、実施内容について概ね良好な評価を得ていたことを踏まえ、次年度、さらに作業療法の魅力を発信するための方策について提案がなされた。

全 体 研 修 会 プ ロ グ ラ ム

(湘南医療大学)

■日時: ① 令和5年4月24日(水)13:30～15:30 ② 5月22日(水)13:30～15:30

■対象: 一般職・管理職

■場所: 各施設所定の会場

時間	研修内容
	薬学部
13:30-13:40 (10分)	ふれあいグループが目指すもの 大屋敷理事長
13:40-13:50 (10分)	《FD・SD研修① : 学部理念・教育目標》 ～教育職員(新任教員含む)に向けた学部教育～ ①薬学部の教育目的、教育方針及び研究のありかた ー3つのポリシー、研究の実態と科研費等競争的資金の採択状況ー 担当: 鈴木 薬学部長
13:50-14:20 (30分)	②5つの活動の実践(1) 部門PDC(3月のC 4月のPD) ・薬学部 薬学部教員 木村 聡一郎 ・事務部 薬学部事務担当
14:20-14:40 (20分)	③5つの活動の実践(2) ・業務改善(課業表)・全体研修会・朝礼・6S活動 担当: 山田主任
14:40-15:00 (20分)	《FD研修② : 休退学者の減少》 学生が主体的に学べるための理解しやすい授業の工夫 (模擬授業等実践例) 担当 薬学部教員 高橋 央宜
15:00-15:30 (30分)	《FD研修③ : OSCE・CBT試験対策》 Sプロジェクトの実行から OSCE・CBT試験合格に向けて ①Sプログラムの説明 湯本教授 ②過去の試験結果から見えた技能と評価の課題 薬学部教員 担当 薬学部教員 石川 吉伸

全 体 研 修 会 プ ロ グ ラ ム

(湘南医療大学)

■日時: ① 令和5年4月24日(水)13:30～15:30 ② 5月22日(水)13:30～15:30

■対象: 一般職・管理職

■場所: 各施設所定の会場

時間	研修内容
	保健医療学部
13:30-13:40 (10分)	ふれあいグループが目指すもの 大屋敷理事長
13:40-13:50 (10分)	《FD・SD研修① : 学部の理念・教育目標》 ～教育職員(新任教員含む)に向けた学部教育～ ①保健医療学部の教育目的、教育方針及び研究のありかた ー3つのポリシー、研究の実態と科研費等競争的資金の採択状況ー 担当: 寺本保健医療学部長(副学長)
13:50-14:20 (30分)	②5つの活動の実践(1) 部門PDC(3月のC 4月のPD) ・看護学科 看護学科 田中教授 ・PT学専攻 PT学専攻教員 柴田 昌和 ・OT学専攻 OT学専攻教員 西野 由希子
14:20-14:40 (20分)	③5つの活動の実践(2) ・業務改善(課業表)・全体研修会・朝礼・6S活動 担当: 小林部長
14:40-15:00 (20分)	《FD研修② : 休退学者の減少》 学生が主体的に学べるための理解しやすい授業の工夫 (模擬授業等実践例) 担当 看護学科 石川教授 リハ学科教員 PT:大村 優慈, OT:田島明子
15:00-15:30 (30分)	《FD研修③ : 国家試験対策》 国家試験結果と今年度の年間計画 ①国家試験結果から見えた課題 不得意科目、躓きやすい科目への対応 担当 看護学科 小林教授、PT学専攻教員 坂上昇、OT専攻教員 三川年正

全 体 研 修 会 プ ロ グ ラ ム

(湘南医療大学)

■日時: ① 2024年7月24日(水) もしくは②2024年8月28日(水) 13:30~15:30

■場所: 講義室4(保健医療学部)、講義室7(薬学部)

時間	研修内容
	薬学2
13:30-13:40 (10分)	ふれあいグループが目指すもの 大屋敷理事長
13:50-14:00	酸化ストレスタンパク質の疾患バイオマーカーとしての可能性(須藤遥)
14:00-14:10	薬学教育における実習教材としてのメダカの有用性(殿山泰弘)
14:10-14:20	Trichosporon asahii の病原因子の探索(市川智恵)
14:20-14:30	ATL特異的増加タンパク質をコードする遺伝子の増幅(石田洋一)
14:30-14:40	ジョン・リリー(1554-1606)『ミダス』について(須田篤也)
14:50-15:00	肝臓における脂質代謝系の性差解析(山崎泰広)
15:00-15:10	ヒト皮膚ケラチノサイトにおけるプロテアーゼ活性化受容体を介したサイトカイン応答(石橋芳雄)
15:10-15:20	ゲンタマイシンによる骨芽細胞の細胞毒性に対するIGF-1の回復効果(木村聡一郎)
15:20-15:30	神経ペプチドPACAPによる神経突起の伸長機構について(塩田清二)
15:30-15:40	関節リウマチ患者における薬の使用上の課題(定本清美)

全 体 研 修 会 プ ロ グ ラ ム

(湘南医療大学)

■日時: ① 2024年7月24日(水) もしくは②2024年8月28日(水) 13:30~15:30

■場所: 講義室4(保健医療学部)、講義室7(薬学部)

時間	研修内容
	看護1
13:30-13:40 (10分)	ふれあいグループが目指すもの 大屋敷理事長
13:40-13:50	「慢性疾患患者に対するアドバンス・ケア・プランニングの概念分析」についての文献検討(関谷潤)
13:50-14:00	本邦における月経に対する支援についての文献検討(野井恵加)
14:00-14:10	地域包括支援センター看護職が夫介護者を地域の水平的組織につなげる支援と夫介護者の変容のプロセス(高橋美保)
14:10-14:20	若年性認知症者への就労支援における基礎的調査(佐々木博之)
14:20-14:30	新人看護職のSOC(Sense of Coherence)に関する文献レビュー(渡部李菜)
14:30-14:40	がん患者とその家族への看護相談の実践にリフレクションを取り入れた関わりの変化(三堀いずみ)
14:40-14:50	精神障がい者の恋愛・結婚に関するオンラインプログラムの開発と評価:ランダム化比較試験(日下桃子)
14:50-15:00	Caring partnership with nurse and HEC praxis(倉橋悠子)
15:00-15:10	集中治療室における新人看護師が経験する困難と支援(松永雄至)
15:10-15:20	『わが国の感染症看護専門看護師および感染管理認定看護師の地域における感染対策活動とそのネットワークに関する文献検討』(野口京子)
15:20-15:30	COVID-19拡大に伴う自粛生活による1型糖尿病患者の心身への影響(陶山克洋)
15:30-15:40	コロナ発生後における地域活動への参加交流に対する都市在住高齢者の意識<第1報>(塚原ゆかり)

全 体 研 修 会 プ ロ グ ラ ム

(湘南医療大学)

■日時: ① 2024年7月24日(水) もしくは②2024年8月28日(水) 13:30~15:30

■場所: 講義室4(保健医療学部)、講義室7(薬学部)

時間	研修内容
	看護2
13:30-13:40 (10分)	ふれあいグループが目指すもの 大屋敷理事長
13:40-13:50	看護職の心理的安全性と組織に関する文献レビュー(栗原良子)
13:50-14:00	HPVワクチン接種後有害事象発現者が、新型コロナワクチン接種を受ける際に必要な支援(松尾優香)
14:00-14:10	『一般不妊治療を受けている女性の思い』の文献レビュー(黒川領子)
14:10-14:20	地域包括支援センター保健師に関する研究の動向(大高のぶえ)
14:20-14:30	救急・集中治療領域におけるDNAR方針患者・家族への関わりについての文献検討(坂口達哉)
14:30-14:40	村松志保子氏の助産師活動・教育における文献検討(是永奈央)
14:40-14:50	看護大学生の自己調整学習に関する文献レビュー(黒田由香理)
14:50-15:00	訪問看護師が行う判断に関する文献レビュー(市川砂織)
15:00-15:10	訪問看護師に対しての研修内容に関する文献検討(石橋史子)
15:10-15:20	コロナ禍における臨地実習の変容がもたらした影響(櫻井友子)
15:20-15:30	子育て世代包括支援センターにおける連携に関する文献検討(山崎真帆)
15:30-15:40	更年期女性の更年期症状への関連因子についての横断研究(今野和穂)

全 体 研 修 会 プ ロ グ ラ ム

(湘南医療大学)

■日時: ① 2024年7月24日(水) もしくは②2024年8月28日(水) 13:30~15:30

■場所: 講義室4(保健医療学部)、講義室7(薬学部)

時間	研修内容
	リハビリテーション
13:30-13:40 (10分)	ふれあいグループが目指すもの 大屋敷理事長
13:50-14:00	神経解剖学と脳画像評価に対するセラピストの意識調査(大村優慈)
14:00-14:10	「フォトボイス」の手法による脳卒中障害者の働く場における探索的ニーズ調査(西野由希子)
14:10-14:20	人工炭酸温水による足浴が下肢筋力向上と転倒予防への可能性について(中村壽志)
14:20-14:30	地域防災拠点における災害時要配慮者の受け入れに関する調査(下田栄次)
14:30-14:40	新生児の自発運動の計量化と動きの関連(斉藤琴子)
14:50-15:00	脳卒中後うつ病者のリハビリテーションの捉え方についてー脳卒中罹患者を対象とした質的調査ー(三川年正)
15:00-15:10	筋痛性脳脊髄炎/慢性疲労症候群当事者による作業の選択・継続に影響を与える要因ー複線経路・等至性モデリング(TEM)を用いた質的記述的研究ー(田島明子)
15:10-15:20	プロンプトフェイディング技法の指導効果ー介助時における身体接触時間への影響ー(小林和彦)
15:20-15:30	10年間の地域健康増進活動と今後の課題(鶴見隆正)

全 体 研 修 会 プ ロ グ ラ ム

(湘南医療大学)

■日時: ① 2024年7月24日(水) もしくは②2024年8月28日(水) 13:30~15:30

■場所: 講義室4(保健医療学部)、講義室7(薬学部)

時間	研修内容
	薬学1
13:30-13:40 (10分)	ふれあいグループが目指すもの 大屋敷理事長
13:50-14:00	横浜市の下水処理施設近傍の水域を対象とした薬剤耐性菌の存在実態(曾川甲子郎)
14:00-14:10	放線菌株単離の条件検討(江川大地)
14:10-14:20	新規膀胱がん治療薬開発を目的としたインディルビンー亜鉛錯体の創製(市丸嘉)
14:20-14:30	γ Sクリスタリンにおけるアスパラギン残基の脱アミド化による凝集促進(加藤紘一)
14:30-14:40	真菌代謝産物からの抗血小板活性物質の探索(中橋奨)
14:40-14:50	天然由来有用化合物の供給に関する研究(片川和明)
14:50-15:00	神奈川県での飲酒の頻度・量と肝機能の相関解析(加藤英明)
15:00-15:10	AS-MSによるRAD52阻害剤探索のための条件検討(石川吉伸)
15:10-15:20	新規エストロゲン受容体アンタゴニストの創製(栗原正明)
15:20-15:30	タンパク質中に生成したスクシンイミド中間体のラセミ化:リン酸水素イオンによる触媒作用の可能性の計算化学的検討(高橋央宜)
15:30-15:40	不斉エナミノンの反応性に関する研究(東山公男)

全体研修会プログラム 大学

■日時:2024年9月18日(水) / 10月16日(水)のいずれか一回、必ず動画聴講する

■対象:管理職・一般職

■場所:各施設所定の会場

135分

9月10月

10分	ふれあいグループのめざすもの	大屋敷理事長	全職種 対象
40分	《グループ5つの活動：部門PDC(7月PDC)》 1.看護学科 2.リハビリ学科（PT学専攻） 3.リハビリ学科（OT学専攻） 4.薬学部	司会 学園小林 看護学科 倉田教授 PT学専攻 中村講師 OT学専攻 神保講師 薬学部 木村教授	
30分	《グループ5つの活動：業務改善》 1. 課業表作成の意義 2. 業務改善計画を達成するには正しい課業表が必要 3. 現在の大学の提出状況(全員提出)	司会 秋田事務責任者 渡辺（邦）エリア長	
15分	人事部関連	人事部	
15分	《FD/SD研修：重点目標（IR部門の強化）》 休退学者の減少、入学定員確保、国試対策等の改善に取り組むため情報収集 どのようなデータを収集し、課題解決するのか。データの整理の仕方や活用方法を他大学の事例を踏まえた研修	石岡（IR担当）	
15分	《FD研修：重点項目（研究活動）》 研究活動における不正行為の防止について 研究不正防止に向けて、競争的研究費の応募制限措置の考え方について説明する。	寺本副学長	
10分	《SD研修：今年の学生募集活動》 1. 今年の学生募集活動と経過 2. 高大連携活動の状況	土佐室長	

全体研修会プログラム

[大学 薬学部]

[11月・12月の部]

■日時:2024年11月27日(水) / 12月11日(水)のいずれか一回、必ずDVD聴講する

■対象:管理職・一般職

■場所:各施設所定の会場

時間	薬学部プログラム	
10分	ふれあいグループのめざすもの	大屋敷理事長
25分	≪グループ5つの活動:部門PDC(10月PDC)≫ 1.医療薬学科 教員 2.医療薬学科 事務	木村教授 山田主任
30分	≪グループ5つの活動:業務改善≫	渡辺(邦) エリア長
15分	人事部関連	人事部
15分	≪FD研修:重点項目(私立大学改革総合支援事業) (授業評価等の結果を生かした授業改善、教育活動改善への活用)≫ 学生が理解しやすい授業を行うためには(好事例発表)	栗原(正) 教授
10分	≪FD研修:経常費補助金・ICT活用技術の向上≫ ICT・セキュリティ教育	事務部 石岡IR担当
15分	≪FD/S D研修:重点項目(学生支援:CBT/OSCE対策)≫ 成績低迷者への学修指導方法 実務実習事前指導Ⅱ・Ⅲを通した知識・技能の定着方法の紹介、 CBT演習での反省点や課題点の発表	湯本 教授

※ 研修レポート提出必須

全体研修会プログラム

[大学 保健医療学部]

[11月・12月の部]

■日時:2024年11月27日(水) / 12月11日(水)のいずれか一回、必ずDVD聴講する

■対象:管理職・一般職

■場所:各施設所定の会場

時間	保健医療学部プログラム	
10分	ふれあいグループのめざすもの	大屋敷理事長
40分	≪グループ5つの活動：部門PDC(10月PDC)≫ 1.看護学科(東戸塚C) 2.看護学科(山手C) 3.リハビリ学科(PT学専攻) 4.リハビリ学科(OT学専攻)	看護学科 倉田教授 看護学科 三ツ井准教授 PT専攻 中村講師 OT専攻 神保講師
30分	≪グループ5つの活動：業務改善≫	渡辺(邦)エリア長
15分	人事部関連	人事部
20分	≪FD研修：重点項目(私立大学改革総合支援事業) (授業評価等の結果を生かした授業改善、教育活動改善への活用)≫ 学生が理解しやすい授業を行うためには(好事例発表)	看護学科 野口講師 リハ学科 小林(和)教授
10分	≪FD研修：経常費補助金・ICT活用技術の向上≫ ICT・セキュリティ教育	事務部 石岡IR担当
10分	≪FD/S D研修：重点項目(経常経費補助金事業項目)≫ 障害のある学生への支援 障害のある人への合理的配慮の提供義務化に対する対応について	OT専攻長 田邊教授

※ 研修レポート提出必須

全体研修会プログラム

[大学 薬学部]

[1月・3月の部]

■日時:2025年3月19日(水)

■対象:管理職・一般職

■場所:各施設所定の会場

時間	薬学部プログラム	
10分	ふれあいグループのめざすもの	大屋敷理事長
10分	5つの活動 【SD】PDC 12月C（結果分析・評価） 1月PD（目標・行動）	医療薬学科教員 (木村 聡一郎先生)
50分	今年度の重点目標⑨ 【FD】自己点検・評価の厳格化 薬学教育評価機構のプレ評価受審に向けて ア 教育研究上の目的及び3つのPを定期的に検証 イ 教育課程の編成及び実施の方針に基づき実施 ウ 学生の質向上に係る学修、教授、評価 エ 進級(留年) 判定にかかる基準の適正	薬学部教員 (石橋 芳雄先生)
15分	今年度の重点目標③ 【FD】学修支援・CBT/OSCE対策支援(1) 2024年度 OSCE終了（分析と評価）	薬学部教員 (加賀谷 肇先生)
15分	今年度の重点目標③ 【FD】学修支援・CBT/OSCE対策支援(2) 2025年度 CBT終了（分析と評価）	薬学部教員 (石川 吉伸先生)
15分	今年度の重点目標④ 【SD】入学定員の確保 現在までの募集活動・入試の分析と評価 2025年度の募集計画方針（高校訪問重点校・OCの開催など）	学部長 鈴木 勉先生
10分	【FD】学生相談 (ハラスメントのない快適なキャンパスの実現)	寺本 明 副学長

120分 ※ 研修レポート提出必須

全体研修会プログラム

[大学 保健医療学部]

[1月・3月の部]

■日時:2025年3月19日(水)

■対象:管理職・一般職

■場所:各施設所定の会場

時間	保健医療学部看護学科プログラム	
10分	ふれあいグループのめざすもの	大屋敷理事長
30分	5つの活動① 【SD】PDC 12月C（結果分析・評価） 1月PD（目標・行動）	東戸塚 看護学科教員 （ 倉田先生） 山手 看護学科教員 （ 伊藤先生）
15分	今年度の重点目標① 【FD】学修成果等の可視化 ディプロマサプリメントの導入に向けて	看護学科教員 (山勢 善江先生)
15分	今年度の重点目標④ 【SD】入学定員の確保 現在までの募集活動・入試の分析と評価 2025年度の募集計画方針（高校訪問重点校・OCの開催など）	看護学科教員 小林紀明先生
10分	今年度の重点目標⑥ FD・SD研修の充実(5つの活動) （6S活動）	看護学科教員 （ 黒田 先生）
10分	今年度の重点目標⑦ 【FD】3つのポリシーを踏まえた点検・評価 看護学科の3つのポリシーを踏まえた教育活動の点検・評価と改善点	学科長 （ 川本 利恵子 先生）
10分	今年度の重点目標⑨ 【FD】キャリア支援と地域社会への貢献(1) （就職指導状況の報告）	看護学科教員 （ 渡邊眞理 先生）
10分	今年度の重点目標⑨ 【FD】キャリア支援と地域社会への貢献(2) （公開講座）	看護学科教員 （ 田中 先生）
10分	【FD】学生相談 （ハラスメントのない快適なキャンパスの実現）	寺本 明 副学長

120分 ※ 研修レポート提出必須

全体研修会プログラム

[大学 保健医療学部]

[1月・3月の部]

■日時:2025年3月19日(水)

■対象:管理職・一般職

■場所:各施設所定の会場

時間	保健医療学部プログラム	
10分	ふれあいグループのめざすもの	大屋敷理事長
30分	5つの活動① 【SD】PDC 12月C（結果分析・評価） 1月PD（目標・行動）	リハビリテーション学科教員 （PT 櫻井 好美 先生） （OT 神保 洋平先生）
15分	今年度の重点目標① 【FD】学修成果等の可視化 ディプロマサプリメントの導入に向けて	看護学科教員 （山勢 善江先生）
15分	今年度の重点目標④ 【SD】入学定員の確保 現在までの募集活動・入試の分析と評価 2025年度の募集計画方針（高校訪問重点校・OCの開催など）	学科長 鶴見 隆正先生
10分	今年度の重点目標⑥ FD・SD研修の充実(5つの活動) （6S活動）	作業療法学専攻教員 （宮内 貴之先生）
10分	今年度の重点目標⑦ 【FD】認証評価への取組 リハビリテーション教育評価機構受審：結果と今後の改善点	リハビリテーション学科長 （坂上 昇先生）
10分	今年度の重点目標⑨ 【FD】キャリア支援と地域社会への貢献(1) （就職指導状況の報告）	教員 （森尾 裕志先生）
10分	今年度の重点目標⑨ 【FD】キャリア支援と地域社会への貢献(2) （公開講座）	作業療法学専攻教員 （田邊 浩文専攻長）
10分	【FD】学生相談 （ハラスメントのない快適なキャンパスの実現）	寺本 明 副学長

120分 ※ 研修レポート提出必須

全 体 研 修 会 プ ロ グ ラ ム

(湘南医療大学)

■日時: ① 令和7年4月16日(水)13:30～15:30 ② 5月14日(水)13:30～15:30

■対象: 一般職・管理職

司会進行: 山田事務責任者

■場所: 各施設所定の会場

講評: 鈴木(勉) 学部長、山田事務責任者

時間	研修内容 薬学部
13:30-13:40 (10分)	ふれあいグループが目指すもの 大屋敷理事長
13:40-13:50 (10分)	《FD・SD研修① : 学部の理念・教育目標・大学の理念の実践》 ～教育職員(新任教員含む)に向けた学部教育～ ①薬学部の3つのポリシー ②研究の実態と科研費等競争的資金の採択状況 担当: 鈴木勉・栗原正明教授
13:50-14:20 (30分)	②PDC活動 部門PDC(3月のC 4月のPD) ・薬学部 薬学部教員 木村聡一郎教授 ・事務部 薬学部事務担当 宮内雅義主任
14:20-14:40 (10分)	③5つの活動の実践 ・朝礼・6S活動 担当: 山田竜平主任
追加プログラム	【薬学部】 入学生を確保するための対策(学生募集) 担当: 山田竜平主任
14:40-15:00 (30分)	《FD研修② : 学修支援プログラム/ OSCE・CBT試験対策》 ①各学年別のSプロジェクトの説明 ～今年度の強化ポイントと科目担当、チューター、教育センターの連携～ 担当: 教育センター 湯本哲郎教授 ②OSCE/CBT試験に向けた今年度の対策(年間計画) ～ 不得意科目、躓きやすい科目への対応～ 担当: 国分秀也教授
15:00-15:30 (30分)	《FD研修③ : 休退学者の減少》 学生が理解しやすい授業(基礎科目・臨床科目)の工夫 (模擬授業等実践例) 担当 片川和明教授(基礎系科目) 佐野和美教授(臨床系科目)

全 体 研 修 会 プ ロ グ ラ ム

(湘南医療大学)

■日時: ① 令和7年4月16日(水)13:30～15:30 ② 5月14日(水)13:30～15:30

■対象: 一般職・管理職

司会進行: 秋田事務責任者

■場所: 各施設所定の会場

講評: 寺本副学長、秋田事務責任者

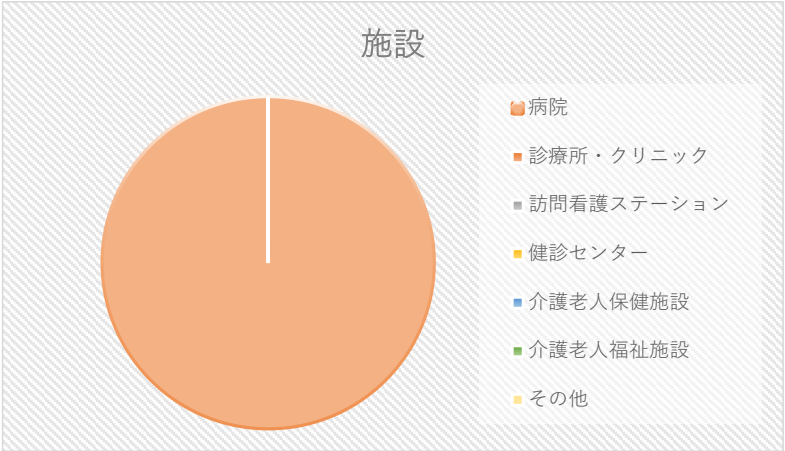
時間	研修内容 保健医療学部
13:30-13:40 (10分)	ふれあいグループが目指すもの 大屋敷理事長
13:40-13:55 (10分)	《FD・SD研修①：学部の理念・教育目標・大学の理念の実践》 ～教育職員(新任教員含む)に向けた学部教育～ ①保健医療学部の3つのポリシー ②研究の実態と科研費等競争的資金の採択状況 担当:寺本明保健医療学部長
13:55-14:25 (30分)	②PDC活動 部門PDC(3月のC 4月のPD) ・看護学科 看護学科 倉田慶子教授 ・PT学専攻 PT学専攻 森尾 裕志教授 ・OT学専攻 OT学専攻 久保田 清子講師
14:25-14:40 (10分)	③5つの活動の実践 ・朝礼・6S活動 担当:秋田事務責任者
14:40-15:00 (30分)	《FD研修②：休退学者の減少》 学生が主体的に学べるための理解しやすい授業の工夫（模擬授業等実践例） 担当 看護学科 三ツ井圭子准教授 PT学専攻 大森圭貢教授 OT学専攻 杉村直哉准教授
追加プログラム	【看護学科】 グループ施設への就職率向上のための対策 担当 伊藤 ふみ子 先生 【作業療法学専攻】 入学生を確保するための対策(学生募集) OT専攻 西野 由希子 先生(学生募集の方針)
15:00-15:30 (30分)	《FD研修③：国家試験対策》 国家試験結果と今年度の年間計画 ①国家試験結果から見えた課題 不得意科目、躓きやすい科目への対応 担当 看護学科 片山典子教授、PT学専攻 坂上昇教授、OT学専攻 三川年正 准教授

2026年度 湘南医療大学 定員増 ニーズ調査
アンケート(薬学部)

2026年度 湘南医療大学 定員増 ニーズ調査 アンケート(薬剤師)

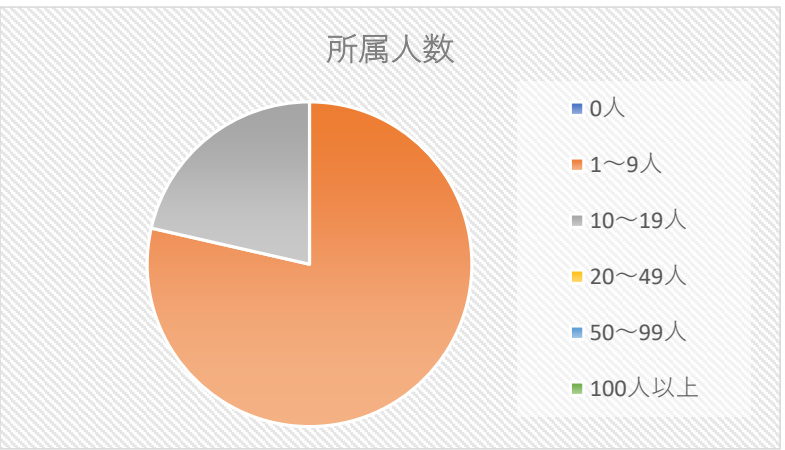
【問1】貴機関・貴施設の主業種についてお答えください。

	回答数	構成比
病院	14	100%
診療所・クリニック	0	0%
訪問看護ステーション	0	0%
健診センター	0	0%
介護老人保健施設	0	0%
介護老人福祉施設	0	0%
その他	0	0%
	14	



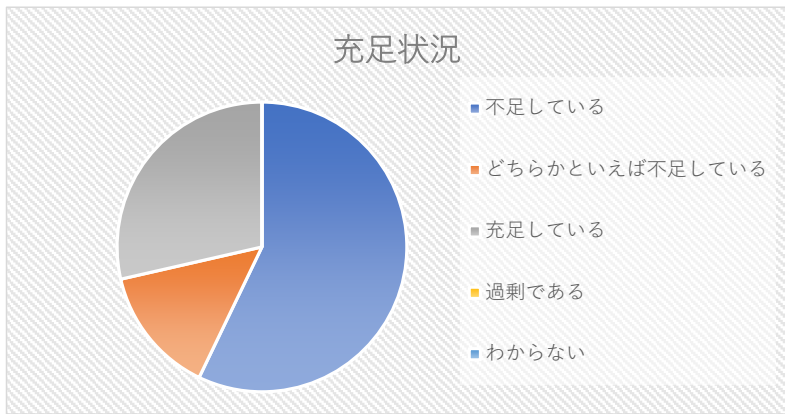
【問2】貴機関・貴施設において現在勤務されている「薬剤師」の人数をお答えください。

	回答数	構成比
0人		0%
1～9人	11	79%
10～19人	3	21%
20～49人		0%
50～99人		0%
100人以上		0%
	14	



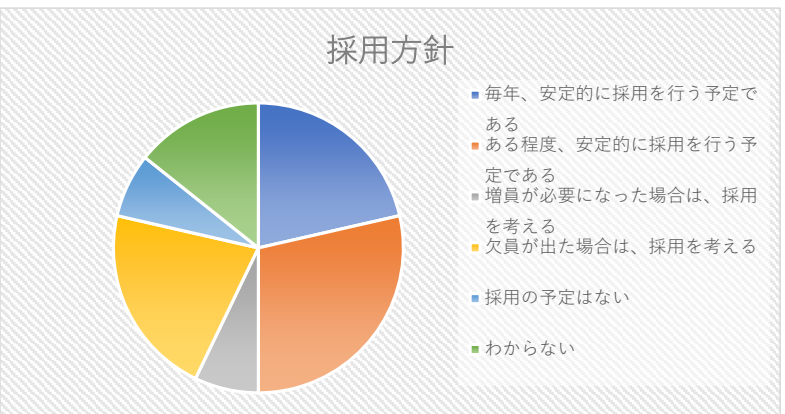
【問3】貴機関・貴施設において「薬剤師」の充足状況をお答えください。

	回答数	構成比
不足している	8	57%
どちらかといえば不足している	2	14%
充足している	4	29%
過剰である	0	0%
わからない	0	0%
	14	



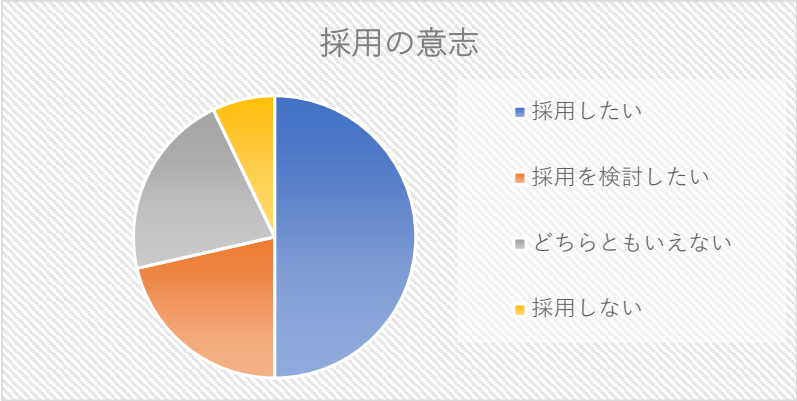
【問4】貴機関・貴施設の「薬剤師」の今後の採用方針についてお答えください。

	回答数	構成比
毎年、安定的に採用を行う予定である	3	21%
ある程度、安定的に採用を行う予定である	4	29%
増員が必要になった場合は、採用を考える	1	7%
欠員が出た場合は、採用を考える	3	21%
採用の予定はない	1	7%
わからない	2	14%
	14	



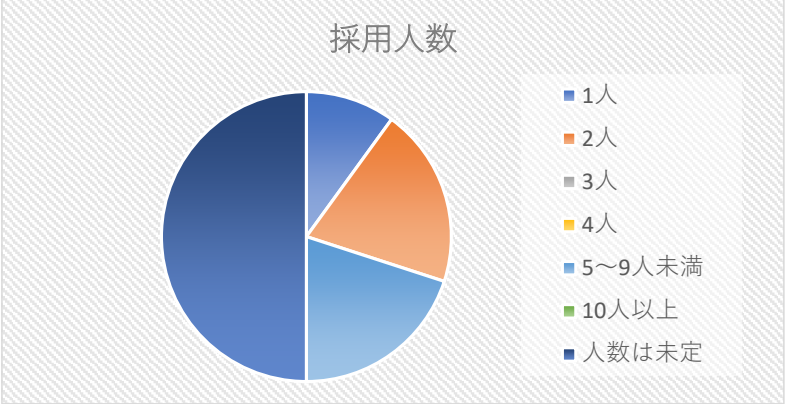
【問6】あなたは湘南医療大学を卒業した薬剤師を採用したいと思いますか。

	回答数	構成比
採用したい	7	50%
採用を検討したい	3	21%
どちらともいえない	3	21%
採用しない	1	7%
	14	



【問7】問6で「採用したい」「採用を検討したい」とご回答された方に質問します。
現時点で採用可能と思われる人数をお答えください。

	回答数	構成比
1人	1	10%
2人	2	20%
3人		0%
4人		0%
5～9人未満	2	20%
10人以上		0%
人数は未定	5	50%
	10	



その他、薬剤師採用に関しまして、ご意見ございましたらご記入ください

採用方針については長く欠員状態であるため、常に募集している。ただし新卒者については教育に充てる薬剤師も不足しているため、欠員分すべてを新卒者で埋めることができない。

当院では、病院薬剤師経験者が不足しています。

当院では、病院経験薬剤師が不足して必要です。

グループ発展のため今後も良質な人材を確保してください

病院勤務経験者で30才～50才希望

2025年5月現在で当薬剤科の薬剤師在籍状況は、許可病床225床の病院で薬剤師の定員9.5名薬剤助手1名のところ、薬剤師6.5名薬剤助手1名で業務を遂行している。薬剤師3名の欠員状態であり1年以上欠員の充足はされていない。そこに2025年5月より、湘南医療大学薬学部の実務実習受け入れ、2025年7月より診療科の増設で血液内科医2名による診療開始、入院病床も無菌病室4室設置、消化器外科の医師1名増員、従いましてTPN調整の増加と抗がん剤ミキシング業務が増加すると思われる。以上のことから薬剤師の定員を9.5名から15名程度に増員しないと考えると考える。

【資料18】 湘南医療大学薬学部定員減（130名→100名による指標改善と教育の質保証に関する説明

薬学部6年制課程について

2025.5.1現在

	2025年度 (5年目)	2024年度 (4年目)	2023年度 (3年目)	2022年度 (2年目)	2021年度 (開設年度)
実質競争倍率(倍)	1.2	1.0	1.2	1.1	1.6
入学定員充足率（％）	37.7	47.7	60.0	50.8	26.2
収容定員充足率（％）	40.8	43.7	44.1	40.0	26.2
進級率（％）	91.4	94.3	82.3	88.2	-
OSCE合格率（％）	-	100.0	-	-	-
CBT合格率（％）	-	96.3	-	-	-
退学率（％）	-	4.4	3.5	8.7	5.9

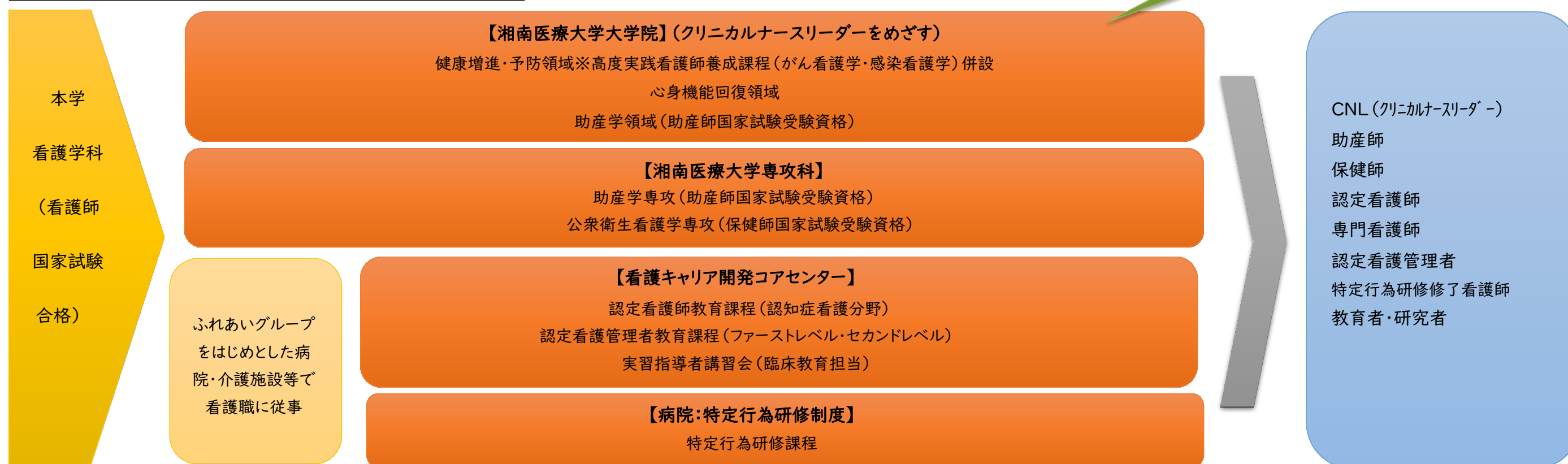
本学看護学科卒業後も看護職としてのキャリア形成を支援します！

本学では、看護学生時よりナビゲーションシステムを用いて、キャリアモデルを思考し、自ら学びのキャリア・プランニングが行えるよう支援しています。
卒業後も看護職として従事しながら、看護の専門性を通して、キャリア開発ができるための道筋を示していくことで、専門性を活かした自己実現を目指すことができます。

【本学で開講するキャリア開発のための事業内容】

- 湘南医療大学大学院 保健医療学研究科 保健医療学専攻（健康増進・予防領域※／心身機能回復領域／助産学領域【助産師国家試験受験資格】／医療マネジメント・エグゼクティブ領域
※高度実践看護師養成課程（がん看護学、感染看護学）併設
- 専攻科（助産学専攻【助産師国家試験受験資格】・公衆衛生看護学専攻【保健師国家試験受験資格】）
- 看護キャリア開発コアセンター
 - ・認定看護管理者部門（ファーストレベル・セカンドレベル）※サードレベル申請中
 - ・認定看護師部門（認知症看護分野）※感染管理分野（B課程）申請中
 - ・実習指導者講習会
 - ・特定行為研修課程

卒業後のキャリア形成イメージ（キャリア開発ナビゲーションシステム）



認定看護師

特定の看護分野において、熟練した看護技術と知識を用いて水準の高い看護実践ができるスペシャリストです。
本学看護キャリア開発コアセンターでは、認知症看護の分野において、最新の知識と技術を習得し、水準の高い看護実践能力を育成します。

専門看護師

複雑で解決困難な看護問題を持つ患者やその家族などに対し、水準の高い看護ケアを効率よく提供するための、特定の専門看護分野の知識・技術を深めたスペシャリストです。
本学大学院では、がん看護の専門看護分野を設置しています。

認定看護管理者

病院や施設などの看護管理者としてレベルの高い知識と技術を有していると認定された人材です。
本学看護キャリア開発コアセンターでは、ファーストレベル・セカンドレベルが受講可能です。

特定行為研修修了看護師

特定行為研修を受けることにより、医師の判断や指示を待たずに、事前に医師が作成した手順書をもとに個人の判断で特定行為を行うことができる看護師です。
本学では、グループ病院である湘南東部総合病院と連携して研修を行っております。

【資料20】臨地実習施設の一覧と受入人数の配分計画

令和7年度 湘南医療大学 実習配置計画 (病院)

[illegible]

令和7年度 湘南医療大学 実習配置計画（病院）

			5月				6月				7月				8月				9月				10月				11月				12月				令和8年1月				2月								
			5	12	19	26	2	9	16	23	30	7	14	21	28	4	11	18	25	1	8	15	22	29	6	13	20	27	3	10	17	24	1	8	15	22	29	5	12	19	26	2	9	16	23		
			6	13	20	27	3	10	17	24	1	8	15	22	29	5	12	19	26	2	9	16	23	30	7	14	21	28	4	11	18	25	2	9	16	23	30	6	13	20	27	3	10	17	24		
			7	14	21	28	4	11	18	25	2	9	16	23	30	6	13	20	27	3	10	17	24	1	8	15	22	29	5	12	19	26	3	10	17	24	31	7	14	21	28	4	11	18	25		
			8	15	22	29	5	12	19	26	3	10	17	24	31	7	14	21	28	4	11	18	25	2	9	16	23	30	6	13	20	27	4	11	18	25	1	8	15	22	29	5	12	19	26		
			9	16	23	30	6	13	20	27	4	11	18	25	1	8	15	22	29	5	12	19	26	3	10	17	24	31	7	14	21	28	5	12	19	26	3	10	17	24	31	7	14	21	28		
週			6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48		
平塚	療養	4階																																													
	回復期リハ	3階					基盤Ⅰ7名																																								
	障害一般	2階					基盤Ⅰ7名																																								
	外来	在宅																																													
汐見台	母性	2東																																													
	内科	成人(3東)					基盤Ⅰ7名																																								
	回復期リハ	成人(4F南)					基盤Ⅰ7名																																								
	周手術期	成人(5東)					基盤Ⅰ7名																																								
	透析室																																														
	外来																																														
	地域連携部門																																														
	看護部など																																														
	在宅	在宅																																													
居宅支援事業所	居宅																																														
大和成和	周術期	3階																																													
	周手術期/ICU	2階																																													
	OPE室/救急	OPE室/救急																																													
さがみ野中央	内科・外科	3・4階																																													
成和訪問看護ステーション	在宅																																														
訪問看護茅ヶ崎ふれあいステーション	在宅																																														
あやせ訪問看護ステーション	在宅	在宅																																													
THP		精神																																													

令和7年度 湘南医療大学 実習配置計画 (施設)

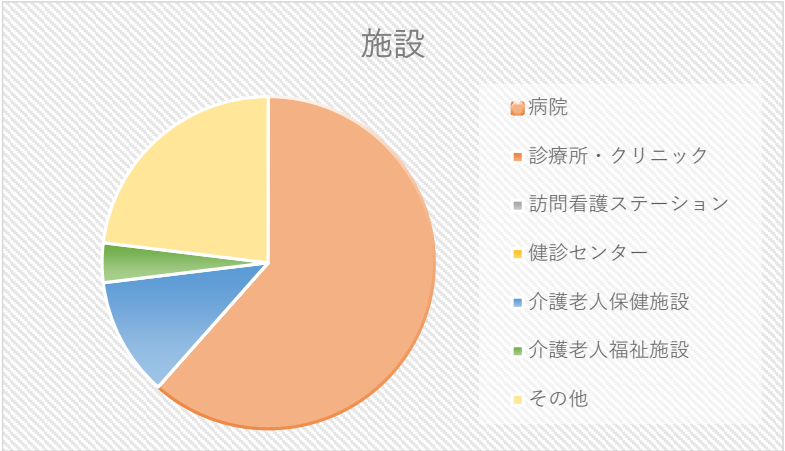
		4月					5月					6月					7月					8月					9月					10月					11月					12月								
月曜		31	7	14	21	28	5	12	19	26	2	9	16	23	30	7	14	21	28	4	11	18	25	1	8	15	22	29	6	13	20	27	3	10	17	24	1	8	15											
火曜		1	8	15	22	29	6	13	20	27	3	10	17	24	1	8	15	22	29	5	12	19	26	2	9	16	23	30	7	14	21	28	4	11	18	25	2	9	16											
水曜		2	9	16	23	30	7	14	21	28	4	11	18	25	2	9	16	23	30	6	13	20	27	3	10	17	24	1	8	15	22	29	5	12	19	26	3	10	17											
木曜		3	10	17	24	1	8	15	22	29	5	12	19	26	3	10	17	24	31	7	14	21	28	4	11	18	25	2	9	16	23	30	6	13	20	27	4	11	18											
金曜		4	11	18	25	2	9	16	23	30	6	13	20	27	4	11	18	25	1	8	15	22	29	5	12	19	26	3	10	17	24	31	7	14	21	28	5	12	19											
週		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38											
ふれあいの百合	老健										基盤17名																																							
ふれあいの丘	老健										基盤17名																																							
シルバーガーデン	老健										基盤17名																																							
ふれあいの泉	特養										基盤17名																																							
ふれあいの町田	老健										基盤17名																																							
ふれあいの桜	老健										基盤17名																																							
ふれあいの森	特養										基盤17名																																							
ふれあいの渚	老健										基盤17名																																							
ヒルズ東戸塚	老健										基盤17名																																							
	居宅																																																	
ナーシングプラザ成和	老健										基盤17名																																							
	居宅																																																	
ふれあいの園 平塚																																																		
シニアホテル東戸塚イーストウイング																																																		
地域包括	ゆず																																																	
地域包括	わかば																																																	
地域包括	みどり																																																	
地域包括	さくら																																																	
地域包括	すみれ																																																	
地域包括	ふれあいの泉																																																	
居宅	元町 ケアセンター																																																	
居宅	ふれあいの森																																																	
みどり幼稚園																																																		
学校・企業・東戸塚住民組織												東戸塚住民組織 週1回 (統合)																																						

2026年度 湘南医療大学 定員増 ニーズ調査
アンケート(看護師)

2026年度 湘南医療大学 定員増 ニーズ調査 アンケート(看護師)

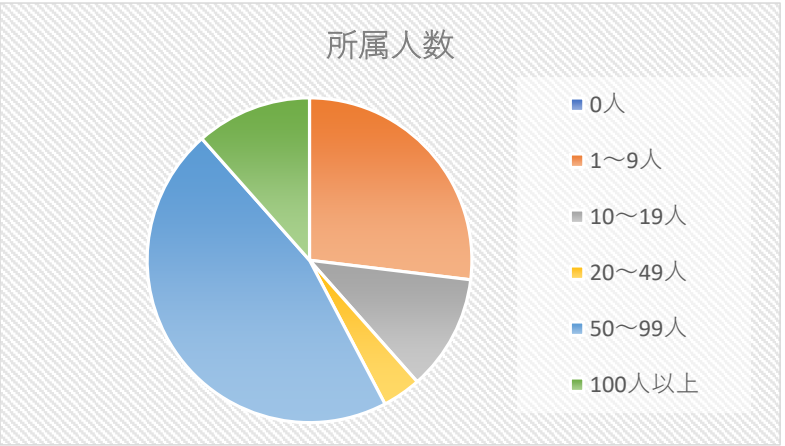
【問1】 貴機関・貴施設の主業種についてお答えください。

	回答数	構成比
病院	16	62%
診療所・クリニック	0	0%
訪問看護ステーション	0	0%
健診センター	0	0%
介護老人保健施設	3	12%
介護老人福祉施設	1	4%
その他	6	23%
	26	.



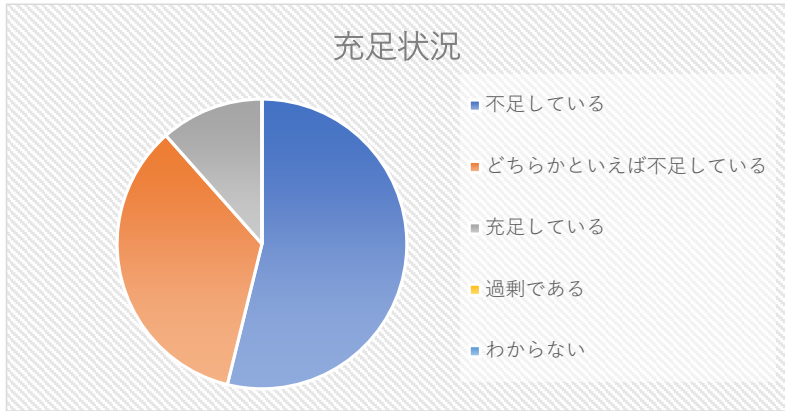
【問2】 貴機関・貴施設において現在勤務されている「看護師」の人数をお答えください。

	回答数	構成比
0人	0	0%
1～9人	7	27%
10～19人	3	12%
20～49人	1	4%
50～99人	12	46%
100人以上	3	12%
	26	



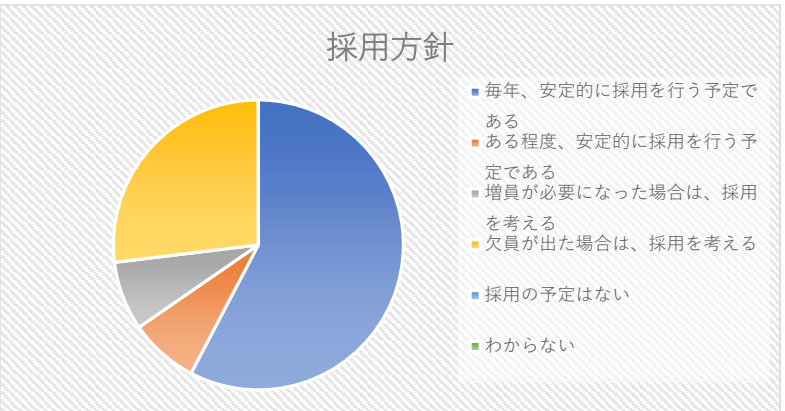
【問3】 貴機関・貴施設において「看護師」の充足状況をお答えください。

	回答数	構成比
不足している	14	54%
どちらかといえば不足している	9	35%
充足している	3	12%
過剰である	0	0%
わからない	0	0%
	26	



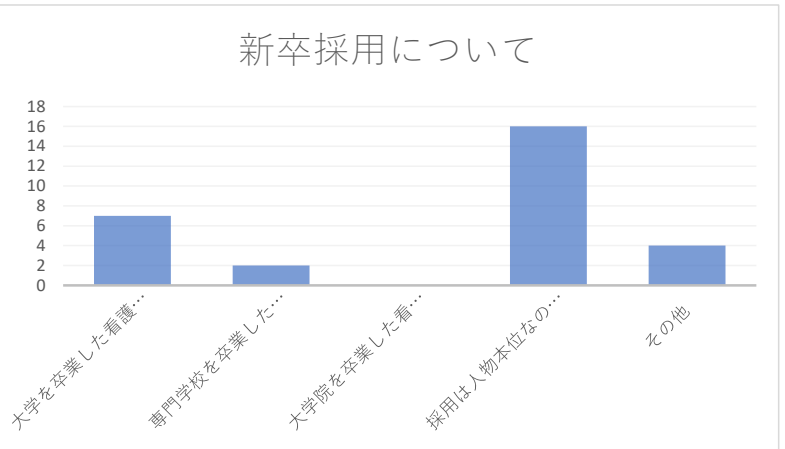
【問4】 貴機関・貴施設の「看護師」の今後の採用方針についてお答えください。

	回答数	構成比
毎年、安定的に採用を行う予定である	15	58%
ある程度、安定的に採用を行う予定である	2	
増員が必要になった場合は、採用を考える	2	8%
欠員が出た場合は、採用を考える	7	27%
採用の予定はない	0	
わからない	0	0%
	26	



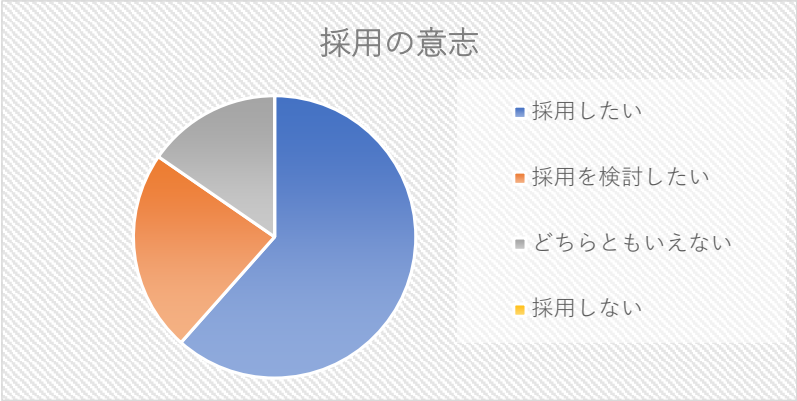
【問5】 貴機関・貴施設の「看護師」の新卒採用についてお答えください(複数回答可)

	回答数	構成比
大学を卒業した看護師を中心に採用したい	7	
専門学校を卒業した看護師を中心に採用したい	2	
大学院を卒業した看護師を中心に採用したい	0	
採用は人物本位なので、学校種にはこだわらない	16	
その他	4	



【問6】あなたは湘南医療大学を卒業した看護師を採用したいと思いますか。

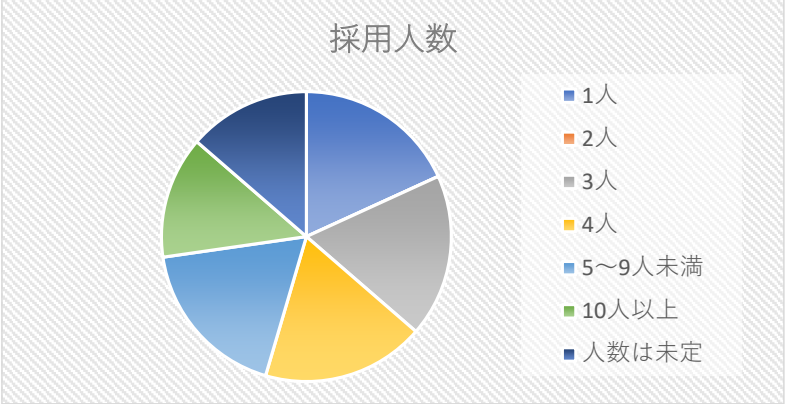
	回答数	構成比
採用したい	16	62%
採用を検討したい	6	23%
どちらともいえない	4	15%
採用しない	0	0%
	26	



【問7】問6で「採用したい」「採用を検討したい」とご回答された方に質問します。

現時点で採用可能と思われる人数をお答えください。

	回答数	構成比
1人	4	18%
2人	0	0%
3人	4	
4人	4	
5～9人未満	4	
10人以上	3	14%
人数は未定	3	14%
	22	



その他、看護師採用に関しまして、ご意見ございましたらご記入ください

・ある程度の臨床経験が必要と思われるが…

専門学校の実習は受け入れているので学生の気質等分かるが、大学の学生は受け入れていない。当院で試用するに当たり、双方の希望や受け入れが合致しているのか不明。の希望に

どこ出身とかでなくどんな人物なのか自分の目で見て採用を決めたい。今年のように人事課も面接をしないで配属病院を決めるのは学生にも失礼だと思う。

・伊豆半島の施設では医療大学の学生の就職がないので、魅力を伝え就職に是非つなげたい

・関連の大学、専門学校から継続的に卒業生を採用していきたい。

・人員配置数枠の影響を受けるが、退職や体調不良の対応もあるため、潤沢な採用によるマンパワーは大変重要である

・就職内定者の学生の情報を共有したい

・看護師の採用は考えているが、新卒採用は難しい

・心身ともに健康な方を採用したい

欠員時での採用ですので自由にできません。

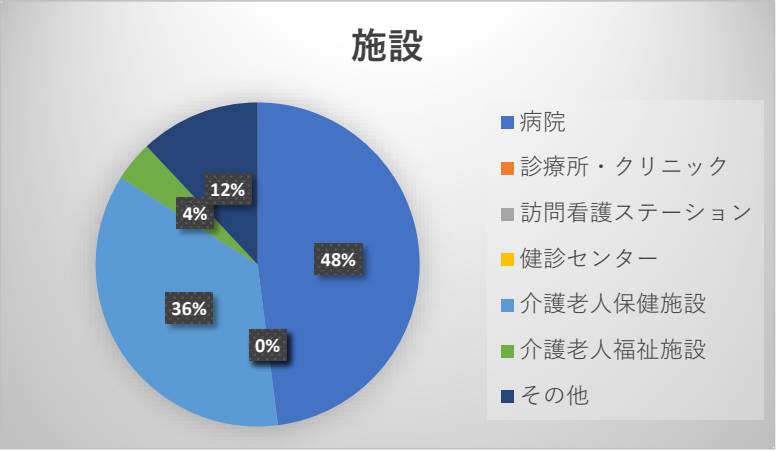
【資料22】 需要調査アンケート（理学療法士）

2026年度 湘南医療大学 定員増 ニーズ調査
アンケート(理学療法士)

2026年度 湘南医療大学 定員増 ニーズ調査 アンケート(理学療法士)

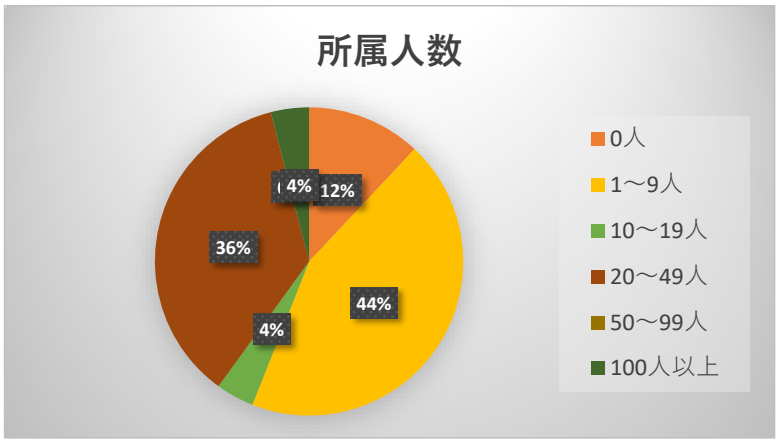
【問1】 貴機関・貴施設の主業種についてお答えください。

	回答数	構成比
病院	12	48%
診療所・クリニック	0	0%
訪問看護ステーション	0	0%
健診センター	0	0%
介護老人保健施設	9	36%
介護老人福祉施設	1	4%
その他	3	12%
	25	



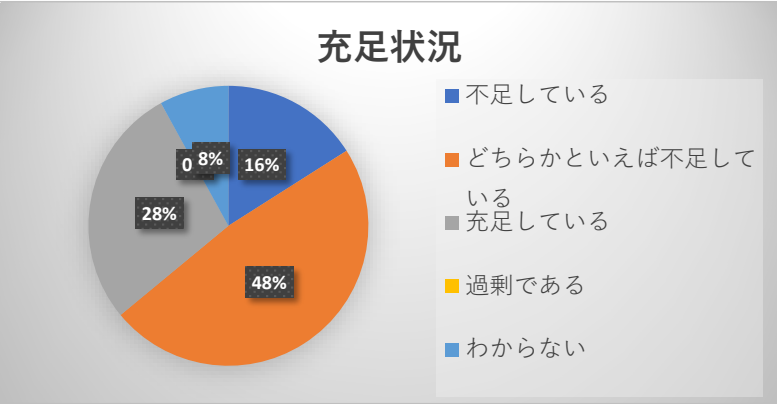
【問2】 貴機関・貴施設において現在勤務されている「理学療法士」の人数をお答えください。

	回答数	構成比
0人	3	12%
1～9人	11	44%
10～19人	1	4%
20～49人	9	36%
50～99人	0	0%
100人以上	1	4%
	25	



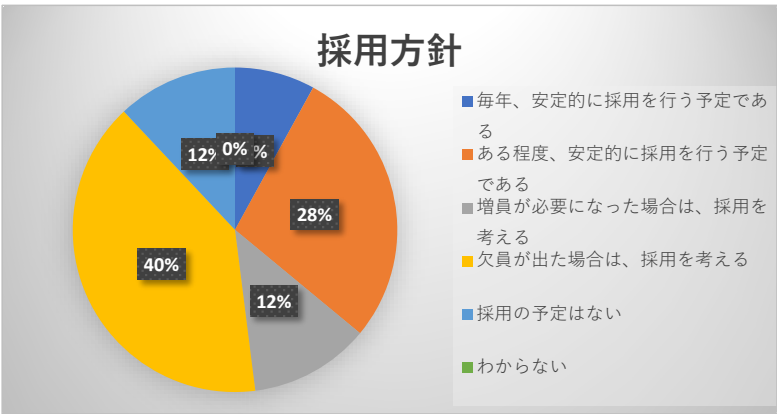
【問3】 貴機関・貴施設において「理学療法士」の充足状況をお答えください。

	回答数	構成比
不足している	4	16%
どちらかといえば不足している	12	48%
充足している	7	28%
過剰である	0	0%
わからない	2	0%
	25	



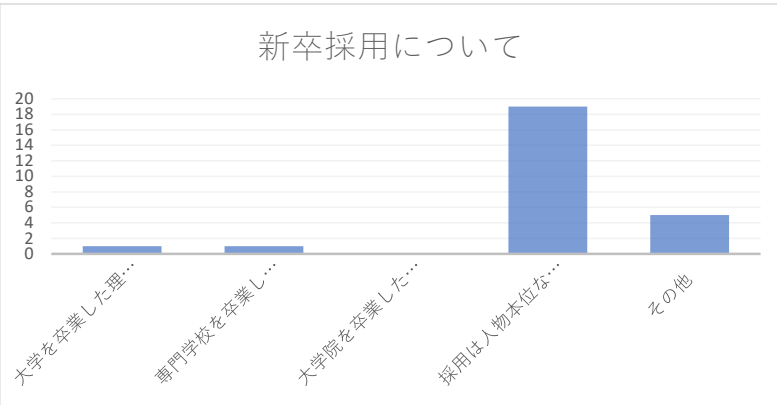
【問4】 貴機関・貴施設の「理学療法士」の今後の採用方針についてお答えください。

	回答数	構成比
毎年、安定的に採用を行う予定である	2	8%
ある程度、安定的に採用を行う予定である	7	28%
増員が必要になった場合は、採用を考える	3	12%
欠員が出た場合は、採用を考える	10	40%
採用の予定はない	3	12%
わからない	0	0%
	25	



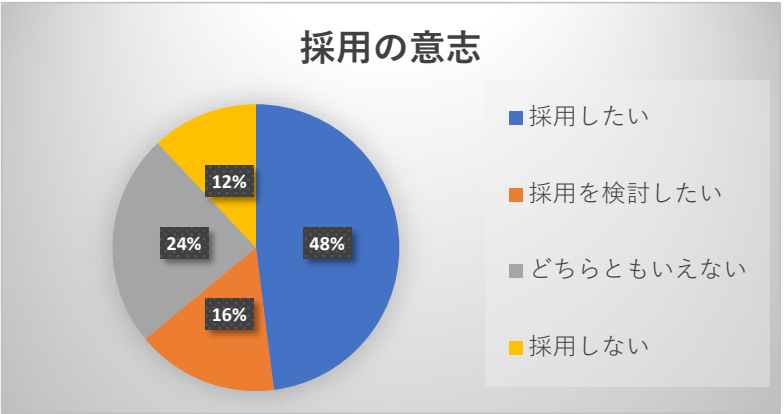
【問5】 貴機関・貴施設の「理学療法士」の新卒採用についてお答えください(複数回答可)

	回答数	構成比
大学を卒業した理学療法士を中心に採用したい	1	
専門学校を卒業した理学療法士を中心に採用したい	1	
大学院を卒業した理学療法士を中心に採用したい	0	
採用は人物本位なので、学校種にはこだわらない	19	
その他	5	



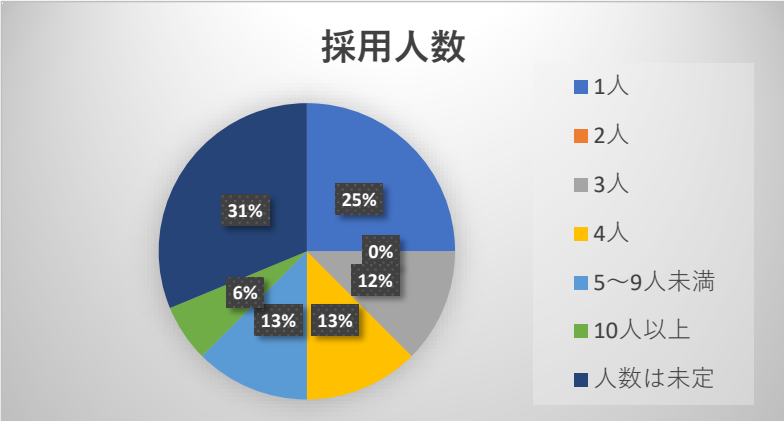
【問6】あなたは湘南医療大学を卒業した理学療法士を採用したいと思いますか。

	回答数	構成比
採用したい	12	48%
採用を検討したい	4	16%
どちらともいえない	6	24%
採用しない	3	12%
	25	



【問7】問6で「採用したい」「採用を検討したい」とご回答された方に質問します。現時点で採用可能と思われる人数をお答えください。

	回答数	構成比
1人	4	25%
2人	0	0%
3人	2	13%
4人	2	13%
5～9人未満	2	13%
10人以上	1	6%
人数は未定	5	31%
	16	



その他、理学療法士採用に関しまして、ご意見ございましたらご記入ください

- ・多職種とのコミュニケーション能力の高い方が多くなることを希望致します。
- ・採用希望人数としては、【問7】の4名とは異なり、欠員補充とは別に10名程度欲しいのですが、施設のロッカー数やリハ室の広さの影響で、これ以上は募集が出来ない状況にある。
- ・基礎学力を有しており、目の前の課題に立ち向かうエネルギー（就職後の休職者が多い）を持っている学生を多数輩出していただけるとありがたいと感じています。
- ・現在当施設の理学療法士は60歳代（65歳と69歳）が2名で、50歳代が2名で40歳代が1名の5名です。いつも人が急にいなくなることで補充をしています。また、なかなか新卒は選んでくれることが少ないです。若い力が欲しいですが、定期的に採用することは難しいです。
- ・直接面談して採用を行いたいです
- ・年々質が低下している(大学だけではないが)。実習受け入れのキャパシティからしても増員は現場としては厳しい。
- ・訪問看護ステーションへの転職による離職が多く、病院での理学療法士は不足する状況が続くと考えています。

めにも、調剤基本料の廃止や一本化を検討すべきである(注23)。

(2) 薬学部定員数の削減

第2に、薬学部定員数の削減である。前章の試算の通り、現在と同程度の薬剤師国家試験の合格者数が続いた場合、薬剤師の大幅な余剰が生じることになる。2045年に薬剤師の供給を需要に合わせて30万2,000人とするには、薬剤師国家試験の1年当たりの合格者数は約4,700人と、2022年の合格者数9,607人の約半分にする必要がある。そのためには、薬剤師国家試験の合格者数を絞る方法もあるが、国家試験不合格者を増やすことが得策とは考えにくく、薬学部定員数を現行の約1万2,000人から少なくともその半分の6,000人程度へと絞り込むべきであろう。

このような大幅な定員削減は、医学部等の定員管理にみられるような、定員増加や新設の抑制などの手法だけでは到底対応できない(注24)。どのように進めるのが望ましいだろうか。

まずは、各大学が自ら質を担保できる定員数を考え、自主的に定員を削減することが求められる。もっとも、大学経営の観点から、学生確保を優先しようとする大学があることも想定され、政府としては、以下に示す二つの施策により、大学に定員削減の取り組みを強く促すことが求められる。

一つ目は、情報の非対称性の是正による市場メカニズムの活用である。大学と受験生(保護者を含む)との間で、市場メカニズムが適切に機能していれば、大学が過大な定員を設定した場合には、入学者の確保が困難となる。もっとも、情報の非対称性などから、実際には市場メカニズムは十分に機能していないと考えられる。例えば受験生やその保護者は、新卒合格率に注目し、A大学薬学部に入學すれば高確率で薬剤師になることができ、将来安定した収入を確保できると考える。これに対し現実には、ストレート合格率は新卒合格率よりはるかに低く、卒業すらできない可能性が相応にある。しかも、わが国の薬剤師数や自動化の動向を踏まえれば、仮に薬剤師になったとしても将来安定した収入を確保できる保証はない。

情報の非対称性を是正して市場メカニズムを機能させるためには、薬剤師を取り巻く業界環境や各大学のストレート合格率などの重要な情報を受験生等に確実に伝える必要がある。薬学部受験の願書提出時に、大きなフォントで上記内容を記した書面に受験生が理解した旨の署名をして提出することを必須とするなどの施策が一見些細にも思えるが有効と考えられる(注25)。

二つ目は、薬学部への助成金の支給基準の厳格化である。国公立大学はもちろん、私立大学も私立大学等経常費補助金(2022年度予算額:2,978億円)などのかたちで多額の助成金が投入されている。定員充足率やストレート合格率の低い薬学部、または、十分な臨床教育を提供できていない薬学部に対し、助成金の削減や支給停止を行うことで、大学に対して薬学部の定員削減や再編統合の検討を迫ることができよう。

(3) 臨床教育の強化

第3に、臨床教育の強化である。まず、現在22週間以上の実施が求められている実務実習の期間を医学部の72週間を目安に大幅に延長する。実務実習の期間延長は、上述の薬学部の定員削減が大きな追い風になる。医療機関や薬局などの実習生の受入先の不足が実習期間延長のネックとなっていたが、実習

生の数が減少することで、仮に受入先の総実習期間（実習生の数×一人当たりの実習期間）が同じであったとしても、一人当たりの実習期間を延ばすことができる。さらに、これまでは原則すべての大学が要件を満たせるように実習期間が配慮されていたと考えられるが、薬学部定員の大幅な削減が前提のもとでは、そのような配慮の必要性も小さくなる。厳しい言い方になるが、必要な実習期間を確保できない大学は退場することになる。

次に、薬学部6年次の卒業直前（2月）に行われている薬剤師国家試験相当の試験の2年間の前倒しである。具体的には、4年生の2月頃に公的な試験を行い、基礎科学を含めたそれまでの学習の到達度を確認する。引き続き、6年次の卒業前に薬剤師免許の取得に必要な国家試験を行うにしても、試験範囲は臨床分野のみとし基礎科学は外す。そうすることで5～6年次は、臨床分野の知識の習得に専念することが可能となる。実際、厚生労働省の検討会などでも同様の趣旨の提言がされている（注26）。なお、臨床研修の強化に当たって、当然医師の研修医制度に該当するような卒後研修の導入の議論もあり得るが、薬学部を6年制にした経緯を踏まえれば、まずは在学期間中の臨床教育の強化の方が優先順位は高いといえよう。

（注23）一方、過疎地域で薬局経営が可能となる配慮や薬局規模の違いによる薬の仕入時の価格交渉力の格差には一定程度配慮が必要と考えられる。この点は、成瀬〔2022〕で詳しく提言している。

（注24）こうした手法は、定員の抑制に一定の効果がある一方で、既存の大学に既得権益を与え、新規参入者との競争による教育の質の向上を妨げる副作用がある点に留意すべきである。

（注25）例えば金融機関では、数万円の投資信託を販売する際にも、元本割れの可能性など各種リスクの説明をし、一つ一つのリスクを顧客が理解したことを書面にチェックしたうえで、顧客の署名を徴求する。6年間で約1,200万円といわれる学費を支払う薬学部への願書提出時に、同様のことを求めても、決してやり過ぎではないといえよう。

（注26）2021年6月30日公表の薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会「とりまとめ」では、「現在、とくに6年次は国家試験の対策中心になっている大学が多いが、国家試験の負担を軽減させるため、物理・化学・生物などの薬剤師として不可欠な基礎科目については、4年次の薬学共用試験のCBT（知識を問う問題）で、国家試験の必須問題レベルの理解度まで達成させ、代わりに、国家試験時には、基礎知識分野の試験問題を軽減した上で、医療薬学、臨床薬学など、実務に即した思考力を判定する問題を充実し、臨床に関する問題を中心に学習させることを検討すべきである。」と提言している。

4. おわりに

本稿は大学の薬学部教育について量、質の面で議論を進めてきたが、薬学部に限らず大学教育全般にも少なからず同様のことがいえるのではないかと。まず、量、すなわち定員について、18歳人口が急激に減少しているにもかかわらず、わが国全体で大学の定員は増加傾向が続いている。わが国産業で高等教育が不可欠な雇用ニーズが高まっているのであればまだしも、そのような検証の跡も見当たらず、大学側の都合で定員を増やしてきたようにもみえる。大学を含め、組織の縮小には痛みが伴い、当事者に任せておけば組織は拡大を図るのが自然である。各学部ないし分野の定員が、わが国の産業のニーズに合致したものになっているか、第三者による検証が欠かせない。

質に関しては、薬学部では、臨床能力を計測するのに不十分であるものの一応薬剤師国家試験という客観的な指標があるだけ良いといえなくもない。これに対し多くの一般の学部では、今後の職業生活に必要な能力の獲得度合いなど、教育の質がほとんど明らかになっていないのが実態ではないだろうか。

高等教育も、医療ほどではないにせよ、多額の公費が投入されている。極めて厳しいわが国の財政状

1. 書類等の題名

「学生確保の見通し等を記載した書類(資料)」

P120(資料 24)

P121(資料 25)

2. 出典

P120(資料 24) : <https://www.janpu.or.jp/members/>

P121(資料 25) : <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/t3u/faq/p34102.html>

3. 引用範囲

WEB ページより各種数字等を抜粋

4. その他の説明

- ・他大学(看護学科・理学療法学専攻)の志願者動向について比較。
他大学の情報が記載されているため除外。